

基本計画書

基本計画								
事項	記 入						備 考	
計画の区分	学部設置							
フリガナ	カクコホクシツ センシュウガクイフク							
設置者	学校法人 専修大学							
フリガナ	センシュウガクイフク							
大学の名称	専修大学 (Senshu University)							
大学本部の位置	東京都千代田区神田神保町3丁目8番地1							
大学の目的	本大学は、社会現象に対する自由でとらわれない研究を基礎とし、古い権威や強力に対してあくまで批判的であることを精神とし、人間の値打ちを尊重する平和的な良心と民主的な訓練を身に付けた若い日本人を創り上げることを目的とする。							
新設学部等の目的	国際コミュニケーション学部は、日本語を含む諸言語についての研究、言語教育の手法やコミュニケーションの在り方そのものについての研究及び社会・思想・文化の研究を基礎としながら、より広い視野をもち、強靱な論理的思考を実践できる人材を養成することを目的とする。 日本語学科は、国際化社会の中で、言語や文化の多様性に深い理解をもちながら、日本国内における日本語の言語生活向上と課題解決に貢献できる人材や、国内外における日本語教育に貢献できる人材を養成することを目的とする。 異文化コミュニケーション学科は、国際化社会の中で、言語や文化の多様性に深い理解をもちながら、複数の言語によるコミュニケーション能力をもって国際社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	国際コミュニケーション学部 [School of International Communication]	年	人	年次人	人	学士(文学) 【Bachelor of Arts】	令和2年4月 第1年次	東京都千代田区神田神保町3丁目8番地1
	日本語学科 [Department of Japanese Language and Linguistics]	4	71	—	284	学士(文学) 【Bachelor of Arts】	令和2年4月 第1年次	東京都千代田区神田神保町3丁目8番地1
	異文化コミュニケーション学科 [Department of Intercultural Communication]	4	150	—	600	学士(言語文化) 【Bachelor of Arts in Language and Culture Studies】	令和2年4月 第1年次	東京都千代田区神田神保町3丁目8番地1
	計		221	—	884			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	専修大学 国際コミュニケーション学部 日本語学科 (71) (平成31年4月届出予定) 異文化コミュニケーション学科 (150) (平成31年4月届出予定)  経済学部 現代経済学科 (265) (平成31年4月届出予定) 生活環境経済学科 (266) (平成31年4月届出予定)  経済学部一部 経済学科 (廃止) (△490) ※令和2年4月学生募集停止  文学部 日本語学科 (廃止) (△71) ※令和2年4月学生募集停止  経済学部二部 経済学科 (廃止) (△76) ※令和2年4月学生募集停止  法学部二部 法律学科 (廃止) (△76) ※令和2年4月学生募集停止  商学部二部 マーケティング学科 (廃止) (△76) ※令和2年4月学生募集停止  経済学部 国際経済学科 [定員増] (15) (令和2年4月)  法学部 法律学科 [定員減] (△29) (令和2年4月) 政治学科 [定員増] (11) (令和2年4月)  商学部 マーケティング学科 [定員減] (△17) (令和2年4月) 会計学科 [定員減] (△10) (令和2年4月)  文学部 日本文学文化学科 [定員増] (8) (令和2年4月) 英語英米文学科 [定員増] (10) (令和2年4月) 哲学科 [定員増] (5) (令和2年4月) 歴史学科 [定員増] (10) (令和2年4月) 環境地理学科 [定員増] (4) (令和2年4月)  人間科学部 心理学科 [定員増] (5) (令和2年4月) 社会学科 [定員増] (25) (令和2年4月)  石巻専修大学大学院 理工学研究科 修士課程 物質工学専攻 [定員減] (△2) (令和2年4月) 機械システム工学専攻 (廃止) (△5) ※令和2年4月学生募集停止 博士後期課程 物質機能工学専攻 [定員減] (△1) (令和2年4月) 生命環境科学専攻 [定員減] (△1) (令和2年4月) 経営学研究科 修士課程 経営学専攻 [定員減] (△2) (令和2年4月) 博士後期課程 経営学専攻 [定員減] (△1) (令和2年4月)							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
教育課程	国際コミュニケーション学部 日本語学科	165科目	189科目	9科目	363科目	124単位		
	異文化コミュニケーション学科	137科目	201科目	3科目	341科目	124単位		
教員	学部等の名称	専任教員等				兼任教員等		
		教授	准教授	講師	助教			
新設	国際コミュニケーション学部 日本語学科	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	43 (43)
	異文化コミュニケーション学科	16 (15)	8 (9)	1 (1)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	46 (46)
設置	経済学部 現代経済学科	15 (15)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	49 (49)
	生活環境経済学科	13 (13)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	46 (46)
分	計	50 (49)	13 (14)	1 (1)	0 (0)	64 (64)	0 (0)	- (-)
	既設	経済学部 経済学科	0 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (6)	0 (0)
国際経済学科		17 (17)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	21 (21)	0 (0)	5 (5)
組	法学部 法律学科	28 (28)	11 (11)	1 (1)	2 (2)	42 (42)	0 (0)	29 (29)
	政治学科	6 (6)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	6 (6)
織	経営学部 経営学科	20 (20)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	27 (27)	0 (0)	25 (25)
	ビジネスデザイン学科	11 (11)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	43 (43)
の	商学部 マーケティング学科	26 (26)	8 (8)	1 (1)	1 (1)	36 (36)	0 (0)	22 (22)
	会計学科	14 (14)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	19 (19)	0 (0)	5 (5)
概	文学部 日本語学科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	日本文学文化学科	11 (11)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	7 (7)
分	英語英米文学科	14 (14)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	16 (16)
	哲学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	12 (12)
要	歴史学科	12 (12)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)
	環境地理学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	16 (16)
概	ジャーナリズム学科	14 (14)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	49 (49)
	人文・ジャーナリズム学科	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)
分	ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科	12 (12)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	34 (34)
	人間科学部 心理学科	10 (10)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	35 (35)
要	社会学科	13 (13)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	19 (19)
	教養教育	32 (33)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	40 (41)	0 (0)	384 (384)
要	計	254 (262)	65 (65)	14 (14)	7 (7)	340 (348)	0 (0)	- (-)
	合計	304 (311)	78 (79)	15 (15)	7 (7)	404 (412)	0 (0)	- (-)
教員以外の職員の概要	職種	専任		兼任		計		
	事務職員	290 (290)		51 (51)		341 (341)		
	技術職員	6 (6)		0 (0)		6 (6)		
	図書館専門職員	24 (24)		9 (9)		33 (33)		
	その他の職員	12 (12)		20 (20)		32 (32)		
校地等	計	332 (332)		80 (80)		412 (412)		
	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計	
	校舎敷地	125,786.17㎡	0.00㎡		0.00㎡		125,786.17㎡	
	運動場用地	150,241.12㎡	0.00㎡		0.00㎡		150,241.12㎡	
	小計	276,027.29㎡	0.00㎡		0.00㎡		276,027.29㎡	
その他	67.80㎡	0.00㎡		0.00㎡		67.80㎡		
校地等	合計	276,095.09㎡	0.00㎡		0.00㎡		276,095.09㎡	

校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		大学全体			
		168,484.66㎡ (168,484.66㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	168,484.66㎡ (168484.66㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		7室			
	174室	95室	103室	40室 (補助職員 11人)	(補助職員 7人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数			7 室  25 室		
		国際コミュニケーション学部 日本語学科								
		異文化コミュニケーション学科								
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能 なため、大学全体の数		
	国際コミュニケーション学部 日本語学科 異文化コミュニケーション学 科	1,940,573 [683,408] (1,940,573 [683,408])	22,552 [8,530] (22,552 [8,530])	13,931 [13,826] (13,931 [13,826])	18,213 (18,213)	36,779 (36,779)	4 (4)			
	計	1,940,573 [683,408] (1,940,573 [683,408])	22,552 [8,530] (22,552 [8,530])	13,931 [13,826] (13,931 [13,826])	18,213 (18,213)	36,779 (36,779)	4 (4)			
図書館		面積	閲覧座席数		収納可能冊数			大学全体		
		25,161.00 ㎡	1,944		2,359,000					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		17,628.35 ㎡	テニスコート3面			多目的フィールド1面				
経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャー ナル・データベースの 整備費、電子ブックを 含む。  ※共同研究費、図書購 入費、設備購入費、学 生納付金は上から、国 際コミュニケーション 学部日本語学科、国際 コミュニケーション学 部異文化コミュニケー ション学科
		教員1人当たり研究費等		385千円	385千円	385千円	385千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		3,211千円	3,211千円	3,211千円	3,211千円	－千円	－千円	
		図書購入費	678千円	678千円	1,357千円	2,036千円	2,715千円	－千円	－千円	
		設備購入費	15,000千円	0千円	0千円	0千円	0千円	－千円	－千円	
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
			1,262千円	1,108千円	1,108千円	1,108千円	－千円	－千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、その他の受取利息・配当金収入、雑収入等								
既  設  大  学  の  状  況	大 学 の 名 称	専修大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	取容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	平成31年度入学生定員減 (△169人)  平成30年4月届出済み  平成31年度より学生募 集停止 (人文・ジャー ナリズム学科)
	経済学部一部 経済学科	4	490	－	1,960	学士 (経済学)	1.09	昭和24年度	神奈川県川崎市多摩区東三田2丁 目1番1号	
	国際経済学科	4	205	－	820	学士 (経済学)	1.08	平成8年度		
	法学部一部 法律学科	4	562	－	2,248	学士 (法学)	1.11	昭和24年度	東京都千代田区神田神保町3丁目8 番地1	
	政治学科	4	153	－	612	学士 (政治学)	1.14	平成18年度		
	経営学部 経営学科	4	542	－	1,999	学士 (経営学)	1.09	昭和37年度		
	ビジネスデザイン学科	4	180	－	180	学士 (経営学)	1.02	平成31年度		
	商学部一部 マーケティング学科	4	455	－	1,820	学士 (商学)	1.08	昭和40年度		
	会計学科	4	220	－	880	学士 (商学)	1.06	昭和43年度		
	文学部 日本語学科	4	71	－	284	学士 (文学)	1.13	平成22年度		
	日本文学文化学科	4	114	－	456	学士 (文学)	1.11	平成22年度		
	英語英米文学科	4	142	－	568	学士 (文学)	1.15	昭和41年度		
	哲学科	4	71	－	284	学士 (文学)	1.11	平成22年度		
	歴史学科	4	132	－	528	学士 (文学)	1.14	平成22年度		
	環境地理学科	4	51	－	204	学士 (文学)	1.19	平成22年度		
	ジャーナリズム学科	4	124	－	124	学士 (ジャーナリズム学)	1.15	平成22年度		
人文・ジャーナリズム学科	4	－	－	－	学士 (文学)	1.03	平成31年度			

初等情報学部 初等情報学科	4	235	—	940	学士 (情報学)	1.05 1.05	平成13年度	
人間科学部 心理学科	4	72	—	288	学士 (心理学)	1.09 1.04	平成22年度	
社会学科	4	122	—	488	学士 (社会学)	1.11	平成22年度	
経済学部二部 経済学科	4	76	—	346	学士 (経済学)	0.93 0.93	昭和24年度	平成31年度入学定員減 (△14人)
法学部二部 法律学科	4	76	—	346	学士 (法学)	0.98 0.98	昭和24年度	平成31年度入学定員減 (△14人)
商学部二部 マーケティング学科	4	76	—	346	学士 (商学)	1 1	昭和40年度	平成31年度入学定員減 (△14人)
経済学研究科 修士課程 経済学専攻	2	30	—	60	修士 (経済学)	0.38 0.38	昭和27年度	
博士後期課程 経済学専攻	3	3	—	9	博士 (経済学)	0.33 0.33	昭和30年度	
法学研究科 修士課程 法学専攻	2	25	—	50	修士 (法学)	0.28 0.28	平成16年度	
博士後期課程 民事法学専攻	3	3	—	9	博士 (法学)	0.16 0	昭和30年度	
公法学専攻	3	3	—	9	博士 (法学)	0.33	昭和49年度	
文学研究科 修士課程 日本語日本文学専攻	2	10	—	20	修士 (文学)	0.56 0.45	昭和46年度	
英語英米文学専攻	2	5	—	10	修士 (文学)	0.1	昭和46年度	
哲学専攻	2	5	—	10	修士 (哲学)	0.5	昭和46年度	
歴史学専攻	2	10	—	20	修士 (歴史学)	0.65	平成4年度	
地理学専攻	2	5	—	10	修士 (地理学)	0.3	平成4年度	
社会学専攻	2	5	—	10	修士 (社会学)	0.5	平成4年度	
心理学専攻	2	10	—	20	修士 (心理学)	1	平成4年度	
博士後期課程 日本語日本文学専攻	3	3	—	9	博士 (文学)	0.29 1.11	昭和48年度	
英語英米文学専攻	3	2	—	6	博士 (文学)	0.16	昭和48年度	
哲学専攻	3	2	—	6	博士 (哲学)	0.16	昭和48年度	
歴史学専攻	3	5	—	15	博士 (歴史学)	0.06	平成6年度	
地理学専攻	3	3	—	9	博士 (地理学)	0.11	平成6年度	
社会学専攻	3	3	—	9	博士 (社会学)	0.11	平成6年度	
心理学専攻	3	3	—	9	博士 (心理学)	0.44	平成6年度	
経営学研究科 修士課程 経営学専攻	2	20	—	40	修士 (経営学) 修士 (情報管理)	0.37 0.37	昭和50年度	
博士後期課程 経営学専攻	3	3	—	9	博士 (経営学) 博士 (情報管理)	0.22 0.22	昭和52年度	
商学研究科 修士課程 商学専攻	2	10	—	20	修士 (商学)	0.9 1.15	昭和50年度	
会計学専攻	2	15	—	30	修士 (商学)	0.73	平成22年度	
博士後期課程 商学専攻	3	2	—	6	博士 (商学)	0.41 0.33	昭和52年度	
会計学専攻	3	2	—	6	博士 (商学)	0.5	平成22年度	
法務研究科 専門職学位課程 法務専攻	3	28	—	84	法務博士 (専門職)	0.95 0.95	平成16年度	
大 学 の 名 称	石巻専修大学							
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
理工学部	年	人	年次 人	人		倍		
食環境学科	4	40	—	160	学士 (工学)	0.75 0.38	平成25年度	宮城県石巻市南境新水戸1番地
生物科学科	4	55	—	220	学士 (理学)	1.13	平成25年度	
機械工学科	4	40	—	160	学士 (工学)	0.58	平成元年度	
情報電子工学科	4	35	—	140	学士 (工学)	0.76	平成元年度	

経営学部 経営学科	4	190	—	760	学士（経営学）	0.66 0.66	平成元年度	
人間学部 人間文化学科	4	40	—	160	学士（人間文化学）	0.81 0.8	平成25年度	
人間教育学科	4	40	—	160	学士（人間教育学）	0.82	平成25年度	
理工学研究科 修士課程						0.16		
物質工学専攻	2	5	—	10	修士（工学）	0	平成5年度	
機械システム工学専攻	2	5	—	10	修士（工学）	0.1	平成5年度	
生命科学専攻	2	5	—	10	修士（理学）	0.4	平成5年度	
博士後期課程						0.05		
生命環境科学専攻	3	3	—	9	博士（理学）	0	平成7年度	
物質機能工学専攻	3	3	—	9	博士（工学）	0.11	平成7年度	
経営学研究科 修士課程						0.2		
経営学専攻	2	5	—	10	修士（経営学）	0.2	平成5年度	
博士後期課程						0		
経営学専攻	3	3	—	9	博士（経営学）	0	平成7年度	
附属施設の概要	該当なし							

教育課程等の概要															
(国際コミュニケーション学部日本語学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	日本文化入門	1前	2			○								兼1	オムニバス
	日本語学入門1	1前	2			○			1						
	日本語学入門2	1後	2			○			1						
	日本語学総合	1前	2			○			6	1					
	日本語情報処理1	1前	2				○		1	1					
	日本語情報処理2	1後	2				○		1	1					
	異文化理解の実践	1後	2		2		○							兼1	
	メディア日本語論1	1・2後	2		2		○		1						
	メディア日本語論2	1・2後	2		2		○							兼1	
	日本語表現論1	1・2前	2		2		○		1						
	日本語表現論2	1・2後	2		2		○		1						
	言語学概論	1・2前	2		2		○							兼1	
小計(12科目)	—	—	12	12	0	—	—	—	6	1	0	0	0	兼4	—
専門科目	ゼミナール1	2前	2				○		6	1					兼1
	ゼミナール2	2後	2				○		6	1					兼1
	文化とコミュニケーション1	1・2前	2		2		○							兼1	
	文化とコミュニケーション2	1・2後	2		2		○							兼1	
	日本語の歴史的研究1	1・2前	2		2		○		1					兼1	
	日本語の歴史的研究2	1・2後	2		2		○		1						
	日本語の社会的研究1	1・2前	2		2		○			1					
	日本語の社会的研究2	1・2後	2		2		○			1					
	日本語教授法A-1	1・2・3・4前	2		2		○							兼1	
	日本語教授法A-2	1・2・3・4後	2		2		○							兼1	
	日本語の音声1	2・3・4前	2		2		○		1						
	日本語の音声2	2・3・4後	2		2		○		1						
	日本語の音韻・表記1	2・3・4前	2		2		○		1						
	日本語の音韻・表記2	2・3・4後	2		2		○		1						
	日本語の語彙・意味1	2・3・4前	2		2		○		1						
	日本語の語彙・意味2	2・3・4後	2		2		○		1						
	日本語の文法1	2・3・4前	2		2		○		1						
	日本語の文法2	2・3・4後	2		2		○		1						
	現代日本語の研究1	2・3・4前	2		2		○		1						
	現代日本語の研究2	2・3・4後	2		2		○		1						
	日本語教材研究1	2・3・4前	2		2		○							兼1	
	日本語教材研究2	2・3・4後	2		2		○							兼1	
	日本語の文献研究1	2・3・4前	2		2		○							兼1	
	日本語の文献研究2	2・3・4後	2		2		○							兼1	
	日本語統計・情報処理	2・3・4前・後	2		2		○			1					
	コーパス日本語学1	2・3・4前	2		2		○		1						
	コーパス日本語学2	2・3・4後	2		2		○		1						
小計(27科目)	—	—	4	50	0	—	—	—	6	1	0	0	0	兼5	—
発展科目	ゼミナール3	3前	2				○		6	1					兼1
	ゼミナール4	3後	2				○		6	1					兼1
	社会言語学1	2・3・4前	2		2		○			1					
	社会言語学2	2・3・4後	2		2		○			1					
	日本語の語用論1	2・3・4前	2		2		○							兼1	
	日本語の語用論2	2・3・4後	2		2		○							兼1	
	対照言語学	2・3・4後	2		2		○							兼1	
	学習文法研究1	2・3・4前	2		2		○		1						
	学習文法研究2	2・3・4後	2		2		○		1						
	第二言語習得研究1	2・3・4前	2		2		○		1						
	第二言語習得研究2	2・3・4後	2		2		○		1						
	日本語言語政策史1	2・3・4前	2		2		○							兼1	
日本語言語政策史2	2・3・4後	2		2		○							兼1		
日本語教育実習A	3・4通	4		4			○						兼1		
日本語教授法B-1	3・4前	2		2		○							兼1		
日本語教授法B-2	3・4後	2		2		○							兼1		
小計(16科目)	—	—	4	30	0	—	—	—	6	1	0	0	0	兼4	—
応用科目	ゼミナール5	4前	2				○		6	1					兼1
	ゼミナール6	4後	2				○		6	1					兼1
	卒業論文	4通	8				○		6	1					兼1
	日本語教育実習C	2・3後	2		2			○	1						※講義
	日本語学応用実習	2・3前・後	1		1			○	1						※講義
	日本語教育実習B	3・4通	4		4			○	1						※講義
小計(6科目)	—	—	12	7	0	—	—	—	6	1	0	0	0	兼1	—

教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	関連科目	中国文学講義1		2		○									兼1
		中国文学講義2	1・2・3後	2		○									兼1
		日本文学概論(古典)1	1・2・3・4前	2		○									兼1
		日本文学概論(古典)2	1・2・3・4後	2		○									兼1
		日本文学概論(近現代)1	1・2・3・4前	2		○									兼1
		日本文学概論(近現代)2	1・2・3・4後	2		○									兼1
		書道1	1・2・3・4通	2					○						兼1
		書道2	1・2・3・4通	2					○						兼1
		地域研究(北米)	2・3・4後	2			○								兼1
		地域研究(ラテンアメリカ)	2・3・4後	2			○								兼1
		地域研究(ヨーロッパ)	2・3・4後	2			○								兼1
		地域研究(アジア)	2・3・4後	2			○								兼1
		地域研究(中国)	2・3・4後	2			○								兼1
		文化の衝突と融合	2・3・4後	2			○								兼1
		移動と交流の文化史	2・3・4後	2			○								兼1
		比較文化	2・3・4後	2			○								兼1
		宗教と文化	2・3・4後	2			○								兼1
		思想と文化	2・3・4後	2			○								兼1
		多文化共生論	2・3・4後	2			○								兼1
		越境する文化	3・4前	2			○								兼1
		環境と文化	3・4前	2			○								兼1
		資源としての文化	3・4前	2			○								兼1
		現代社会と多様性	3・4前	2			○								兼1
		植民地と現代世界	3・4前	2			○								兼1
		現代文化論	3・4前	2			○								兼1
		国際政治の基礎	3・4前	2			○								兼1
		国際関係論 I	3・4前	2			○								兼1
		国際関係論 II	3・4後	2			○								兼1
		ビジネス英語A	3・4前	2					○						兼1
		ビジネス英語B	3・4後	2					○						兼1
	小計(30科目)	—	0	60	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼20	—
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール	1前	2			○		4						
		小計(1科目)	—	0	2	0	—	—	4	0	0	0	0		—
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール	1後	2				○		3					兼1
		小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	3	0	0	0	0	兼1	—
	キャリア基礎科目	キャリア入門	1前・後	2				○							兼1
		小計(1科目)	—	0	2	0	—	—	0	0	0	0	0	兼1	—
	基礎自然科学	あなたと自然科学	1前・後	2			○								兼1
		小計(1科目)	—	0	2	0	—	—	0	0	0	0	0	兼1	—

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人文科学基礎科目	歴史の視点	1・2前		2		○									兼1	—
	基礎心理学入門	1・2前・後		2		○									兼1	
	応用心理学入門	1・2前・後		2		○									兼1	
	哲学	1・2前・後		2		○									兼1	
	倫理学	1・2前・後		2		○									兼1	
	論理学入門	1・2前・後		2		○									兼1	
	ことばと論理	1・2前・後		2		○									兼1	
	芸術学入門	1・2前		2		○									兼1	
	ジャーナリズムと現代	1・2後		2		○									兼1	
	小計(9科目)	—		0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	
社会科学基礎科目	日本国憲法	1・2前		2		○									兼1	—
	法と社会	1・2後		2		○									兼1	
	政治学入門	1・2前		2		○									兼1	
	政治の世界	1・2後		2		○									兼1	
	経済と社会	1・2前		2		○									兼1	
	現代の経済	1・2後		2		○									兼1	
	地理学への招待	1・2前・後		2		○									兼1	
	社会学入門	1・2前・後		2		○									兼1	
	現代の社会学	1・2前・後		2		○									兼1	
	社会科学論	1・2前・後		2		○									兼1	
	社会思想	1・2前・後		2		○									兼1	
	教育学入門	1・2前		2		○									兼1	
	子どもと社会の教育学	1・2前・後		2		○									兼1	
	情報社会	1・2前・後		2		○									兼1	
はじめての経営	1・2前		2		○									兼1		
マーケティングベーシック	1・2後		2		○									兼1		
企業と会計	1・2前		2		○									兼1		
小計(17科目)	—		0	34	0	—			0	0	0	0	0	0	兼15	
教養科目	自然科学系科目	生物科学1a	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	—
		生物科学1b	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	
		生物科学2a	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		生物科学2b	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	
		生物科学3a	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		生物科学3b	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		宇宙地球科学1a	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		宇宙地球科学1b	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		宇宙地球科学2a	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		宇宙地球科学2b	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		化学1a	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		化学1b	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		化学2a	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		化学2b	1・2・3・4後	2		○									兼1	
	物理学1a	1・2・3・4前	2		○									兼1		
	物理学1b	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	物理学2a	1・2・3・4前	2		○									兼1		
	物理学2b	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	数理学1a	1・2・3・4前	2		○									兼1		
	数理学1b	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	数理学2a	1・2・3・4前	2		○									兼1		
	数理学2b	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	数理学3a	1・2・3・4前	2		○									兼1		
	数理学3b	1・2・3・4後	2		○									兼1		
	科学論1a	1・2・3・4前・後	2		○										兼1	
	科学論1b	1・2・3・4前・後	2		○										兼1	
	科学論2a	1・2・3・4前	2		○										兼1	
	科学論2b	1・2・3・4後	2		○										兼1	
小計(28科目)	—		0	56	0	—			0	0	0	0	0	0	兼11	
融合領域科目	学際科目1	2・3・4前		2		○									兼1	—
	学際科目2	2・3・4後		2		○									兼1	
	学際科目3	2・3・4前		2		○									兼1	
	学際科目4	2・3・4後		2		○									兼1	
	学際科目5	2・3・4後		2		○									兼1	
	学際科目6	2・3・4前		2		○									兼1	
	学際科目7	2・3・4前		2		○									兼1	
	学際科目8	2・3・4前		2		○									兼1	
	学際科目9	2・3・4後		2		○									兼1	
	学際科目10	2・3・4後		2		○									兼1	
	学際科目11	2・3・4後		4		○									兼1	



## 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
教養科目	融合領域科目	学際科目12		4			○									兼1	
		テーマ科目	2・3・4前・後	2			○										兼1
		新領域科目1	2・3・4後	2			○										兼1
		新領域科目2	2・3・4前	2			○										兼1
		新領域科目3	2・3・4後	2			○										兼1
		新領域科目4	2・3・4後	2			○										兼1
		新領域科目5	2・3・4後	2			○										兼1
		キャリア科目1	2・3・4前	2			○										兼1
		キャリア科目2	2・3・4後	2			○										兼1
		教養テーマゼミナール1	2通	4					○								兼1
		教養テーマゼミナール2	3通	4					○								兼1
		教養テーマゼミナール3	4通	4					○								兼1
		教養テーマゼミナール論文	3・4通	2					○								兼1
	小計(24科目)	—	0	58	0			—	0	0	0	0	0	0	0	兼17	—
	保健体育系科目	スポーツセラシー	1・2・3・4前・後	B					○								兼1
		スポーツウェルネス	1・2・3・4前・後	1					○								兼1
		アドバンススポーツ	2・3・4前・後	2					○								兼1
		スポーツ論(健康と生涯スポーツ)	2・3・4後	2				○									兼1
		スポーツ論(オリンピックとスポーツ)	2・3・4前・後	2				○									兼1
		スポーツ論(スポーツコーチング)	2・3・4前・後	2				○									兼1
スポーツ論(スポーツライフデザイン論)		2・3・4前・後	2				○									兼1	
スポーツ論(人類とスポーツ)		2・3・4前・後	2				○									兼1	
スポーツ論(トレーニング科学)		2・3・4後	2				○									兼1	
小計(9科目)	—	0	16	0			—	0	0	0	0	0	0	0	兼8	—	
外国語科目	Basics of English (RL) 1a	1前	1				○									兼1	
	Basics of English (RL) 1b	1後	1				○									兼1	
	Intermediate English (RL) 1a	1前	1				○									兼1	
	Intermediate English (RL) 1b	1後	1				○									兼1	
	Basics of English (SW) 1a	1前	1				○									兼1	
	Basics of English (SW) 1b	1後	1				○									兼1	
	Intermediate English (SW) 1a	1前	1				○									兼1	
	Intermediate English (SW) 1b	1後	1				○									兼1	
	General English	2・3・4前・後	1				○									兼1	
	English Speaking a	1・2・3・4前	1				○									兼1	
	English Speaking b	1・2・3・4後	1				○									兼1	
	Computer Aided Instruction a	1・2・3・4前	1				○									兼1	
	Computer Aided Instruction b	1・2・3・4後	1				○									兼1	
	Computer Aided Instruction for TOEIC a	1・2・3・4前	1				○									兼1	
	Computer Aided Instruction for TOEIC b	1・2・3・4後	1				○									兼1	
	Advanced English a	2・3・4前	2				○									兼1	
	Advanced English b	2・3・4後	2				○									兼1	
	English Language and Cultures a	2・3・4前	2				○									兼1	
	English Language and Cultures b	2・3・4後	2				○									兼1	
	English Presentation a	2・3・4前	2				○									兼1	
	English Presentation b	2・3・4後	2				○									兼1	
	English Writing a	2・3・4前	2				○									兼1	
	English Writing b	2・3・4後	2				○									兼1	
	Screen English a	2・3・4前	2				○									兼1	
	Screen English b	2・3・4後	2				○									兼1	
小計(25科目)	—	0	35	0			—	0	0	0	0	0	0	0	兼15	—	
英語以外の外国語	ドイツ語初級1a	1前	1				○									兼1	
	ドイツ語初級1b	1前・後	1				○									兼1	
	ドイツ語初級2a	1前	1				○									兼1	
	ドイツ語初級2b	1前・後	1				○									兼1	
	フランス語初級1a	1前	1				○									兼1	
	フランス語初級1b	1前・後	1				○									兼1	
	フランス語初級2a	1前	1				○									兼1	
	フランス語初級2b	1前・後	1				○									兼1	
	中国語初級1a	1前	1				○									兼1	
	中国語初級1b	1前・後	1				○									兼1	
	中国語初級2a	1前	1				○									兼1	
	中国語初級2b	1前・後	1				○									兼1	
	スペイン語初級1a	1前	1				○									兼1	
	スペイン語初級1b	1前・後	1				○									兼1	
	スペイン語初級2a	1前	1				○									兼1	
	スペイン語初級2b	1前・後	1				○									兼1	
ロシア語初級1a	1前	1				○									兼1		
ロシア語初級1b	1後	1				○									兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
外国語科目	英語以外の外国語	ロシア語初級2a		1				○							兼1
		ロシア語初級2b	1後		1				○						兼1
		インドネシア語初級1a	1前		1				○						兼1
		インドネシア語初級1b	1後		1				○						兼1
		インドネシア語初級2a	1前		1				○						兼1
		インドネシア語初級2b	1後		1				○						兼1
		ロシア語初級1a	1前		1				○						兼1
		ロシア語初級1b	1前・後		1				○						兼1
		ロシア語初級2a	1前		1				○						兼1
		ロシア語初級2b	1前・後		1				○						兼1
		ドイツ語中級1a	2・3・4前		1				○						兼1
		ドイツ語中級1b	2・3・4後		1				○						兼1
		ドイツ語中級2a	2・3・4前		1				○						兼1
		ドイツ語中級2b	2・3・4後		1				○						兼1
		フランス語中級1a	2・3・4前		1				○						兼1
		フランス語中級1b	2・3・4後		1				○						兼1
		フランス語中級2a	2・3・4前		1				○						兼1
		フランス語中級2b	2・3・4後		1				○						兼1
		中国語中級1a	2・3・4前		1				○						兼1
		中国語中級1b	2・3・4後		1				○						兼1
		中国語中級2a	2・3・4前		1				○						兼1
		中国語中級2b	2・3・4後		1				○						兼1
		スペイン語中級1a	2・3・4前		1				○						兼1
		スペイン語中級1b	2・3・4後		1				○						兼1
		スペイン語中級2a	2・3・4前		1				○						兼1
		スペイン語中級2b	2・3・4後		1				○						兼1
		ロシア語中級1a	2・3・4前		1				○						兼1
		ロシア語中級1b	2・3・4後		1				○						兼1
		ロシア語中級2a	2・3・4前		1				○						兼1
		ロシア語中級2b	2・3・4後		1				○						兼1
		インドネシア語中級1a	2・3・4前		1				○						兼1
		インドネシア語中級1b	2・3・4後		1				○						兼1
		インドネシア語中級2a	2・3・4前		1				○						兼1
		インドネシア語中級2b	2・3・4後		1				○						兼1
		ロシア語中級1a	2・3・4前		1				○						兼1
		ロシア語中級1b	2・3・4後		1				○						兼1
		ドイツ語上級1a	3・4前		1				○						兼1
		ドイツ語上級1b	3・4後		1				○						兼1
		フランス語上級1a	3・4前		1				○						兼1
		フランス語上級1b	3・4後		1				○						兼1
		中国語上級1a	3・4前		1				○						兼1
		中国語上級1b	3・4後		1				○						兼1
		スペイン語上級1a	3・4前		1				○						兼1
		スペイン語上級1b	3・4後		1				○						兼1
		ロシア語上級1a	3・4前		1				○						兼1
		ロシア語上級1b	3・4後		1				○						兼1
		インドネシア語上級1a	3・4前		1				○						兼1
インドネシア語上級1b	3・4後		1				○						兼1		
ロシア語上級1a	3・4前		1				○						兼1		
ロシア語上級1b	3・4後		1				○						兼1		
選択ドイツ語1a	2・3・4前		1				○						兼1		
選択ドイツ語1b	2・3・4後		1				○						兼1		
選択フランス語1a	2・3・4前		1				○						兼1		
選択フランス語1b	2・3・4後		1				○						兼1		
選択中国語1a	2・3・4前		1				○						兼1		
選択中国語1b	2・3・4後		1				○						兼1		
選択スペイン語1a	2・3・4前		1				○						兼1		
選択スペイン語1b	2・3・4後		1				○						兼1		
選択ロシア語1a	2・3・4前		1				○						兼1		
選択ロシア語1b	2・3・4後		1				○						兼1		
選択アラビア語1a	2・3・4前		1				○						兼1		
選択アラビア語1b	2・3・4後		1				○						兼1		
選択イタリア語1a	2・3・4前		1				○						兼1		
選択イタリア語1b	2・3・4後		1				○						兼1		
世界の言語と文化(ドイツ語)	1・2・3・4後		2				○							兼1	
世界の言語と文化(フランス語)	1・2・3・4前・後		2				○							兼1	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
英語 以外 の 外 国 語	世界の言語と文化(中国語)	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
	世界の言語と文化(スペイン語)	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	世界の言語と文化(ロシア語)	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	世界の言語と文化(インドネシア語)	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	世界の言語と文化(コリア語)	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	言語文化研究(ヨーロッパ)1	2・3・4前		2		○									兼1	
	言語文化研究(ヨーロッパ)2	2・3・4後		2		○									兼1	
	言語文化研究(アジア)1	2・3・4前・後		2		○									兼1	
	言語文化研究(アジア)2	2・3・4後		2		○									兼1	
	言語文化研究(アメリカ)	2・3・4前・後		2		○									兼1	
小計(96科目)		—	0	108	0	—			0	0	0	0	0	0	兼34	—
外国 語 科 目	海外 語 学 研 修	海外語学短期研修1(英語)		2		○									兼1	
		海外語学短期研修2(英語)	1・2・3後	2		○									兼1	
		海外語学短期研修1(ドイツ語)	1・2・3前	2		○									兼1	
		海外語学短期研修2(ドイツ語)	1・2・3後	2		○									兼1	
		海外語学短期研修1(フランス語)	1・2・3前	2		○									兼1	
		海外語学短期研修2(フランス語)	1・2・3後	2		○									兼1	
		海外語学短期研修1(中国語)	1・2・3前	2		○									兼1	
		海外語学短期研修2(中国語)	1・2・3後	2		○									兼1	
		海外語学短期研修1(スペイン語)	1・2・3前	2		○									兼1	
		海外語学短期研修2(スペイン語)	1・2・3後	2		○									兼1	
		海外語学短期研修1(コリア語)	1・2・3前	2		○									兼1	
		海外語学短期研修2(コリア語)	1・2・3後	2		○									兼1	
		海外語学中期研修1(英語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修2(英語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修3(英語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修4(英語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修5(英語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修6(英語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修7(英語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修8(英語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修1(ドイツ語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修2(ドイツ語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修3(ドイツ語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修4(ドイツ語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修5(ドイツ語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修6(ドイツ語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修7(ドイツ語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修8(ドイツ語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修1(フランス語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修2(フランス語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修3(フランス語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修4(フランス語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修5(フランス語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修6(フランス語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修7(フランス語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修8(フランス語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修1(中国語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修2(中国語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修3(中国語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修4(中国語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修5(中国語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修6(中国語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修7(中国語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修8(中国語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修1(スペイン語)	2・3・4通	2		○									兼1	
		海外語学中期研修2(スペイン語)	2・3・4通	2		○									兼1	
海外語学中期研修3(スペイン語)	2・3・4通	2		○									兼1			
海外語学中期研修4(スペイン語)	2・3・4通	2		○									兼1			
海外語学中期研修5(スペイン語)	2・3・4通	2		○									兼1			
海外語学中期研修6(スペイン語)	2・3・4通	2		○									兼1			
海外語学中期研修7(スペイン語)	2・3・4通	2		○									兼1			
海外語学中期研修8(スペイン語)	2・3・4通	2		○									兼1			
海外語学中期研修1(コリア語)	2・3・4通	2		○									兼1			
海外語学中期研修2(コリア語)	2・3・4通	2		○									兼1			

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
外国 語科 目	海外語学中期研修3(コリア語)	2・3・4通		2			○								兼1
	海外語学中期研修4(コリア語)	2・3・4通		2			○								兼1
	海外語学中期研修5(コリア語)	2・3・4通		2			○								兼1
	海外語学中期研修6(コリア語)	2・3・4通		2			○								兼1
	海外語学中期研修7(コリア語)	2・3・4通		2			○								兼1
	海外語学中期研修8(コリア語)	2・3・4通		2			○								兼1
	小計(60科目)	—	—	0	120	0	—	—	0	0	0	0	0	0	兼7
合計(363科目)			—	34	610	0	—	6	1	0	0	0	0	兼121	—
学位又は称号		学士(文学)			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
専門科目から72単位以上を修得する。そのうち、基礎科目から必修科目12単位を含む16単位以上、基幹科目から必修科目4単位を含む32単位以上、発展科目から必修科目4単位を含む12単位以上、応用科目から必修科目12単位を修得する。 転換・導入科目から必修科目2単位を修得する。 教養科目から10単位以上を修得する。 外国語科目から8単位以上を修得する。 合計124単位以上を修得する。 (履修科目の登録の上限:1～3年次 44単位(年間)、4年次 48単位(年間))							1学年の学期区分					2期			
							1学期の授業期間					15週			
							1時限の授業時間					90分			

教育課程等の概要																	
(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	基礎科目	日本文化入門	1前	2			○									兼1	
		日本語入門	1後	2			○									兼1	
		異文化理解の実践	1後		2			○									
		Readings in Liberal Arts 1	1前	1					○			5	2				兼1
		Readings in Liberal Arts 2	1後	1					○			5	2				兼1
		Writing with Clarity 1	1前	1					○			3	3				兼2
		Writing with Clarity 2	1後	1					○			3	3				兼2
		Cross-Cultural Studies	1前	1					○			1	1	1			
		ドイツ語基礎A	1前		1				○				1				
		ドイツ語基礎B	1前		1				○								兼1
		ドイツ語基礎C	1前		1				○								兼1
		ドイツ語基礎D	1後		1				○				1				
		ドイツ語基礎E	1後		1				○								兼1
		フランス語基礎A	1前		1				○			1					
		フランス語基礎B	1前		1				○			1					
		フランス語基礎C	1前		1				○								兼1
		フランス語基礎D	1後		1				○			1					
		フランス語基礎E	1後		1				○			1					
		中国語基礎A	1前		1				○				1				兼1
		中国語基礎B	1前		1				○			1					兼1
		中国語基礎C	1前		1				○								兼1
		中国語基礎D	1後		1				○				1				兼1
		中国語基礎E	1後		1				○			1					兼1
		スペイン語基礎A	1前		1				○			1					兼1
		スペイン語基礎B	1前		1				○								兼2
		スペイン語基礎C	1前		1				○								兼2
		スペイン語基礎D	1後		1				○								兼2
		スペイン語基礎E	1後		1				○								兼2
		コリア語基礎A	1前		1				○			1					
		コリア語基礎B	1前		1				○			1					
		コリア語基礎C	1前		1				○								兼1
		コリア語基礎D	1後		1				○			1					
		コリア語基礎E	1後		1				○			1					
		Academic Skills	1後		1				○			1	1	1			
		Talking Tasks 1	1後		1				○			1					
		Talking Tasks 2	1後		1				○			1					
		ドイツ語コミュニケーションA	1後		1				○								兼1
		ドイツ語コミュニケーションB	1後		1				○								兼1
		ドイツ語コミュニケーションC	1後		1				○								兼1
		フランス語コミュニケーションA	1後		1				○			1					
		フランス語コミュニケーションB	1後		1				○			1					
		フランス語コミュニケーションC	1後		1				○								兼1
		中国語コミュニケーションA	1後		1				○				1				
		中国語コミュニケーションB	1後		1				○								兼1
		中国語コミュニケーションC	1後		1				○			1					
		スペイン語コミュニケーションA	1後		1				○								兼1
		スペイン語コミュニケーションB	1後		1				○								兼1
		スペイン語コミュニケーションC	1後		1				○								兼1
		コリア語コミュニケーションA	1後		1				○			1					
		コリア語コミュニケーションB	1後		1				○			1					
		コリア語コミュニケーションC	1後		1				○								兼1
小計(51科目)			—	9	45	0	—	—	—	14	8	1	0	0	兼16	—	
基礎科目	世界の文化を知る(北米)	1・2・3・4後		2			○									兼1	
	世界の文化を知る(ラテンアメリカ)	1・2・3・4後		2			○			1							
	世界の文化を知る(ヨーロッパ)	1・2・3・4後		2			○			1						兼1	
	世界の文化を知る(アジア)	1・2・3・4後		2			○			1							
	文化研究の視点	1・2・3・4前		2			○			1							
	ことば・身体・映像	1・2・3・4前		2			○									兼1	
	異文化交流ワークショップ	2後		2				○		4	2						
	ゼミナール1	3前		2				○		15	9	1					
	ゼミナール2	3後		2				○		15	9	1					
	ゼミナール3	4前		2				○		15	9	1					
	ゼミナール4	4後		2				○		15	9	1					
卒業研究	4通		8				○		15	9	1						
海外研修(リーディング)	2前			2			○		3	3							
海外研修(リスニング)	2前			2			○		3	3							

教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
基 幹 科 目	海外研修(ライティング)	2前		2				○			3	3					
	海外研修(スピーキング)	2前		2				○			3	3					
	海外研修(リサーチ)	2前		2				○			3	3					
	海外研修(プレゼンテーション)	2前		2				○			3	3					
	海外研修(ディスカッション)	2前		2				○			3	3					
	海外研修(異文化理解)	2前		2				○			3	3					
	Big Reading for Speed	2・3・4前		2				○			3						
	Critical Reading	2・3・4後		2				○			2	1					
	Verbal Communication	2・3・4前		2				○			1	2					
	Talking Points	2・3・4後		2				○				2					兼1
	Presentation & Research	2・3・4前		2				○			2	1					
	Critical Writing	2・3・4後		2				○			1	1					兼1
	Topics in English A	3・4前		2				○					1				
	Topics in English B	3・4後		2				○			1						
	ドイツ語総合A	2・3・4後		2				○									兼1
	ドイツ語総合B	2・3・4前		2				○									兼1
	ドイツ語実践A	2・3・4後		2				○									兼1
	ドイツ語実践B	2・3・4前		2				○									兼1
	ドイツ語表現A	3・4前		2				○									兼1
	ドイツ語表現B	3・4後		2				○									兼1
	フランス語総合A	2・3・4後		2				○									兼1
	フランス語総合B	2・3・4前		2				○									兼1
	フランス語実践A	2・3・4後		2				○									兼1
	フランス語実践B	2・3・4前		2				○									兼1
	フランス語表現A	3・4前		2				○									兼1
	フランス語表現B	3・4後		2				○									兼1
	中国語総合A	2・3・4後		2				○									兼1
	中国語総合B	2・3・4前		2				○									兼1
	中国語実践A	2・3・4後		2				○									兼1
	中国語実践B	2・3・4前		2				○									兼1
	中国語表現A	3・4前		2				○			1						
	中国語表現B	3・4後		2				○			1						
	スペイン語総合A	2・3・4後		2				○									兼1
スペイン語総合B	2・3・4前		2				○									兼1	
スペイン語実践A	2・3・4後		2				○									兼1	
スペイン語実践B	2・3・4前		2				○									兼1	
スペイン語表現A	3・4前		2				○									兼1	
スペイン語表現B	3・4後		2				○									兼1	
ロシア語総合A	2・3・4後		2				○									兼1	
ロシア語総合B	2・3・4前		2				○									兼1	
ロシア語実践A	2・3・4後		2				○									兼1	
ロシア語実践B	2・3・4前		2				○									兼1	
ロシア語表現A	3・4前		2				○									兼1	
ロシア語表現B	3・4後		2				○									兼1	
小計(58科目)		—	18	104	0			—		15	9	1	0	0	兼16	—	
発 展 科 目	地域研究(北米)	2・3・4後		2				○			1					兼1	
	地域研究(ラテンアメリカ)	2・3・4後		2				○				1				兼1	
	地域研究(ヨーロッパ)	2・3・4後		2				○								兼1	
	地域研究(アジア)	2・3・4後		2				○								兼1	
	地域研究(中国)	2・3・4後		2				○			1					兼1	
	文化の衝突と融合	2・3・4後		2				○				1				兼1	
	移動と交流の文化史	2・3・4後		2				○			1					兼1	
	比較文化	2・3・4後		2				○								兼1	
	宗教と文化	2・3・4後		2				○				1				兼1	
	思想と文化	2・3・4後		2				○			1					兼1	
	多文化共生論	2・3・4後		2				○								兼1	
	ことばのしくみ	2・3・4後		2				○			1					兼1	
	ことばの習得	2・3・4後		2				○				1				兼1	
	身体とコミュニケーション	2・3・4後		2				○					1			兼1	
	映像とコミュニケーション	2・3・4後		2				○			1					兼1	
小計(15科目)		—	0	30	0			—		5	4	0	0	0	兼4	—	
応 用 科 目	テーマ研究(北米)	3・4前		2				○			1						
	テーマ研究(ラテンアメリカ)	3・4前		2				○								兼1	
	テーマ研究(西ヨーロッパ)	3・4前		2				○			1					兼1	
	テーマ研究(中東欧・ロシア)	3・4前		2				○			1					兼1	
	テーマ研究(イギリス)	3・4前		2				○			1					兼1	
	テーマ研究(アジア)	3・4前		2				○								兼1	
	テーマ研究(中国)	3・4前		2				○			1					兼1	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	応用科目	越境する文化		2		○				1					兼1	
		環境と文化	3・4前	2		○				1						
		資源としての文化	3・4前	2		○				1						
		現代社会と多様性	3・4前	2		○										
		植民地と現代世界	3・4前	2		○					1					
		現代文化論	3・4前	2		○										
		ことばと心	3・4前	2		○					1					
		ことばと社会	3・4後	2		○				1						
		メディア文化論	3・4前	2		○				1						
		身体文化論	3・4前	2		○					1					
	映像文化論	3・4前	2		○				1							
	小計(18科目)	—	0	36	0	—			9	5	0	0	0	兼3	—	
	関連科目	身体系特殊講義	3・4前	2		○									兼1	
		映像音楽系特殊講義	3・4前	2		○									兼1	
		チェコ語1	3・4前	2				○		1						
		チェコ語2	3・4後	2				○								
		ベトナム語1	3・4前	2				○							兼1	
		ベトナム語2	3・4後	2				○							兼1	
		メディア日本語論1	3・4後	2			○								兼1	
メディア日本語論2		3・4後	2			○								兼1		
日本語表現論1		3・4前	2			○								兼1		
日本語表現論2		3・4後	2			○								兼1		
日本語教授法A-1	3・4前	2			○								兼1			
日本語教授法A-2	3・4後	2				○							兼1			
日本語言語政策史1	3・4前	2				○							兼1			
日本語言語政策史2	3・4後	2				○							兼1			
国際政治の基礎	3・4前	2			○								兼1			
国際関係論 I	3・4前	2			○								兼1			
国際関係論 II	3・4後	2			○								兼1			
ビジネス英語A	3・4前	2					○						兼1			
ビジネス英語B	3・4後	2					○						兼1			
小計(19科目)	—	0	38	0	—			1	0	0	0	0	兼11	—		
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門セミナー	1前	2				○		5	2				兼1	
		小計(1科目)	—	0	2	0	—		5	2	0	0	0	兼1	—	
	データリテラシー	データ分析入門	1前・後	2		○									兼1	
		小計(1科目)	—	0	2	0	—		0	0	0	0	0	兼1	—	
	キャリア基礎科目	キャリア入門	1前・後	2				○							兼1	
		小計(1科目)	—	0	2	0	—		0	0	0	0	0	兼1	—	
	情報リテラシー科目	情報入門1	1前	2				○							兼1	
		情報入門2	1後	2				○							兼1	
	小計(2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—	
	基礎自然科学	あなたと自然科学	1前・後	2		○									兼1	
小計(1科目)		—	0	2	0	—		0	0	0	0	0	兼1	—		

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
人文科学基礎科目	日本の文学	1・2前・後		2		○										兼1	
	歴史の視点	1・2前		2		○										兼1	
	基礎心理学入門	1・2前・後		2		○										兼1	
	応用心理学入門	1・2前・後		2		○										兼1	
	哲学	1・2前・後		2		○										兼1	
	倫理学	1・2前・後		2		○										兼1	
	論理学入門	1・2前・後		2		○										兼1	
	ことばと論理	1・2前・後		2		○										兼1	
	芸術学入門	1・2前		2		○										兼1	
	ジャーナリズムと現代	1・2後		2		○										兼1	
	小計(10科目)	—		0	20	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8	—
	社会科学基礎科目	日本国憲法	1・2前		2		○										兼1
		法と社会	1・2後		2		○										兼1
		政治学入門	1・2前		2		○										兼1
		政治の世界	1・2後		2		○										兼1
		経済と社会	1・2前		2		○										兼1
		現代の経済	1・2後		2		○										兼1
地理学への招待		1・2前・後		2		○										兼1	
社会学入門		1・2前・後		2		○										兼1	
現代の社会学		1・2前・後		2		○										兼1	
社会科学論		1・2前・後		2		○										兼1	
社会思想		1・2前・後		2		○										兼1	
教育学入門		1・2前		2		○										兼1	
子どもと社会の教育学		1・2前・後		2		○										兼1	
情報社会		1・2前・後		2		○										兼1	
はじめての経営	1・2前		2		○										兼1		
マーケティングベーシックス	1・2後		2		○										兼1		
企業と会計	1・2前		2		○										兼1		
小計(17科目)	—		0	34	0	—			0	0	0	0	0	0	兼15	—	
教養科目	生物科学1a	1・2・3・4前・後		2		○										兼1	
	生物科学1b	1・2・3・4前・後		2		○										兼1	
	生物科学2a	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	生物科学2b	1・2・3・4前・後		2		○										兼1	
	生物科学3a	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	生物科学3b	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	宇宙地球科学1a	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	宇宙地球科学1b	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	宇宙地球科学2a	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	宇宙地球科学2b	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	化学1a	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	化学1b	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	化学2a	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	化学2b	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	物理学1a	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	物理学1b	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	物理学2a	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	物理学2b	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	数理科学1a	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	数理科学1b	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	数理科学2a	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	数理科学2b	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	数理科学3a	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	数理科学3b	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	科学論1a	1・2・3・4前・後		2		○										兼1	
	科学論1b	1・2・3・4前・後		2		○										兼1	
	科学論2a	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	科学論2b	1・2・3・4後		2		○										兼1	
小計(28科目)	—		0	56	0	—			0	0	0	0	0	0	兼11	—	
融合領域科目	学際科目1	2・3・4前		2		○										兼1	
	学際科目2	2・3・4後		2		○										兼1	
	学際科目3	2・3・4前		2		○										兼1	
	学際科目4	2・3・4後		2		○										兼1	
	学際科目5	2・3・4後		2		○										兼1	
	学際科目6	2・3・4前		2		○				1							
	学際科目7	2・3・4前		2		○				1							
	学際科目8	2・3・4前		2		○				1							
	学際科目9	2・3・4後		2		○					1						
	学際科目10	2・3・4後		2		○										兼1	



## 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
教養科目	学際科目11	2・3・4後		4			○								兼1	
	学際科目12	2・3・4前		4			○								兼1	
	テーマ科目	2・3・4前・後		2			○			1						
	新領域科目1	2・3・4後		2			○								兼1	
	新領域科目2	2・3・4前		2			○								兼1	
	新領域科目3	2・3・4後		2			○								兼1	
	新領域科目4	2・3・4後		2			○								兼1	
	新領域科目5	2・3・4後		2			○								兼1	
	キャリア科目1	2・3・4前		2			○								兼1	
	キャリア科目2	2・3・4後		2			○								兼1	
	教養テーマゼミナール1	2通		4				○		1						
	教養テーマゼミナール2	3通		4						1						
	教養テーマゼミナール3	4通		4						1						
	教養テーマゼミナール論文	3・4通		2						1						
小計(24科目)	—		0	58	0		—		3	1	0	0	0	0	兼13	—
保健体育系科目	スポーツリテラシー	1・2・3・4前・後		1											兼1	
	スポーツウェルネス	1・2・3・4前・後		1											兼1	
	アドバンススポーツ	2・3・4前・後		2											兼1	
	スポーツ論(健康と生涯スポーツ)	2・3・4後		2			○								兼1	
	スポーツ論(オリンピックとスポーツ)	2・3・4前・後		2			○								兼1	
	スポーツ論(人類とスポーツ)	2・3・4前・後		2			○								兼1	
	スポーツ論(スポーツライフデザイン論)	2・3・4前・後		2			○								兼1	
	スポーツ論(トレーニング科学)	2・3・4後		2			○								兼1	
	スポーツ論(スポーツコーチング)	2・3・4前・後		2			○								兼1	
小計(9科目)	—		0	16	0		—		0	0	0	0	0	0	兼8	—
英語	Advanced English a	2・3・4前		2				○		1						
	Advanced English b	2・3・4後		2				○							兼1	
	English Language and Cultures a	2・3・4前		2				○		1						
	English Language and Cultures b	2・3・4後		2				○							兼1	
小計(4科目)	—		0	8	0		—		2	0	0	0	0	0	兼2	—
外国語科目	ロシア語初級1a	1・2・3・4前		1				○		1						
	ロシア語初級1b	1・2・3・4後		1				○		1						
	ロシア語初級2a	1・2・3・4前		1				○							兼1	
	ロシア語初級2b	1・2・3・4後		1				○							兼1	
	インドネシア語初級1a	1・2・3・4前		1				○							兼1	
	インドネシア語初級1b	1・2・3・4後		1				○							兼1	
	インドネシア語初級2a	1・2・3・4前		1				○							兼1	
	インドネシア語初級2b	1・2・3・4後		1				○							兼1	
	選択ドイツ語1a	2・3・4前		1				○							兼1	
	選択ドイツ語1b	2・3・4後		1				○							兼1	
	選択フランス語1a	2・3・4前		1				○							兼1	
	選択フランス語1b	2・3・4後		1				○							兼1	
	選択中国語1a	2・3・4前		1				○							兼1	
	選択中国語1b	2・3・4後		1				○							兼1	
	選択スペイン語1a	2・3・4前		1				○							兼1	
	選択スペイン語1b	2・3・4後		1				○							兼1	
	選択コリア語1a	2・3・4前		1				○							兼1	
	選択コリア語1b	2・3・4後		1				○							兼1	
	選択アラビア語1a	2・3・4前		1				○							兼1	
	選択アラビア語1b	2・3・4後		1				○							兼1	
選択イタリア語1a	2・3・4前		1				○							兼1		
選択イタリア語1b	2・3・4後		1				○							兼1		
小計(22科目)	—		0	22	0		—		1	0	0	0	0	0	兼10	—
海外語学研修	海外語学短期研修1(英語)	1・2・3前		2				○								
	海外語学短期研修2(英語)	1・2・3後		2				○								
	海外語学短期研修1(ドイツ語)	1・2・3前		2				○								
	海外語学短期研修2(ドイツ語)	1・2・3後		2				○								
	海外語学短期研修1(フランス語)	1・2・3前		2				○		1						
	海外語学短期研修2(フランス語)	1・2・3後		2				○		1						
	海外語学短期研修1(中国語)	1・2・3前		2				○				1				
	海外語学短期研修2(中国語)	1・2・3後		2				○				1				
	海外語学短期研修1(スペイン語)	1・2・3前		2				○		1						
	海外語学短期研修2(スペイン語)	1・2・3後		2				○		1						
	海外語学短期研修1(コリア語)	1・2・3前		2				○		1						
	海外語学短期研修2(コリア語)	1・2・3後		2				○		1						
	海外語学中期研修1(英語)	2・3・4通		2				○		1						
	海外語学中期研修2(英語)	2・3・4通		2				○		1						
海外語学中期研修3(英語)	2・3・4通		2				○		1							

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
外国語科目	海外語学中期研修4(英語)	2・3・4通		2			○		1							
	海外語学中期研修5(英語)	2・3・4通		2			○		1							
	海外語学中期研修6(英語)	2・3・4通		2			○		1							
	海外語学中期研修7(英語)	2・3・4通		2			○		1							
	海外語学中期研修8(英語)	2・3・4通		2			○		1							
	海外語学中期研修1(ドイツ語)	2・3・4通		2			○				1					
	海外語学中期研修2(ドイツ語)	2・3・4通		2			○				1					
	海外語学中期研修3(ドイツ語)	2・3・4通		2			○				1					
	海外語学中期研修4(ドイツ語)	2・3・4通		2			○				1					
	海外語学中期研修5(ドイツ語)	2・3・4通		2			○				1					
	海外語学中期研修6(ドイツ語)	2・3・4通		2			○				1					
	海外語学中期研修7(ドイツ語)	2・3・4通		2			○				1					
	海外語学中期研修8(ドイツ語)	2・3・4通		2			○				1					
	海外語学中期研修1(フランス語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修2(フランス語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修3(フランス語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修4(フランス語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修5(フランス語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修6(フランス語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修7(フランス語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修8(フランス語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修1(中国語)	2・3・4通		2			○					1				
	海外語学中期研修2(中国語)	2・3・4通		2			○					1				
	海外語学中期研修3(中国語)	2・3・4通		2			○					1				
	海外語学中期研修4(中国語)	2・3・4通		2			○					1				
	海外語学中期研修5(中国語)	2・3・4通		2			○					1				
	海外語学中期研修6(中国語)	2・3・4通		2			○					1				
	海外語学中期研修7(中国語)	2・3・4通		2			○					1				
	海外語学中期研修8(中国語)	2・3・4通		2			○					1				
	海外語学中期研修1(スペイン語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修2(スペイン語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修3(スペイン語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修4(スペイン語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修5(スペイン語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修6(スペイン語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修7(スペイン語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修8(スペイン語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修1(コリア語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修2(コリア語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修3(コリア語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修4(コリア語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修5(コリア語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修6(コリア語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修7(コリア語)	2・3・4通		2			○			1						
	海外語学中期研修8(コリア語)	2・3・4通		2			○			1						
	小計(60科目)		—	0	120	0	—	—	—	4	3	0	0	0	—	—
	合計(341科目)		—	27	599	0	—	—	—	15	9	1	0	0	兼101	—
	学位又は称号	学士(言語文化)		学位又は学科の分野				文学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
(履修科目の登録の上限:1年次 44単位(年間)、2年次 40単位(年間)、3年次 44単位(年間)、4年次 48単位(年間))								1学年の学期区分				2期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

教育課程等の概要																
(文学部日本語学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	日本語の文法1	2・3・4前		2			○			1						
	日本語の文法2	2・3・4後		2			○			1						
	日本語情報処理1	1前	2					○			2					
	日本語情報処理2	1後		2				○			2					
	日本語情報処理応用1	2・3・4前		2				○			1					
	日本語情報処理応用2	2・3・4後		2				○			1					
	日本語の資料研究A-1	1・2前		2				○		1						
	日本語の資料研究A-2	1・2後		2				○		1						
	日本語の資料研究B-1	1・2前		2				○			1					
	日本語の資料研究B-2	1・2後		2				○			1					
	日本語学入門1	1前		2				○		1						
	日本語学入門2	1後		2				○		1						
	日本語の歴史1	2・3・4前		2				○							兼1	
	日本語の歴史2	2・3・4後		2				○							兼1	
	ことばと社会1	2・3・4前		2				○			1					
	ことばと社会2	2・3・4後		2				○			1					
	日本語の諸問題1	2・3・4前		2				○							兼1	
	日本語の諸問題2	2・3・4後		2				○							兼1	
	日本語の語彙・意味1	2・3・4前		2				○			1					
	日本語の語彙・意味2	2・3・4後		2				○			1					
	日本語の音声・音韻1	2・3・4前		2				○		1						
	日本語の音声・音韻2	2・3・4後		2				○		1						
	現代日本語の研究1	2・3・4前		2				○		1						
	現代日本語の研究2	2・3・4後		2				○		1						
	日本語学総合	1前		2				○		6	2					オムニバス
	日本語教授法A-1	2・3・4前		2				○							兼1	
	日本語教授法A-2	2・3・4後		2				○							兼1	
	日本語教授法B-1	3・4前		2				○							兼1	
	日本語教授法B-2	3・4後		2				○							兼1	
	日本語教材研究1	2・3・4前		2				○							兼1	
	日本語教材研究2	2・3・4後		2				○							兼1	
	日本語教育実習A	2・3・4通		4						1						※講義
	日本語教育実習B	3・4通		4						1						※講義
	日本語教育実習C	2・3後		2						1						※講義
	発達言語学1	2・3・4前		2				○							兼1	
	発達言語学2	2・3・4後		2				○							兼1	
	認知言語学1	2・3・4前		2				○		1						
	認知言語学2	2・3・4後		2				○		1						
	日本語の資料研究C-1	2・3・4前		2				○							兼1	
	日本語の資料研究C-2	2・3・4後		2				○							兼1	
第二言語習得研究1	2・3・4前		2				○		1							
第二言語習得研究2	2・3・4後		2				○		1							
文化とコミュニケーション1	2・3・4前		2				○							兼1		
文化とコミュニケーション2	2・3・4後		2				○							兼1		
日本語の文字・表記1	2・3・4前		2				○		1							
日本語の文字・表記2	2・3・4後		2				○		1							
日本語統計・情報処理	2・3・4前・後		2				○				1					
ゼミナール1	2通		4					○	6	2						
ゼミナール2	3通		4					○	6	2						
ゼミナール3	4通		4					○	6	2						
卒業論文	4通		8					○	6	2						
小計(51科目)		—	22	96	0		—		6	2	0	0	0	兼6	—	
専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール	1前	2					○	3	1						
小計(1科目)		—	2	0	0		—		3	1	0	0	0	0	—	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(文学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
専修大学 基礎科目	専門入門ゼミナール	1後	2				○		3	1							
	小計(1科目)	—	2	0	0		—		3	1	0	0	0	0	0	—	
	基礎統計学	データ分析入門	1前		2			○								兼1	
	小計(1科目)	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	0	兼1	—	
	キャリア教育関連科目	キャリア入門	1前・後		2			○								兼1	
	小計(1科目)	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	0	兼1	—	
	情報リテラシー関連科目	情報入門Ⅰ 情報入門Ⅱ	1前・後 1前・後		2 2			○ ○								兼1 兼1	
	小計(2科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	0	兼1	—	
	基礎自然科学	あなたと自然科学	1前・後		2		○									兼1	
	小計(1科目)	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	0	兼1	—	
	外国語 基礎科目	Basics of English (RL) 1a	1前		1			○								兼1	
		Basics of English (RL) 1b	1後		1			○								兼1	
		Intermediate English (RL) 1a	1前		1			○								兼1	
		Intermediate English (RL) 1b	1後		1			○								兼1	
		Basics of English (SW) 1a	1前		1			○								兼1	
		Basics of English (SW) 1b	1後		1			○								兼1	
		Intermediate English (SW) 1a	1前		1			○								兼1	
		Intermediate English (SW) 1b	1後		1			○								兼1	
		General English 1	2・3・4前・後		1			○								兼1	
		ドイツ語初級101a	1前		1			○								兼1	
		ドイツ語初級101b	1前・後		1			○								兼1	
		ドイツ語初級102a	1前		1			○								兼1	
		ドイツ語初級102b	1前・後		1			○								兼1	
		フランス語初級101a	1前		1			○								兼1	
フランス語初級101b		1前・後		1			○								兼1		
フランス語初級102a		1前		1			○								兼1		
フランス語初級102b		1前・後		1			○								兼1		
中国語初級101a		1前		1			○								兼1		
中国語初級101b		1前・後		1			○								兼1		
中国語初級102a		1前		1			○								兼1		
中国語初級102b		1前・後		1			○								兼1		
スペイン語初級101a		1前		1			○								兼1		
スペイン語初級101b		1前・後		1			○								兼1		
スペイン語初級102a		1前		1			○								兼1		
スペイン語初級102b	1前・後		1			○								兼1			
ロシア語初級101a	1前		1			○								兼1			
ロシア語初級101b	1後		1			○								兼1			
ロシア語初級102a	1前		1			○								兼1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(文学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専修大学 基礎科目	外国語基礎科目	ロシア語初級102b		1				○							兼1
		インドネシア語初級101a	1前	1				○							兼1
		インドネシア語初級101b	1後	1				○							兼1
		インドネシア語初級102a	1前	1				○							兼1
		インドネシア語初級102b	1後	1				○							兼1
		コリア語初級101a	1前	1				○							兼1
		コリア語初級101b	1前・後	1				○							兼1
		コリア語初級102a	1前	1				○							兼1
		コリア語初級102b	1前・後	1				○							兼1
	小計(37科目)	—	0	37	0			—	0	0	0	0	0	0	兼17
スポーツリテラシー	スポーツリテラシー	1前・後	1					○							兼1
教養科目	人文科学基礎 関連科目	作品を創る1	1・2前	2				○							兼1
		作品を創る2	1・2後	2				○							兼1
		日本の文学	1・2前・後	2				○							兼1
		世界の文学を読む	1・2前	2				○							兼1
		越境する文学	1・2後	2				○							兼1
		英語圏文学への招待	1・2前	2				○							兼1
		歴史の視点	1・2前	2				○							兼1
		歴史と地域・民衆	1・2後	2				○							兼1
		歴史と社会・文化	1・2前・後	2				○							兼1
		基礎心理学入門	1・2前・後	2				○							兼1
		応用心理学入門	1・2前・後	2				○							兼1
		哲学入門	1・2前・後	2				○							兼1
		哲学の歴史	1・2後	2				○							兼1
		日本思想入門	1・2前	2				○							兼1
		倫理とは何か	1・2前・後	2				○							兼1
		倫理学のあゆみ	1・2前・後	2				○							兼1
		論理学入門	1・2前・後	2				○							兼1
		ことばと論理	1・2前・後	2				○							兼1
		芸術学入門1	1・2前	2				○							兼1
		芸術学入門2	1・2前	2				○							兼1
		芸術の歴史1	1・2前	2				○							兼1
		芸術の歴史2	1・2後	2				○							兼1
		芸術学を学ぶ	1・2後	2				○							兼1
		異文化理解の人類学	1・2前	2				○							兼1
		異文化の現場から	1・2後	2				○							兼1
		人類の暮らしと自然	1・2前	2				○							兼1
		人類学から見た近代世界	1・2後	2				○							兼1
		現代社会と人類学	1・2後	2				○							兼1
		ジャーナリズムと現代	1・2後	2				B							兼1
小計(29科目)	—	0	58	0			—	0	0	0	0	0	0	兼18	
社会科学基礎 関連科目	社会科学基礎 関連科目	日本国憲法	1・2前	2				○							兼1
		法と社会	1・2後	2				○							兼1
		政治学入門	1・2前	2				○							兼1
		経済と社会	1・2前	2				○							兼1
		地理学への招待	1・2前・後	2				○							兼1
		自然環境の地理学	1・2前・後	2				○							兼1
		人文・社会環境の地理学	1・2前・後	2				○							兼1
		社会学入門	1・2前・後	2				○							兼1
		現代の社会学	1・2前・後	2				○							兼1
		社会科学の方法	1・2前・後	2				○							兼1
		社会思想の歴史	1・2前	2				○							兼1
		社会思想と現代	1・2前・後	2				○							兼1
		教育学入門	1・2前	2				○							兼1
		学びの場の教育学	1・2後	2				○							兼1
		教育と社会のダイナミズム	1・2前・後	2				○							兼1
		情報社会と人間(環境と認知)	1・2前	2				○							兼1
		情報社会と人間(情報デザイン)	1・2後	2				○							兼1
		はじめての経営	1・2前	2				○							兼1
		マーケティングベーシック	1・2後	2				○							兼1
小計(19科目)	—	0	38	0			—	0	0	0	0	0	0	兼16	

教 育 課 程 等 の 概 要

(文学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
自然科学系科目	基礎自然科学実験	1・2・3・4後		1				○								兼1
	基礎自然科学実験	1・2・3・4前		2				○								兼1
	生物科学101	1・2・3・4前・後		2			○									兼1
	生物科学102	1・2・3・4前・後		2			○									兼1
	生物科学201	1・2・3・4前		2			○									兼1
	生物科学202	1・2・3・4前・後		2			○									兼1
	生物科学301	1・2・3・4前		2			○									兼1
	生物科学302	1・2・3・4後		2			○									兼1
	宇宙地球科学101	1・2・3・4前		2			○									兼1
	宇宙地球科学102	1・2・3・4後		2			○									兼1
	宇宙地球科学201	1・2・3・4前		2			○									兼1
	宇宙地球科学202	1・2・3・4後		2			○									兼1
	化学101	1・2・3・4前		2			○									兼1
	化学102	1・2・3・4後		2			○									兼1
	化学201	1・2・3・4前		2			○									兼1
	化学202	1・2・3・4後		2			○									兼1
	化学301	1・2・3・4前		2			○									兼1
	化学302	1・2・3・4後		2			○									兼1
	物理学101	1・2・3・4前		2			○									兼1
	物理学102	1・2・3・4後		2			○									兼1
	物理学201	1・2・3・4前		2			○									兼1
	物理学202	1・2・3・4後		2			○									兼1
	物理学301	1・2・3・4前		2			○									兼1
	物理学302	1・2・3・4後		2			○									兼1
	数理科学101	1・2・3・4前		2			○									兼1
	数理科学102	1・2・3・4後		2			○									兼1
	数理科学201	1・2・3・4前		2			○									兼1
	数理科学202	1・2・3・4後		2			○									兼1
	数理科学301	1・2・3・4前		2			○									兼1
	数理科学302	1・2・3・4後		2			○									兼1
	科学論・科学史101	1・2・3・4前・後		2			○									兼1
	科学論・科学史102	1・2・3・4前・後		2			○									兼1
	科学論・科学史201	1・2・3・4前		2			○									兼1
	科学論・科学史202	1・2・3・4後		2			○									兼1
小計(34科目)		—	0	67	0	—			0	0	0	0	0	0	兼12	—
教養科目	学際科目101	2・3・4前		2			○									兼1
	学際科目102	2・3・4後		2			○									兼1
	学際科目103	2・3・4前		2			○									兼1
	学際科目104	2・3・4後		2			○									兼1
	学際科目105	2・3・4後		2			○									兼1
	学際科目106	2・3・4前		2			○									兼1
	学際科目107	2・3・4前		2			○									兼1
	学際科目108	2・3・4前		2			○									兼1
	学際科目109	2・3・4後		2			○									兼1
	学際科目110	2・3・4後		2			○									兼1
	学際科目111	2・3・4後		4			○									兼1
	学際科目112	2・3・4前		4			○									兼1
	学際科目113	2・3・4後		4			○									兼1
	学際科目114	2・3・4前		4			○									兼1
	学際科目115	2・3・4前		4			○									兼1
	テーマ科目201	2・3・4前・後		2			○									兼1
	テーマ科目202	2・3・4前		2			○									兼1
	テーマ科目203	2・3・4前・後		2			○									兼1
	テーマ科目204	2・3・4前		2			○									兼1
	テーマ科目205	2・3・4前		2			○									兼1
	テーマ科目206	2・3・4前		2			○									兼1
	テーマ科目207	2・3・4前		2			○									兼1
	テーマ科目208	2・3・4前・後		2			○									兼1
	新領域科目301	2・3・4後		2			○									兼1
	新領域科目302	2・3・4前		2			○									兼1
	新領域科目303	2・3・4後		2			○									兼1
	新領域科目304	2・3・4後		2			○									兼1
新領域科目305	2・3・4後		2			○									兼1	
教養テーマゼミナールⅠ	2通		4				○		1							
教養テーマゼミナールⅡ	3通		4				○		1							
教養テーマゼミナールⅢ	4通		4				○		1							
教養テーマゼミナール論文	3・4通		2				○		1							
小計(32科目)		—	0	80	0	—			1	0	0	0	0	0	兼17	—

教 育 課 程 等 の 概 要

(文学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
教 養 科 目	外 国 語 系 科 目	English Speaking a	1・2・3・4前	1				○							兼1
		English Speaking b	1・2・3・4後	1				○							兼1
		Computer Aided Instruction a	1・2・3・4前	1				○							兼1
		Computer Aided Instruction b	1・2・3・4後	1				○							兼1
		Computer Aided Instruction for TOEIC a	1・2・3・4前	1				○							兼1
		Computer Aided Instruction for TOEIC b	1・2・3・4後	1				○							兼1
		Advanced English a	2・3・4前	2				○							兼1
		Advanced English b	2・3・4後	2				○							兼1
		English Language and Cultures a	2・3・4前	2				○							兼1
		English Language and Cultures b	2・3・4後	2				○							兼1
		English Presentation a	2・3・4前	2				○							兼1
		English Presentation b	2・3・4後	2				○							兼1
		English Writing a	2・3・4前	2				○							兼1
		English Writing b	2・3・4後	2				○							兼1
		Screen English a	2・3・4前	2				○							兼1
		Screen English b	2・3・4後	2				○							兼1
		ドイツ語中級201a	2・3・4前	1				○							兼1
		ドイツ語中級201b	2・3・4後	1				○							兼1
		ドイツ語中級202a	2・3・4前	1				○							兼1
		ドイツ語中級202b	2・3・4後	1				○							兼1
		フランス語中級201a	2・3・4前	1				○							兼1
		フランス語中級201b	2・3・4後	1				○							兼1
		フランス語中級202a	2・3・4前	1				○							兼1
		フランス語中級202b	2・3・4後	1				○							兼1
		中国語中級201a	2・3・4前	1				○							兼1
		中国語中級201b	2・3・4後	1				○							兼1
		中国語中級202a	2・3・4前	1				○							兼1
		中国語中級202b	2・3・4後	1				○							兼1
		スペイン語中級201a	2・3・4前	1				○							兼1
		スペイン語中級201b	2・3・4後	1				○							兼1
		スペイン語中級202a	2・3・4前	1				○							兼1
		スペイン語中級202b	2・3・4後	1				○							兼1
		ロシア語中級201a	2・3・4前	1				○							兼1
		ロシア語中級201b	2・3・4後	1				○							兼1
		ロシア語中級202a	2・3・4前	1				○							兼1
		ロシア語中級202b	2・3・4後	1				○							兼1
		インドネシア語中級201a	2・3・4前	1				○							兼1
		インドネシア語中級201b	2・3・4後	1				○							兼1
		インドネシア語中級202a	2・3・4前	1				○							兼1
		インドネシア語中級202b	2・3・4後	1				○							兼1
		コリア語中級201a	2・3・4前	1				○							兼1
		コリア語中級201b	2・3・4後	1				○							兼1
コリア語中級202a	2・3・4前	1				○							兼1		
コリア語中級202b	2・3・4後	1				○							兼1		
ドイツ語中級プラス201a	2・3・4前	2				○							兼1		
ドイツ語中級プラス201b	2・3・4後	2				○							兼1		
ドイツ語中級プラス202a	2・3・4前	2				○							兼1		
ドイツ語中級プラス202b	2・3・4後	2				○							兼1		
フランス語中級プラス201a	2・3・4前	2				○							兼1		
フランス語中級プラス201b	2・3・4後	2				○							兼1		
フランス語中級プラス202a	2・3・4前	2				○							兼1		
フランス語中級プラス202b	2・3・4後	2				○							兼1		
中国語中級プラス201a	2・3・4前	2				○							兼1		
中国語中級プラス201b	2・3・4後	2				○							兼1		
中国語中級プラス202a	2・3・4前	2				○							兼1		
中国語中級プラス202b	2・3・4後	2				○							兼1		
スペイン語中級プラス201a	2・3・4前	2				○							兼1		
スペイン語中級プラス201b	2・3・4後	2				○							兼1		
スペイン語中級プラス202a	2・3・4前	2				○							兼1		
スペイン語中級プラス202b	2・3・4後	2				○							兼1		
コリア語中級プラス201a	2・3・4前	2				○							兼1		
コリア語中級プラス201b	2・3・4後	2				○							兼1		
コリア語中級プラス202a	2・3・4前	2				○							兼1		
コリア語中級プラス202b	2・3・4後	2				○							兼1		
ドイツ語上級301a	3・4前	2				○							兼1		
ドイツ語上級301b	3・4後	2				○							兼1		
フランス語上級301a	3・4前	2				○							兼1		
フランス語上級301b	3・4後	2				○							兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(文学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
教 養 科 目	外 国 語 系 科 目	中国語上級301a		2				○								兼1	
		中国語上級301b	3・4後		2				○								兼1
		スペイン語上級301a	3・4前		2				○								兼1
		スペイン語上級301b	3・4後		2				○								兼1
		ロシア語上級301a	3・4前		2				○								兼1
		ロシア語上級301b	3・4後		2				○								兼1
		インドネシア語上級301a	3・4前		2				○								兼1
		インドネシア語上級301b	3・4後		2				○								兼1
		コリア語上級301a	3・4前		2				○								兼1
		コリア語上級301b	3・4後		2				○								兼1
		選択ドイツ語101a	2・3・4前		1				○								兼1
		選択ドイツ語101b	2・3・4後		1				○								兼1
		選択フランス語101a	2・3・4前		1				○								兼1
		選択フランス語101b	2・3・4後		1				○								兼1
		選択中国語101a	2・3・4前		1				○								兼1
		選択中国語101b	2・3・4後		1				○								兼1
		選択スペイン語101a	2・3・4前		1				○								兼1
		選択スペイン語101b	2・3・4後		1				○								兼1
		選択コリア語101a	2・3・4前		1				○								兼1
		選択コリア語101b	2・3・4後		1				○								兼1
		選択アラビア語101a	2・3・4前		1				○								兼1
		選択アラビア語101b	2・3・4後		1				○								兼1
		選択イタリア語101a	2・3・4前		1				○								兼1
		選択イタリア語101b	2・3・4後		1				○								兼1
		世界の言語と文化(ドイツ語)	1・2・3・4後		2			○									兼1
		世界の言語と文化(フランス語)	1・2・3・4前・後		2			○									兼1
		世界の言語と文化(中国語)	1・2・3・4前・後		2			○									兼1
		世界の言語と文化(スペイン語)	1・2・3・4後		2			○									兼1
		世界の言語と文化(ロシア語)	1・2・3・4後		2			○									兼1
		世界の言語と文化(インドネシア語)	1・2・3・4後		2			○									兼1
		世界の言語と文化(コリア語)	1・2・3・4前		2			○									兼1
		言語文化研究(ヨーロッパ)1	2・3・4前		2			○									兼1
		言語文化研究(ヨーロッパ)2	2・3・4後		2			○									兼1
		言語文化研究(アジア)1	2・3・4前・後		2			○									兼1
		言語文化研究(アジア)2	2・3・4後		2			○									兼1
		言語文化研究(アメリカ)	2・3・4前・後		2			○									兼1
		海外語学短期研修1(英語)	1・2・3前		2					○							兼1
		海外語学短期研修2(英語)	1・2・3後		2					○							兼1
		海外語学短期研修1(ドイツ語)	1・2・3前		2					○							兼1
		海外語学短期研修2(フランス語)	1・2・3後		2					○							兼1
		海外語学短期研修2(中国語)	1・2・3後		2					○							兼1
		海外語学短期研修2(スペイン語)	1・2・3後		2					○							兼1
		海外語学短期研修2(コリア語)	1・2・3後		2					○							兼1
		海外語学中期研修1(英語)	2・3・4通		2					○							兼1
		海外語学中期研修2(英語)	2・3・4通		2					○							兼1
		海外語学中期研修3(英語)	2・3・4通		2					○							兼1
		海外語学中期研修4(英語)	2・3・4通		2					○							兼1
		海外語学中期研修5(英語)	2・3・4通		2					○							兼1
		海外語学中期研修6(英語)	2・3・4通		2					○							兼1
		海外語学中期研修7(英語)	2・3・4通		2					○							兼1
海外語学中期研修8(英語)	2・3・4通		2					○							兼1		
海外語学中期研修1(ドイツ語)	2・3・4通		2					○							兼1		
海外語学中期研修2(ドイツ語)	2・3・4通		2					○							兼1		
海外語学中期研修3(ドイツ語)	2・3・4通		2					○							兼1		
海外語学中期研修4(ドイツ語)	2・3・4通		2					○							兼1		
海外語学中期研修5(ドイツ語)	2・3・4通		2					○							兼1		
海外語学中期研修6(ドイツ語)	2・3・4通		2					○							兼1		
海外語学中期研修7(ドイツ語)	2・3・4通		2					○							兼1		
海外語学中期研修8(ドイツ語)	2・3・4通		2					○							兼1		
海外語学中期研修1(フランス語)	2・3・4通		2					○							兼1		
海外語学中期研修2(フランス語)	2・3・4通		2					○							兼1		
海外語学中期研修3(フランス語)	2・3・4通		2					○							兼1		
海外語学中期研修4(フランス語)	2・3・4通		2					○							兼1		
海外語学中期研修5(フランス語)	2・3・4通		2					○							兼1		
海外語学中期研修6(フランス語)	2・3・4通		2					○							兼1		
海外語学中期研修7(フランス語)	2・3・4通		2					○							兼1		
海外語学中期研修8(フランス語)	2・3・4通		2					○							兼1		
海外語学中期研修1(中国語)	2・3・4通		2					○							兼1		



## 教 育 課 程 等 の 概 要

(文学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
教 養 科 目	海外語学中期研修2(中国語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修3(中国語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修4(中国語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修5(中国語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修6(中国語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修7(中国語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修8(中国語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修1(スペイン語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修2(スペイン語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修3(スペイン語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修4(スペイン語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修5(スペイン語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修6(スペイン語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修7(スペイン語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修8(スペイン語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修1(コリア語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修2(コリア語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修3(コリア語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修4(コリア語)	2・3・4通		2				○								兼1	
	海外語学中期研修5(コリア語)	2・3・4通		2				○								兼1	
海外語学中期研修6(コリア語)	2・3・4通		2				○								兼1		
海外語学中期研修7(コリア語)	2・3・4通		2				○								兼1		
海外語学中期研修8(コリア語)	2・3・4通		2				○								兼1		
小計(159科目)	—	—	0	270	0			—	0	0	0	0	0	0	0	兼43	—
保 健 体 育 系 科 目	スポーツウェルネス	1前・後	1					○								兼1	
	アドバンススポーツ	2・3・4前・後		2				○								兼1	
	健康と生涯スポーツ	2・3・4後		2			○									兼1	
	スポーツと発育発達	2・3・4前・後		2			○									兼1	
	オリンピックとスポーツ	2・3・4前・後		2			○									兼1	
	トレーニング科学	2・3・4後		2			○									兼1	
	スポーツコーチング	2・3・4前・後		2			○									兼1	
人類とスポーツ	2・3・4前・後		2			○									兼1		
小計(8科目)	—	—	1	14	0			—	0	0	0	0	0	0	0	兼8	—
合計(377科目)		—	28	670	0			—	6	2	0	0	0	0	0	兼125	—
学位又は称号	学士(文学)		学位又は学科の分野			文学関係											
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
専門科目から68単位以上を修得する。そのうち、必修科目から22単位を修得する。 専修大学入門科目から2単位を修得する。 専修大学基礎科目から11単位以上を修得する。 教養科目から9単位以上を修得する。 合計124単位以上を修得する。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))						1学年の学期区分		2期									
						1学期の授業期間		15週									
						1時限の授業時間		90分									

授 業 科 目 の 概 要				
(国際コミュニケーション学部日本語学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	基 礎 科 目	日本文化入門	本講義科目では、文化という概念を理解していく軸を形成すること、及び、国際社会で活動する際に日本とその文化について紹介・説明できる能力を育てることを目標として、日本と日本文化について深く学修する。講義では、世界に伝えたい日本の文化といった日本に立脚した視点に加え、世界から見た日本と日本文化(たとえば、外国人が知りたい日本)という視点を学修するほか、日本の国民性や、日本から見た世界についても説明できる能力を育てる。	
		日本語学入門1	本講義科目では、日本語の持つ体系性や規則性に自ら気づくとともに、日本語学的な分析ができる力を養うために、日本語学の概説書・入門書を精読しながら理解を深めていく講義を行う。到達目標は、日本語の音声・音韻、文字・表記の各分野について、日本語研究を行う上での基礎となる知識を理解し、自ら説明することができるようになることである。また、世界に数ある言語の一つとしての日本語の位置付けと、将来像についても理解を深める。	
		日本語学入門2	本講義科目では、日本語の持つ体系性や規則性に自ら気づくとともに、日本語学的な分析ができる力を養うために、日本語学の概説書・入門書を精読しながら理解を深めていく講義を行う。到達目標は、日本語の語彙・意味、文法、コミュニケーションの各分野について、日本語研究を行う上での基礎となる知識を理解し、自ら説明することができるようになることである。また、身につけた知識を、日本語の音声によるコミュニケーション力や、文字によるコミュニケーション力(文章表現力)の向上に結び付けられるように指導する。	
		日本語学総合	本講義科目では、新入生には馴染みのない「日本語学」について、基本的な視点を把握させるために、本学日本語学科でのゼミナール担当教員の専門分野(音声、音韻・文字・表記、文法、語彙・意味、社会言語学、日本語教育など)の視点から、それぞれの研究の意義と広がりや講義を行う。また、ゼミナール決定のための学問的関心を高めさせるために、オムニバス形式の講義形態を導入し、各ゼミナール担当教員全員が具体的な研究事例について紹介する。 (オムニバス方式/全15回) (5 備前 徹/3回)日本語教育/社会言語学/談話と語用論 日本語教育と社会言語学との結びつき等を理解することを到達目標とした講義を行う。講義では、自らの言語運用能力を高めるための具体的な方策や、日本語教育の現状と今後の日本語教育のあり方を理解するよう指導する。 また、実際の発話の持つ意味が話し手と聞き手の関係から主体的な推論を通して作り出されることを理解することを到達目標として、談話と語用論に関する講義を行う。講義では、呼びかけ語、挨拶表現、移動の補助動詞、授受表現などの談話に特徴的な事例を多くあげ、人の伝達に働く原理が文法にとどまらないことを理解できるように指導する。 (7 阿部貴人/2回)社会言語学 日本語が社会とどのように関係するか、どのように運用されているか等を理解することを到達目標とした講義を行う。講義では、プリント教材やスライド資料を用いながら解説を行い、言語現象に合わせた分析手法にも習熟するように指導する。 (2 王 伸子/2回)日本語の音声/日本語教育 日本語の音声の仕組みと日本語教育に必要な知識を理解することを到達目標とした講義を行う。講義では、プリント教材やスライドを用いながら解説を行うとともに、音声資料(音源)を使用し、音声を客観的に観察し、国際音声記号で記述できるように指導する。また、日本語教育のために必要な知識についても具体的な事例を紹介しながら理解させるようにする。 (1 斎藤達哉/2回)日本語の音韻/文字・表記 日本語の音韻と文字の関係、文字と表記との関係等を理解することを到達目標とした講義を行う。講義では、プリント教材やスライドを用いながら解説を行うとともに、古典資料の仮名遣いや現代日本語表記の基準などにも習熟させるように指導する。 (3 須田淳一/2回)古典日本語の文法 古典日本語の文法現象のうち、特に用言の活用体系について、学生にとって既習のいわゆる学校古典文法における活用モデルが、どのような根拠でどのように編まれているかについて理解することを到達目標とした講義を行う。講義では、プリント教材やスライドを用いながら解説を行うとともに、既習事項の復習と定着度の確認とともに、用言の活用を体系づける基準や考え方に習熟するための導入となるように指導する。 (4 高橋雄一/2回)現代日本語の文法 現代日本語の文法についての基本的な考え方を理解することを到達目標とした講義を行う。講義では、プリント教材やスライドによって、具体的な文法現象について考察をさせ、また、日本語教育への応用についても理解をさせるように指導する。 (6 丸山岳彦/2回)日本語の語彙・意味/コーパス日本語学 日本語の語彙論・意味論、およびコーパス日本語学の内容を理解することを到達目標とした講義を行う。講義では、プリント教材やスライドによって、語彙の体系、語と語の意味関係、語の意味記述について解説を行うとともに、コーパスを使った日本語の研究方法について理解できるよう指導する。	オムニバス方式

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	基 礎 科 目	日本語情報処理1	本演習科目は、日本語を扱う情報処理の「基礎的な知識と技術」を体得するために、日本語情報処理の「基本的なスキル」を理解することを到達目標としている。日常生活における日本語情報処理の例として、漢字かな変換、形態素解析、機械翻訳、音声認識、音声合成、対話システムなどがある。これらの仕組みについて学び、実際に利用してみることで、その特質を理解する。また、日本語のテキストデータを形態素解析してデータベース化し、そこからどのような特徴を取り出せるかについて演習する。さらに、コンピュータの基礎的な知識、WordやExcelなどの基本的な利用方法、メールの正しい書き方など、実用的な知識と技術を学ぶ。	
		日本語情報処理2	本演習科目は、日本語を扱う情報処理の「発展的な知識と技術」を体得するために、日本語情報処理の「応用的なスキル」を理解することを到達目標としている。日本語情報処理の中心的な技術の一つに、テキストデータの検索・加工・集計といった処理が挙げられる。テキストエディタ・表計算ソフトなどのツールを組み合わせて、さまざまな検索・加工・集計を行うことができる。授業では、日本語のテキストデータを大量に集積したデータベースからどのように日本語表現を検索・抽出するかという問題や、分析結果のまとめ方、スライドを使ったプレゼンテーションの仕方について演習する。また、情報リテラシーに関係する引用と盗用(剽窃)の違い、文献の探し方、情報検索の技術などについて、実用的な知識と技術を学ぶ。	
		異文化理解の実践	本講義科目は、異文化に接した際の状況とその意味を考え、そこで生じるさまざまな問題について、どういった解決方法を提案できるかを、実際に海外で活動している人たちの体験を出発点としながら、自分たちで設定した課題に取り組み、異文化を理解することの意義を深く考えることを目標とする。とくに本講義では、単に留学する地域といった国外においてだけでなく、日本国内でも接することを想定した異文化への対応や、大学での学修を終え、社会に出たあとの活用にも目を向け、具体的なテーマについてのアプローチを検討し、問題を深く考えることを目指す。	
		メディア日本語論1	本講義科目は、日本語学とメディアの関係を知るために、新聞における日本語の使用基準等に精通した専門職の仕事について知り、メディアの中での日本語使用の重要性について理解を深めることを到達目標としている。講義では、日本語表記のよりどころや、新聞の校閲に日本語学の知識が活用されていること等について学ぶ。また、新聞社の校閲部門で活躍する専門職をゲストスピーカーに招き、文字言語による報道の現場での表記の基準や諸問題、編集する側(言語情報の発信者側)から見た新聞の読み方、新聞校閲の現場から鳥瞰した日本語の変化等についても学ぶ。	
		メディア日本語論2	本講義科目は、日本語学とメディアとの関係を知るために、放送における日本語の使用基準等に精通した専門職の仕事について知り、メディアの中での日本語使用の重要性について理解を深めることを到達目標としている。講義では、テレビ・ラジオなどの放送現場で生じる日本語の問題、放送における音声言語と文字言語の役割分担、用語決定、報道する側から見たことばの様相など、ことばで「伝える」ことの仕組み・重要性・課題とその解決方法等への理解を深化させる。また、災害時に必要なことを端的に伝える工夫としての「やさしい日本語」についても学ぶ。	
		日本語表現論1	本講義科目は、日本語の運用について深く考える力を育てるために、「音声」による表現者としてのナレーターの活動・技術を通して、日本語の音声・日本語表現・日本語コミュニケーションについて深く理解することを到達目標としている。講義では、ナレーターには、アナウンサー(事実の告知)、声優(声で演ずる)とは異なる「音声」の表現と説得力が必要であることについて考えを深めさせる。また、第一線で活躍するナレーター達をゲストスピーカーとして招き、その活動や技術を学ぶことによって、通常の日本語学では扱うことの少ない視点から「日本語表現」や「日本語コミュニケーション」について発見できる授業を行う。	
		日本語表現論2	本講義科目は、日本語の運用について深く考える力を育てるために、芝居の世界を「文字」によって表現する劇作家の活動・技術を通して、日本語表現・日本語コミュニケーションについて深く理解することを到達目標としている。講義では、劇作家が書く台詞を扱うことで、語用論的視点から自然な会話と不自然な会話との違いについて、考えを深めさせる。また、第一線で活躍する劇作家達をゲストスピーカーに招き、その活動や技術を学ぶことによって、通常の日本語学では扱うことの少ない視点から「日本語表現」や「日本語コミュニケーション」について発見できる授業を行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	言語学概論	本講義科目は、より専門的な言語学関連の基幹科目・発展科目の礎を築くために、言語学の基礎的知識や日本語の持つ類型論的特性を理解させることを到達目標としている。講義では、経験科学としての言語研究を、その目的、対象、分野等に焦点を当てながら広い視野から初学者に分かるように解説する。世界にはどのような言語が存在し、それらはどのような文法的特徴を持っているのか、語族が異なる様々な言語が示す多様性の中に普遍性を見出すことはできるのか。このような問いに関する一般言語学や理論言語学の成果を紹介すると共に、共時的及び通時的視点より言語を分析するための基本的手法についても触れる。言語学の基礎的知識や日本語の持つ類型論的特性については、日本語学を専攻する者、日本語教師を目指す者、外国語を学ぶ者にとって有益であることも理解させる。	
	ゼミナール1	本演習科目は、関心のある専門的なテーマを学生自身が主体となって設定・分析・発表・議論するスキルを身につけるために、担当教員の専門分野(音声・音韻、語彙・意味・コーパス、文字・表記、文法、社会言語学、日本語教育など)について、「日本語学的な観察力を身につけること」を到達目標とした演習を行う。演習では、専門的基礎知識、考え方、方法論等を学び、質疑応答を繰り返すことを行う。また、担当教員の専門分野のみに限定せず、日本語学全般についても基礎知識を身につけることができるよう視野を広げ、それまでの日常生活で意識しなかったような日本語の現象に目を向けることにも留意する。さらに、聞き手に伝わる話し方についても注意し、効果的な発表(プレゼンテーション)の技術についても実地に訓練を行う。	
専門 科目	ゼミナール2	本演習科目は、関心のある専門的なテーマを学生自身が主体となって設定・分析・発表・議論するスキルを身につけるために、ゼミナール1を前提に、担当教員の専門分野(音声・音韻、語彙・意味・コーパス、文字・表記、文法、社会言語学、日本語教育など)について、「日本語学の先行研究・研究成果を把握すること」を到達目標とした演習を行う。演習では、専門的基礎知識、考え方、方法論等を学び、質疑応答と意見交換等を繰り返すことを行う。また、担当教員の専門分野のみに限定せず、日本語学全般についての基礎知識を身につけることができるよう視野を広げ、日本語学の諸分野における代表的な先行研究の検索方法や研究成果を理解することに留意する。また、聞き手に伝わる話し方に加え、資料提示の方法などについても注意を喚起し、効果的な発表(プレゼンテーション)の技術についても実地に訓練を行う。	
	文化とコミュニケーション1	本講義科目は、異文化コミュニケーションの視点を育てるために、諸外国の「異文化」と自分の国の「自文化」を様々な視点で分析することができるようになることを到達目標としている。講義では、様々な背景を持つ様々な人々とのコミュニケーションを多角的な視点から考察することができるような理論や先行研究等を学ぶ。また、文化とことば、異文化コミュニケーションについて、自身のコミュニケーション活動や経験を振り返りつつ考察できる能力を身につけさせる。さらに、コミュニケーションにおけるジェスチャー、表情、態度などの機能と差異も考えることができるように学び、同時に、コミュニケーション行動に影響する価値観について具体的事例をもとに分析できる能力を身につけさせる。	
	文化とコミュニケーション2	本講義科目は、異文化コミュニケーションの視点を育てるために、言語使用を分析的に観察し、外国語教育における文化の位置付けを理解し、いくつかの事例から多言語・多文化社会を分析することができるようになることを到達目標としている。講義では、国を越えた人の移動のある世界で、異文化に接触する機会が増えていること、そこでは多様な考え、背景を持つ人々のコミュニケーションが求められることを学ぶ。また、そのような状況をふまえた教育政策を紹介するとともに、日本社会における多文化・多言語の実態を整理し、自身のコミュニケーションスタイルを分析できる能力を身につけさせる。具体的には、ことばの辞書的意味と文化的意味を観察し、また、日本の中の多文化・多言語を見ながら、日本社会がどのように外国人を受け入れているのかについて事例を紹介しながら考察する。	
	日本語の歴史的研究1	本講義科目は、中世以降の日本語の文法的な諸カテゴリーの史的変遷の動機とメカニズムに関する深い認識を持つことを到達目標としている。講義では、日本の「古典語」を「非-現代語」と再定義した上で、広義の文法的な現象を中心に、現在の使用母語である現代語を足がかりとして、そこから遡っていく学習手法によって、古典語が現代語とどのように連続的であり、同時にどのような質的变化を遂げてきたかについて、各時代のさまざまな資料を用いて検証する。特に、昭和初期から明治期の近現代語、さらに遡ること近世期末から中世にかけての用言及び体言の形態上の振る舞いに注目して、文法的な諸カテゴリーの史的変遷の動機とメカニズムに関する認識を深める。	
	日本語の歴史的研究2	本講義科目は、上代から中古までの日本語の文法的な諸カテゴリーの史的変遷の動機とメカニズムに関する認識を持つことを到達目標としている。講義では、広義の文法的な現象を中心に、中世期の語法のありようを足がかりとして上代期まで遡っていく学習手法によって、その間のさまざまな資料を用いて、母語としての日本語の構造面の一貫した連続性、また、同時に遂げる質的な変化のパターンなどを検証する。特に、院政期から中古期にかけての和文資料、さらに上代末期の宣命書き資料などをとりあげ、用言及び体言の形態上の振る舞いに注目して、文献史上最も古い時代に至るまでの通時過程を収斂的にたどることで、文法的な諸カテゴリーの史的変遷の動機とメカニズムに関する認識を深める。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  基 幹 科 目	日本語の社会的研究1	本講義科目は、日本語という個別言語を立体的に捉えるために、地理的なバリエーション(地域方言)について理解を持つことを到達目標としている。日本語は音声・音韻、語彙、文法などのあらゆる面で地域的な差が大きいため、日本語という個別言語を立体的に捉えるためには、地理的なバリエーション(地域方言)について理解を深める必要がある。授業では、地域方言に関する資料を利用し、現代日本語を社会的な視点で眺め、分析・考察する方法論を学ぶ。日本語方言の音声(母音・子音・音韻構造)、語彙(分布、変化のパターン)、表記(文字の方言、方言の表記)、文法(格・ヴォイス・テンス・アスペクト・モダリティ)についての知識を、全国共通語との対比を通して学ぶ。また、音声、語彙、文法についての調査方法を体得するために、模擬方言調査の課題にも取り組む。	
	日本語の社会的研究2	本講義科目は、日本語という個別言語を立体的に捉える方法として、日本語を「外」から眺める視点をもつことを到達目標としている。講義では、日本語を「外」から眺め、その本質を見つめるために、災害時に外国人向けに必要な「やさしい日本語」の基礎知識を学ぶ。具体的には、①「やさしい日本語」を作成すること、学問で得られた知見を実社会に還元することができる能力を身につけること、②現代日本語の構造を意識しながら、言語の社会問題に対する知見を広げることを行う。また、語彙、文法、文字・表記、文型、分ち書き等の各ルールを学び、自ら資料を作成できる能力を養う。また、受講生が課題として取り組んだ「やさしい日本語」については、外部評価を受けたうえで修正を加え、公表できるレベルのものを作成することを目指す。	
	日本語教授法A-1	本講義科目は、日本語を母語としない学習者に日本語を教えるということについて、現在の「日本語教育学」において一般的となっている基礎的な教授法を身につけさせることを到達目標としている。講義では、音声、語彙、文字・表記などの項目に関わる、いわゆる4技能を導入するために提唱されているさまざまな教授法について、それらの特徴や理論的な内容を詳細に学ぶことができるように指導する。さらに、新しく提唱されている教授法についても紹介し、その特徴を学ぶことができるようにする。日本語教育についての教授法を中心とするが、その背景となっている外国語教育の教授法理論も学習範囲に含めて理解できるようにする。	
	日本語教授法A-2	本演習科目は、日本語を母語としない学習者に日本語を教えるということについて、現在の「日本語教育学」において一般的となっている実践的な教授法を身につけさせることを到達目標としている。学生は、基本的な教案の作成、作成した教案についての発表方法、教案にそっての授業方法等の解説を受け、教案作成、教案発表、模擬授業の課題に取り組み、教員はそれについての講評を行う。日本語教育の基礎についての理解と、教室活動の疑似体験を通して、日本語を母語としない学習者への言語教育についての基礎的な知識を定着させるように指導する。	
	日本語の音声1	本講義科目は、音声言語に関する認識を深めるために、音声学に関する知識と、現代日本語に対して的確な音韻論的判断が下せる力を身につけることを到達目標としている。講義では、とくに日本語教育に関わる基礎知識として、他の言語の音声とも対照研究ができるように、一つの言語としての日本語という側面から音声を観察する力をつけるようにする。具体的には、まず、音声・音韻に関する概説を行い、音声と音韻の区別や音声記号と音素記号に関する知識を確かなものにする。そのため、子音と母音を客観的に記述する国際音声記号(IPA)の基本についても指導し、正確な記述ができる能力を身につけさせる。また、イントネーション、アクセント、ポーズ、プロミネンス等も学習する。	
	日本語の音声2	本講義科目は、日本語の音声についての知識を深めるために、音声の音響的特徴である母音のフォルマント、基本周波数、音圧等の基礎知識と、その観察方法などについて理解することを到達目標としている。講義では、音声分析ソフトも使用し、音響的特徴を可視化した学習を進める。さらに、受講者自身が自分の声をコントロールするという、話者としての声、コミュニケーションのための声についても観察し、弁別要素ではない声の要素にも着目して音声を観察することができるように指導する。	
	日本語の音韻・表記1	本講義科目は、日本語の音韻と文字・表記について理解するために、上代から中世までを通史的に説明できる知識を身につけることを到達目標としている。講義では、日本語史の時代区分を理解させうえて、漢字・万葉仮名・草仮名・仮名・ローマ字等によって書かれた日本語資料を扱いながら、各時代の「音韻」とその歴史的变化についての知識を獲得するように指導する。また、上代において、本来は外国語用の文字であった漢字にどのような工夫を加えて日本語を表記する文字としての役割を与えるに至ったか、仮名文字がどのようにして生み出され、定着していったのかなどの「文字・表記」の問題についても理解を深めることができるように指導を行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	基 幹 科 目	日本語の音韻・表記2	本講義科目は、日本語の音韻と文字・表記について理解するために、近世から現代までを通史的に説明できる知識を身につけることを到達目標としている。講義では、近世以降の様々なジャンル・文体の日本語資料を扱いながら、「音韻」とその歴史的变化についての知識を獲得するように指導する。また、「仮名遣い」については、中世の定家仮名遣いから現代仮名遣いまでを取り扱う。さらに、現代日本語で用いられる漢字、仮名、ローマ字、補助符号等について学び、表記の基準、文字と社会との関係、表記をめぐる諸問題についても理解を深めることができるように指導を行う。	
		日本語の語彙・意味1	本講義科目は、語彙論・意味論のうち、特に「語彙論」の基礎を理解するために、日本語の語の体系を客観的に分析・記述できる能力を身につけることを到達目標としている。言語は、音・文字、語、文、文章・談話というように、階層的な構造を持つ。講義では、このうち、「語」の体系に関する研究領域である「語彙論」を扱う。身近な日本語の例を素材として、語種、品詞、語と語の意味関係、語彙量、語構成など、さまざまな側面から、日本語の語が持つ性質について理解できるように講義を行う。また、問題を解いていくことにより、語の性質に関する理解を深めていく。さらに、実際の日本語テキストを「語」の側面から調査・分析する「語彙調査」の方法についても講義を行い、我々が日常どのような語に触れているかを客観的に理解できるように指導する。	
		日本語の語彙・意味2	本講義科目は、語彙論・意味論のうち、特に「意味論」の基礎を理解するために、日本語の語の意味を客観的に分析・記述できる能力を身につけることを到達目標としている。言語は、音・文字、語、文、文章・談話というように、階層的な構造を持つ。講義では、このうち、「語」に結び付いた「意味」に関する研究領域である「意味論」を扱う。身近な日本語の語を例として、語の意味をどのように捉えるか、類義語の意味の違いをどのように捉えるか、などの問題について考えさせるよう指導する。例えば、「甘い」という語が持つ複数の意味、「かける」という語が持つ複数の意味、「つかむ」と「握る」という二つの語の意味的な違いなどについて、その意味を客観的に捉えるための視野を養えるように指導する。また、複数の国語辞典を比較・検討し、各辞典がどのような語彙を載せているかを分析することで、国語辞典のあり方についても理解を深める。	
		日本語の文法1	本講義科目は、日本語学における文法の基本的な考え方を身に付けさせるために、現在の考え方を、高等学校までの学校文法、また、その背景になっている国文法の考え方と対比させながら理解し、さらに、研究成果の日本語教育などへの応用についても理解することを到達目標とする。講義では、(1)文法の基本的な考え方を知らず、単語の定義と文の基本的な構造に関する「品詞の体系」「用言の活用」「文の成分と文の組み立て」といったテーマについて理解させ、また、(2)「文法カテゴリー」の概念に関する「動詞の自他」「ヴォイス」「授受表現」等について理解させるように指導する。	
		日本語の文法2	本講義科目は、日本語学における文法の基本的な考え方を身に付けさせるために、現代日本語を中心に“あらかじめ定まっている文法を覚える”という見方から“今使っている言葉の中に規則性を見出す”という見方へと歩を進めることを到達目標とする。講義では、(1)「文法カテゴリー」の概念に関する「テンス・アスペクト」「モダリティ」等や、研究の焦点となっている「複合辞」や「複文」の諸タイプについて理解させ、さらに、(2)文法の関連領域として、文の単位を超えた「談話・テキスト」「語用論」といったテーマについて理解させるように指導する。	
		現代日本語の研究1	本講義科目は、現代日本語研究の到達点を理解するために、日本語の位置づけ、語彙、文字と表記、音声とアクセントに関する現在までの研究の流れや個々の研究テーマの意義、及びその方法論等について深く理解できるようにすることを到達目標としている。講義では、先行研究の調査資料をもとにして、(1)今までの研究でどのようなことが問題とされてきたか、(2)それを解明するためにどのような方法が採られてきたか、(3)日本語研究で明らかにされてきたことはどのようなことか、などを理解できるように指導する。具体的な内容としては、世界中の日本語の位置づけ(日本語使用人口・多言語と比較したときの日本語の特徴・日本語学習者の動向等)、語彙、文字と表記、音声とアクセント等を取り上げる。	
		現代日本語の研究2	本講義科目は、現代日本語研究の到達点を理解するために、文法論、文体論、言語生活、言語習得に関する、現在までの研究の流れや個々の研究テーマの意義、及びその方法論等について深く理解できるようにすることを到達目標としている。講義では、先行研究の調査資料をもとにして、(1)今までの研究でどのようなことが問題とされてきたか、(2)それを解明するためにどのような方法が採られてきたか、(3)日本語研究で明らかにされてきたことはどのようなことか、などを理解できるように指導する。具体的な内容としては、現在までの代表的な日本語文法理論の紹介・品詞論・文体の差・言語生活(敬語・方言)の実態とその変遷・言語習得等を取り上げる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	基 幹 科 目	日本語教材研究1	本講義科目は、日本語を母語としない人々への日本語教育を行うにあたって、適切な教材を用いることができるようになるために、「現在使われている初級・中級の教材の適切な選択ができること」と、「自ら作成できること」とを到達目標としている。講義では、外国語の授業はどのように行われるのが望ましいのかを考えることから始め、学習理論に基づいた教材とはどのようなものか、そもそも「日本語力がある」とはどのようなことか、海外での言語教育はどのように行われているか、外国語学習の動機づけとしてはどのようなものが考えられるか等について学生の議論を促しつつ、日本語教育で用いられる教材や教具についての解説を行う。また、日本語特有の問題にも触れ、それへの対処法を考慮に入れながら、日本語教材はどのように作成し使用すべきなのかを論じる。	
		日本語教材研究2	本講義科目は、日本語を母語としない人々への日本語教育を行うにあたって、適切な教材を用いることができるようになるために、「レベル別に、文型教材、音声教材、読解教材、会話スキル養成教材、作文教材等の適切な選択ができること」と、「自ら作成できること」とを到達目標としている。講義では、外国語の授業はどのように行われるのが望ましいのかを考えることから始め、その知見に基づいて、日本語教育で用いられる教材や教具を学習者のレベルや技能別に考える。それにより、望ましい教材とはどのようなものか、また、教材はどのように作成し使用すべきなのかなどを、言語教育理論及び教授法との関係において論じる。	
		日本語の文献研究1	本講義科目は、表音文字中心で記述された日本語の古典資料を日本語史研究に生かす方法を身につけるために、変体仮名で書かれた日本語古典資料(仮名文献)の扱いに慣れ、中古語資料の性質を理解し、日本語学的な観点から説明・分析できる能力を養うことを到達目標としている。講義では、(1)仮名で書かれた日本語史資料を扱う場合、資料の性質を理解すること、(2)正確な読解に基づいて調査・分析すること、が欠かせないことであることを論じる。具体的には、『源氏物語』等の影印の翻刻、本文の校訂、現代語訳を通して、中古語資料としての調査・分析方法や、中古(平安時代)の日本語を学ぶ。また、デジタル化されたテキストデータを扱う際の様々な問題についても認識と関心とを深められるように指導する。	
		日本語の文献研究2	本講義科目は、様々な文字で記述された日本語の古典資料を日本語史研究に生かす方法を身につけるために、漢字片仮名交じりやローマ字等で書かれた日本語古典資料の扱いに慣れ、中世語資料の性質を理解し、日本語学的な観点から説明・分析できる能力を養うことを到達目標としている。講義では、日本語史上の中世(院政期から織豊期までの約500年)が、古代語から近代語への過渡期としての時代であることを論じる。具体的には、今昔物語集、平家物語(寛一本)、天草版平家物語、虎明本狂言集、論語抄に触れながら、中世語資料の特徴と語法を中心とした調査・分析方法を学ぶ。また、デジタル化されたテキストデータを扱う際の様々な問題についても認識と関心とを深められるように指導する。	
		日本語統計・情報処理	本講義科目は、言語調査や言語コーパスで収集・蓄積した言語データを、より科学的に分析し、データが語ることを正確に読み解く「目」を養うために、統計学の考え方と方法論を身につけることを到達目標としている。講義では、統計学が実証分析を行う学問領域にとって必須の学問であり、学問を科学たらしめるために重要な要素となっていることを理解させる。具体的には、代表値、ばらつき、正規分布といった基礎的な概念を学び、カイ二乗検定、t検定といった検定を行える知識とスキルを体得させる。また、回帰分析、多変量解析、因子分析、コレスポンデンス分析といった統計手法を用いた論文の記述内容を理解し、言語現象の理解を深めるように指導する。	
		コーパス日本語学1	本講義科目は、コーパス日本語学の「基本的な考え方と技術」を理解するために、日本語コーパスを分析する「基本的なスキル」を身につけることを到達目標としている。講義では、コーパスとは何であるか、コーパス日本語学とは何であるかを明確に理解できるように解説を行う。さらに、現代日本語の「書き言葉コーパス」を分析対象として取り上げ、コーパスの検索方法、検索結果の集計方法、集計結果のプレゼンテーション方法、という一連のスキルについて、受講生もコンピュータを操作できる環境で講じることで、実践力を身につけさせる指導を行う。	
		コーパス日本語学2	本講義科目は、コーパス日本語学の「発展的な考え方と技術」を理解するために、日本語コーパスを分析する「応用的なスキル」を身につけることを到達目標としている。講義では、話し言葉を大量に収集した「話し言葉コーパス」を分析対象として、日本語の話し言葉の使用実態を客観的に明らかにしていく。話し言葉の中には、「あー」や「えー」などの形で言いよんだり、言い間違いが起こったり、「洗濯物」の発音が「せんたくもん」と変化したりするなど、書き言葉には見られない特徴が多く観察される。このような話し言葉の特徴をコーパスから検索し、その結果を集計・分析・発表するという一連のスキルについて、受講生もコンピュータを操作できる環境で講じることで、実践力を身につけさせる指導を行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  発 展 科 目	ゼミナール3	本演習科目は、関心のある専門的なテーマを学生自身が主体となって設定・分析・発表・議論するスキルを定着させるために、ゼミナール1～2を前提に、担当教員の専門分野(音声・音韻、語彙・意味・コーパス、文字、文法、社会言語学、日本語教育など)について、質疑応答と意見交換等を通して学ぶことで、《特定の分野の専門的知識と考え方に対する理解を深めていくこと》を到達目標とする演習を行う。演習の中では、所属するゼミナールの専門分野の先行研究を検索し、今後解明すべき問題についても意見交換を繰り返しつつ考察し、自らの問題意識に基づいた研究テーマの設定方法を習得させる。さらに、そのことによって、次年度の卒業論文作成の足がかりとする。また、「口頭による研究発表の方法」についても実際に訓練を行う。	
	ゼミナール4	本演習科目は、関心のある専門的なテーマを学生自身が主体となって設定・分析・発表・議論するスキルを定着させるために、ゼミナール1～3を前提に、担当教員の専門分野(音声・音韻、語彙・意味・コーパス、文字、文法、社会言語学、日本語教育など)について、質疑応答と意見交換等を通して学ぶことで、《特定の分野の研究の方法論に対する理解を深めていくこと》及び《学んだ事柄を他者にわかりやすく説明のための要点を把握する能力を磨くこと》を到達目標とした演習を行う。演習の中では、ゼミナール3までの内容を踏まえ、自らの問題意識に基づいて研究テーマを設定し、それに適した分析方法等を学ぶことで、次年度の卒業論文作成の足がかりとする。また、「書き言葉(レジュメ・小論文)による発表方法」についても実際に訓練を行う。	
	社会言語学1	本講義科目は、社会や社会事象と連動しながら運用されている「ことば」の運用のメカニズムのうち、言語変種、言語行動、言語生活、言語接触、言語現象に関する理論・モデル等について理解するために、学際的な視点からそれらについて捉える能力を身につけることを到達目標としている。講義では、社会学や心理学、教育学等の立場からもアプローチしながら、言語事象を見る姿勢や視座を学ぶ。また、言語変種(属性とことば、場面とことば)、言語行動(敬語、ポライトネス理論、ことばのストラテジー、ことばの切換え)、言語生活(メディアとことば)、言語接触(方言の接触、多言語との接触)といった諸分野や、関連するダイグロシア、コードスイッチングといった言語現象に関する理論・モデルを学ぶ。さらに、学んだ理論・モデルを活用し、実際の言語現象を分析する。	
	社会言語学2	本講義科目は、社会や社会事象と連動しながら運用されている「ことば」の運用のメカニズムのうち言語変化、言語意識、言語習得、言語計画等を理解するために、学際的な視点からそれらについて捉える能力を身につけることを到達目標としている。講義では、社会学や心理学、教育学等の立場からもアプローチしながら、言語事象を見る姿勢や視座を学ぶ。また、言語変化(内的変化、外的変化)、言語意識(ことばのイメージやアイデンティティ)、言語習得との関連(幼児語、中間言語、方言習得)、言語計画(計画のタイプ、日本の言語計画)といった知識を学ぶ。さらに、関連する言語現象として、Welfare Linguisticsの事例をとりあげ、ことばと社会の関わりや、ことばが社会に対して担う役割などを学ぶ。	
	日本語の語用論1	本講義科目は、日本語の語用論についての「基本的な事項」を理解するために、語用論の諸理論について理解することを到達目標としている。講義では、語用論とは言語表現とそれを用いる使用者や文脈との関係を研究する分野であることなど、基本的な事項を理解できるように講じる。さらに、話し手と聞き手との間でことばが交わされるときに、どのようなことが暗黙の前提として両者に共有されているか、身振りや表情のような非言語的要素はそのときどのような役割を果たしているかなど、いわゆる「会話」の背後にあるさまざまな要素を示して解説することを通して、語用論の諸理論を理解できるようにする。	
	日本語の語用論2	本講義科目は、語用論的に考える視点を定着させるために、「会話」を分析できるようになることや、「言語文化」の違いという視点に立った分析ができるようになることを到達目標としている。講義では、日常生活でほとんど意識することなく使っている表現の中には、「ことばそのものが表わす内容」と「話者の実際の意図」が一致していない例が決して少なくないことなどに焦点を当てて、語用論的に検討する。また、文法や意味の理解には、言語表現とそれを用いる使用者や文脈との関係を切り離して考えることができないことなども論じる。さらに、ことばの用いられ方が言語文化の違いによってどのように異なるかについても、具体的な事例を示して解説する。	
	対照言語学	本講義科目は、日本語自体に対する理解をさらに深め、言語の普遍的なものを自らの手で見つけ出し得る観察眼を養うために、日本語と他の言語とを比較する方法論を身につけ、受講者自らの視点で言語の対照ができるようになることを到達目標としている。講義では、日本語を中心に据えた上で、類縁関係にない他の言語(主として英語、必要に応じて他の言語も視野に入れる)との間に、文法、音韻、語彙意味、談話等についてどのような異同があるかを比較し観察する。それによって日本語自体に対する理解をさらに深めるとともに、言語の普遍的なものを自らの手で見つけ出し得る観察眼を養う。また、異文化間でのコミュニケーションのすれ違いの要因についても、対照言語学の視点から解消する手立てがあることも講じる。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  展 開 科 目	学習文法研究1	本講義科目は、言語の深層構造にある普遍性について知り、言語を学ぶ際の理解指標を形成するために、日本語の単文の構造を中心に、主要な品詞が、どのように普遍的な文法的カテゴリー群と関わるのかを理解することを到達目標としている。講義では、日本語を母語とする人の事例を取り扱い、最も身近な既得の体系である母語(現代日本語)の深層構造に気づく学習を与えることができれば、それが指標となつて、古代日本語をはじめ英語などの運用母語と異なる言語の構造についての理解を促進することが期待できることを論じる。また、日本語の構造に気づけることを目的とした学習用の文法体系をデザインして、その効果的な指導方法を探ることによって、学校教育において「国語-英語」あるいは「現代語-古語」の間の連携教育の能力育成に資することができることも論じる。	
	学習文法研究2	本講義科目は、言語の深層構造にある普遍性について知り、言語を学ぶ際の理解指標を形成するために、複文の構造を中心に、より周辺の品詞が、どのように普遍的な文法カテゴリー群と関わるのかについて検証できる能力を身につけることを到達目標としている。講義では、日本語を母語とする人の事例を取り扱い、一連の学習タスクと新たな学習用文法の体系とを学ぶことによって、(1)言語能力の向上の観点、(2)記号情報や論理関係の運用能力の向上の観点、(3)内在化しているがゆえに最も気づきにくい母語という記号体系への愛着尊重の観点、から、それぞれに重要となる教育指導能力の育成を、履修者自身の能力向上とともにねらうことが可能であることを論じる。	
	第二言語習得研究1	本講義科目は、「外国語を学ぶ」ということが、現在、専門的にどのように捉えられているかを理解するために、現在の研究の視点を知り、特に第二言語習得に関わる学習者要因とされるものについて、自分の外国語学習についても振り返りながら理解することを到達目標としている。講義では、イントロダクションより一般的な内容の概説書を概観したのち、第二言語習得に関わる学習者要因とされる「母語の影響」「学習開始年齢」「動機づけ」「学習戦略」等について理解させ、さらに、第二言語習得論の代表的な理論について、その背景や、理論としての体系を把握させるように指導する。	
	第二言語習得研究2	本講義科目は、「外国語を学ぶ」ということが、現在、専門的にどのように捉えられているかを理解するために、現在の研究の視点を知り、外国語としての日本語の習得について具体的な事例に基づいて理解することを到達目標としている。講義では、第二言語習得論の研究史を概観したのち、そこに見られる「誤用分析」から「中間言語研究」へという考え方の変化に基づいて、日本語学習者にとっての文法習得の問題である「指示詞の習得過程」「場所を表す助詞「に」「で」の習得過程」等の研究について理解させ、また、現代日本語の文法体系自体が持つ外国語としての学びにくさの問題や、教科書・教材に見られる問題などについても理解させるように指導する。	
	日本語言語政策史1	本講義科目は、日本語に関する言語方策のうち、とくに日本語を母語としない人々への日本語教育史を踏まえた上で、今後の日本語教育に必要なことを自ら考察できるようになるために、日本語教育史について知識を身につけるとともに、客観的に評価できることを到達目標としている。講義では、日本語教育がその時代の社会的要求や政治的要求に応じて実施されてきていること、社会の要求に応えることは大切であるが、それと同時に、時代に翻弄されない日本語教育とは何かについても問い直す必要があることを論じる。また、日本語教育の歴史を振り返ることを通して今後の日本語教育の在り方を考えるために、近代以降の政策、教科書・教材、教授法について学修する。さらに、日本語を母語としない人々が行ってきた日本語研究の歴史について、16世紀後半のキリシタン宣教師によるものから、20世紀の海外の人々による日本語研究までを学び、日本語を捉える視点を広げられるように指導する。	
	日本語言語政策史2	本講義科目は、日本語に関する言語方策のうち、日本語を母語とする人々に向けて行われてきた事項を理解し、今後の日本語の在り方を考えることができるようになるために、いわゆる国語施策史についての知識を身につけるとともに、客観的に評価できることを到達目標としている。講義では、音韻文字、言文一致体、音韻組織、方言を主要調査方針として掲げた国語調査委員会(1902年)から、臨時仮名遣い調査委員会、臨時国語調査会、臨時ローマ字調査会、ローマ字調査会、ローマ字調査審議会、公用文改善協議会、国語審議会、文化審議会国語分科会に至るまで、そこで議論されてきた事項が、言語としての日本語に内包される問題であると同時に、日本の社会が抱えてきた問題でもあることを論じる。また、日本語の文字・表記、音韻、文体、方言、少数言語、コミュニケーション等に関する具体的な施策についても、詳しく論じる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展 科目	日本語教育実習A	本科目は、日本語教育について学んだ知識と経験を生かし、日本語を母語としない学習者に日本語を教える際の実践力を身につけるために、国内での日本語教育実習を通して、非母語話者の日本語学習支援ができるレベルのスキルを身につけることを到達目標としている。準備段階を経て教壇実習を行い、その評価をするという一連の過程の中で、よりよい日本語の授業とはどのようなものかを考える。前半(15回)は日本語教育の実践場面で問題になることを包括的に扱う。具体的には、初級教科書の内容分析、練習問題の作成法、練習の仕方および授業方法についての講義、模擬授業教案の作成を行う。後半(15回)は、中上級教科書の内容分析、日本語授業法の検討を踏まえたのち、国内での授業実習を行う。さらに、実習授業の報告等をもとに授業のあり方について討議、検討する。また、教育課程におけるさまざまな評価法について学び、その実践として、学習者への具体的な評価法を考える。	講義 30時間 実習 60時間
	日本語教授法B-1	本講義科目は、日本語を母語としない学習者に日本語を教える際の具体的な方法を身につけるために、現在、「日本語教育学」において一般的となっている知識を理解できるようになることを到達目標としている。講義では、海外の日本語教育の実態について、データをもとに読み解く。また、近年の外国語教育の方向性と、教授・学習をサポートする教授理論を紹介する。さらに、理論に基づく授業例、教材を分析する。具体的には、CEFRの知識と日本語教育スタンダードについての実際、Can-doで組み立てる授業とそれともなう評価、シラバス、教材について学び、また、JLPT(日本語能力試験)が示す言語能力を紹介する。さらに、日本語の教授法だけでなく、その背景となっている外国語教育の理論についても学ぶ。	
	日本語教授法B-2	本演習科目は、日本語を母語としない学習者に日本語を教える際の具体的な方法を身につけるために、外国語学習での動機づけとその方法について理論をもとに実践ができるようになることを到達目標としている。内容言語統合型学習の理論、枠組みを紹介し、その理論に基づく授業やコースの設計とその妥当性についての議論を取り扱う。具体的には、動機づけ理論のARCSモデル、内容言語統合型の外国語学習デザインであるCLIL等について、詳細に講じる。また、コースデザインについても解説し、基本的なコース設計の方法を学ぶ。さらに、WEB上に紹介されている教授リソースも一つ一つ紹介し、理解させる。こうしたことについて、受講生自らが、具体的な活動案を検討する能力や、調べた事柄を発表できる能力も育てるように指導する。	
専門 科目	ゼミナール5	本演習科目は、関心のある専門的なテーマを学生自身が主体となって設定・分析・発表・議論するスキルを磨くために、ゼミナール1～4を前提に、担当教員の専門分野(音声・音韻、語彙・意味・コーパス、文字、文法、社会言語学、日本語教育など)について、ゼミナール4までに学んだ専門的知識、考え方、方法論等のほか、先行研究を踏まえ、「自らの問題意識に基づいた本格的な論文を作成するための、「研究テーマの設定」と、「データの収集」を行えること」を到達目標とした演習を行う。演習の中では、聞き手に伝わる話し方や資料提示の方法などについても注意を喚起し、効果的な発表(プレゼンテーション)になっているかどうか、自らの態度を客観的に観察する姿勢を持つことにも留意させる指導を行う。	
	ゼミナール6	本演習科目は、関心のある専門的なテーマを学生自身が主体となって設定・分析・発表・議論するスキルを磨くために、ゼミナール1～5を前提に、担当教員の専門分野(音声・音韻、語彙・意味・コーパス、文字、文法、社会言語学、日本語教育など)について、ゼミナール5までに学んだ専門的知識、考え方、方法論等のほか、先行研究等を踏まえて、「自らの問題意識に基づいた本格的な論文を作成するための、「データの分析方法」や、「考察を進める方法論」について習熟すること」を到達目標とした演習を行う。演習の中では、分析結果や考察内容の単なるアナウンスにとどまるのではなく、聞き手に伝わる話し方や資料提示の方法などについても注意を喚起し、効果的な発表(プレゼンテーション)になっているかどうか、自らの態度を客観的に観察する姿勢を持つことにも留意させる指導を行う。また、研究テーマに基づく考察を論文としてまとめるために必要な手順、形式等を学ぶ。	
	卒業論文	本演習科目は、ゼミナール等の専門科目の学修で培った日本語学に関する専門知識に基づいて、自らの問題設定をし、論理的に解決する力を伸ばし、客観的な視点から情報を統合して分析する能力を磨くために、その成果を論文としてまとめることを到達目標としている。卒業論文の指導は、個別指導を原則としている。指導にあたっては、(1)情報発信を行うための適切な方法を自ら選択する能力、(2)知見や自身の考えを分かりやすく説明する能力、(3)各専門科目で得た日本語学の専門知識や、文献・インターネット上から収集した情報などを統合した上で、日本語を言語学的に分析する能力、(4)中間発表などでの口頭発表能力、(5)論理的文章の執筆能力、(6)情報機器を用いたプレゼンテーション能力、などを向上させるとともに統合できるようにする。	
応用 科目			

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
応用 科目	日本語教育実習C	本科目は、日本語教育について学んだ知識と経験を生かし、日本語を母語としない学習者に日本語を教える際の実践力を身につけることを目的に、事前準備後、英語圏にある協定校を実習先大学として、約7週間の教壇実習等を行う科目である。具体的には、「日本語教育実習」として、実習先大学における外国語科目としての日本語授業の見学、教案作成、テストの採点、評価等について学び、教壇実習も行う。これと並行して、英語圏の学習者の指導に必要な英語力を向上させるために「英語語学研修」として、実習先大学の英語コースの授業を受講する。このほか、実習先大学とは別の現地大学の日本語クラス・日本語学校での授業見学、国際交流基金が現地で実施する「日本語スピーチコンテスト」参加者(日本語学習者)への日本語指導(ボランティア活動)等も行う。	講義 10時間 実習 60時間
	日本語学応用実習	本科目は、学生が学んできた日本語学の専門知識の有用性を実体験し、学修意欲向上をはかるための実習科目である。実習内容は養成する人材像に合せ設定し、学生は学問的興味に応じて、次に挙げる実習のいずれかに参加する。「日本語教育体験実習:北米やアジアにある協定校を実習先として授業見学と日本語教育実習を行う」、「日本語資料研究実習:事前研修後、韓国等にある協定校を実習先として、日本語を学ぶ学生とともに、在外日本語古典資料の調査活動をし、それらを解説する授業に参加する」、「高度日本語専門職体験実習:事前研修後、国内の新聞社校閲部門や言語研究機関など複数の実習先でワークショップに参加する」。実習終了後、修了証を発行する。	
	日本語教育実習B	本科目は、日本語教育について学んだ知識と経験を生かし、日本語を母語としない学習者に日本語を教える際の実践力を身につけるために、アジアにある協定校を実習先大学として教壇実習等を行う科目である。前期は本学において、教育実習の準備を行う。具体的には、実習先大学の日本語教育カリキュラムを考慮に入れてつつ実習先大学で使用している日本語教材についての解説、分析等を行うことで、各課の効果的な教案や小テストについて考え議論する。後期は、実習先大学で約2週間の見学実習と教壇実習を行い、帰国後、教壇実習時に撮影したビデオ映像をもとに、実習者の長所や改善すべき点を議論し、実際に日本語教師として自立していくために必要な要素についての理解を深めていく。	講義 30時間 実習 60時間
専門 科目	中国文学講義1	本講義科目は、中国文学の基礎知識を得るとともに、その世界の広がりを楽しみむ力を身につけるために、史伝、唐代伝奇小説など、日本で漢文として親しまれてきた中国古典文学を理解できるようになることを到達目標としている。講義では、中国文学の基礎知識を身につける中で、漢字の字体や字義における日中の異同、中国語と日本語との文法の相違点も理解できるようにする。また、日本での中国古典文学の享受方法である漢文訓読法についても理解を深めるようにする。取り扱う作品のジャンルは、史伝、唐代伝奇小説などである。史伝では、中国の紀伝体や編年体などの史書のスタイルを理解できるようにする。唐代伝奇小説では、日本の江戸時代や近代の小説に与えた影響なども理解できるようにする。	
	中国文学講義2	本講義科目は、中国文学の知識を得るとともに、その世界を深く味わう力を身につけるために、中国古典詩歌を理解できるようになることを到達目標としている。講義では、中国語と日本語との文法の相違点を理解し、日本での中国古典文学の享受方法である漢文訓読法についての基礎知識を身につけた上で、中国古典詩歌の世界について取り扱う。中国古典詩歌は、日本では漢詩と呼ばれて親しまれ、日本人自身による実作も交えながら、日本文学の中で和歌や俳句とともに抒情文学の重要な一角を占めてきた。漢詩の様々な詩型や韻律規則を理解し、和歌や俳句にはない漢詩特有の雄大で硬質な抒情のありかたを理解し、あわせて白居易が平安時代の文学に、杜甫が松尾芭蕉らの江戸時代の文学に影響を与えたことなども理解できるようにする。	
	日本文学概論(古典)1	本講義科目は、大学において日本古典文学を精読・研究するために必要な視点・方法・知識を身につけるために、中学校・高等学校の教科書に掲載されている日本古典文学諸作品を読み直し、精密に読めるようになることを到達目標としている。講義では、助動詞と解釈、活用形と解釈、敬語の効用、現代語訳の功罪などに目配りしながら精読していく方法を学ぶ。また、隣接諸学(民俗学・日本史学等)との交差についても目配りしながら精読することを学ぶ。さらに、写本・版本について知り、諸本論や本文校訂の実際を学ぶことで、私たちが通常目にする活字化された古典文学作品のテキストの有用性と限界についても学ぶ。	
	日本文学概論(古典)2	本講義科目は、明治時代よりも前の日本文学の歴史(文学史)や、意義と特色について、十分に理解し、説明できるようになるために、日本古典文学の味読でき、表現と主題の研究について専門知識を身につけることを到達目標としている。講義では、日本文学がいかに関し、いかに展開をしていったか、その特徴と意義を、主に前近代の作品と作家に即してあとづける。高校までの教科書に出てくるような、有名な作品・作家については、特に重点的に取り上げ、日本文化史上の意義に関して、理解を深めるようにする。味読の過程では、国語便覧や、高校の日本文学の教科書などに十分に目を通す習慣を身につけさせ、自ら基本的事項の把握に努める姿勢も涵養していく。	
関連 科目			

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	関 連 科 目	日本文学概論(近現代)1	本講義科目は、日本の近現代文学を精読・研究する際に必要な視点・方法・知識を身につけるために、日本の近現代文学が生み出した多様な広がりについて理解を深めることを到達目標としている。講義では、作家論、論争、エッセイ、時代小説、ミステリーという問題系からそれぞれアプローチしていく。もちろんそれぞれのカテゴリーは、重複する部分を多く含んでいることも講じる。作家論からはみ出した言説が容易に新たな論争を生み出していき、エッセイの中で書かれた小さな作家への言及が本質的な作家論を形成する場合もある。また、時代小説作家がミステリー作品へ手を伸ばしたり、ミステリー同士が鋭く対立したりする事項(社会派ミステリーなど)を生みだしていく場合などもある。そうした現象を、文学史的な展開を視座に入れた考察することで、明治から昭和にかけての文学の達成度の広がりや深みを、ときに映像化された資料を参照しつつ、検証していく。	
		日本文学概論(近現代)2	本講義科目は、明治から昭和に至る日本の近現代文学の歴史(文学史)を理解するために、様々なジャンルの文学について深く理解することを到達目標としている。講義では、基本的な項目である、言文一致、浪漫主義、自然主義文学、ネオロマンティズム、耽美派、新現実派、新感覚派などに分類される文学作品を取り上げながら、その歴史的な意味を考察し、紹介する。あわせて、現代の文学の流れを形成する起点となった現象である純文学文壇の崩壊現象、私小説の衰退、通俗娯楽小説や新聞小説の隆盛、探偵小説から推理小説への脱皮など、個々のジャンル内で起った興亡にも視野を広げて、近代から現代に通じる日本文学の通史を展開する。単に作品を紹介する文学史としてではなく、作品そのものを読み上げること、言語美として文学をきちんと把握することを、学習の重点とする。	
		書道1	本科目は、身の周りの多様な表現の中において「書く」ことに関心を持ち、日常生活に楷書の表現を生かすことができることを「目的」とする。その方策として、楷書の古典の書美を理解し書風を生かした表現を工夫することができることを具体的な「到達目標」とする。楷書は最も基本的な書体であるとの考えは古来からの定見である。ここでは、古典の臨書を通して、各古典の線質や、用筆法、運筆法、結構法などの表現技法を身につけ、個々の書美を構成する諸要素を理解し自分の表現に結び付けられるようにする。また、深い学びにつながるよう、文字文化の豊かさや鑑賞による学習も行う。まず、書道史上代表的な古典の臨書を通して、書風の違いにも積極的に触れ、感じたことを自由に述べ合う主体的かつ対話的鑑賞から、ICTの活用や様々な古典との比較をとり入れた分析的鑑賞など幅広い鑑賞眼を養うことができるよう実践する。総じて、日常生活の中で書ゆきや美しさを感じ書道の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を養成することを目指す。	
		書道2	本科目は、身の周りの多様な表現の中において、作品づくりや実用的にも書く機会の多い行書の筆法を身につけるために、自らの呼吸に取り込めるまで習熟し表現できることを到達目標とする。具体的には、中国・日本の書道文化を理解し、行書作品を制作するための表現・技能を主に半紙の臨書により習得する。また書を文字文化の面においても捉え、文字の歴史的背景を含めた、行書の古典の表現と効果について、伝統的だけでなく現代の社会や生活に生かされる文化としてICT等も活用し対話的で深い学びができるようにする。総じて、行書の学習活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、日常生活の中で書ゆきや美しさを感じ書道の伝統と文化と深く関わる資質・能力を養成することを目指す。	
		地域研究(北米)	世界を構成する各地域の社会や文化に関して、特定の側面や歴史上の特定の時期や地域に焦点を当て、その成り立ちの過程や現代の社会への影響、文化的な事情などについて具体的な例を通して専門的に深く学ぶ講義科目である。本科目では、「世界の文化を知る(北米)」で得た知識をベースとしつつ、アメリカ合衆国以北の北米地域について、カナダやアメリカ合衆国における個別の社会的・文化的事例に焦点を当てながら掘り下げて学ぶことで、これら地域の現状ならびに社会的・文化的背景への理解を深めることを目標とする。	
		地域研究(ラテンアメリカ)	世界を構成する各地域の社会や文化に関して、特定の側面や歴史上の特定の時期や地域に焦点を当て、その成り立ちの過程や現代の社会への影響、現代の文化的な事情などについて具体的な例を通して専門的に深く学ぶ講義科目である。本科目では、「世界の文化を知る(ラテンアメリカ)」で得た知識をベースとしつつ、メキシコから中米・カリブ、南米にまたがるラテンアメリカについて、個別の社会的・文化的事例に焦点を当てながら掘り下げて学ぶことで、これら地域の現状ならびに社会的・文化的背景への理解を深めることを目標とする。	
地域研究(ヨーロッパ)	世界を構成する各地域の社会や文化に関して、特定の側面や歴史上の特定の時期や地域に焦点を当て、その成り立ちの過程や現代の社会への影響、現代の文化的な事情などについて具体的な例を通して専門的に深く学ぶ講義科目である。本科目では、「世界の文化を知る(ヨーロッパ)」で得た知識をベースとしつつ、ヨーロッパ各地における個別の社会的・文化的事例に焦点を当てながら掘り下げて学ぶことで、これら地域の現状ならびに社会的・文化的背景への理解を深めることを目標とする。			

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  関 連 科 目	地域研究(アジア)	世界を構成する各地域の社会や文化に関して、特定の側面や歴史上の特定の時期や地域に焦点を当て、その成り立ちの過程や現代の社会への影響、現代の文化的な事情などについて具体的な例を通して専門的に深く学ぶ講義科目である。本科目では、「世界の文化を知る(アジア)」で得た知識をベースとしつつ、朝鮮半島を中心に中国以外の東アジア地域について、個別の社会的・文化的事例に焦点を当てながら掘り下げて学ぶことで、地域の現状ならびに社会的・文化的背景への理解を深めることを目標とする。	
	地域研究(中国)	世界を構成する各地域の社会や文化に関して、特定の側面や歴史上の特定の時期や地域に焦点を当て、その成り立ちの過程や現在の社会への影響、現代の文化的な事情などについて具体的な例を通して深く学ぶ講義科目である。本科目では、「世界の文化を知る(アジア)」で得た知識をベースとしつつ、現在の中華人民共和国の範囲にとらわれることなく、広く中国文化圏全般について、個別の社会的・文化的事例に焦点を当てながら掘り下げて学ぶことで、これら地域の現状ならびに社会的・文化的背景への理解を深めることを目標とする。	
	文化の衝突と融合	具体的な事例を通して、文化的接触の実態について考えることを目的とする本講義科目では、文化を固定的な実体としてではなく、国や地域を越えて交流し、衝突・対立・融合しながら形成されるダイナミックな変容体として捉える。広く異文化接触に関するテーマを取り上げ、文化間の複雑なインタラクションを考察するとともに、地域的・歴史的に多様な角度から掘り下げることを目標とする。単なる事実関係の羅列に終わるのではなく、履修者が特定の時代や地域の文化を研究する際、「常識」に捉われない視点を持ち、複眼的に世界を見つめることができるようになる手がかりを示すことに重点を置く。	
	移動と交流の文化史	グローバルな移動と交流は最近始まったわけではなく、過去何百年にもわたって展開されてきた。本講義科目では、大陸間ないしは地球規模でのヒトモノの移動、さらにはそうした移動が引き起こした文化的な接触や摩擦といったさまざまな交流の側面について、歴史上の具体例を通して学ぶ。事例に触れながら、物質的な移動のみならず、その際に引き起こされた文化の接触や摩擦とその背後にあった思想にいたるまで、交流の様相を具体的に把握することで、いっそうグローバル化が進む現代世界に導き出される歴史的教訓や今後の世界で予想される問題点を主体的に考えるようになることを目標とする。	
	比較文化	外国の文化を知ることは、翻って自国の文化を知ることもつながり、自文化をより深く理解するためには異文化との関係を理解する必要がある。本講義科目では、地域・言語・学問領域の境界を越えて複数の文化を比較し、それらの相互関係や影響関係、相違点や類似点、異文化の受容の仕方などを明らかにする。とりわけ、近代日本における西洋文化の受容、西洋におけるジャポニスム、外国人の日本論といった、日本に関するテーマを取り上げ、日本の文化と外国の文化の関係をすることを目標とする。これによって、異文化理解を促進すると同時に、より深い日本理解に資する。	
	宗教と文化	本講義科目では、世界の文化において重要な役割を果たしている諸宗教について、時代と地域を考慮しながら、その形成や変化や伝播の過程について概観する。その上で、文化の構成要素であると同時に、自立的な領域を確保して文化や政治・社会・経済に大きな影響を与える宗教の信仰や思想や活動について、専門的な考察を行う。異なった文化における多様な宗教の現実を認識し、それらが「宗教」という枠組みで普遍的に理解されることの意味や問題についても理解する。これにより、国際性や異文化間のコミュニケーションの基盤となる、通文化的／比較文化的な知識や思考力の涵養を目標とする。	
	思想と文化	本講義科目では、ある地域の社会や時代が生み出した「思想」を、論理的な言説だけでなく、想像力や感情などもふくめた精神活動の表出の総体としてとらえ、それがどのような独自の「知」のシステムとして形成され、その文化圏のなかにどのように組み込まれているかを学んでいく。さらに、異文化においてそうした「思想」を支える心的構造についても、専門的な理解を深めることによって、多様化の一途をたどる今日の世界にアプローチしうるような考察力を養うことを目標とする。	
	多文化共生論	国内外でグローバル化が進む現代社会において、多様な文化的背景をもつ人々との共生は喫緊の課題である。本講義科目では、異なる文化や多様な価値観を持つ人々の間での共生や融和の可能性を個々の履修者が考えられるようになることを目的とする。多文化社会のさまざまな様相について、世界の諸地域の事例をその歴史的形成過程をふまえて考察する。同時に、多様化する社会の軋轢、文化をめぐるせめぎあいについても取り上げ、その背景をひもとき、共生をはばむ諸問題の克服を考える。これらを通じて、「異なる文化の共生や融和」の真の意味を理解できるようになることを目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  関 連 科 目	越境する文化	本講義科目では、異なる文化が接触した際の境界ゾーンの歴史的・現代的な諸現象・諸問題を扱う。文化が、その発祥地を離れて別の地域空間で新たな展開を見せる諸事例、文化の展開する空間の拡大という脱領域化の現象や事象、異文化接触により引き起こされる文化変容のダイナミズム、文化の境界性・二重性・多重性などがテーマとなる。本科目では、文化変化のプラスの面に目を向け、異文化の接触するバウンダリーの柔軟性や弾力性に着目することで、越境する文化がもたらす創造的側面や「新たな文化の生成」などの複雑なあり方について高度な理解を深めることを目標とする。	
	環境と文化	本講義科目は、文化と環境利用との関係性、およびその歴史的な展開過程を具体的に学修することで、多様な文化を理解するための地域横断的な視点を得ることを目標とする。人間のすべての活動は、人間社会を取り巻く自然環境から恩恵を得ることで成り立っているが、(1)そういった人間と自然の関係性は、農耕や牧畜、工業といった経済活動の領域にとどまらず、人口動態や祭祀、娯楽や芸術といった社会構造や文化活動の諸側面にも大きく影響を及ぼしていること、(2)また、そうした関係性は固定されたものではなく、人間による資源消費の増加や活動領域の変化によって変遷すること、(3)特に近代以降の科学技術の発展と産業化にともなう地球環境の変化は、環境問題や環境保全運動といった新たな課題や潮流、自然認識をもたらしてきたことなどを概観し、それらの問題点を考察する。	
	資源としての文化	本講義科目では、過去の事象や現代の文化がしばしば資源として利用されてきたことに着目し、その利用の諸相を掘り下げて専門的に学ぶ。具体的には、歴史上さまざまな文化的要素が後世の人々にどう解釈され意義づけられてきたのか、現代における「伝統」がいかにかに生成されてきたのか、また現在の社会において文化遺産や観光資源がどのように評価され利用されているのかについて、その利用の実態を詳しく把握する。具体的な事例を通じて文化的資源の利用の実態を知ること、現代の文化や伝統、観光資源などを表層ではなく、より深く広い視野からとらえられるようになることを目標とする。	
	現代社会と多様性	発展科目(「多文化共生論」「比較文化」「宗教と文化」など)での学修をベースとし、本講義科目では、現代社会と多様性をめぐる諸問題をより理論的かつ専門的に分析・理解できるようになることを目標とする。担当教員の専門分野に基づく講義テーマを深く学ぶことを通じて、受講する学生は、はたして人間同士が、人種、民族、性別、階級、セクシュアリティ、世代、宗教などの多様な違いを超えてどこまで理解しあえるのかという異文化理解および多様性の可能性について考察する。	
	植民地と現代世界	本講義科目では、歴史上、植民地化された経験を持つ地域を対象とし、植民地化された過程やその後の当該地域の社会や文化の変容、さらには被植民地化という過去が現代にどのような影響を及ぼしてきたのかを特に専門的に学ぶ。具体的には、アジア・アフリカや南北アメリカなど16世紀から20世紀にかけて各時代の強国の植民地となった地域に焦点を当て、その実態を深く掘り下げる。それによって、当該地域の現代の社会や文化が重層的かつ複雑な経緯の上に成り立っていることを理解し、「支配者」側の視点のみにとらわれないこと、複眼的な見方ができるようになることを目標とする。	
	現代文化論	本講義科目は、有形の文化だけではなく、無形のものとその作用に焦点を当てる。そういった目に見えない文化なるものは後天的に獲得されるものでありながら、われわれのアイデンティティとも深いかかわりを持つものである。また、文化はものの見方や感じ方といった知覚や思考にもかかわっている。そういった文化の作用を、様々な諸相(都市文化、消費文化、情報文化、ポップ・カルチャー、サブ・カルチャー、グローバルな文化など)から眺望し、現代文化の特徴を自らのアイデンティティとのかかわりとともに批判的に学修することで、文化の形成あるいは社会の成り立ちへの理解を深めることを目標とする。	
	国際政治の基礎	本講義科目は、国際社会で起きる様々な出来事を自分なりの枠組みで理解できるようになることを目標とする。国際政治の歴史的発展を概観した後に、国際政治の基本的な見方について学修する。次に今日の国際社会を構成する主権国家体制に関して、その国家間関係の形成と変容について学修する。具体的には、国連と地域主義、核などのテーマを取り上げる。その後、国家間関係の視点のみでは捉え切れないテーマとして、開発援助、地球環境問題、科学技術とエネルギーなどに注目して、これらの課題が国際社会がどのように取り組もうとしているかに関する考察を深めていく。	
	国際関係論 I	本講義科目は、グローバリゼーションの中で大きく変化する国際政治経済に関する学修を通じて、3つの目標を達成することを目指す。(1)現代の国際政治経済について、グローバリゼーションに至る歴史的発展と現代の特徴に関する理解を深めること。(2)国際政治経済の国際レジームの形成や変化、国内の政治経済体制との関連を理解すること。(3)国際政治経済において政策理解に不可欠な理論的アプローチによる分析手法を身につけること、である。グローバリゼーションが進む現代の国際政治は大きな変貌を遂げているが、本講義では、国民国家中心の従来の国際政治経済がいかにかに変化し、どこへ向かおうとしているのか理解するために、歴史的発展と現代の特徴を学修する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	国際関係論Ⅱ	本講義科目は、グローバル化の中で大きく変化している国際政治経済に関して、2つの目標を設定している。(1) 主要な領域(貿易・金融など)について、問題解決の仕組みなど国際レジームの形成と発展を理解すること。(2) 国際政治経済において政策理解に不可欠な理論的アプローチによる分析手法を身につけること、である。講義では、ユーロ危機や格差問題など新たな争点、多国籍企業やグローバルな規制機関など新たな主体が浮上している現代の国際政治経済について学修し、貿易や金融など主要分野について、国際レジームの特徴を理解すると共に、国際政治理論に基づく分析へと進む。	
	ビジネス英語A	本科目は、米国におけるビジネス現場での英語を学修することを通じて、次のようなことができることを目標とする。ビジネスを想定した教材を使用し、各回でテーマ(コンタクト、アプローチ、アポイントメント、インフォーマルあるいはフォーマルなミーティングなど)に沿って、ビジネスに必要とされる基本的な英単語、フレーズを、言語の4技能を通して学修し、運用できるようになることである。また、日本と米国のビジネス・シーンをイメージしたテキストや映像を用いながら、日本人と米国のビジネスマンの考え方がどのように異なっているのかを理解できるようになるとともに、英語を用いた環境におけるビジネスをスムーズに進めていく上でどのような行動を取ることが要求されるのかを学修する。	
	ビジネス英語B	本科目は、「ビジネス英語A」に引き続き、ビジネスを想定した教材を使用し、各回でテーマ(アポイントメント、ミーティング、プレゼン資料作成など)に沿って、ビジネスにふさわしい英語表現を、言語の4技能を通して学修する。ビジネス・コミュニケーションのノウハウを学修すると同時に、多様な文化・国籍の人々から成るビジネスの現場で必要な英語表現の修得と、ビジネス慣習における文化的な差異について学修する。米国におけるビジネス・シーンでの英語学修を通じて、ビジネスの現場をイメージできるようになり、また、日本人と米国のビジネスマンの考え方がどのように違っているのかを理解し、さらに海外でビジネスを進める上で日本人が誤って犯してしまうポイントなどについて学修する。	
転換・導入科目	専修大学入門ゼミナール	大学における学修では、講義を聴くことや教科書など基礎文献を読むことに加え、自らの問題関心や勉学の目的に沿って、自主的に勉強に取り組みなければならない。そのためには、必要な資料を収集し、その内容をまとめ、教員や他の学生に報告し、議論を重ね、勉学の成果を論文やレポートにまとめることなど、積極的な姿勢でのぞむことが求められる。 本科目は、専修大学の学生としての自覚を持つために専修大学の歴史を学ぶとともに、少人数のゼミナール形式の授業における実践的な作業を通して、大学で学ぶことの意義や、「講義でのノートのとり方」、「資料の収集方法」、「報告の方法」、「討論の方法」、「論文・レポートの書き方」など、大学で学ぶための基本的な技法、すなわち大学における学修方法の習得を目的としている。	
	専門入門ゼミナール	この科目は、専門分野への入門として、日本語学という学問分野の範囲がどこまで及ぶものか、日本語学で用いられる基本的な学術用語の意味するものは何か、日ごろ無意識に使っている語や表現が専門的な視点からはどのように捉えられるものかなどについて理解を深め、自ら調査を行い、分析・考察する姿勢を育てることを目的としている。日本語学の研究領域と研究トピックについて、図書館等を活用しながら基本的な文献を探し当てて精読することや、自らの言葉で他者に分かりやすく説明するためのレジュメの作成、発表の仕方を学ぶ。	
	キャリア入門	本科目は「キャリアを理解するための基礎知識」「自分を知る」「環境を理解する」「キャリアデザインに必要な力」を学び、ゲストスピーカーの話に関連付けることを通じて、大学生活における様々な選択肢の中から自分の生き方を主体的に考え行動することを目的とする。ここでは「キャリアデザイン＝自分の立場や役割を認識し、それにふさわしい己の有り様について構想を練ること」と捉え、大学生活で何をするかを明確にし(考える)、多くの経験をして自分の可能性を探り(試す)、なりたい自分になるために挑戦し(挑む)、具体的目標に向けて活動する(磨く)というサイクルを身につける。さらに講義での学びを、他の正課科目をはじめ、課外講座やインターンシップ、部活動、留学などに反映し、目的意識を持った学生生活とその延長線上にあるキャリアの実現に向けて踏み出す後押しをする。	
基礎自然科学	あなたと自然科学	教養科目自然科学系科目の導入科目として、「科学」とは何か、「科学的な」思考法とは何か、「科学的に」問題を解決すること、社会に貢献することとはどういうことかを、「あなた(受講生)」の身の回りの自然現象や「あなた」の生活を便利にしている技術などに触れながら講義形式で論じる。「あなた」の身の回り、あるいは「あなた」自身にも自然科学が密接に関わっていることを理解し、科学的な視点や考え方を身につけ、科学リテラシー(科学や技術に対する理解度)を向上させることが本科目の目的である。「あなた」を取り巻く6つのテーマについて、生命を支えるための基本的な仕組み、生物の進化と多様性、健康という状態と病気という状態の違い、私たちが存在できる地球という惑星の特徴、資源とエネルギー、現代社会と環境問題について論ずる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文科学基礎科目 教養科目	歴史の視点	学生の多くにとって、講義科目としての歴史(世界史、日本史)は暗記科目として認識されていると思われる。この講義では、中学あるいは高校時代に得た知識を基礎にしつつ、暗記科目ではない学問としての歴史学の基礎を理解することを目的とする。歴史学とはどのような学問なのか、さまざまな時代と地域を対象とする研究や事例を通じて、歴史学における考え方や方法を具体的に知ることがその方法となる。また、そのような方法を学ぶことにより、現代社会に対する歴史的な理解を深めることができるだろう。	
	基礎心理学入門	心理学は、人間の精神活動や行動を科学的な方法を用い、実験・調査・観察によって客観的なデータを得ることにより心・行動を解明する学問と体系化している。心理学は大きく分けて、基礎・実験的領域、および応用・実践的領域に分けることができるが、本講義では、基礎的・実験的領域に関連する心理学を概説する。本講義を通じ、「直感や思いこみで心を語るのではなく、客観的・実証的な手法で解明する」という縛りを自らに課した心理学のアプローチの重要性・面白さ・難しさを理解してほしい。	
	応用心理学入門	心理学は、人間の精神活動や行動を科学的な方法を用い、実験・調査・観察によって客観的なデータを得ることにより心・行動を解明する学問として体系化している。心理学は大きく分けて、基礎・実験的領域、および応用・実践的領域に分けることができるが、本講義では、応用・実践的領域に関連する心理学を中心に概説する。理論にとどまらず、できるだけ具体的に、日常生活でのできごとや社会的現象なども取り上げながら、さまざまな分野へ広がりを見せる心理学を解説する。	
	哲学	本講義の目的は、哲学的な考え方の初歩を解説し、人文・社会科学一般への知的関心を刺激するとともに、そもそも、身の回りの事柄について疑問を抱き、それについて、考えるとはどのようなことか、また、それによってどのような地平がひらけ、さらに、考えている自分自身について、どのような見方ができるのか、学生に理解してもらうことにある。具体的には、西洋哲学古来の普遍的な本質についての問い、近世以来の主体や自我についての問いがどのようなものであったのか、またそれが現代哲学においてどのように問い直されたのかを解説することが、本講義の内容である。	
	倫理学	倫理とは、狭義には、人に対して「していい・いけない」という区別を核とする行動規範(狭義での道徳)であるが、広義には、「どういう人でありたいか」「どう生きるべきか」という間にかかわる規範をも包括する。この授業では、わたしたちが日々下している道徳判断に即して、倫理とはそもそもどのような規範であり、合理性や効率性といった規範とどう関係しているのか、といった問題を検討する。各自が習慣的に行ってきた道徳判断について、主体的にとらえかえすことを目標としている。	
	論理学入門	論理学では、「仮定や前提から、演繹的に正しい仕方では結論に到達する」ということが、どのようなことなのか、それを支えている原理やメカニズムがどのようなものか、を明らかにする。この講義では、そのための基本的な技法として、(1)命題論理の形式言語を構成し、形式言語を使用することの意義を確認し、論理構造の抽出方法を講義する。さらに(2)論理結合子の真理関数的解釈に基づいて、妥当な推論の判別方法の習得を目指す。また、命題論理における妥当な推論を選別する方法として、ゲンツェンによって開発された自然演繹の方法を解説し、そこでの具体的な証明方法の習得を目指す。	
	ことばと論理	命題論理における妥当な推論を選別する方法として自然演繹の方法を解説し、その上で、命題論理の言語を一階述語論理へと拡張する。これによって、日本語文の一階言語への翻訳方法を習得し、日本語文の背後にある論理構造の抽出方法を学ぶとともに、一階述語論理の自然演繹体系での証明を独力で構成できるようにする。さらに、非古典論理の一部、様相論理や多値論理、直観主義論理を取り上げ、メタ論理的な概念への入門を試みるとともに、論理学成立のための諸前提を哲学的に検討しながら、ことばと論理の間の関係を考えていく。	
	芸術学入門	この講義は、芸術とは何かという「芸術の本質」を探求する入門的な概論である。つまりこの講義の目的は、例えば諸々の具体的な芸術作品の分析を通じて、歴史的な時代背景やこのジャンル以外の学問分野との連関を探ることによって、一つの芸術ジャンルにはとどまらない広い文化的構造において「芸術の本質」を見通しうるような視点を習得しうるようにすることにある。そのために、様々な芸術作品に言及しつつ、できるだけ理解しやすい説明で進行する。	
	ジャーナリズムと現代	いまや誰でもが世界に向けて情報発信が可能な時代である。だからこそ、その溢れかえる情報のなかから必要な情報を取捨選択し、理解し、発言する力が求められている。そのためには、身の回りにはさまざまな「メディア」、携帯やパソコン、テレビやラジオ、新聞や雑誌、さらには映画や舞台などについて、そのなりわいや社会的意味合いを改めて考え、理解することが大切である。同時に、デジタル・ネットワーク化がメディアを通じて社会に与える個別具体的な影響や、コミュニケーション理論の基礎的修得を通じて、現代日本における「ジャーナリズム」とは何かについてのイメージを、各自が持つことができるようにする。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会科学基礎科目 教養科目	日本国憲法	<p>憲法の重要性は、国の「最高法規」であり、かつ「人権保障の基本法」という点にある。近・現代の憲法は、基本的人権の保障の条項と、権力分立を定める政治(統治)機構の条項の部分から成り立っているが、両者は密接な関係にある。すなわち、基本的人権の保障とは、国家権力による人権侵害に対する保障を意味し、その保障を確保するために、権力を立法・行政・司法にわけ、異なる機関に分立させているのである。この考え方を「近代立憲主義」と言い、この原理に基づいて制定された憲法を「近代憲法」とよぶ。</p> <p>この講義では、身近な政治・社会経問題や実際に裁判で争われた事件を素材にして、日本国憲法の人権保障と権力分立の仕組みを考えてみたい。</p>	
	法と社会	<p>人間は、いつの時代でも、いかなる地域でも、他者との関わりなしに生きることができない社会的存在である。そのような人間の社会では、様々な規範(ルール)が必要となる。「社会あるところ、法あり」といわれる所以である。</p> <p>本講義では、法学に初めて接する人を対象に、社会における法の意義や役割、法の基本思想、法の実現のための裁判制度について学ぶ。とくに現代社会は、技術発展、価値観の多様化、家族のかたちの変化など、伝統的なものから多くの変容を余儀なくされている。このような社会の変化に応じて、法のあり方も大きく変容してきている。現代社会が抱える諸問題に対して、法学の視点からアプローチできるようにするための力を涵養することも本講義の重要な課題である。</p>	
	政治学入門	<p>本講義は、権力、自由といった政治学の基礎的概念や、選挙、政党、議会、官僚制といった政治制度・政治集団の原則や行動パターンを理解するための、まさに政治学入門講義である。他の人文・社会科学(文学、経済学など)に対する知的関心や学習意欲を側面から鼓舞することを目的としている。政治学的な発想という眼鏡をかけて眺めてみることによって、国内政治、国際政治、身近な組織の運営などを、それまでとは違った角度から観察する。それらの基礎的な学習を踏まえ、国内政治、国際政治についての最新の事態と動向を確認しながら、現状の問題点についても考えていく。</p>	
	政治の世界	<p>一口に「政治」を学ぶと言っても、北米、南米、欧州、アジア等々、地域によってその実態は様々である。本講義は、そのような多様な政治の世界を理解するために、地域研究的な視点並びに歴史分析的視点を用いて、各国の政治の実態を知り、考えることを目的としている。具体的には、女性の活躍度合という視点で複数の地域の政治を比較分析したり、政治学の古典的なテキストで展開されている分析視角を用いて過去並びに現代の政治現象の意味を考えたりするといった、様々な課題にチャレンジしていく。</p>	
	経済と社会	<p>経済がこれからどう変わっていくのかを考えるとき、社会全体の大きな変化の中で経済をとらえる社会経済(Socio-Economy)的な視点をもつことは重要である。本講義の目的は、高校で学んだ知識を整理・発展させながら、社会経済的なものの見方の前提となる基礎的な知識・語彙を習得することにある。複雑で大規模な現代社会を、「資本主義」という用語を用いて大づかみに考察することに授業の主眼を置く。資本主義とは何か、資本主義経済はどんな問題を抱えているか、どんな歴史を経て現在の資本主義経済になったのか。これらを資本主義以外の経済体制を含めて考えるなかで、受講者に社会経済的な視点を体得して貰いたい。</p>	
	現代の経済	<p>私たちの社会はモノやサービスをどれだけ生産し、それらを誰にどれだけ分け与えるか、という基本的な「経済問題」を持続的に解決していかなければならない。そして、私たちはこうした経済問題と関わらずに生きていくことはできないがゆえに、一人の市民として経済学の知識を身につけておくことが望ましい。この講義の狙いは、初めて経済学に触れる学生諸氏に、基本的な経済学の知識を習得させ、経済学を学習することの意義を体得させることにある。</p>	
	地理学への招待	<p>これは、おもに初学者を対象とする講義形式の科目で、地理学が地表の科学として、環境・景観・地域とそこに展開する空間現象を研究対象とすることを示し、その説明と分析の方法についての理解を深めてもらうことを目的とする。とりあつかうテーマは自然・人文にわたる現象・事象であり、両者に通底する知的体系に気づくことによって、これまでとは違う地球観や世界観に接近してもらえるよう解説する。対象を捉える視角として、位置、距離、分布とその要因、地表(気圏・地圏・水圏)と地表形成営力、地域と地域構造(パターン)・地域区分、景観と生態、起源と伝播(拡散)、時空間と動態などを用いる。</p>	
	社会学入門	<p>講義形式。本講義は、「社会的理解の基礎を学ぶ」を講義の基本テーマとし、社会的な「ものの見方」「発想」「方法」「概念」「理論」等に関する履修者の関心や基礎的な理解を身に付けることを目的とする。ただし社会学は、多種多様な現実分析の「発想」「視点」「理論」「方法」を含むので、あくまでも本講義では、各講義担当者の専門領域での研究成果を尊重しつつ、各専門領域における多様な個性的な研究成果を生かした講義を展開することで、履修者には、最終的に、「社会学とは何か」に関する基礎的な理解の習得を促すことを意図している。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会科学基礎科目 教養科目	現代の社会学	講義形式。本講義は、「社会学的理解の基礎を学ぶ」を講義の基本テーマとし、社会学的な「ものの見方」「発想」「方法」「概念」「理論」等に関する履修者の関心や理解を深めることを目的とする。講義担当者の専門領域での研究成果をもとに、多様で個性的な研究成果や研究知見に関する講義を行うことで、最終的には社会学的な発想や視点、社会学の基礎概念、方法論、理論、研究事例等に関する履修者の理解を深めることを目的とする。講義担当者の研究内容に則しつつ、社会学の研究事例に関するより発展的で深い理解を促すことを目的とする。	
	社会科学論	社会を形作っている基本的な制度や組織等と、そこで生きている人びとの営みを分析対象とする社会科学は、ホブズ、ロック、アダム・スミス、マルクス、ヴェーバー、ケインズ、ハイエクといった多くの先人による理論構築を経て、客観的・批判的検討を行う「科学」として昇華されてきた歴史がある。この科目では、社会科学における方法論を素材として取り上げ、1)「社会」を対象とする社会科学がどのようにして科学として発展してきたのか、その歩みを理解すること、2)「自然」を対象とする自然科学との方法論の違いや、社会科学の諸領域における方法論の異同について理解を深めていくことなどを目的とする。	
	社会思想	われわれの生きている現代の政治・経済・社会領域で、当然と思われている共通規範—例えば政治における権力分割と民主主義、経済における合理的資源配分、社会における諸個人の自立とつながり—これらは、近代の生成とともに前近代の思考枠と戦いつつ培われてきたものである。「社会思想」では、近代の淵源をたどり、そこからさかのぼって現代へと至る歴史の中で、その節目節目に現れて現代に通底する諸思想を紹介し、さらには現代までに形成された価値(幸福、自由、平等、正義、共同体、民主主義など)を再検討し、現代と将来に生きる学生たちの社会知性の涵養を目指す。	
	教育学入門	教育とは何か、子どもが育つとはどういうことか、そうした問いを念頭におきながら教育という営みについて知ろうというのがこの授業である。近代社会の教育のひとつのエポックは学校の登場だ。子どもが学び育つプロセス、人が新たな知見と感動を手にするプロセス、そういう営みを集約的に展開させる場として、近代社会は学校を用意した。家庭と社会と学校の連携の中で子どもたちはどのように育っていくのか、あるいは育っていくのがよいのか。子どもたちの育ちを観察し、そして思索してきた先人たちの英知と苦悩に学びながら、自分自身、今現在の「教育とは何か」を考えてみたい。	
	子どもと社会の教育学	学校、家庭、地域コミュニティ、そして国家も含めて、社会全体を視野に入れるスケールで教育にアプローチしてみようというのがこの授業である。ある社会が教育をどのように構想するかは、その社会のさまざまな理想と利害と力関係の集積としてある。この授業では、近代の教育が国家や地方の政治が関与しながら制度化されたものとしてあるということを念頭に、教育を制度構想、組織経営、政策分析においてみていく。社会を変化させる可能性を持つ学校が、同時に既存の社会の枠組みを再生産する装置としても機能していることをみてもこれらの関係は単純ではない。ぜひ、教育と社会の相互関係のダイナミズムに触れて欲しい。	
	情報社会	今後情報化がますます進んでいく社会において、大学生は情報システムやサービスの利用者(受信者・発信者)であり、また将来何らかの形でそれらの提供側に関わる可能性もある。本科目は、広く情報システムやサービスの意義や活用事例、及びそこで提供される情報やメディア、さらには情報社会の問題についての基礎を理解してもらうことを目的とする。最初に人間社会における情報システムの意義を示し、その基本的な仕組みを解説する。さらに、ビジネスや公共サービス、環境など現実社会と情報システムの関わりを学び、その活用可能性を考えていく。また、情報システムやネットワーク上の情報自体について、その特性・分類・既存メディアとの関係・社会的位置づけなどを理解し、情報自体の捉え方やコンテンツビジネスについての概観を得る。合わせて、情報社会における問題、情報倫理などについても学ぶ。	
	はじめての経営	本講義の目的は、「企業」および「経営」という概念を理解し、これを基礎として社会の諸問題をさまざまな観点から考察する力を身につけることにある。そのため、講義内では企業の実例を適宜紹介しながら、モチベーション論、リーダーシップ論、現代企業の発展史、株式会社論、企業と社会、企業の成長戦略、顧客満足、組織活性化、事業のビジネスモデル、企業の国際化戦略等のテーマを取り上げ、解説する。同時に現代の企業はどのような仕組みで経営されているのか、どのような課題を抱えているのか、働く喜びとは何か、企業は人間を幸せにしてくれるのだろうかといった企業経営にかかわる諸問題について受講者自身にも考えてもらう。	
	マーケティングベーシックス	マーケティングは組織が顧客志向や顧客満足という観点にたつて市場に働きかける活動や仕組みの総体を指す。現代市場における顧客志向の重要性の高まりとともに、企業におけるマーケティングの重要性も高まりつつある。加えてマーケティングの知識は官公庁や学校、病院などの非営利組織において社会的な課題解決を目標とする活動にも広く適用されるようになってきており、社会においてマーケティングの知識は必須のものとなりつつある。この授業では、マーケティングの初学者向けに、さまざまな考え方や手法について、具体的な事例に基づいて解説する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会科学基礎科目	企業と会計	この授業では、ビジネスに関する知識がない人を対象に、市場経済社会における会計の役割を説明していく。講義の主な項目は、(1)市場経済社会における会計の役割、(2)財務諸表の理解と分析、(3)日本の会計制度、(4)経営管理目的の会計、(5)企業の情報開示と会計監査、(6)ケーススタディとなる。ただし時間の都合から、簿記の内容は扱わない。実際の企業の事例をパワーポイント等で提示しながら基礎的な内容から解説する。	
	生物科学1a	生物体の基本単位となる「細胞」について、その造りや営みを理解させることは、生物科学教育の最もベーシックで、しかも核となるところである。本科目では、主に細胞学の立場から生命現象が現れる仕組みを教授することに重点を置く。例えばミトコンドリアにおける好気呼吸や葉緑体における光合成のように、細胞の構造と機能は見事なまでに表裏一体となっていて、その巧妙さは生物進化40億年の過程で獲得されたものである。この科目を通して生命の素晴らしさと尊厳に対するより深い認識と眼差しを育むことを目指している。	
教養科目  自然科学系科目	生物科学1b	生物科学教育におけるもう一つの重要な柱は、DNAと遺伝子についての理解を深めさせることである。本科目では遺伝学の立場から生命現象が現れる仕組みを講ずることに重点を置く。遺伝子はタンパク質を作り出し、そのタンパク質が生命現象を引き起こす役割を演じる。発生と老化、さらには進化に至るまで、遺伝子レベルの研究からその謎が解明されつつある。 本科目では遺伝学の古典から近年の研究成果に至るまで幅広く取り扱うことによって生命への畏敬を深め、ハイテク時代を生きる我々が避けて通ることのできない遺伝子操作や生命倫理などの諸問題とも向き合い、人間の未来を正しく選択していくための素養や考える力を養うことを目標とするものである。	
	生物科学2a	この講義のテーマである地球における生物進化を学ぶにあたって、重要な観点が2つある。1つは地球上で進行した進化の事実を知ることであり、これは、化石の研究や、現生生物がもつ様々な機能の比較、そして生物がもつ遺伝子であるDNAの比較による系統の解析(分子系統解析)によってなされる。もう1つは、なぜ進化が起こったのかを知ることであり、ここでいう「なぜ」とは、進化が起こる自然界のメカニズムを指している。遺伝子DNAがもつ特性から生じる遺伝的変異の発生と、生物個体の生存率と繁殖率に作用する自然選択がこのメカニズムの両輪である。この講義では、この2つの観点を正しく区別しながら、生物進化を広く理解しようとする。	
	生物科学2b	この講義の目的は、生物学の一分野である生態学の基礎を学ぶことである。生態学の目的は、なぜその生物は、その場所に、それだけの数、存在するのか、に答えることである。野外調査や実験操作を行う生態学は机上の学問ではない。しかし、数理解析のような理論的研究も行われる。生態学は古くから個体群生態学と群集生態学に分けられてきたが、近年、これに生態系生態学が加わり、このような基礎生態学の応用として環境科学や保全生態学も加わるようになった。この講義では、微生物、動物、植物など、地球上に存在する様々な生物たちの生物相互間の関係や、生物と非生物的環境との関係がどうなっているのか、またそれらをどのように研究するのかを学ぶ。	
	生物科学3a	生物科学3aは「生き物としての人間」という観点から、まず他の動物と共通する遺伝子や細胞レベルの基本的な生命現象を理解した上で、ホメオスタシス維持の理解を目的に、消化・吸収、内分泌機能などの器官レベルの生理機能を学ぶ。次に誕生から死に至るまでの生物学的に考えるヒトの一生、さらには集団として生活していることの意味や、このことに伴って生じる問題についても考える。また「ヘルスリテラシー」を念頭に、例えばアレルギーなど免疫系の疾患、患者数の多い糖尿病について発生機序に基づいた予防策、疾病に付随する社会的な問題に対して医学的な側面から学生に問題提起を行う。	
	生物科学3b	生物科学3bは「生き物としての人間」という観点の中で、他の動物と一線を画す脳の機能を中心に論じる。まず脳の素子である神経細胞の情報処理のメカニズム、内外の環境変化を検出する感覚機能のメカニズムなど他の動物とも基本的には共通する機能について学ぶ。次に、言語や精神作用など人間の特徴である脳の高次機能について、他の動物と比較しながら理解する。また進歩著しい学習や記憶のメカニズム、さらには神経回路の機能不全として認識され治療されるようになってきた、いわゆる「こころの病」などへの神経科学的な理解も扱う。	
	宇宙地球科学1a	本講義では「宇宙へのアプローチ」をテーマとして、人と宇宙の関わりを軸に、時代による宇宙像の変化や、さまざまな観測手法・立場から見える多様な宇宙について講義形式で論ずる。本講義の到達目標は、(1)宇宙・太陽系の構造を理解し、目に見える天体の動きを説明できる、(2)人類の宇宙への様々なアプローチを学習し、観測方法による違いを踏まえて、その目的を理解することが出来る、である。この目標を達成するために、宇宙の構造、天体の運動と見かけの動き、観測手法とその変遷、宇宙の理解に対する天文学の進展について、最新の観測結果やデータの解釈も踏まえつつ、論ずる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目  自然科学系科目	宇宙地球科学1b	本講義では「宇宙・太陽系のすがた」をテーマとして、最新の宇宙探査で明らかになった太陽系のすがたや、現在の宇宙像について講義形式で論ずる。本講義の到達目標は、(1) 現在までに明らかになっている太陽系天体のすがたを学習し、それぞれの特徴を説明できる、(2) 恒星の進化および銀河系の構造、さまざまな銀河の存在を理解し、宇宙についての時間的空間的な広がりをイメージすることが出来る、である。この目標を達成するために、恒星の性質や誕生と進化、銀河の誕生と進化、太陽系の諸天体の科学的な特徴について、最新の観測結果やデータの解釈も踏まえつつ、論ずる。	
	宇宙地球科学2a	固体地球科学の基礎を講義形式で論ずる。本講義の到達目標は、固体地球科学に関して、(1)用語を理解し、正しく用いることができる、(2)プレートテクトニクス・地震・火山活動に関する法則・原理、およびその根拠を理解し、説明することができる、(3)実際の観測結果や観測データ、モデルに基づいて、プレートテクトニクス・地震・火山活動を説明することができる、である。この目標を達成するために、現代の地球科学の基本概念であるプレートテクトニクスの理解を中心に、地球の産状・内部構造、大陸移動説と海洋底拡大説、マグマ形成プロセス、地震・火山と災害について論ずる。各々の事象を単に網羅的に論ずるのではなく、実際の観察・データの解釈やそれに至る歴史的背景も踏まえつつ、論ずる。	
	宇宙地球科学2b	地球史と現在の地球環境について講義形式で論ずる。本講義の到達目標は、地球史に関して、(1)地球誕生以降、環境がどのように変遷してきたのかを理解し、説明することができる、(2)環境の変化が生じた過程とそう推定される根拠を理解し、説明することができる、(3)過去の環境の変化と現在の地球環境の関連について説明することができる、である。この目標を達成するために、地球史を編むために必要な年代決定や古環境の代理指標で用いられる同位体の知識を基礎としつつ、地球46億年の歴史を概観する。特に、地球進化・生命進化上重要なイベント(地球の誕生、生命の誕生、大陸の進化、全球凍結、生命の繁栄と絶滅)を取り上げ詳細に論ずる。また、現在の地球環境を考える上で重要である顕生代(特に中生代・新生代)の気候変動や資源の問題について、海洋学の成果も含めて論ずる。	
	化学1a	化学の基礎を講義形式で論ずる。化学は物質の科学であり、物質の構造、物性、反応を探究する分野であるが、化学1aでは主に物質の構造について論ずる。化学における基礎的知識や概念を説明することができ、化学の観点から物質の性質や身の回りの自然現象について理解を深めることを目指す。内容としては化学の出発点である原子とその構造、分子、元素の周期表、化学結合などである。原子という肉眼では見えないミクロな粒子が100種類ほどの元素に分類され、それらが結びつくことでできた物質の性質が、原子や元素、化学結合によって説明されることを論ずる。	
	化学1b	化学の基礎を講義形式で論ずる。化学1bでは主に物質の反応と物性について論ずる。化学における基礎的知識や概念を説明することができ、身の回りにおける様々な物質の性質や身の回りで起こっている化学反応について、化学的な視点から理解を深めることを目指す。内容としては代表的な化学反応である酸化還元反応、化学反応の根底にあるエネルギーの概念、物質の状態、代表的な化学の概念である酸や塩基、近年現代社会を支える重要な素材となったプラスチックの特徴や物性などを論ずる。身の回りや自然界で起こる変化がなぜ起こるのか、我々が現代社会を構築する上で化学反応や新素材をどのように利用しているのかを化学的な視点から論ずる。	
	化学2a	現代社会における化学の役割を講義形式で論ずる。化学が現代社会のあらゆる場面で利用され、また貢献しているかを説明することができ、化学の視点・思考法によって科学や技術への理解を深めることを目指す。扱う内容としてはセッケンや洗剤などの界面活性剤、繊維や繊維を染める色素、食品添加物のような日常生活と化学の関わり、フロンや水銀、窒素酸化物などの環境汚染物質、地球温暖化問題など、環境と化学の関わりなどである。いずれの内容においても現代社会が化学によって支えられ、また現代社会が抱える問題が化学によって解決されることを論ずる。	
	化学2b	現代社会における化学の役割を講義形式で論ずる。化学が現代社会のあらゆる場面で利用され、また貢献しているかを説明することができ、化学の視点・考え方による科学や技術の理解を深めることを目指す。放射性物質や原子力発電、廃棄物の処理とリサイクル、省エネルギー技術などエネルギー問題と化学の関わり、医薬品やビタミン、アミノ酸とタンパク質、呼吸と光合成など、生命と化学の関わりなどが主な内容である。いずれの内容においても現代社会が化学によって支えられ、また現代社会が抱える問題が化学によって解決されることを論ずる。	
	物理学1a	物理学の基本的な考え方の一つである力学を中心に学ぶ講義科目であり、身近な自然現象を理解していく方法や物理学的な自然観を身につけることを目標とする。ニュートン力学や万有引力などにより、自由落下や潮汐現象などの身近な自然現象から惑星の運行といった極めて大きなスケールの問題まで統一的に理解できることを学ぶ。さらに、ニュートン力学を超えた体系である相対論の初歩にも触れ、物理学がいかに自然現象を体系化してきたかも学ぶ。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目  自然科学系科目	物理学1b	物理学の基本的な考え方の一つである波動、原子や電磁気学を中心に学ぶ講義科目であり、身近な自然現象を理解していく方法、物理学的な自然観を身につけ、その応用技術を理解する力を養うのを目標とする。波動・原子では音、光で起きる身近な自然現象を学ぶとともに、見るができない原子の世界でも波動性と粒子性(量子性)が重要になることを学ぶ。また、電磁気学では、身近な現象や電化製品の動作原理を通して、電磁気学が身近に広く応用されていることを学ぶ。	
	物理学2a	現代物理学の中核をなす相対論や統計力学について学ぶ講義科目であり、現代的な自然観や物理学的な思考法を身につけることを目標とする。相対論では、時間や空間、エネルギーや質量、重力の現代的な姿を理解し、それをもとに、ビッグバンやブラックホールなどの宇宙論を理解する。一方、統計力学は、複雑に絡み合う非常に多くの粒子からなる系を扱う方法を学び、熱とエネルギーの関係、エネルギー変換、環境問題を物理学の観点から理解する。これらを通して、現代物理学的な自然観や思考法が、現代社会を思想的な側面から現実的な側面まで如何に変革してきたかを学ぶ。	
	物理学2b	現代物理学の一つの中心的課題は、物質の構造を探究することである。20世紀において、原子、原子核、クォークと探究が続き、それは、ビッグバン後の宇宙における物質創生のシナリオの解明につながっている。一方、原子核の発見は、相対論・量子論と相まって、物質内部に存在する莫大なエネルギーを解放させることにつながり、原子爆弾や原子力発電の開発へと応用されていった。本講義科目では、現代物理学がもたらした新しい物質観やその応用として、電力とエネルギー、原子力発電について学ぶ。その基礎となる、量子論、相対論の内容も含む。	
	数理科学1a	数理的論理思考力を養うことを主要な目的とする。内容は、広い意味の代数とする。身近な生活や社会で使われている数学を題材に、その数学的理論の理解を目指す。また近年は社会科学や情報科学など様々な学問分野において数学的知識は必要不可欠であるため、他分野への応用を念頭に置いた講義を行う。数学は体系的な学問であるので、理論を理解するためには基礎からの積み重ねが重要である。高校までの数学で学修した初歩的な知識を出発点に、受講者の理解を確かめながら授業を進める。	
	数理科学1b	数理的論理思考力を養うことを主要な目的とする。内容は、広い意味の代数とする。身近な生活や社会で使われている数学を題材に、その数学的理論の理解を目指す。また近年は社会科学や情報科学など様々な学問分野において数学的知識は必要不可欠であるため、他分野への応用を念頭に置いた講義を行う。数学は体系的な学問であるので、理論を理解するためには基礎からの積み重ねが重要である。基礎的な知識を十分に復習しつつ、「数理科学1a」を踏まえた発展的な内容にも触れる。	
	数理科学2a	この科目では、広い意味での解析学・幾何学を取り扱い、数学の問題を通して論理的思考力を養うことを主要な目的とする。具体的には、位相幾何、非ユークリッド幾何、フラクタル幾何、複素平面、関数論、確率論などの分野から、受講者にとって、興味をもて適切と思われる題材を選んで講義をする。数学は体系的な学問であるので、初歩的な基礎部分から丁寧に解説し、応用まで理解することを目指す。なお、この科目では基礎的な部分に重点を置いて講義する。	
	数理科学2b	この科目では、広い意味での解析学・幾何学を取り扱い、数学の問題を通して論理的思考力を養うことを主要な目的とする。具体的には、位相幾何、非ユークリッド幾何、フラクタル幾何、複素平面、関数論、確率論などの分野から、受講者にとって、興味をもて適切と思われる題材を選んで講義をする。数学は体系的な学問であるので、初歩的な基礎部分から丁寧に解説し、応用まで理解することを目指す。なお、この科目では「数理科学2a」を踏まえ、より進んだ発展的な内容を講義する。	
	数理科学3a	この科目では、現代社会において必要不可欠な学問である統計学を取り扱い、データ分析の基礎知識、および論理的思考力を養うことを主要な目的とする。具体的には、平均、標準偏差の定義や、グラフ表現を与えるという記述統計から始める。さらに、推測統計の導入として確率分布の話題を取り扱い、主要な確率分布の性質を紹介する。数学は体系的な学問であるので、初歩的な基礎部分から丁寧に解説し、応用まで理解することを目指す。なお、この科目ではデータ分析の基礎的な部分に重点を置いて講義する。	
	数理科学3b	この科目では、現代社会において必要不可欠な学問である統計学を取り扱い、データ分析の基礎知識、および論理的思考力を養うことを主要な目的とする。具体的には、標本分布論、推定論、検定論という推測統計の主要な話題を取り扱う。また、ベイズ統計や機械学習などの中から、受講者にとって、興味をもて適切と思われる題材を選んで講義をする。数学は体系的な学問であるので、初歩的な基礎部分から丁寧に解説し、応用まで理解することを目指す。なお、この科目では「数理科学3a」を踏まえ、より進んだ発展的な内容を講義する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自然科学系科目	科学論1a	実証主義に基づく現代科学の本質およびその方法論について講義形式で授業展開する。到達目標は以下の2つ。(1)現代の科学の根幹は実証主義にあり、観測や実験を通じて自然法則や基本法則の探求を目指している。その方法論が導入された歴史的な経緯を様々な科学史的事例を通して学び、その科学的方法論の本質について理解すること。(2)科学的方法論が現代の実生活／実社会においてどのように適用、応用されているかを認知すること。科学論1aにおける授業計画としては、次の2つのテーマを主な題材とする。(1)自然淘汰による適応／進化論について、人類がどのような紆余曲折を経て正しい理解へと到達してきたのか(2)宇宙の巨視的な構造を人類がどのように認知してきたのか。	
	科学論1b	実証主義に基づく現代科学の本質およびその方法論について講義形式で授業展開する。到達目標は以下の2つ。(1)現代の科学の根幹は実証主義にあり、観測や実験を通じて自然法則や基本法則の探求を目指している。その方法論が導入された歴史的な経緯を様々な科学史的事例を通して学び、その科学的方法論の本質について理解すること。(2)科学的方法論が現代の実生活／実社会においてどのように適用、応用されているかを認知すること。科学論1bにおける授業計画としては、次の2つのテーマを主な題材とする。(1)集団で生活し、コミュニティを形成する動物の社会性について、人間のそれと比較し、動物としての人間とはなにか、あるいは人間性とはなにかを考える(2)自然界の極微の世界、すなわち原子や分子、素粒子の世界を人間はどのように認知してきたのか。	
	科学論2a	近代日本に特有の科学の理解の仕方とその歴史的背景を説き起こし、西洋科学の長い歴史をたどる中から成立の由来を探り、さらに近代科学に基づいた技術の力強さの秘密とそれが抱える問題点に言及する。そして科学がいかなる構造と射程をもつ知的営みであるのかを解説する。最後に高度な科学技術が制度化された現代社会が抱えている困難な諸問題について具体的事例を取り上げて論じる。個人個人の判断が迫られる現代社会においては、一人一人が科学的素養に基づき、適切な判断や選択をする必要がある。そのため、この授業では、受講生が、科学的知識に対する理解、科学的なものの考え方を身につけることができることを到達目標とする。	
	科学論2b	講義では人間を対象としていることから、生命はどのように誕生するのかといった人間の内なる環境が研究対象となる点で、生命の尊厳と深くかかわる。講義では「生命とは何か」、「ヒトはどのように進化してきたのか」、「地球環境問題と人間社会の持続的発展に必要なものは何か」、「高齢化社会と人口問題」、「生物多様性保全」など、生命科学に関わる重要な諸問題を理解するための知識と、科学的考え方を身につけるため、生命科学に関する基礎的知識を学習した後、続いて生理的側面から現代社会が直面するヒトの生命に関わる課題に対する理解を深め、そして、生命倫理や生命技術、生物多様性と生態系の保全といった現代社会と地球環境に関わる課題についても、生命科学的視点から論じる。	
	融合領域科目	学際科目1	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)東アジア世界がどのように形成されたかを説明することができる、(2)中国大陸・日本列島・朝鮮半島の古代文化の相違点と共通点を理解することができる、を到達目標とし、地域の多様性を示すひとつとして、東アジア世界を取り上げ、この東アジア世界が内部に多様性をもちつつも、ひとつの世界としてどのように形成され、変化していったのかについて講義形式で論ずる。
学際科目2		この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)東アジア世界の近代化を説明することができる、(2)東アジア地域における今日の課題を考察することができる、を到達目標とし、地域の多様性を示すひとつとして、東アジア世界を取り上げ、この東アジア世界が内部に多様性をもちつつも、ひとつの世界としてどのように変化していったのかについて、講義形式で論ずる。	
学際科目3		この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、法と社会に潜む「ジェンダー(社会的性差)」に気付き、自発的に「ジェンダー的知性」を開発できるようになることを到達目標とし、「ジェンダー」という言葉から始まり、何故、それが当たり前のもので社会に存在してきたのかについて、歴史から探ったうえで、法や社会のあらゆる場に存在する「ジェンダー」を知り、社会構造そのもののあり方、について講義形式で論ずる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目	学際科目4	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、ユニバーサルデザインやアクセシビリティ、ジェントロジーについての学習を通じて、(1)社会における高齢者や障がい者も含めた多様な人々が社会に参加する手段を考えることができる、(2)情報化社会で多様な人々がコンピューターやネットワークの恩恵を受けるために必要なことを考えることができる、(3)超高齢社会において必要な解決策に貢献することができる、を到達目標とし、高齢社会における課題を分析し、解決を目指す学問分野であるジェロントロジーについて紹介した上で、超高齢社会における課題解決策の中からユニバーサルデザインとアクセシビリティについて、アクティブ・ラーニングも取り入れながら、講義形式で論ずる。	
	学際科目5	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、パラスポーツ(障がい者スポーツ)に関心を持ち、そこにある課題を抽出したり、障がい者に対する日本の取り組みの課題点を探ることにより、解決のための具体的な方策を提案できる、を到達目標とし、パラスポーツ実践者や精通する専門家から、パラスポーツやそれを取り巻く現状、各々が直面している課題について解説してもらい、課題解決の方策を考える。	
	学際科目6	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、人類と自然環境との関連について、各専門分野の研究結果を知るとともに、より巨視的な観点から人間と自然環境の関わりを論じられるような多角的・総合的な見方を身につけられることを到達目標とし、人文科学・自然科学の立場から人類の文明論を踏まえた上で、人類の営みが自然環境と接触する場面を各分野の観点から、講義形式で論ずる。	
	学際科目7	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、映像、映画といったメディアに対して、裏に潜んでいるメッセージを探り出し、隠されている意味や意図を読み解くことができる、ことを到達目標とし、初期から今日に至るまでの映像表現の変遷を概観した上で、具体的な作品、テーマに従って作品を取り上げ、そこにおけるメッセージ性、文化、言語の問題(たとえば字幕)、隠された主題等を読み解きながら、今日的な映像表現のあり方を講義形式で論ずる。	
	学際科目8	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、普段、ふつうに目に触れたままになっているものや、見過ごしているもの(自然・民話・アニメ・食事・インターネット・ゲーム・新聞雑誌など)に対して、視点をずらして、そこにもう一度関連性を探ることによって、隠れていた意味を見出すことができる、を到達目標に、さまざまなテーマ、素材に触れながら、単に情報としてではなく、そこに自分なりの意味を見出し、さらに解決すべき問題を設定できるよう、講義形式で論ずる。	
	学際科目9	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、アジアの思想の基本を理解すると同時に、それにおける身体観を理解し、身体の問題を自分自身でも考えられるような問題意識を持つことを到達目標とし、アジアの身体観を考えることによって、身体を精神と切り離して考えたり、機械的な部分品の集合と考えたりしがちな私たちの身体観を再考するしつつ、日本や西欧の身体観とも比較しながら、アジア的な身体観の特徴について、講義形式で論ずる。	
	学際科目10	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、(1)ベトナムの経済及び産業・社会・文化の情勢について理解すること、(2)ベトナムの現況について説明できることを到達目標とし、現代のベトナムへの理解を深めるために、ベトナムの現況を経済、産業、社会、文化など様々な分野から検討し、ベトナム社会のありようを学際的、かつ実証的に明らかにする。本講義は講義形式で行われる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目	学際科目11	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義は、(1)グローバリゼーションの現状と課題を理解し、「持続可能な消費」のあり方を能動的に考えることができる、(2)ロジカルシンキングの手法を身につけることができる、(3)チーム内の合意形成の手法を身につけることができる、を到達目標とし、生活および生活者が直面するグローバリゼーションのメリットとデメリット、生じている課題を生活者・市民の視点に立って検証する、「持続可能な消費」を兼ね備えた「豊かな社会」のあり方について、講義のほか、ワークショップやグループディスカッションなどのアクティブ・ラーニングも取り入れた形式で行う。	
	学際科目12	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義は、(1)メディアコンテンツの産業・市場・政策、(2)メディアコンテンツの事業の設計と運用(製作)、(3)メディアコンテンツの表現・制作工程と技術について、具体的な事例を通して理解できる、を到達目標とし、メディアコンテンツ領域の総体を、表現・制作、製作・事業プロデュース、産業・市場、政策、技術など専門的な視点からのアプローチを通して学習していく。講義形式で行うが、ディスカッションなどのアクティブ・ラーニングも取り入れた形式で行う。	
	テーマ科目	この科目は、新しい領域のテーマに柔軟に対応することや特定の学問領域の理解を深め、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。(1)「環境」概念や環境思想の歴史の変遷を理解し、自分の言葉で説明できる、(2)「環境」概念や環境思想の発生と変化の背後にあった、政治的・経済的・社会的な要因を理解することで、ヨーロッパとアメリカの社会が近代以降たどった歴史的变化を理解できる。(3)「環境」や「自然」という概念について、歴史的な知識に基づく自分なりの理解を形作る、を到達目標とし、世界的に大きな影響を及ぼした、ヨーロッパとアメリカにおける環境思想の発展を中心に、その歴史を講義形式で概観する。	
	新領域科目1	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、(1)専修大学の歴史について概略を説明できる、(2)専修大学が誰によって、どのような目的で設立されたのかを説明できる、を到達目標とし、専修大学の歴史のみならず、日本近現代の政治・経済・社会・文化において大学や学生がどのような役割を果たしたのかについて、講義形式で論ずる。	
	新領域科目2	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、(1)大学卒業時に学生が自身の働き方を選択するにあたり、より広い選択肢を認識できる、(2)パラレルワークに代表される次世代の働き方の意義を理解できる、(3)自らのキャリアに関心をもち、必要な内容に関しては自ら調べ、考える態度を持つ、を到達目標とし、将来の職業選択の考え方のフレームワークを身につけるために、講義形式とディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングも取り入れた形式で行う。	
	新領域科目3	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、(1)海洋と人文科学・社会科学との関連について理解し、説明することができる、(2)海洋の自然科学的な性質や特徴を理解し、説明することができる、(3)海洋を取り巻く諸問題を取り上げ、その解決策を提案できる、を到達目標とし、地球環境のみならず、文化や政治・経済の面で人間生活に大きな影響を与える「海洋」について、講義形式で論ずる。	
	新領域科目4	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)スポーツデータを中心としたビッグデータの活用事例を理解する、(2)人口統計データの分析を通して高齢化社会の経済と諸問題を理解する、(3)機械学習による予測手法の概要と使用法を理解する、(4)問題解決にあたってビッグデータ活用を計画し実践できる、を到達目標とし、現代社会の諸領域のビッグデータの理解と融合することで統計リテラシーを高め、人口統計データの分析方法や機械学習による予測手法を学ぶことでビッグデータ活用を身近な課題と捉えてデータの収集分析から問題解決につなげる方法を習得する。講義形式を基本としつつ、統計解析ソフトを実際に用いるなどの形式で行う。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
融合 領域 科目	新領域科目5	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、眼前のランドスケープの機能や構造を成立させているシステムやメカニズムを捉える様々な論点・見方があることを理解し、ヒト、社会、自然生態系の相互関係を複眼的・総合的に思考できる力を獲得することを到達目標とし、都市域、農村地域、自然公園など、多様な環境特性のもとで展開されている事例を対象に、生態学(植物、動物)、社会学(観光・ツーリズム)、造園学(庭園、公園緑地)、地域計画学(都市・農村)、法制度論など学際的視点から、ヒト、社会、環境との相互関係の理解を深め、持続可能な社会を実現する上での課題について、講義形式で論ずる。	
	キャリア科目1	本科目は、業界・業種、職業・職種といった「環境の理解」を通して、志望する業界・業種、職業・職種、企業を選べる能力の習得を目的とする。具体的には企業組織論や産業論の観点から、今後の企業組織や産業社会の展望の理解を深めながら、自分のキャリアに対する考え方を確認し、多方面から招く実務者の講義とグループワークで理解の定着を図る。これらから、自らが描いたキャリアデザインを実現できる業界や職種を具体的にイメージし、そのために必要な能力開発する計画を展望できるようにする。	
	キャリア科目2	本科目は、企業が抱える現実の問題の解決方法を考えるプロセスを通じて、仕事を遂行するために必要な能力について理解し、自己のキャリアについて考えを深めることを目的とする。具体的には、協力企業から提示された現実の問題に対しチームで取り組みながら、プロジェクト・マネジメントを中心としたチーム学習および課題解決の技法を用いて問題を多面的に分析し、解決策を提示する。講義ではディスカッションとプレゼンテーションを複数回実施し、定期的に企業の方から感想をもらう。これらを通じて、「キャリアデザインに必要な力」の中で特に「プレゼン力」「論理思考力」「人間関係構築力」「課題解決力」を養う。最後にこのプロセスを通した学びを自分のキャリアに対する考え方に照らし合わせ、残りの学生生活と自身の将来の進路について具体化する。	
	教養テーマゼミナール1	小人数の相互コミュニケーション的教育を行うことを重視し、「教養テーマゼミナール」を設置している。この「教養テーマゼミナール」は、学部の枠にしばられずに学部横断的に履修することができるので、異なった学部の学生が共に学び、議論することができるという特徴がある。研究テーマは自然科学から演劇、スポーツまで幅広く、専門領域を超え、広い視野を身に付けることができる。「教養テーマゼミナール1」では、一次資料の正しい使い方、二次資料の批判的な読み込み方、及び創造的論考の修練を身につけることを目的としている。	
	教養テーマゼミナール2	小人数の相互コミュニケーション的教育を行うことを重視し、「教養テーマゼミナール」を設置している。この「教養テーマゼミナール」は、学部の枠にしばられずに学部横断的に履修することができるので、異なった学部の学生が共に学び、議論することができるという特徴がある。「教養テーマゼミナール2」では、「教養テーマゼミナール1」で得た基礎的知識をもとに、自分で掲げた課題についての考察を行うことを目的としている。	
	教養テーマゼミナール3	小人数の相互コミュニケーション的教育を行うことを重視し、「教養テーマゼミナール」を設置している。この「教養テーマゼミナール」は、学部の枠にしばられずに学部横断的に履修することができるので、異なった学部の学生が共に学び、議論することができるという特徴がある。「教養テーマゼミナール3」では、これまでに学習してきた資料の取り扱いや、具体的な分析を通じて、各自が独自の視点で、どのように個々の問題にアプローチし、全体的に把握していくかということの問題にし、教養ゼミナール論文の執筆を前提としている。	
	教養テーマゼミナール論文	「教養テーマゼミナール論文」の執筆を求めるこの科目では、それぞれの関心にもとづいて、研究論文をまとめることを求められる。既に学んでいる資料の取り扱い方を基本に、ゼミナールで行っている研修などを元にしたテーマの選択がまずは問題となる。なお、執筆に際しては、個々の学生に具体的な指導が行われる。執筆したものについては、単位認定の他に、年度末に実施される、教養テーマゼミナール論文発表会での発表が求められる。	
保健 体育 系 科目	スポーツリテラシー	授業形態:実技形式。目標:多様な文化的価値を持つスポーツについて、適切な理解と解釈をもって実践できる能力を養う。スポーツによる学士力の養成と心身の健康の保持増進に取り組むことができる能力を身につける。概要:スポーツは、年齢・性別・障がいの有無を問わず広く行われており、コミュニケーションツールとしてもその価値は高い。その楽しみ方は、競技的なものからレクリエーション的なものまで多岐に渡る。スポーツが有する様々な可能性に触れて身体知を養うことでスポーツ文化を総合的に理解し、問題解決に取り組むことのできる能力を身につけ、共に学ぶ仲間作りの場としてのスポーツを実践する。併せて、スポーツを媒介にして学生間の意思疎通能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養い、共に学ぶ仲間作りの場としてのスポーツを実践する。スポーツの様々な可能性について理解するとともに、生涯スポーツへつなげる足がかりとする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健体育系科目  教養科目	スポーツウェルネス	授業形態:実技形式。目標:スポーツの価値を認識し、その活動を学生生活に取り込み、自分の心身の状態を認識し、健康の保持増進に継続して取り組む事ができる。概要:スポーツの実践を通じて健康の保持・増進や生活習慣病の予防・体力の向上、ストレスの解消といった体と心に関する効果をはじめ、仲間作りやフェアプレー、チームワークの醸成といった社会的効果(=スポーツの価値)が認められている。また、スポーツには「する」だけでなく「見る」「支える」スポーツによる生甲斐づくりに貢献できる特徴がある。スポーツウェルネスとはこのような様々な効果を有するスポーツを通じたウェルネスの活動である。スポーツの効果や価値を認識し、自分の価値観や人生観に基づき、より良く生きるための手段としての健康を追求し、自らスポーツを実践できる能力を身につけ、生涯にわたって何らかのスポーツを継続していくことができる能力を養う。	
	アドバンススポーツ	授業形態:実技形式。目標:各スポーツの特徴や構造を理解し、さまざまな状況に応じた技術や戦術を選択・実践することでスポーツの楽しみを広げ、生涯に渡り安全かつ健康的な生活を営む能力を養う。概要:スポーツを専門的レベルから学び、幅広い知識と専門性の高い技術の獲得とともにトップアスリートとの交流、審判やマッチメイク等のマネジメントについての学習などにより、スポーツをライフスタイルの中に取り込み、生涯にわたり身体的、精神的、社会的に健康で豊かな生活を送る能力を身につける。	
	スポーツ論(健康と生涯スポーツ)	授業形態:講義形式。目標:スポーツ・運動に関する知識だけでなく、現代社会における生活習慣も問題点、食生活、ダイエットなどについて正しい知識を身につける。概要:わが国は科学や医学の大きな進歩、発展により平均寿命は世界でもトップの長寿国となっているが、その反面、肥満、高血圧、心理的ストレスといった生活習慣病や環境の変化にともなうストレス等に悩まされる人が多く、現代社会で生活していく人々にとって、いかに健康を維持・増進していくかが大きな問題になっている。どのように健康増進、体力向上に結びつくのか、スポーツ・運動することによってどのような効果が見られるのかを学び、自分自身のよりよい生活を送れる方法として生涯スポーツを学ぶ。	
	スポーツ論(オリンピックとスポーツ)	授業形態:講義形式。目標:オリンピックの歴史的背景や取り巻く環境を理解する。トップレベルのコンディショニングのプロセスを理解する。スポーツ科学を通して人間の可能性について学び、競技スポーツと生涯スポーツとの共通点、相違点を理解する。概要:オリンピックなど世界的な競技力向上を目指すためには、最新の知識やトレーニング方法などの必要性で、スポーツ科学を無視することはできない。また、勝利を得るためには、選手の才能や努力はいうまでもなく、彼らを支えるコーチ、メディカルスタッフ、トレーナーなどのサポート環境が不可欠である。これらについて、日本と世界における環境の違いを紹介する。オリンピックを目指すコンディショニングについては、科学的手法を用いて主観的感覚を客観的事実として導き出し整理する。本講義では、オリンピックの歴史的背景からスポーツ科学の必要性を見つめ、さまざまな学問的領域から包括的に捉える。	
	スポーツ論(スポーツコーチング)	授業形態:講義形式。目標:スポーツコーチングに関する正しい知識を身につけ、現場で役立てられるようにする。また、現役選手として活動している学生にとっても、有意義なスポーツライフを送ることができるよう、自身のコーチとしての知識やスキルを身につける。概要:コーチには選手を育成するうえで、選手個人やチームを対象に広い視野から身につけておくべき知識やスキルがある。本講義ではコーチング哲学、人格教育とスポーツマンシップ、発育発達と多様な選手へのコーチング、評価活動とコーチング計画の立案、チームマネジメント、コミュニケーションスキル、スポーツ心理学、スキル指導の原則、スポーツバイオメカニクス、フィジカルトレーニングの原理・原則、薬物教育とスポーツ栄養学、スポーツ外傷・障害予防と対策、コーチングへのICT活用など、コーチに求められる知識やスキルを理解し、現場での実践的なスポーツコーチングを学ぶ。	
	スポーツ論(スポーツライフデザイン論)	授業形態:講義形式。目標:運動・栄養・休養と身心との関わりを理解し、将来的により健全な生活を送るための方法を思索し実践することができる。概要:子どもの体力・運動能力の低下とともに、学力・意欲の低下が懸念されている。一方、超高齢少子化社会へと進む中でメタボやロコモの概念が広がり、それらへの対策が課題となっている。近年、運動が身体のみならず、脳や心にも良い効果を生み出す数多くの研究成果が発表され、改めてスポーツのQOL向上への貢献が期待されている。大学生は身体的、精神的に成熟へと向かう発育発達の最終段階ともいえる大事な時期であり、社会人として自立した生活を営む準備期間となりえる。スポーツ・運動に関する有益な情報を整理し、客観的なデータを得ながら実践を試み、今を豊かに、そして未来を豊かに生きる力を養うことを目的とする。生活習慣を改善する一助とし、これからのスポーツライフマネジメントに役立ててほしい。	
	スポーツ論(人類とスポーツ)	授業形態:講義形式。目標:世界中で昔から親しまれてきたさまざまな身体活動やスポーツの歴史的・文化的背景を学ぶことにより、世界を知り、国際人たる幅広い視野を身につけていく。概要:スポーツや身体活動を人類学・社会学的視点から学ぶ。近代に創られたスポーツがどのような経緯で世界に拡大し、日本でのように受容されていったかを捉え、“ヒト”と“スポーツ”あるいは“身体活動”の関わり合いを深く探究し、これまで知らなかった世界の姿を理解し、国際人となるために広い視野を身につけ、近代社会から現代社会でのスポーツの変容を理解できるようになる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健 体育 系科目	スポーツ論(トレーニング科学)	授業形態:講義形式。目標:スポーツの指導的立場にいたり、将来、スポーツとの関わりを志したりする学生が、スポーツトレーニングに関する正しい知識を身につける。概要:スポーツにおける人間の限界への挑戦は、科学的で合理的なトレーニングが求められ、情報戦、心理戦といった高等戦術が駆使される。勝つためにはどのようなことを心得ておけばいいか。どのような科学的トレーニングや戦術の組み立てをしたらいいか。身体能力を高めるためにはどうしたらいいか。スポーツする「からだ」を直接の対象とし、スポーツを行うときの「からだ」はどのように変化するか。運動という負荷に対し「からだ」はどのように反応し、適応するか。こうした問いをスポーツトレーニングという意味空間に限定し、その根拠を探ろうとする。	
外国 語科目	英語		
	Basics of English (RL) 1a	入学後に実施するプレースメントテストの成績に基づき、高校までの学習が十分に定着していないと判断された層に向けた基礎的な演習を行う。英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を得ること、英語を用いて、基本的な情報を正確に読み取り、聴き取ること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。高校レベルの文法の復習・定着と約2,300語の習得を目安とし、大学での語学学修の土台作りをするが、そのための教材選択と授業運営方法は担当者に任されている。	
	Basics of English (RL) 1b	高校までの学習が十分に定着していないと判断された層に向けて基礎的な演習を行い、1年次前期に学んだ内容の定着をはかる。前期の未習内容に関して、英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を得ること、英語を用いて、基本的な情報を正確に読み取り、聴き取ること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。高校レベルの文法の復習・定着と約2,300語の習得を目安とし、大学での語学学修の土台作りをするが、そのための教材選択と授業運営方法は担当者に任されている。	
	Intermediate English (RL) 1a	入学後に実施するプレースメントテストの成績に基づき、高校までの学習成果が一定の基準に達していると判断された層に向け、読解力と聴取力を養成するための演習を行う。習熟度によってHigh、Midの2レベルに分け、それぞれに適した教材・タスクを課しながら指導する。英語の文法・語彙・音声について実践的な知識を得ること、英語を用いて、情報や価値観を正確に読み取り、聴き取ることができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。Midレベルでは約3,000語の習得を目指し、Highレベルでは4,000語水準に近づく習得を目安とするが、そのための教材選択と授業運営方法は担当者に任されている。	
	Intermediate English (RL) 1b	入学後に実施するプレースメントテストの成績に基づき、高校までの学習成果が一定の基準に達していると判断された層に向け、読解力と聴取力を養成するための演習を行い、1年次前期に学んだ内容の定着をはかる。習熟度によってHigh、Midの2レベルに分け、それぞれに適した教材・タスクを課しながら指導する。前期の未習内容に関して、英語の文法・語彙・音声について実践的な知識を得ること、英語を用いて、情報や価値観を正確に読み取り、聴き取ることができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。Midレベルでは約3,000語の習得を目指し、Highレベルでは4,000語水準に近づく習得を目安とするが、そのための教材選択と授業運営方法は担当者に任されている。	
	Basics of English (SW) 1a	入学後に実施するプレースメントテストの成績に基づき、高校までの学習が十分に定着していないと判断された層に向けた基礎的な演習を行う。英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を得ること、英語を用いて、身近なことから表現することができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。基本的な表現を学び簡単な和文英訳及び初歩的な会話ができるように指導を行うが、そのための教材選択と授業運営方法は担当者に任されている。	
	Basics of English (SW) 1b	入学後に実施するプレースメントテストの成績に基づき、高校までの学習が十分に定着していないと判断された層に向けた基礎的な演習を行い、1年次前期に学んだ内容の定着をはかる。前期の未習内容に関して、英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を得ること、英語を用いて、身近なことから表現することができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。基本的な表現を学び簡単な和文英訳及び初歩的な会話ができるように指導を行うが、そのための教材選択と授業運営方法は担当者に任されている。	
Intermediate English (SW) 1a	入学後に実施するプレースメントテストの成績に基づき、高校までの学習成果が一定の基準に達していると判断された層に向け、英語表現力を養成するための演習を行う。習熟度によってHigh、Midの2レベルに分け、それぞれに適した教材・タスクを課しながら指導する。英語の文法・語彙・音声について実践的な知識を得ること、英語を用いて、自分の考えや判断を表現することができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。基本的な和文英訳に加えて簡単なパラグラフによる作文ができ、簡単な会話ができるように指導を行うが、そのための教材選択と授業運営方法は担当者に任されている。		

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 英語	Intermediate English (SW) 1b	入学後実施するプレイズメントテストの成績に基づき、高校までの学習成果が一定の基準に達していると判断された層に向け、英語表現力を養成するための演習を行い、1年次前期に学んだ内容の定着をはかる。習熟度によってHigh、Midの2レベルに分け、それぞれに適した教材・タスクを課しながら指導する。前期の未習内容に関して、英語の文法・語彙・音声について実践的な知識を得ること、英語を用いて、自分の考えや判断を表現することができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。基本的な和文英訳に加えて簡単なパラグラフによる作文ができ、簡単な会話ができるように指導を行うが、そのための教材選択と授業運営方法は担当者に任されている。	
	General English	必修科目であるBasics of English, Intermediate Englishの単位を修得できなかった者を対象とした、再履修者用の演習科目である。苦手意識を克服して次のステップへ進めるよう、4技能を満遍なく補習させることで語学学修の土台作りをする指導を行う。基本的な英文法・語彙・音声の復習を行い、確実に身につけること、平易な英語による情報を正確に読み取ったり聴き取ったりできること、平易な英語で身近なことがらについて表現することができることを目標とする。	
	English Speaking a	英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目である。英語母語話者による授業を通じて、英語で円滑なコミュニケーションができるようになることを目指すほか、異文化に関心を持ち、国際社会の一員として協調してゆける知識と態度を身につけることを目標とする。授業中の活動としては、(1)実用的な文法知識を確認しながら発音と会話速度を向上させる活動、(2)日常生活で使われる基本的な会話を練習する活動、(3)異文化について学習する活動などがある。また、授業で扱ったトピックについてペアで、あるいは小グループで話し合う活動も含まれるが、どのトピック及び活動に特化した授業を設定するかは担当者に任されている。	
	English Speaking b	英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目である。英語母語話者による授業を通じて、英語で円滑なコミュニケーションができるようになることを目指すほか、異文化に関心を持ち、国際社会の一員として協調してゆける知識と態度を身につけることを目標とする。授業中の活動としては、(1)実用的な文法知識を確認しながら発音と会話速度を向上させる活動、(2)日常生活において有用で発展的な会話を練習する活動、(3)異文化についてより理解を深める活動などがある。また、授業で扱うトピックについてペアで、あるいは小グループで話し合う活動も行うが、どのトピック及び活動に特化した授業を設定するかは担当者に任されている。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。	
	Computer Aided Instruction a	英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目であるが、自律的、持続的な学修を特に習慣づけるため、1年次からも履修できることとする。主にe-learning教材を使用し、学生はシステムを利用して毎週決められた最低限の時間以上の英語学習を各自で行い、教員のサポートを受けることで、英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を身につけることを目標とする。毎回の授業では各自の学習が十分効果的に行われているかを確かめるための様々な総合的演習を行う。	
	Computer Aided Instruction b	英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目であるが、自律的、持続的な学修を特に習慣づけるため、1年次からも履修できることとする。主にe-learning教材を使用し、学生はシステムを利用して毎週決められた最低限の時間以上の英語学習を各自で行い、教員のサポートを受けることで、英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を身につけることを目標とする。毎回の授業では各自の学習が十分効果的に行われているかを確かめるための様々な総合的演習を行う。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。	
	Computer Aided Instruction for TOEIC a	英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目であるが、自律的、持続的な学修を特に習慣づけるため、1年次からも履修できることとする。主にe-learning教材を使用し、学生はシステムを利用して毎週決められた最低限の時間以上の英語学習を各自で行い、教員のサポートを受ける。毎回の授業では各自の学習が十分効果的に行われているかを確かめるための様々な総合的演習を行う。英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を身につけることを目標とするほか、TOEICに対応できる英語力の養成を目指す。	
	Computer Aided Instruction for TOEIC b	英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目であるが、自律的、持続的な学修を特に習慣づけるため、1年次からも履修できることとする。主にe-learning教材を使用し、学生はシステムを利用して毎週決められた最低限の時間以上の英語学習を各自で行い、教員のサポートを受ける。毎回の授業では各自の学習が十分効果的に行われているかを確かめるための様々な総合的演習を行う。英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を身につけることを目標とするほか、TOEICに対応できる英語力の養成を目指す。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  英語	Advanced English a	必修英語の履修を終えた後、さらに英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目である。英語の文法・語彙・音声について、発展的、実践的な知識を身につけるほか、実用英語技能検定、TOEFL、TOEICなどの資格試験に対応できる英語力を目指す。例えば、語彙力・聴取力・発話力・文法知識など特定の力の増強を図る授業、日本語を介さずに英文を解釈し論じる授業、資格試験での得点アップを目標とする授業など、内容は多種多様となる。どのスキル、あるいはトピックに特化した授業を設定するかは担当者に任されている。	
	Advanced English b	必修英語の履修を終えた後、さらに英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目である。英語の文法・語彙・音声について、発展的、実践的な知識を身につけるほか、実用英語技能検定、TOEFL、TOEICなどの資格試験に対応できる英語力を目指す。例えば、語彙力・聴取力・発話力・文法知識など特定の力の増強を図る授業、日本語を介さずに英文を解釈し論じる授業、資格試験での得点アップを目標とする授業など、内容は多種多様となる。どのスキル、あるいはトピックに特化した授業を設定するかは担当者に任されている。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。	
	English Language and Cultures a	必修英語の履修を終えた後、さらに英語や英語圏の文化についての知識を増強することを目指す学生向けの選択科目である。英語や英語圏の文化などに関する幅広い内容を教材として、英語運用能力を身につけること、異文化に関心を持ち、国際社会の一員として協調してゆける知識と態度を身につけることを主たる目標とする。例えば、特定の文化圏や作家・作品、音楽や映画を題材に、差別や人権、戦争、移民といった社会問題について考えさせたり、ディスカッション、プレゼンテーションを課してコミュニケーション能力の増強を図ったりする授業を展開するが、どのような側面を切り口にするかは担当者に任されている。	
	English Language and Cultures b	必修英語の履修を終えた後、さらに英語や英語圏の文化についての知識を増強することを目指す学生向けの選択科目である。英語や英語圏の文化などに関する幅広い内容を教材として、英語運用能力を身につけること、異文化に関心を持ち、国際社会の一員として協調してゆける知識と態度を身につけることを主たる目標とする。例えば、特定の文化圏や作家・作品、音楽や映画を題材に、差別や人権、戦争、移民といった社会問題について考えさせたり、ディスカッション、プレゼンテーションを課してコミュニケーション能力の増強を図ったりする授業を展開するが、どのような側面を切り口にするかは担当者に任されている。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。	
	English Presentation a	グローバル社会で活躍していきたい学生のニーズに応えるための選択科目である。自己紹介や身近な話題について英語で発表することから始めて、卒業や留学時に必要となるアカデミック・プレゼンテーションや、将来ビジネスの現場で必要となる様々なビジネス・プレゼンテーションの方法を実践的に学ぶ。英語を用いて、自分の考えや判断を口頭で発表し効果的に伝達することができること、英語を媒介として、国際社会の諸問題について論理的・分析的に思考することができることを目標とする。トピックの選択、及び授業運営方法は担当者に任されている。	
	English Presentation b	グローバル社会で活躍していきたい学生のニーズに応えるための選択科目である。自己紹介や身近な話題について英語で発表することから始めて、卒業や留学時に必要となるアカデミック・プレゼンテーションや、将来ビジネスの現場で必要となる様々なビジネス・プレゼンテーションの方法を実践的に学ぶ。英語を用いて、自分の考えや判断を口頭で発表し効果的に伝達することができること、英語を媒介として、国際社会の諸問題について論理的・分析的に思考することができることを目標とする。トピックの選択、及び授業運営方法は担当者に任されている。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。	
	English Writing a	グローバル社会で活躍していきたい学生のニーズに応えるための選択科目である。平易な英語による自己表現、メール・手紙の書き方、パラグラフの展開の仕方、小論文(essay)の書き方などを段階的・実践的に学んでいく。正確で明晰な英語の文章によって、自分の考えや判断を表現することを目指すほか、英語を媒介として国際社会の諸問題について論理的・分析的に思考できることを目標とする。どのライティング・スキルやトピックに特化した授業を設定するかは担当者に任されている。	
English Writing b	グローバル社会で活躍していきたい学生のニーズに応えるための選択科目である。平易な英語による自己表現、メール・手紙の書き方、パラグラフの展開の仕方、小論文(essay)の書き方などを段階的・実践的に学んでいく。正確で明晰な英語の文章によって、自分の考えや判断を表現することを目指すほか、英語を媒介として国際社会の諸問題について論理的・分析的に思考できることを目標とする。どのライティング・スキルやトピックに特化した授業を設定するかは担当者に任されている。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。		

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英語	Screen English a	より実際のな言語使用場面(context)における英語の運用能力を育成することを目指す学生向けの選択科目である。主に映画を教材として使用し、映画ならではの英語口語表現のパターンや特徴の実例に慣れ親しむことで、口語英語の文法・表現・音声について、基礎的な知識を得ることを目標とする。また、映画作品の背景にある文化や社会についての知識を深めることもある。教材とする映画の選択、どのスキル、あるいはどのトピックに特化した授業を設定するかは担当者に任されている。	
	Screen English b	より実際のな言語使用場面(context)における英語の運用能力を育成することを目指す学生向けの選択科目である。主に映画を教材として使用し、映画ならではの英語口語表現のパターンや特徴の実例に慣れ親しむことで、口語英語の文法・表現・音声について、基礎的な知識を得ることを目標とする。また、映画作品の背景にある文化や社会についての知識を深めることもある。教材とする映画の選択、どのスキル、あるいはどのトピックに特化した授業を設定するかは担当者に任されている。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。	
外国語科目	ドイツ語初級1a	ドイツ語の入門科目であり、「読む」「聞く」「話す」「書く」の四技能を、バランスよく学ぶことを目的とする。基本的かつ実践的な語彙や表現を繰り返し練習することによって、初級に求められる基礎表現を修得する。ドイツ語初級1aでは、まず発音の練習を重点的に行い、ドイツ語に特有の発音やリズムを学修する。さらに、ドイツ語圏の社会や文化などに関する基礎的な知識を併せて学ぶことで、その理解を深め、ドイツ語圏への関心を高める。	
	ドイツ語初級1b	ドイツ語初級1aに引き続き、「読む」「聞く」「話す」「書く」の四技能をバランスよく学び、ドイツ語の運用能力を養う。具体的には、実践的な語彙や表現を繰り返し練習することによって、初級レベルに必要な基礎表現を習得する。ドイツ語初級1bにおいては、単語の個々の発音でなく、文全体としてのイントネーションやリズムに注意しながら声に出して「読む」ことを重視する。さらに、社会や文化に関してより深い理解を目指し、中級への橋渡しとする。	
	ドイツ語初級2a	ドイツ語初級2aは、ドイツ語初級1aと連動しながら、ドイツ語の基本的な文法規則を、体系的に学んでいく。さらに、インターネットなどを通じて、授業外での学生の自律的な学修を促す。ここで習得すべき主要な文法項目は、アルファベットと基礎的な発音、動詞の現在人称変化、冠詞類の変化、複数、人称代名詞、前置詞、助動詞である。これらの学修を通じて、ドイツ語の基礎的な運用能力の定着を図るとともに、ドイツ語を通じた直のドイツ文化理解を深める。	
	ドイツ語初級2b	ドイツ語の基本的な文法規則を体系的に学ぶだけでなく、授業外での自律的な学修を促す。ドイツ語初級2bで習得すべき主要な文法項目は、複合動詞、未来時制、三基本形、過去と完了である。なお、形容詞の用法、付加語形容詞の格変化語尾、再帰動詞、再帰代名詞は教科書、単元に応じて、ドイツ語初級2aもしくはドイツ語初級2bで適宜扱う。また形容詞・副詞の比較変化、受動態、関係代名詞、z不定詞、接続法はドイツ語中級1aで学修する。	
	フランス語初級1a	フランス語初級1aは、フランス語の入門科目として、基礎となる発音、綴り字の読み方、会話におけるリズムなどの習得を目標に、練習を行う。さらに日常における会話表現や語彙を習得することを、第二の目的とする。文法事項の整理を行いながら、実際の言葉の運用面を重視した授業を展開し、フランス語によるコミュニケーション能力の充実を図るとともに、フランスおよびフランス語圏の文化に対する理解を深めることを目指す。具体的には、アルファベからスタートし、動詞の運用などに注意しながら、フランス語の特色を理解する。	
	フランス語初級1b	フランス語初級1bは、フランス語の入門科目としてフランス語初級1aの後を受け、引き続き日常における会話表現や基礎となる語彙を習得し、いっそう充実させることを目的とする。具体的には、動詞の使い方を軸に、直説法による表現、さらに条件法、接続法の使い方まで視野にいたれた展開をする。実際の言葉の運用面を重視した授業を展開し、十分に口語によるフランス語によるコミュニケーション能力の充実を図るとともに、フランスおよびフランス語圏の文化に対する理解を深めることを目指す。	
	フランス語初級2a	フランス語の入門科目として、基礎となる文法事項の習得を目標とした授業を行う。フランス語初級2aでは、学修対象を名詞グループ、動詞グループの二つに大きく分けた上で、フランス語学習上最低限必要と思われる主語および動詞の機能を、名詞、冠詞、形容詞、動詞(現在形)およびそれに付随する要素の組み立てを中心に学習し、主にコミュニケーション力を養うフランス語初級1aの授業と連動しつつ、ここではフランス語を書くこと、および書かれたフランス語の理解力を養成する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  英語以外の外国語	フランス語初級2b	フランス語の入門科目として、初級2aの後を受け、基礎となる文法事項の習得を目標とした授業を行う。初級2bでは、主として動詞グループの使い方に焦点を当てた上で、フランス語学習上最低限必要と思われる動詞の機能を、過去、未来、仮定表現、意思表示としてどのように扱うかを学習し、主にコミュニケーション力を養う初級1bの授業と連動しつつ、ここではフランス語を書くこと、および書かれたフランス語の理解力のいっそうの養成を目指す。	
	中国語初級1a	中国語を初めて学ぶ学生を対象に、まず発音とピンイン表記の修得を目指す。続いて、基礎的な語法の修得、例えば「是」を使った構文、形容詞述語文、「来」「去」「吃」「看」など基礎的な動詞を用いた構文、「有」を使った構文などを学習する。学部によっては、同一の教科書を用い、週2回の授業(初級1a、初級2a)を連動させて運営し、受講生の習熟度の向上に努めている。「読(読む)」「説(話す)」「聴(聴く)」「写(書く)」の最も基礎的な総合力を養う。	
	中国語初級1b	初級1aの後を受け、発音とピンイン表記を再度確認しつつ、より進んだ語法の修得を目指す。具体的には、補語(状態補語、結果補語、方向補語、可能補語など)、助動詞、「了」「着」などを用いた動態の表現、使役構文、処置式などの修得が含まれる。これらは日本人学習者には修得が困難なものであり、また、中級以降の学習に必須の事項であるだけに、反復練習による地道な学習が欠かせない。なお、初級1aの場合と同様、週2回の授業を連動させて、受講生の習熟度の向上を図っている学部もある。初級1b修了の時点では、中級に進むのに必要な初級の文法事項を修得し、比較的容易なレベルの「読」「説」「聴」「写」が出来るようになる。	
	中国語初級2a	中国語を初めて学ぶ学生を対象に、まず発音とピンイン表記の修得を目指す。続いて、基礎的な語法の修得、例えば「是」を使った構文、形容詞述語文、「来」「去」「吃」「看」など基礎的な動詞を用いた構文、「有」を使った構文などを学習する。学部によっては、同一の教科書を用い、週2回の授業(初級1a、初級2a)を連動させて運営し、受講生の習熟度の向上に努めている。その際、初級1aを主として語法の修得に充て、初級2aはそれを用いた実用的な訓練に充てる等の工夫も行っている。「読(読む)」「説(話す)」「聴(聴く)」「写(書く)」の最も基礎的な総合力を養う。	
	中国語初級2b	初級1aの後を受け、発音とピンイン表記を再度確認しつつ、より進んだ語法の修得を目指す。具体的には、補語(状態補語、結果補語、方向補語、可能補語など)、助動詞、「了」「着」などを用いた動態の表現、使役構文、処置式などの修得が含まれる。これらは日本人学習者には修得が困難なものであり、また、中級以降の学習に必須の事項であるだけに、反復練習による地道な学習が欠かせない。なお、初級1aの場合と同様、週2回の授業を連動させて、受講生の習熟度の向上を図っている学部もある。その際、2aを主として語法の修得に充て、初級2bはそれを用いた実用的な訓練に充てる等の工夫も行っている。初級2b修了の時点では、中級に進むのに必要な初級の文法事項を修得し、比較的容易なレベルの「読」「説」「聴」「写」が出来るようになる。	
	スペイン語初級1a	スペイン語を初めて学習する者を対象とし、スペイン語の文字体系と発音の法則をはじめ、名詞と形容詞、直説法現在の最重要基本動詞と規則活用動詞などの理解を図る。その上で、これらを用いて「読む」「書く」「聴く」「話す」ための総合的なスペイン語力を養う。文法的理解はもちろんのこと、それらを実践的に用いることができるようになることを主な目的とし、同時に受講者がスペイン語圏に対する興味を深めるきっかけも提供する。	
	スペイン語初級1b	スペイン語初級1bでは、スペイン語初級1aを引き継ぎ、直説法現在語根母音変化動詞とその他不規則動詞ならびにその用法、目的格人称代名詞、再帰用法などの理解を図る。その上で、それらを用いて「読む」「書く」「聴く」「話す」ための総合的なスペイン語力を養う。文法的理解はもちろんのこと、それらを実践的に用いることができるようになることを主な目的とし、同時に受講者がスペイン語圏に対する興味を深めるきっかけも提供する。	
	スペイン語初級2a	スペイン語初級2aは、スペイン語初級1aと連動しながら、スペイン語を初めて学習する者を対象とし、スペイン語の文字体系と発音の法則をはじめ、名詞と形容詞、直説法現在の最重要基本動詞と規則活用動詞などの理解を図り、練習問題を行うことで各文法事項の理解を深めることを主な目的とする。同時に、短い読み物や対話文の読解および平易なスペイン語文を実際に作る作業を通して、その知識を実践に移すとともに、受講者がスペイン語圏に対する興味を抱ききっかけも提供する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  英語以外の外国語	スペイン語初級2b	スペイン語初級2bでは、スペイン語初級2aを引き継ぎ、スペイン語の理解を深めながら、直説法現在の語根母音動詞とその他不規則動詞ならびにその用法、目的格人称代名詞、再帰用法などの文法項目の理解を図り、練習問題を行うことで各文法事項の理解を深めることを主な目的とする。同時に、短い読み物や対話文の読解および簡単な自己紹介文の作成といった作業を通して、その知識を実践に移すとともに、受講者がスペイン語圏に対する興味を抱くきっかけも提供する。	
	ロシア語初級1a	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、その初等文法を学びながら、ロシア語の基本となる語彙と文型、日常的な基本表現を習得し、ロシア語の簡単な文章が読み書きできるようになることが目標である。そのため、比較的文法事項が詳しく、音声CDも付いた教科書を使用して、ロシア語の基礎を学ぶ。ロシア語初級1aでは、ロシア語のアルファベットの学習から始めて、基本的な動詞や名詞の変化などを学ぶ。	
	ロシア語初級1b	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、その初等文法を学びながら、ロシア語の基本となる語彙と文型、日常的な基本表現を習得し、ロシア語の簡単な文章が読み書きできるようになることが目標である。そのため、比較的文法事項が詳しく、音声CDも付いた同一の教科書を使用して、ロシア語の基礎を学ぶ。ロシア語初級1bでは、ロシア語初級1aに続いて、より複雑な変化や構文などを学び、初等文法を一通り終える。	
	ロシア語初級2a	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、その初等文法を学びながら、ロシア語の基本となる語彙と文型、日常的な基本表現を習得し、ロシア語の簡単な文章が読み書きできるようになることが目標である。そのため、比較的文法事項が詳しく、音声CDも付いた教科書を使用して、ロシア語の基礎を学ぶ。ロシア語初級2aでは、ロシア語初級1aと共に、ロシア語のアルファベットの学習から始めて、基本的な動詞や名詞の変化などを学ぶ。	
	ロシア語初級2b	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、その初等文法を学びながら、ロシア語の基本となる語彙と文型、日常的な基本表現を習得し、ロシア語の簡単な文章が読み書きできるようになることが目標である。そのため、比較的文法事項が詳しく、音声CDも付いた同一の教科書を使用して、ロシア語の基礎を学ぶ。ロシア語初級2bでは、ロシア語初級1bと共に、ロシア語初級2aに続いて、より複雑な変化や構文などを学び、初等文法を一通り終える。	
	インドネシア語初級1a	インドネシア語初級1aは、インドネシア語初習者を対象として、日本と親密な関係にあり、経済的にも文化的にも交流のさかんなインドネシアの社会の人々と意思疎通をする入り口としての基礎となるインドネシア語の修得を目標とする。文法に主眼を置く初級2aに対して、初級1aでは基礎的な会話の表現とその運用を主な学修内容とする。具体的には、まずインドネシア語の文字とその発音、日常的な挨拶、自己紹介から、さらにお礼やお詫びの語句、肯定・否定の表現、呼びかけや聞き返しの表現といった内容を学ぶ。	
	インドネシア語初級1b	インドネシア語初級1bは、1aで学修した内容を踏まえて、やさしい会話であれば、インドネシア語で不自由なく表現できるように、口頭練習を繰り返しおこなう。学修内容は、依頼や許可の表現、確認や願望や完了の表現のほか、実践的な場面設定をして、会話の練習をする。旅行者として現地に入国して、タクシーに乗り、ホテルに着き、レストランで食事をしたり、ショッピングをしたり、現地で道を尋ねるといった場面などでの実用的な言い回しができるようになる。	
	インドネシア語初級2a	インドネシア語初級2aは、インドネシア語初習者を対象として、日本と親密な関係にあり、経済的にも文化的にも交流のさかんなインドネシアの社会の人々と意思疎通をする入り口としての基礎となるインドネシア語の修得を目標とする。初級1aと連携を持ちながら、発音の仕方や、基礎的な語彙、基本例文の構造的な理解を身に付けることによって、簡単な文章が読めるようになる。初級2aでは、文法事項の修得を授業の軸として、インドネシア語のアルファベットの読み方と発音、名詞・名詞句、形容詞、比較文章、語幹のみ動詞、助動詞・副詞、数字、時間、Ber- 動詞などを学ぶ。	
	インドネシア語初級2b	インドネシア語初級2bは、初級2aで学んだインドネシア語の文法知識をベースとして、さらに基礎的なインドネシア語のしくみの理解を深めていく。具体的な内容としては、動詞のしくみ及び自動詞の練習(語幹のみ動詞)、Me- 動詞(他動詞)、命令文、接頭辞・接尾辞による名詞、受動態などである。また、実践レベルの目標として、学修内容に即しながら、簡単な日本語の文章をインドネシア語に訳したり、インドネシア語の短い話を日本語に訳したりできるようにする。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  英語以外の外国語	韓国語初級1a	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、韓国語を表記する文字であるハングルの書き方・読み方を学んだ上、韓国文化についての理解も深めながら初歩的な会話ができるようになることを目指す。初級2aと比べれば、表現を繰り返し練習して身に付けるところに重点をおく。具体的な学習内容は、ハングルの読み書き、簡単な挨拶、「～です」、「～ではありません」、「～(し)ます」、「～(し)ません」にあたる韓国語の表現の作り方などである。	
	韓国語初級1b	韓国語初級1bは、初級1aで学んだハングルの書き方・読み方、いくつかの基本表現ができる学生を対象とする。1aの内容を確認しながら新たな基礎的文法と表現を学び、簡単な日常会話ができることを目指す。韓国語初級2bでは基本となる語彙、文法事項の修得に重点を置くのに対して、この初級1bでは表現を繰り返し練習して身に付けるところに重点をおく。具体的な学習内容は、打ち解けた表現、尊敬・命令・過去・意志・推量・希望・勧誘・様態・仮定表現の作り方などである。	
	韓国語初級2a	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、韓国語を表記する文字であるハングルの書き方・読み方、さらに基礎的な文法事項や基礎語彙を着実に学んだ上、辞書を片手に簡単な文章が読めるようになることを目指す。1aと比べれば、文法項目の学習および練習に重点をおく。具体的な学習内容は、ハングルの読み書き、簡単な挨拶、「～です」、「～ではありません」、「～(し)ます」、「～(し)ません」にあたる韓国語の表現の作り方などである。その他、異文化理解に役に立つ文化や生活習慣などに関する理解も深めていく。	
	韓国語初級2b	初級2aの内容であるハングルの書き方・読み方、いくつかの基本表現を習得している学生を対象とし、更なる基礎文法と語彙を学び、辞書を片手に簡単な文章が読めるようになることを目指す。初級1aと比べれば、文法項目の学習および練習に重点をおく。特に日本語との類似点、相違点に注意をはらいながら進めていく。具体的な学習内容は、打ち解けた表現、尊敬・命令・過去・意志・推量・希望・勧誘・様態・仮定表現の作り方などである。	
	ドイツ語中級1a	中級科目の基礎的な科目で、初級レベルのドイツ語1a・1bおよび2a・2bを習得を前提とした科目である。読む・聞く・書く・話す、の四分野のバランスを考えつつ、既に習得したドイツ文法の知識の復習から初め、初級文法後半の未修得項目(比較、受動態、関係代名詞、zu不定詞、分詞、接続法)の説明と練習へと進めて、ドイツ語の基礎的な初級文法の習得と理解を確実にする。実践的な課題としては、基本的にはドイツ語検定3級を受験するための準備となるようなドイツ語のレベルをめざす。	
	ドイツ語中級1b	ドイツ語の中級レベルのための基礎的理解を確実にする科目であり、読む・聞く・書く・話す、の四分野のバランスを考えつつ、ドイツ語1aにおいて未修得であった初級文法の落ち穂拾いから初めて、初級文法全体を視野に入れながら、それぞれの項目の応用的な練習を行って中級のレベルへと進める。1bでは、特に文章論を中心に、初級文法の理解を高度化しながら中級文法の理解を深める。基礎的な語彙数のレベルも上げて行く。基本的にはドイツ語検定3級を確実にする中級の応用力養成を目標とした、バランスのある練習の機会とする。	
	ドイツ語中級2a	ドイツ語の中級科目としては、1a・1bが主として初級文法の未修得部分の説明と練習を中心とした文法的な科目であるのに対して、2a・2bでは、「聞く」「話す」「読む」「書く」の各レベルのバランスを重視した総合的なコミュニケーションの練習を行う。特にドイツ語2aでは、できるだけ様々な素材を使用することによって、ドイツ語の多様な姿に触れつつ、応用的な力を養成する。2aでは初級レベルの知識を確実にすることを中心に、ドイツ語検定3級程度のレベルを確実にするための実践的な練習と説明を行う。なお、2aは多様な素材を扱うので、2年次・3年次と継続履修を可能としている。	
	ドイツ語中級2b	ドイツ語の中級科目としては、1a・1bが主として初級文法の未修得部分の説明と練習を中心とした文法的な科目であるのに対して、2a・2bでは、「聞く」「話す」「読む」「書く」の各レベルのバランスを重視した総合的なコミュニケーションの練習を行う。特にドイツ語2aでは、できるだけ様々な素材を使用することによって、ドイツ語の多様な姿に触れつつ、応用的な力を養成する。2aでは初級レベルの知識を確実にすることを中心に、ドイツ語検定3級程度のレベルを確実にするための実践的な練習と説明を行う。なお、2aは多様な素材を扱うので、2年次・3年次と継続履修を可能としている。	
	フランス語中級1a	フランス語の中級科目として、初級科目の後を受け、土台となる文法理解および表現力の定着と習熟をより確実なものとしつつ、それを実際に使いこなす力をつけることを目標とした授業を行う。とくに中級1aでは幅広くフランス語を使う力を身につけることを目標とし、読み、書き、聞き、話すという四つの技能の力をバランスよく伸ばすことを目指す。同時に言葉だけではなくフランス文化への理解を深めることで、異文化コミュニケーション力を育成する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  英語以外の外国語	フランス語中級1b	フランス語中級1bはフランス語の中級科目として、中級1aの後を受け、文法理解および表現力の定着と習熟をより確実なものとしつつ、それを実際に使いこなす力をさらにつけることを目標とした授業を行う。総合的な科目として、読み、書き、聞き、話すという四つの技能の力をバランスよく伸ばすことを目指し、受講生が専門の領域でフランス語を万遍なく発揮できる力を養成することを目指す。中級1aと同じく、異文化コミュニケーション力を育成する。	
	フランス語中級2a	フランス語中級2aは、フランス語の中級科目として、初級科目の後を受け、土台となる文法理解および表現力の定着と習熟をより確実なものとしつつ、それを実際に使いこなす力を付けることを目標とした授業を行う。演習に重心を置いた科目として、担当教員が学習内容をいくつかのテーマに絞り(たとえば作文力の養成、フランス語を聞き取る力の育成、検定試験および留学の準備など)、それぞれのテーマに応じて特化することで、受講者のニーズに応じた授業を展開する。	
	フランス語中級2b	フランス語の中級科目として、中級2aの後を受け、文法理解および表現力の定着と習熟をいっそう確実なものとしつつ、それを実際に使いこなす力を付けることを目標とした授業を行う。中級2bでは、中級2aと同様に担当教員が学習内容をいくつかのテーマに絞り(たとえば作文力の養成、フランス語を聞き取る力の育成、検定試験および留学の準備など)、それぞれのテーマに応じて特化することで、受講者のニーズに応じた授業を展開し、学習者の力をきめ細かく伸ばすことを目指す。	
	中国語中級1a	中国語の中級科目として、初級科目の後を受け、より進んだ中国語運用能力の獲得を目指す科目。初級で学んだ発音、ピンイン表記、初級語法の確認と定着に主眼を置く。初級科目を修了したばかりの段階では、それが完全に身についたとはいえない場合がみられるからである。従って、ピンイン表記のつかない教材は原則として用いない。復習と平行して、初級段階では触れなかった新たな表現、例えば、離合動詞や疑問詞の呼応形などにも触れていくことになる。併せて、中国の社会、文化などの面にも理解が深まるように努める。	
	中国語中級1b	初級科目の後を受け、よりすすんだ中国語運用能力の獲得を目指す点では、中級1aと同じであるが、中級1bでは新しい表現の修得に重点を置く。例えば、2つ以上発音のある文字(「得」「差」「的」「長」など)の読み分け、離合動詞の用法、疑問詞の呼応形、「雖～但是～」 「因為～所以～」など各種イディオムの修得など。更に、中国語の文章読解に慣れるために、中級1bでは読む量を増やしていく。上級に繋げるために、ピンインの付かない文章を読む訓練も始める。併せて、中国の社会、文化などの面にも理解が深まるよう努める。	
	中国語中級2a	初級科目の後を受ける点では中級1a・中級1bと同じであるが、中級2aでは担当者ごとにできるだけ多様な内容の授業を展開し、受講生の必要に応じた各方面の能力を高めていくことを目指している。或る担当者の科目は読解に重点をおくことになるし、或る担当者の科目ではライティングに重点を置いた指導をすることになる。いずれの場合にも、初級で修得した発音と語法が身につけていることが前提になるから、中級2aでは初級事項の定着にかなりの比重を割く。併せて、中国の社会や文化などへの関心を喚起することに努める。	
	中国語中級2b	中級2a・2bは、担当者ごとに多様な内容を展開することを趣旨としているが、初級事項の確認と定着にかなりの比重を割く中級2aとは異なり、中級2bの段階ではそれぞれの担当者の違い・個性が強く発揮される。受講者は、自らの必要に応じて、読解能力、作文能力、聴き取り能力など、様々な方面の表現能力を高めていくことができる。中級2bにおいても、原則的にはピンインを付けたテキストを用いるが、上級へのステップとして、ピンインがつかず、分かち書きをしていないテキストへの移行の準備をも併せて行う。併せて、中国の社会や文化などへの関心を喚起することに努める。	
	スペイン語中級1a	スペイン語中級1aは、初級1a・bおよび初級2a、bで学修した内容を土台として、それをさらに発展させることを目標とする。具体的には、文法に関しては過去(点過去・線過去)、未来といった直説法の残りの時制の習得を目標とする。その上で、これら文法項目に応じた総合的な実践練習を積み重ねる。スペインやラテンアメリカの文化を題材にした平易な文章を読んだり、音声・ビデオ教材を用いた練習を行ったりしながら、スペイン語の運用能力を高めるトレーニングを行う。	
	スペイン語中級1b	スペイン語中級1bでは、1aとの関連を図りながら、初級1a・bおよび初級2a、bにおいて積み重ねてきた学修事項を土台として、文法的には初級文法の残りの項目(過去未来、接続法、命令法、複合時制、関係詞等)の修得を目指す。その上で、ひと通り学び終えた文法知識を活かしながら、総合的かつ実践練習を積み重ねる。スペインやラテンアメリカの文化を題材にした平易な文章を読んだり、音声・ビデオ教材を用いた練習を行ったりしながら、スペイン語の運用能力を高めるトレーニングを行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  英語以外の外国語	スペイン語中級2a	スペイン語中級2aでは、2bとの関連を図りながら、初級1a・bおよび初級2a、bにおいて積み重ねてきた学習事項を土台として、文法的には、過去(点過去・線過去)、未来といった直説法の残りの時制の習得を目指す。その上で、習得した文法知識を活かして、文章読解と作文の練習を重点的に行う。文章読解については、スペインやラテンアメリカに関するテキストを用い、スペイン語圏の文化的理解も深める。作文に関しては、自分でまとまった文章作成ができるレベルを目標とする。	
	スペイン語中級2b	これまで積み重ねた学習事項を土台として、文法的には、過去未来(可能法)、接続法、命令法、複合時制、関係詞などの習得を目指し、スペイン語の文法をひと通り学び終える。その上で、習得した文法知識を活かして、文章読解と作文の練習を重点的に行う。文章読解については、スペインやラテンアメリカに関するテキストを用い、スペイン語圏の文化的理解も深める。作文に関しては、自分でまとまった文章作成ができるレベルを目標とする。	
	ロシア語中級1a	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、初級科目の習得を踏まえ、そこで身につけた知識を復習しながら実践的に発展させることで、より高度なロシア語力を培うことを目指し、それによって、より複雑な文章を読んだり書いたりすることができるようにすることが目標である。そのため、利用頻度の高い様々な文型を学べる中級用教科書を使用し、音声CDも利用しながら、よく使われるロシア語の表現を読み・聞き・書き・話す訓練を行い、総合的なロシア語力の養成を行う。	
	ロシア語中級1b	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、初級科目の習得を踏まえ、そこで身につけた知識を復習しながら実践的に発展させることで、より高度なロシア語力を培うことを目指し、それによって、より複雑な文章を読んだり書いたりすることができるようにすることが目標である。そのため、利用頻度の高い様々な文型を学べる中級用教科書を使用し、音声CDも利用しながら、よく使われるロシア語の表現を読み・聞き・書き・話す訓練を行う。ロシア語中級1bでは、ロシア語中級1aに続き、よく使われるロシア語の表現を用い、総合的なロシア語力の養成を行う。	
	ロシア語中級2a	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、初級科目の習得を踏まえ、そこで身につけた知識を復習しながら実践的に発展させることで、より高度なロシア語力を培うことを目指し、それによって、より複雑な文章を読んだり書いたりすることができるようにすることが目標である。そのため、利用頻度の高い様々な文型を学べる中級用教科書を使用し、音声CDも利用しながら、よく使われるロシア語の表現を読み・聞き・書き・話す訓練を行い、演習を重視した訓練を行う。	
	ロシア語中級2b	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、初級科目の習得を踏まえ、そこで身につけた知識を復習しながら実践的に発展させることで、より高度なロシア語力を培うことを目指し、それによって、より複雑な文章を読んだり書いたりすることができるようにすることが目標である。そのため、利用頻度の高い様々な文型を学べる中級用教科書を使用し、音声CDも利用しながら、よく使われるロシア語の表現を読み・聞き・書き・話す訓練を行う。ロシア語中級2bでは、ロシア語中級2aに続き、よく使われるロシア語の表現を用い、演習を重視した訓練を行う。	
	インドネシア語中級1a	本科目は、インドネシア語初級科目のいずれかを2単位以上修得した人を対象とする。初年次の文法理解をもとに、さらにインドネシア語の総合的な表現力を向上させる学習が主要な内容となる。例えば、初級の復習をスプリングボードにして、平易な文章を翻訳したり、具体的場面の設定されたトピックに基づいて、簡明な会話をかわしたりといった訓練を適宜組み合わせることによって、「読む、書く、話す、聞く」の総合的な語学力を育てていく。	
	インドネシア語中級1b	インドネシア語中級1bでは、中級1aに続けて、読解・作文・会話を三本柱として、インドネシア語のトータルな語学力を養成する。また、文法・語法だけでなく、コミュニケーションの背景をなす社会事情についても理解し、インドネシア語とインドネシア社会に対する理解がさらに確実なものとなるようにする。そのために、教材として映像を広く用いることで、インドネシア社会に対するより深い理解を図ると同時に、現地に出会う可能性のあるさまざまな状況に応じて、すぐに使えるような幅広い実践的な表現力を修得する。	
	インドネシア語中級2a	インドネシア語中級2aは、インドネシア語初級科目を修得した力を持ったレベルの学生を対象とする。初級科目で学んだ文法や表現のパターンを確認しながら、より高度で複雑な文章や、他の接頭辞・接尾辞・イディオムなどを学ぶことが、中級2aでの主軸となる。教材としては、インドネシアの文化・習慣等を紹介する文章を広く導入し、町や社会、食文化や日常生活などを紹介する読み物を読解する作業を通して、生活に根差した実践的な表現能力を身に付ける。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  英語以外の外国語	インドネシア語中級2b	インドネシア語中級2bでは、中級2aに続いて、さらにさまざまなメディア(ビデオ・インターネット・音楽等)を活用しながら、今日的で実践的なコミュニケーション能力を向上させる。具体的には、発展しつつある都市の姿、レストラン・屋台、市場など、現代の日常生活についての読み物を使い、それら教材に登場する基本的な会話表現を用いた作文練習などによって、表現する力を伸ばす。授業に幅を持たせるために、映画などの映像資料を素材とした展開も取り入れる。	
	韓国語中級1a	ハングルがすらすら読め、初級の文法事項をほぼ習得していることを最低限の履修条件とする。初級の文法および表現の確認から始め、さらに上のレベルの文法や多様な表現を学習しながら、語彙も増やし、バランスのとれた「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」能力を向上させることを目指す。1aでは特に「書く」、「話す」力を伸ばすところに重点をおく。主要な文法項目は、用言の連体形(過去・現在・未来)、一部の変則活用などである。表現としては、「～(し)たことがある」、「～(する)つもりだ」、「～(し)そうだ」などである。	
	韓国語中級1b	中級1aの文法および表現を復習した上、変則活用や多様な表現を学習しながら語彙も増やし、バランスのとれた「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」能力を向上させることを目指す。ハングル能力検定試験4級、韓国語能力試験中級を視野に入れながら、特に「書く」、「話す」力を伸ばす。韓国語は日本語と似ているところが多い点では学びやすいが、中級以上になると似ているからこそ難しいところが出てくる。この授業ではそうした点にも注意を払いながら、より自然で高度な韓国語の習得を目指す。具体的な学習内容は、「～(する)ことができない」、「～(し)てもいいですか」、「～(し)なければならない」、「～(し)ないでください」、「～(し)ながら」などである。	
	韓国語中級2a	ハングルがすらすら読め、初級の文法事項をほぼ習得していることを最低限の履修条件とする。初級の文法および表現を確認するところから始め、さらに上のレベルの文法や多様な表現を学習しながら、語彙も増やし、バランスのとれた「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」能力を向上させることを目指す。2aでは特に「読む」、「聞く」力を伸ばすところに重点をおく。また、授業の題材を通じて韓国の文化に対する理解も深める。主要な文法項目は、用言の連体形(過去・現在・未来)、一部の変則活用などである。表現としては、「～(し)たことがある」、「～(する)つもりだ」、「～(し)そうだ」などである。	
	韓国語中級2b	中級2aの文法および表現の復習した上、変則活用や多様な表現を学習しながら語彙も増やし、バランスのとれた「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」能力を向上させることを目指す。ハングル能力検定試験4級、韓国語能力試験中級を視野に入れながら、特に「読む」、「聞く」力を伸ばす。また、韓国関係の視聴覚教材などを利用し、言葉の背景にある文化に対する理解も深める。具体的な学習内容は、「～(する)ことができない」、「～(し)てもいいですか」、「～(し)なければならない」、「～(し)ないでください」、「～(し)ながら」、下称形などである。	
	ドイツ語上級1a	ドイツ語の上級科目では、中級科目の学習を終えた者を前提とする。中級科目以上に、できるだけ多様な素材を用いながら、これまでの学習項目を復習しつつ、「読む」「聞く」「書く」「話す」の四分野におけるバランスの取れた実践的なドイツ語力を更に確実にしながら、ドイツ文化・社会の理解へと広げて行く。上級は3年次・4年次と継続して履修可能なシステムとしており、少人数での実践的な学習を可能としている。ドイツ語検定2級受験のための基礎となることが目標である。なお上級科目は、3年次・4年次と継続履修可能となっている。	
	ドイツ語上級1b	上級1aでの履修を更に高度化して継続する。これまでの学習項目の復習も含みながら、読む・聞く・書く・話す、のバランスの取れた実践的なドイツ語力を、できるだけ応用的で実践的な訓練を中心に進める。ドイツ語力と並行して、ドイツ文化・社会への理解をも進めることになる。少人数での実践的な授業を通じたコミュニケーションの訓練によって、より高度な会話力を含めて、ドイツ語検定2級を獲得できるレベルの応用ドイツ語力を獲得することを目標とする。なお上級科目は3年次・4年次と継続履修が可能となっている。	
	フランス語上級1a	フランス語の上級科目として、読む、書く、話す、聞くという言語の四技能すべての面での充実を図る。最終的には、フランスに留学して勉強を行えるだけのレベルの力を養うことを目指す。とくに初級、中級レベルでは練習不足になりがちな作文力とフランス語を聞き取る力をつけることを目標に、さまざまな具体的シチュエーションにおいてフランス語を用いて確実かつ適切に相手とコミュニケーションを取ることができるだけの実践的な力を養うことを目指す。	
	フランス語上級1b	フランス語の上級科目として、フランス語上級1aを引き継ぎ、読む、書く、話す、聞くという言語の四技能すべての面でのいっそうの充実を図る。最終的には、フランスに留学して勉強を行えるだけのレベルの力を養うことを目指す。とくに初級、中級レベルでは練習不足になりがちな作文力とフランス語を聞き取る力をつけることに重点をおきつつ、さまざまな具体的シチュエーションにおいてフランス語を用いて、確実かつ適切に相手とコミュニケーションを取ることができるだけの、実践的な力を養うことを目指す。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  英語以外の外国語	中国語上級1a	初級科目と中級科目の後を受け、更にすすんだ中国語能力の開発を目指す科目。生田開講の2コマのうち、1つは中国語の直接教授法による授業として展開し、もう1つはピンインのつかない、分かち書きのないテキストを用いて、まとまった文章(随筆、小説、論説文、新聞記事など)の読解能力の養成に当てる。受講生が慣れるまではゆっくりとした速度で進み、慣れてくるに従って、聴き取り、読解の難度を上げていく。併せて、中国の社会や文化などについての関心をより深く着実なものとするように努める。	
	中国語上級1b	上級1aの後を受けて、更にすすんだ中国語運用能力の獲得、開発を目指す。中国語で行なわれる授業、ピンイン無し・分かち書き無しのテキストを用いた授業、比較的難易度の高いテキストの多読や精読を行なう授業に慣れるのには一定の時間を要する。そのような授業に抵抗感を感じなくなるところまで中国語能力を高めていく。中国人と比較的高度な内容について会話をすることができ、比較的高度な論説文や新聞記事、映画のシナリオなどが読みこなせる能力を養うことが目的である。それを通して、中国の社会や文化全般に関するより高い関心と理解が獲得されるように努める。	
	スペイン語上級1a	スペイン語上級1aでは、初級・中級レベルで学修した文法事項の復習をしながら、適宜、スペイン語圏の雑誌・新聞記事・エッセイなどのうち比較的平易なものを講読し、読む力を養成することを第一の目標とする。読解を通してスペイン語圏諸国の文化・歴史への理解を深めることを重視するが、その一方で、ディクテーションやビデオ教材を使用し、聴き取り練習も取り入れ、高度な会話の場面にも対応できるリスニング力をつけることも同時に目指す。	
	スペイン語上級1b	スペイン語上級1bでは、上級1aに引き続き、スペイン語圏の雑誌・新聞記事・エッセイなどのうちやや難易度の高いものを講読し、読む力を養成することを第一の目標とする。必要に応じて文法復習をしながら、読解を通してスペイン語圏諸国の文化・歴史への理解を深めることを重視するが、その一方で、ディクテーションやビデオ教材を使用し、聴き取り練習も取り入れ、より高度な会話の場面にも対応できるリスニング力をつけることも同時に目指す。	
	ロシア語上級1a	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、中級科目の習得を踏まえ、実際に使用された様々な文章を読んでいくことで高度なロシア語力を培い、独力で新聞などロシア語の一般的な文章が読める力を養うことが目標である。そのため、比較的長くてまとまった文章をアンソロジー的に集めた上級用教科書を用いて、様々な文章を実際に読んでいくことで、ロシア語の文法・語彙・表現などを復習・発展させながら、高度なロシア語力を養成する。	
	ロシア語上級1b	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、中級科目の習得を踏まえ、実際に使用された様々な文章を読んでいくことで高度なロシア語力を培い、独力で新聞などロシア語の一般的な文章が読める力を養うことが目標である。そのため、ロシア語上級1bでは、ロシア語上級1aに続き、比較的長くてまとまった文章をアンソロジー的に集めた上級用教科書を用いて、様々な文章を実際に読んでいくことで、ロシア語の文法・語彙・表現などを復習・発展させながら、高度なロシア語力を養成する。	
	インドネシア語上級1a	インドネシア語上級1aでは、初級・中級レベルで学修した文法事項の復習をし、それを土台としながら、適宜、インドネシア語のテキストや現地での状況を伝える音声・映像の情報などを素材として、具体的かつ実践的なインドネシア語の運用能力の修得を目指す。そしてこの力によって、日本にとって今後、さらに重要なパートナーとなるであろうインドネシアの人たちと直にコミュニケーションする力を伸ばし、その文化・社会の理解をいっそう深める。	
	インドネシア語上級1b	インドネシア語上級1bでは、初級・中級レベルで学修した文法事項の復習をし、さらに上級1aでの学修を土台としながら、適宜、インドネシア語のテキストや現地での状況を伝える音声・映像の情報などを素材として、具体的かつ実践的なインドネシア語の運用能力の修得を目指す。そしてこの力によって、日本にとって今後、さらに重要なパートナーとなるであろうインドネシアの人たちと直にコミュニケーションする力を伸ばし、その文化・社会の理解をいっそう深める。	
	コリア語上級1a	中級レベルで扱う連体形および変則活用について学習したことがあることを最低限の履修条件とし、中級までの文法事項の再確認から始め、下称形、伝聞表現および伝聞の縮約形など、複雑な文法事項を学習しながら慣用句などの語彙も増やし、より高度な「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」能力を向上させることを目指す。具体的な内容は、「～だ/である」、「～(する)そうだ」、「～(する)のか聞く」、「～(し)る」と言うを含め、「～(する)から」、「～(する)ので」、「～(し)て」、「～(する)ために」、「～(する)せい」など、日本語と似てはいるが微妙な違いがあるために学習しにくいものを集中的に練習する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  英語以外の外国語	コリア語上級1b	上級1aの下称形、伝聞表現および伝聞の縮約形などを確認しながらより高いレベルの文法事項を学び、慣用句などの語彙も増やし、正確な表現ができることを目指す。文章を「読む」練習、視聴覚教材などを使った「聞く」練習、日本語文の訳および文章を要約して「書く」練習、新しく学んだ表現を使ったロールプレイで「話す」練習など、総合的な水準の向上を図る。その他、コリア語学習におけるインターネットおよびアプリの活用などについても学ぶ。	
	選択ドイツ語1a	ドイツ語を初めて学ぶ受講者を対象として、ドイツ語のアルファベートを読み、単語や短い文章を発音する練習からスタートする。さらに、ドイツ語初級文法の導入的練習により、ドイツ語の簡単な文章を読み、書くことができる力を養い、基礎的な文法事項を理解、活用することができるようになる。さらにこの力を補うものとして、平易なドイツ語を用いることで、ドイツの社会、文化に関する情報にさまざまな形で触れることで、ドイツに対する理解を深める。	
	選択ドイツ語1b	選択ドイツ語1bは、1aの後を受けて、ドイツ語を初めて学ぶ受講者を対象として、ドイツ語の読み方に慣れ、単語や短い文章を発音する練習からスタートする。さらに、ドイツ語初級文法の導入的練習により、ドイツ語の簡単な文章を読み、書くことができる力を養い、基礎的な文法事項を理解、活用することができるようになる。さらにこの力を補うものとして、平易なドイツ語を用いることで、ドイツの社会、文化に関する情報にさまざまな形で触れることで、ドイツに対する理解を深める。	
	選択フランス語1a	選択フランス語1aは、フランス語を初めて学ぶ受講者を対象として、アルファベ(A, B, C...)からスタートし、フランス語の読み方に慣れるとともに、基本となる文型と語彙、日常的な基本表現を修得する。その際、「読み・書き・話す・聞く」という、いわゆる言語習得の四技能についてバランスよく学修することを目指し、フランス語で簡単なコミュニケーションが取れるようになるとともに、フランス語によってフランスの社会や文化に触れることで、理解を深める。	
	選択フランス語1b	選択フランス語1bでは、1aの後を受けて、フランス語を初めて学ぶ受講者を対象として、フランス語の読み方に慣れるとともに、基本となる文型と語彙、日常的な基本表現を修得する。その際、「読み・書き・話す・聞く」という、いわゆる言語習得の四技能についてバランスよく学修することを目指し、フランス語で簡単なコミュニケーションが取れるようになるとともに、フランス語によってフランスの社会や文化に触れることで、理解をいっそう深める。	
	選択中国語1a	選択中国語1aは、中国語を初めて学ぶ受講者を対象として、まず、発音の練習、あいさつの言葉、簡単な名詞などを習得する。正しい発音に習熟し、ピンインを正確に発音でき、初歩的な聞き取りができるようになることを最初の目標とする。そのうえで、初級の段階で必要とされる基本的な文法事項を習得し、かつ基本となる語彙を修得することによって、比較的簡単な文章の読解と作文ができ、コミュニケーションの基礎とするとともに、中国文化・社会の理解を深めることを到達目標とする。	
	選択中国語1b	選択中国語1bは、1aの後を受けて、中国語を初めて学ぶ受講者を対象として、あいさつの言葉、簡単な名詞などを習得する。正しい発音に習熟し、ピンインの発音を正確なものとするとともに、初歩的な聞き取りができるようになることを最初の目標とする。そのうえで、初級の段階で必要とされる基本的な文法事項を習得し、かつ基本となる語彙を修得することによって、比較的簡単な文章の読解と作文ができ、コミュニケーションの基礎とするとともに、中国文化・社会の理解を深めることを到達目標とする。	
	選択スペイン語1a	選択スペイン語1aは、スペイン語を初めて学ぶ受講者を対象として、基本となる文型や、基礎的な語彙を習得する。「読み・書き・話す・聞く」という四技能を含めた、総合的な基礎力をつけ、コミュニケーションで使うことのできる実践的なスペイン語の習得を目指す。具体的には、受信型から発信型への外国語学習を目指して、簡単な作文を書いたり、自己紹介などによって身の回りのことを表現したりできるようになる。また、簡単なスペイン語を用いることによって、スペイン語圏の文化、社会に対する理解を深める。	
	選択スペイン語1b	選択スペイン語1bは、1aの後を受けて、スペイン語を初めて学ぶ受講者を対象として、基本となる文型や、基礎的な語彙を習得する。「読み・書き・話す・聞く」という四技能を含めた、総合的な基礎力をつけ、コミュニケーションで使うことのできる実践的なスペイン語の習得を目指す。具体的には、受信型から発信型への外国語学習を目指して、簡単な作文を書いたり、自己紹介などによって身の回りのことを表現したりできるようになる。また、簡単なスペイン語を用いることによって、スペイン語圏の文化、社会に対する理解をいっそう深める。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  英語以外の外国語	選択コア語1a	はじめてコア語を学ぶ学生を対象とし、コア語を表記する文字であるハングルの書き方・読み方を学んだ上、コアの文化についての理解も深めながら初歩的な会話ができるようになることを目指す。1aでは、反復練習を通じてその課の表現を身に付けるところに重点をおく。具体的な学習内容は、ハングルの読み書き、簡単な挨拶、「～です」、「～ですか」、「～ではありません」、「～(し)ます」、「～(し)ますか」、「～(し)ません」にあたるコア語の表現の作り方などである。	
	選択コア語1b	はじめてコア語を学ぶ学生を対象とし、コア語を表記する文字であるハングルの書き方・読み方を学んだ上、コアの文化についての理解も深めながら初歩的な会話ができるようになることを目指す。1bでは、反復練習を通じてその課の表現を身に付けるところに重点をおく。具体的な学習内容は、ハングルの読み書き、簡単な挨拶、「～です」、「～ですか」、「～ではありません」、「～(し)ます」、「～(し)ますか」、「～(し)ません」にあたるコア語の表現の作り方などである。	
	選択アラビア語1a	選択アラビア語1aでは、アラビア語を初めて学ぶ受講者を対象として、読む・書く・聴く・話すことの基本を、アラブ文化に触れながら習得する。はじめに、アラビア文字を習得できるように、各文字の書き順、文字のつなげ方、発音を丁寧に学習し、アラビア文字に慣れる。つぎに、日常的な基本となる表現を学び、その後、語彙力を増やしながら、名詞の性別から動詞活用までの基本的な文法を理解し、アラビア語で書いた短い文を読むことができる力を養う。	
	選択アラビア語1b	選択アラビア語1bでは、選択アラビア語1bに引き続き、アラビア語を初めて学ぶ受講者を対象として、読む・書く・聴く・話すことの基本を、アラブ文化に触れながら習得する。各文字の書き順、文字のつなげ方、発音を丁寧に学習し、アラビア文字に慣れたあとの課題として、日常的な基本となる表現を学び、次第に語彙力を増やしながら、名詞から動詞の使い方を中心に、基本的な文法を理解し、アラビア語で書いた短い文を読み、また書くことができる力を養う。	
	選択イタリア語1a	選択イタリア語1aでは、イタリア語を初めて学ぶ受講者を対象として、a,b,cの読み方からスタートし、日常生活でよく使う表現を使いこなすことを目標として修得すると同時に、文法の基礎も最初から積み重ねて学修し、基本的なイタリア語のしくみを広く理解する。語彙に関しては、身近に見聞きするイタリア語から始めて、次第に使える語を増やす。語彙、表現、文法事項ともに、習熟度を定期的に確認することで、イタリア語の基本的な修得する。	
	選択イタリア語1b	選択イタリア語1bでは、1aを引き継ぎ、イタリア語を初めて学ぶ受講者を対象として、日常生活でよく使う表現を広く、かつ実践的に修得すると同時に、文法の基礎も最初から積み重ねて学修し、基本的なイタリア語のしくみを理解する。語彙、基本表現に関しては、身近に見聞きするイタリア語から始めて、次第に対象を広げること、使える言葉の数を増やす。語彙、表現、文法事項ともに、習熟度を定期的に確認することで、イタリア語の運用に必要な基本力を修得する。	
	世界の言語と文化(ドイツ語)	それぞれの言語の背後には、その言葉話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「ドイツ語」では、ドイツ、オーストリアを中心にドイツ語圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。	
	世界の言語と文化(フランス語)	それぞれの言語の背後には、その言葉話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「フランス語」では、フランスを軸に、カリブ海諸国やカナダ等も含めたフランス語圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。	
	世界の言語と文化(中国語)	それぞれの言語の背後には、その言葉話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「中国語」では、東アジアを中心に、中国語および漢字文化圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  英語以外の外国語	世界の言語と文化(スペイン語)	それぞれの言語の背後には、その言葉話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「スペイン語」では、ヨーロッパからアメリカ大陸までのスペイン語圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。	
	世界の言語と文化(ロシア語)	それぞれの言語の背後には、その言葉話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「ロシア語」では、ユーラシア大陸の多くを占めるロシア語圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。	
	世界の言語と文化(インドネシア語)	それぞれの言語の背後には、その言葉話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「インドネシア語」では、東南アジアの要に位置するインドネシア語圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。	
	世界の言語と文化(コリア語)	それぞれの言語の背後には、その言葉話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「コリア語」では、わたしたちの隣人であるコリア語圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。	
	言語文化研究(ヨーロッパ)1	国という単位に捉われないことなく、世界を大きなブロックとして把握しつつ、それぞれの地域で築き上げられてきた多様な文化、社会を相対的に理解した上で、さまざまな文化、言語が交錯する地域をどのように把握していくか、その考え方の基礎を培うことで、国や言語に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここでは主にドイツ、フランス、スペイン、ロシア、イタリアなどを出発点として、ヨーロッパを捉えなおす。	
	言語文化研究(ヨーロッパ)2	国という単位に捉われないことなく、世界を大きなブロックとして把握しつつ、それぞれの地域で築き上げられてきた多様な文化、社会を相対的に理解した上で、さまざまな文化、言語が交錯する地域をどのように把握していくか、その考え方の基礎を培うことで、国や言語に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここでは主にドイツ、フランス、スペイン、ロシア、イタリアなどを出発点として、ヨーロッパを捉えなおす。	
	言語文化研究(アジア)1	国という単位に捉われないことなく、世界を大きなブロックとして把握しつつ、それぞれの地域で築き上げられてきた多様な文化、社会を相対的に理解した上で、さまざまな文化、言語が交錯する地域をどのように把握していくか、その考え方の基礎を培うことで、国や言語に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここでは中国、韓国、インドネシア、アラビア語圏の各国を出発点として、広くアジアを捉えなおす。	
	言語文化研究(アジア)2	国という単位に捉われないことなく、世界を大きなブロックとして把握しつつ、それぞれの地域で築き上げられてきた多様な文化、社会を相対的に理解した上で、さまざまな文化、言語が交錯する地域をどのように把握していくか、その考え方の基礎を培うことで、国や言語に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここでは中国、韓国、インドネシア、アラビア語圏の各国を出発点として、広くアジアを捉えなおす。	
	言語文化研究(アメリカ)	国という単位に捉われないことなく、世界を大きなブロックとして把握しつつ、それぞれの地域で築き上げられてきた多様な文化、社会を相対的に理解した上で、さまざまな文化、言語が交錯する地域をどのように把握していくか、その考え方の基礎を培うことで、国や言語に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここでは北アメリカ、中アメリカ、南アメリカとカリブ海諸国を出発点として、広くふたつのアメリカ大陸全体を捉えなおす。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  海外語学研修	海外語学短期研修1(英語)	海外語学短期研修1では、本学の夏期の短期留学プログラムに参加し海外提携校に1ヶ月程度滞在して様々な経験を積む。大学の正規授業の聴講を行い、また非英語圏の国々から学生が集まるインターナショナルクラスの履修においては、ビジネス英語や多様なバックグラウンドを持つ仲間とのエコ・ボランティア活動等バラエティに富むプログラムが展開されている。海外提携校からは履修科目の成績評価と授業を担当した講師からの詳細な文章評価が与えられ、その成績に基づき本学の単位に換算される。	
	海外語学短期研修2(英語)	海外語学短期研修2では、本学の春期の短期留学プログラムに参加し海外提携校に1ヶ月程度滞在して様々な経験を積む。「生きた言葉」の修得を目指したプログラムで、聴解力・発話力に重点をおいた1日4時間程度の授業を履修し会話の実践練習を行う。授業外においてもフィールド・トリップやホームステイまたは学生寮での生活を通じ、現地の文化・歴史・生活習慣を実体験する。海外提携校からは履修科目の成績評価と授業を担当した講師からの詳細な文章評価が与えられ、その成績に基づき本学の単位に換算される。	
	海外語学短期研修1(ドイツ語)	ドイツの本学提携大学に、夏期休暇中の3週間を利用して短期留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。現地の語学コースで学びつつ、ホームステイ先に滞在することで、ドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深める。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。事後研修として、留学の成果をプレゼンテーションする機会も設ける。研修の一部期間、本学の教員が引率して指導に当る。	
	海外語学短期研修2(ドイツ語)	ドイツの本学提携大学に、夏期休暇中の3週間を利用して短期留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。現地の語学コースで学びつつ、ホームステイ先に滞在することで、ドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深める。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。事後研修として、留学の成果をプレゼンテーションする機会も設ける。研修の一部期間、本学の教員が引率して指導に当る。	
	海外語学短期研修1(フランス語)	フランス国内の語学学校に一月、短期語学留学(夏期休暇中)を行い、フランス語力の充実、特に実際の場での会話能力の充実を図る。併せて、フランス人の実際の生活、文化に直接に触れることで、日本の大学の授業では行うことが容易ではない、異文化コミュニケーションに対する柔軟な対応力を培うことを目的とする。なお、大学での授業との関連性に配慮し、参加者に対しては研修前に集中的に事前研修が行われ、また現地での研修の一定期間、本学の教員および職員が引率して指導にあたる。	
	海外語学短期研修2(フランス語)	フランス国内の語学学校に一月、短期語学留学(春季休暇中)を行い、フランス語力の充実、特に実際の場での会話能力の充実を図る。併せて、フランス人の実際の生活、文化に直接に触れることで、日本の大学の授業では行うことが容易ではない、異文化コミュニケーションに対する柔軟な対応力を培うことを目的とする。なお、大学での授業との関連性に配慮し、参加者に対しては研修前に集中的に事前研修が行われ、また現地での研修の一定期間、本学の教員および職員が引率して指導にあたる。	
	海外語学短期研修1(中国語)	中国の本学提携大学に短期留学(夏期休暇中の1ヶ月)して中国語を学習し、中国語の理解・運用能力の向上を図る。現地での体験的学習を通じて中国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めることを目標とする。留学の前に事前研修をおこない、必要となる基礎的な中国語能力および中国社会や文化に関する基礎知識を確保する。事後研修として留学報告を作成しプレゼンテーション形式で発表を行う。研修の一部期間、本学の教員が引率して指導に当る。	
	海外語学短期研修2(中国語)	中国の本学提携大学に短期留学(春季休暇中の1ヶ月)して中国語を学習し、中国語の理解・運用能力の向上を図る。現地での体験的学習を通じて中国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めることを目標とする。留学の前に事前研修をおこない、基礎的な中国語能力および中国社会や文化に関する基礎知識を確保する。事後研修として留学報告を作成しプレゼンテーション形式で発表を行う。研修の一部期間、本学の教員が引率して指導に当る。	
	海外語学短期研修1(スペイン語)	海外語学短期研修1(スペイン語)では、春期休暇期間中に、スペイン語圏の本学提携大学・研修機関に約1ヵ月の短期留学をして実践的にスペイン語を学び、スペイン語の理解力・運用能力の向上を図る。また、現地での体験的学習を通じて、スペイン語圏の文化・歴史・政治・経済などに関する関心を高めるとともに、その社会に対する理解を深めることを目標とする。留学の前には事前研修を行ない、渡航前に必要な語学の基礎力および現地事情についての基本的知識に関する指導を行う。	
	海外語学短期研修2(スペイン語)	海外語学短期研修2(スペイン語)では、春期休暇期間中に、スペイン語圏の本学提携大学・研修機関に約1ヵ月の短期留学をして実践的にスペイン語を学び、スペイン語の理解力・運用能力の向上を図る。また、現地での体験的学習を通じて、スペイン語圏の文化・歴史・政治・経済などに関する関心を高めるとともに、その社会に対する理解を深めることを目標とする。留学の前には事前研修を行ない、渡航前に必要な語学の基礎力および現地事情についての基本的知識に関する指導を行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
外国語科目	海外語学研修	海外語学短期研修1(韓国語)	韓国にある本学の提携大学に短期留学(夏期休暇中一ヶ月)して韓国語を学び、韓国語の運用能力の向上を図る。特に基礎的な会話能力を伸ばし、簡単なコミュニケーションができるようになることを目指す。加えて、現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めることも目標とする。留学前に事前研修を行い、最低限必要な韓国語能力および韓国社会や文化に関する基礎知識を習得し、安全な留学のための準備をする。	
		海外語学短期研修2(韓国語)	韓国にある本学の提携大学に短期留学(夏期休暇中一ヶ月)して韓国語を学び、韓国語の運用能力の向上を図る。特に基礎的な会話能力を伸ばし、簡単なコミュニケーションができるようになることを目指す。加えて、現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めることも目標とする。留学前に事前研修を行い、最低限必要な韓国語能力および韓国社会や文化に関する基礎知識を習得し、安全な留学のための準備をする。	
		海外語学中期研修1(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生を対象に、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修ではまず海外提携校の英語による講義を聞き取り、内容を理解できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修2(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義を聞き取り、内容を理解した上で初歩的な議論に参加できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修3(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、授業で与えられる課題に中級レベルの英文で対応することに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修4(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、簡単なレポートを英文で作成できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修5(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、長めのレポートを英文で作成できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修6(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、短いプレゼンテーションができるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修7(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、長めのプレゼンテーションができるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 海外語学研修	海外語学中期研修8(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生を対象に、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で授業内の議論に積極的に参加できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修1(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学では、特に日常会話において、挨拶や紹介などにとどまらず、時事的な話題にいたるまでこなせるだけの力をつけることを目指す。	
	海外語学中期研修2(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学は、コミュニケーションの土台となる聞き取り能力を磨き、さまざまなシチュエーションに応じ、より実践的なレベルで相手の発する会話、文章を素早く、かつ的確に理解する力を養うことを目指す。	
	海外語学中期研修3(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学は、書かれたテキスト、とくに新聞や雑誌といった日常触れることの多い文章を読解し、的確に内容を把握する能力を身につけることを目指す。	
	海外語学中期研修4(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学は、実用的なレベルでドイツ語による文章を実際を書くレベルの力をつけることを目指す。	
	海外語学中期研修5(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学は、一つのテーマについて相手の述べる意見を理解しつつ、自分の考えを伝え、さらに相手を説得するだけの力を重点的に鍛える。	
	海外語学中期研修6(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学では、一つのテーマについて自分の考えをどのように的確に伝えることができるか、その準備から実践までの力を磨く。	
	海外語学中期研修7(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。文化に積極的に触れることで、日本とは異なった文化の意義と意味を深く理解する力を養うことを目指す。	
	海外語学中期研修8(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。ドイツの文化を学ぶ過程で、日本について改めて考える機会とし、双方向の異文化コミュニケーション力を培う場とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  海外語学研修	海外語学中期研修1(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課題はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、すでに基礎的な会話能力を習得している学生が、さらに一歩進んだ実践的な会話能力を身に付けることを目標とする。特に日常会話において、挨拶や紹介などにとどまらず、時事的な話題にいたるまでこなせるだけの力をつけることを目指す。	
	海外語学中期研修2(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課題はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、コミュニケーションの土台となる聞き取り能力を磨き、さまざまなシチュエーションに応じ、より実践的なレベルで相手の発する会話、文章を素早く、かつ的確に理解する力を養うことを目指す。	
	海外語学中期研修3(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課題はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルの文法とコミュニケーション能力を習得している学生が、さらに高度な文法、構文を理解することを第一の目標として、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、書かれたテキスト、とくに新聞や雑誌といった日常触れることの多い文章を読解し、的確に内容を把握する能力を身につけることを目指す。	
	海外語学中期研修4(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課題はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、すでに初級から中級レベルのフランス語を習得した学生が、実用的なレベルでフランス語による文章を実際によく書く力をつけることを目指す。とりわけ、1から6まである構文を中心に、動詞の各時制の使い方の習得を重要なポイントとする。	
	海外語学中期研修5(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課題はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、フランス語によるディスカッション能力を磨くことを目標とする。ここではとりわけ、一つのテーマについて相手の述べる意見を理解しつつ、自分の考えを伝え、さらに相手を説得するだけの力を重点的に鍛える。	
	海外語学中期研修6(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課題はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、フランス語によるプレゼンテーション能力を磨くことを目標とする。とくに、一つのテーマについて自分の考えをどのように的確に伝えることができるか、その準備から実践までの力を磨く。	
	海外語学中期研修7(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課題はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのフランス語能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、フランス文化に積極的に触れることで、日本とは異なった文化の意義と意味を深く理解する力を養うことを目指す。同時に、さまざまな人種、国籍の人間が暮らすフランス社会と接することで、それぞれの価値観を相対化することができる人間性を養う。	
	海外語学中期研修8(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課題はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのフランス語能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。とくに、フランス文化に触れる中で、逆に日本の社会、文化をフランス人をはじめとした外国人にいかにか伝えるかということを考える。さらにその過程で、日本について改めて考える機会とし、双方向の異文化コミュニケーション力を培う場とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  海外語学研修	海外語学中期研修1(中国語)	海外語学中期研修1(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な文法や語彙を習得することを目標とする。現地での授業・生活を通して、多くのパターンの中国語に直に触れることで、目標の達成を図る。	
	海外語学中期研修2(中国語)	海外語学中期研修2(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な文法や語彙を習得することを目標とする。とくに中期研修2では、日常の生活で触れる新聞や雑誌などのやや論理的な文章を読解する能力を習得することを目標とする。	
	海外語学中期研修3(中国語)	海外語学中期研修3(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な会話能力を習得することを目標とする。特に中期研修3では、日常生活において交わされる会話について、困難なく理解できる聴解力を身につけることを重視する。	
	海外語学中期研修4(中国語)	海外語学中期研修4(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な会話能力を習得することを目標とする。特に中期研修4では、日常生活において交わされる会話について、困難なく内容を伝達するための発話能力を身につけることを重視する。	
	海外語学中期研修5(中国語)	海外語学中期研修5(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な文法と語彙を踏まえ、実用的な構文に基づいた作文能力を習得することを目標とする。中期研修5では一定の意味のまとまりと長さを持つ文章の作成までを視野に入れる。	
	海外語学中期研修6(中国語)	海外語学中期研修6(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流提携校に4～5箇月間留学して集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、中級レベルの会話力と作文力を踏まえて、さらに高度なレベルで、一定の内容を的確に伝達するプレゼンテーション能力の習得を目標とする。中期研修6ではとくに、配布文書の作成と口頭説明を行うことで総合的な中国語運用能力を涵養する。	
	海外語学中期研修7(中国語)	海外語学中期研修7(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流提携校に4～5箇月間留学して集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、中級レベルの運用力をさらに伸ばし、留学地域の歴史・文化・社会などについて総合的に理解を深めることを目標とする。中期研修7では、図書館・博物館・美術館などを活用し、文献・文物・画像・映像など幅広い資料に触れることを重視する。	
	海外語学中期研修8(中国語)	海外語学中期研修8(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流提携校に4～5箇月間留学して集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、帰国後に、留学中の体験や習得知識について、中国語を用いて、文書・口頭説明と映像資料による報告プレゼンテーションを行うことを指導する。報告プレゼンテーションは、本学学生に公開する形式で行い、留学や異文化理解の意義が大学で広く共有されることを目標とする。	
	海外語学中期研修1(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、さらなる研修を行う。その際、すでに基礎的な会話能力を習得している学生が、さらに一歩進んだ実践的な会話能力を身につけることを目標とする。特に日常会話において、挨拶や紹介などにとどまらず、時事的な話題にいたるまでこなせるだけの力をつけることを目指す。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 海外語学研修	海外語学中期研修2(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、さらなる語学研修を行う。その際、コミュニケーションの土台となる聞き取り能力を磨き、さまざまなシチュエーションに応じ、より実践的なレベルで相手の発する会話、文章を素早く、かつ的確に理解する力を養うことを目指す。	
	海外語学中期研修3(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルの文法とコミュニケーション能力を習得している学生が、さらに高度な文法、構文を理解することを第一の目標として、研修を行う。その際、書かれたテキスト、とくに新聞や雑誌といった日常触れることの多い文章を読解し、的確に内容を把握する能力を身につけることを目指す。	
	海外語学中期研修4(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が研修を行う。その際、すでに初級から中級レベルのスペイン語を習得した学生が、実用的なレベルでスペイン語による文章を実際に書くレベルの力をつけることを目指す。とりわけ、動詞の各時制の使い方の習得を重要なポイントとする。	
	海外語学中期研修5(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生がさらなる研修を行う。その際、スペイン語によるディスカッション能力を磨くことを目標とする。ここではとりわけ、一つのテーマについて相手の述べる意見を理解しつつ、自分の考えを伝え、さらに相手を説得するだけの力を重点的に鍛える。	
	海外語学中期研修6(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生がさらなる研修を行う。その際、スペイン語によるプレゼンテーション能力を磨くことを目標とする。とくに、一つのテーマについて自分の考えをどのように的確に伝えることができるか、その準備から実践までの力を磨く。	
	海外語学中期研修7(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルを習得している学生がさらなる研修を行う。その際、スペイン語圏の文化に積極的に触れることで、日本とは異なった文化の意義と意味を深く理解する力を養うことを目指す。スペイン語で書かれた文化、歴史などに関する文章の読解力を高める。	
	海外語学中期研修8(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルのスペイン語能力を習得している学生が、さらなる研修を行う。とくに、スペイン語圏の文化に触れる中で、逆に日本の社会、文化を外国人にいかにつたえるかということを考える。さらにその過程で、日本について改めて考える機会とし、双方向の異文化コミュニケーション力を培う場とする。	
	海外語学中期研修1(コリア語)	海外語学中期研修1(コリア語)は、初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生を対象に、韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルのコリア語運用能力を身に付けることを目指す。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、日常会話にとどまらず、韓国社会により深い部分で触れるために、時事のおよび専門的な話題に関しても聞いて理解し、話せ、書ける力の向上を図る。	
	海外語学中期研修2(コリア語)	海外語学中期研修2(コリア語)は、初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生を対象に、韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルのコリア語運用能力を身に付けることを目指す。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、日常会話にとどまらず、韓国社会により深い部分で触れるために、時事のおよび専門的な話題に関しても聞いて理解し、話せ、書ける力の向上を図る。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 海外語学研修	海外語学中期研修3(韓国語)	海外語学中期研修3(韓国語)は、初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生を対象に、韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルの韓国語運用能力を身に付けることを目指す。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、日常会話にとどまらず、韓国社会により深い部分で触れるために、時事のおよび専門的な話題に関しても聞いて理解し、話せ、書ける力の向上を図る。	
	海外語学中期研修4(韓国語)	海外語学中期研修4(韓国語)は、初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生を対象に、韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルの韓国語運用能力を身に付けることを目指す。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、日常会話にとどまらず、韓国社会により深い部分で触れるために、時事のおよび専門的な話題に関しても聞いて理解し、話せ、書ける力の向上を図る。	
	海外語学中期研修5(韓国語)	海外語学中期研修5(韓国語)は、初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生を対象に、韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルの韓国語運用能力を身に付けることを目指す。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、日常会話にとどまらず、韓国社会により深い部分で触れるために、時事のおよび専門的な話題に関しても聞いて理解し、話せ、書ける力の向上を図る。	
	海外語学中期研修6(韓国語)	海外語学中期研修6(韓国語)は、初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生を対象に、韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルの韓国語運用能力を身に付けることを目指す。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、日常会話にとどまらず、韓国社会により深い部分で触れるために、時事のおよび専門的な話題に関しても聞いて理解し、話せ、書ける力の向上を図る。	
	海外語学中期研修7(韓国語)	海外語学中期研修7(韓国語)は、初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生を対象に、韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルの韓国語運用能力を身に付けることを目指す。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、日常会話にとどまらず、韓国社会により深い部分で触れるために、時事のおよび専門的な話題に関しても聞いて理解し、話せ、書ける力の向上を図る。	
	海外語学中期研修8(韓国語)	海外語学中期研修8(韓国語)は、初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生を対象に、韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルの韓国語運用能力を身に付けることを目指す。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、日常会話にとどまらず、韓国社会により深い部分で触れるために、時事のおよび専門的な話題に関しても聞いて理解し、話せ、書ける力の向上を図る。	
	海外語学中期研修9(韓国語)	海外語学中期研修9(韓国語)は、初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生を対象に、韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルの韓国語運用能力を身に付けることを目指す。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、日常会話にとどまらず、韓国社会により深い部分で触れるために、時事のおよび専門的な話題に関しても聞いて理解し、話せ、書ける力の向上を図る。	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	基 礎 科 目	日本文化入門	本講義科目では、文化という概念を理解していく軸を形成すること、及び、国際社会で活動する際に日本とその文化について紹介・説明できる能力を育てることを目標として、日本と日本文化について深く学修する。講義では、世界に伝えたい日本の文化といった日本に立脚した視点に加え、世界から見た日本と日本文化(たとえば、外国人が知りたい日本)という視点を学修するほか、日本の国民性や、日本から見た世界についても説明できる能力を育てる。	
		日本語入門	本講義科目は、日本文化の基盤としての日本語について海外の人々に説明できる能力をもつために、日本語の中に観察される様々な現象や決まりごとについて理解することを到達目標としている。講義では、毎時、日本語の諸問題に関するテーマを設け、言語学的知識に基づく分析を試みることで理解を深めるようにする。授業の導入で基本的知識について解説し、その後プリントや視聴覚教材を用いて具体的な問題事例を紹介する。問題点について、学生と教員との間で質問・意見交換、教員による講評・解説を経て、最終的には学生自らが問題点に対する答えを構築できる能力を育てる。テーマは、日本語の音声・音韻、文字・表記、語彙・意味、文法、待遇表現(敬語)、コミュニケーション、方言、コーパス日本語学、国語科教育、日本語教育、言語政策などの分野にかかわるものを設定する。	
		異文化理解の実践	本講義科目は、異文化に接した際の状況とその意味を考え、そこで生じるさまざまな問題について、どういった解決方法を提案できるかを、実際に海外で活動している人たちの体験を出発点にしながら、自分たちで設定した課題に取り組み、異文化を理解することの意義を深く考えることを目標とする。とくに本講義では、単に留学する地域といった国外においてだけではなく、日本国内でも接することを想定した異文化への対応や、大学での学修を終え、社会に出たあとでの活用にも目を向け、具体的なテーマについてのアプローチを検討し、問題を深く考えることを目指す。	
		Readings in Liberal Arts 1	本演習科目では、大学の講義で触れるさまざまなテーマの文章について、そのしくみを理解し、構成を分析することによって英文を速く正確に読む能力の向上を目標とする。授業では、速読と精読の組み合わせによるリーディング力の強化を行い、文章構造や要旨を理解する為に必要となるスキミングやスキヤニング等のスキルを学び、著者の意図や主旨を裏づける情報を素早く把握できるように多種多様な文章に触れていく。グループ・ワークを活用し、内容について自分の考えを述べ、リアクション・ペーパーにまとめるなどの活動を通して語彙力および読解力の増強を図り、文章構造や要旨を的確に把握し、理解する能力の向上を目指す。	
		Readings in Liberal Arts 2	本演習科目は「Readings in Liberal Arts 1」で学修したスキミングやスキヤニングのスキルを活用し、大学の講義等で扱われる多様なテーマの英文を読解し、重要なポイントを把握し、あるいは特定の部分から情報を素早く収集する能力を発展させることを目標とする。速読と精読とを組み合わせることでリーディング力の強化を目指す。授業では、著者の意図や主旨を裏づける情報を素早く把握するための実践として多様な文章形式の分析を行う。要約の演習を頻繁に活用し、主題文の概要や要点と、それを立証するための本論を区別し、主旨や結論を裏づける情報を本論から素早く把握するための文章分析を継続的に行う。グループでの議論を通して、多角的な情報収集と分析の方法を学修し、高いレベルの読解力を育成することを目指す。	
		Writing with Clarity 1	本演習科目は、ライティングに必要な基本的スキルの修得に焦点を当て、文章レベルの文法理解を中心に、適切な語彙の使用と明快な英文パラグラフを書く力を養成することを目標とする。授業では様々な形式のパラグラフを読み、各自あるいはグループでパラグラフを分析、修正し、パラグラフを作成する際の精度を高める。小グループによるライティング・アクティビティ、セルフ・エディティングやフィードバック・セッションなどの授業内活動を通じ、パラグラフ・レベルのライティング能力の強化と論理的なライティング能力の向上を目指す。	
		Writing with Clarity 2	本演習科目は「Writing with Clarity 1」で修得した英文パラグラフの書き方をもとに、エッセイ・ライティングの技能を養成する。パラグラフの基本構造を拡大し、主題、本論、結論の構成をもった各パラグラフが書けるようになること、またパラグラフのつながりや順番を意識した英語のレトリックが展開できるようになることを目標とする。授業内活動でさまざまな形式のエッセイに触れ、意味を取りながら、論理展開に合わせて言い換えたり、パラグラフを編集したり、まとめたりする訓練を繰り返すことにより、論理的なライティング能力の向上と、正確で明晰な文章によって、自分の考えや判断をエッセイで明確に表現する能力の向上を目指す。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	基 礎 科 目	Cross-Cultural Studies	本演習科目はグローバル化の進む社会環境のなか、異文化や異なる価値観の相互理解を目的とした英語コミュニケーション能力を身につけることを目標とする。授業では異文化という観点から英語コミュニケーションの具体的な事例を取り上げ、どのように異なる文化的背景を持つ人々と交わり、考えを伝え、理解し合うかについて学修する。異文化理解や異文化コミュニケーションの諸相に関連する文献を読み、文化や言語の観点から問題点を捉え、考察を加えていく。また異なった文化的背景を持つ人々といかに円滑に共存できるかについてグループ・ワークやディスカッションを取り入れていく。実際に異文化と接触した際に、学んだ知識をもとに適切に行動する力を身につけ、異なる文化的背景の人々を受け入れるための基礎を養う。	
		ドイツ語基礎A	本演習科目は、ドイツ語をはじめて学修する学生を対象として、ドイツ語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目の学修を目標とする。ドイツ語基礎Aでは、ドイツ語の綴り字の読み方、発音といった基礎となる力を養い、日常的に使われる表現に慣れたのち、基礎となる文法事項について学修する。本科目では、コミュニケーション技能のうち、とくに日常生活で使われるシンプルで短い表現を正確に読み、理解するだけの読解力の基礎を身につけることで、ドイツ語の日常的・実践的な表現や内容を的確に把握する力を養うことを目指す。	
		ドイツ語基礎B	本演習科目は、ドイツ語をはじめて学修する学生を対象として、ドイツ語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目の学修を目標とする。本科目では、綴り字やその読み方といった初歩の知識の修得とともに、とくにドイツ語の文の構造に重点を置き、主語と動詞を中心に、形容詞、副詞等も含めた文の組み立てに関して理解を深める。さらに、短文から複文へ、単純なものからより複雑な文へと学修を進めることで、作文力の充実を図り、日常生活のコミュニケーションに最低限のレベルに必要な簡単な文章を、正確かつ的確に書く力を身につけることを目指す。	
		ドイツ語基礎C	本演習科目は、ドイツ語をはじめて学修する学生を対象として、ドイツ語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目の学修を目標とする。ドイツ語基礎Cでは、ドイツ語の発音などの基礎となる知識の修得とともに、とくにドイツ語の文の組み立て、文型の特色に注目して学修を進めることで、日常生活のコミュニケーションの場で使われる短い表現を中心として、実効力を持った聞き取りの力と、それに立脚した適切かつ素早い発話力を身につけることを目指す。	
		ドイツ語基礎D	本演習科目は、ドイツ語基礎A・B・Cで学修した基礎力をもとに、ドイツ語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目のさらなる発展的学修を目標とする。とくに本科目では、日常の会話におけるドイツ語運用に最低限必要な運用能力の獲得を目指す。その際、文の構造に注意を向け、運用の際のイントネーションや適切なアクセント等を学修することで、ドイツ語圏での日常生活および授業といった実践的コミュニケーションにおける正確な聞き取りの力と、確実な発話力を身につけることを目指す。	
		ドイツ語基礎E	本演習科目は、ドイツ語基礎A・B・Cで培った力をもとに、ドイツ語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目のさらなる発展的学修を目標とする。とくに本科目では、読み書く力の基礎となる文法事項について、ドイツ語運用に最低限必要な理解のさらなる獲得を目指す。この科目では、文の構造に重点を置き、単純な構文からより複雑なものへと学修を進めることで、留学先の日常生活および授業といった実践的コミュニケーションの場で求められる、読解力と作文力を身につけることを目指す。	
		フランス語基礎A	本演習科目は、フランス語をはじめて学修する学生を対象として、フランス語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目の学修を目標とする。綴り字の読み方、発音といった基礎となる力、日常的に使われる表現に慣れたのち、基礎となる文法事項について、順次、学修する。本科目では、コミュニケーション技能のうち、とくに書かれた文の読解力の充実を図り、日常生活で使われるシンプルで短い文章を読みこなすだけの力を身につけることで、フランス語で書かれた表現や内容を的確に把握する力を身につけることを目指す。	
		フランス語基礎B	本演習科目は、フランス語をはじめて学修する学生を対象として、フランス語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目の学修を目標とする。本科目では、綴り字の読み方といった、フランス語の基礎知識を確実なものとすると同時に、とくに文の構造の把握に重点を置き、主語と動詞を中心に、文の組み立てに対してその構文を捉える。その上で、短文から複文、単純なものからより複雑なものへと学修を進めることで、作文力の充実を図り、日常生活のコミュニケーションに最低限のレベルに必要な簡単な文章を、正確かつ的確に書く力を身につけることを目指す。	
		フランス語基礎C	本演習科目は、フランス語をはじめて学修する学生を対象として、フランス語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目の学修を目標とする。本科目では、フランス語の発音などの修得とともに、文型の特色に注目して学修を進めることで、日常生活のコミュニケーションの場という状況を考え、そこで使われる短い定型の表現を出発点として、次第にバリエーションを増やししながら、実効力を持った聞き取りの力と、それに立脚した適切かつ素早い発話力を身につけることを目指す。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	基 礎 科 目	フランス語基礎D	本演習科目は、フランス語基礎A・B・Cで学修した基礎力をもとに、フランス語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目の発展的学修を目標とする。とくに本科目では、日常の会話におけるフランス語運用に最低限必要な運用能力の獲得を目指す。その際、語彙や表現に習熟することはもちろんであるが、ここでは、イントネーションやアクセントの学修を進めることで、フランス語圏での日常生活および授業といった実践的コミュニケーションにおける正確な聞き取りの力と、確実に実践的な発話力を身につけることを目指すことを目指す。	
		フランス語基礎E	本演習科目は、フランス語基礎A・B・Cで培った力をもとに、フランス語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目のさらなる発展的学修を目標とする。とくに本科目では、読み書き力の基礎となる文法事項について、フランス語運用に最低限必要な理解のさらなる獲得を目指し、文法的には接続法まで終えることを課題とする。また、この科目では文の構造に重点を置き、単純な構文からより複雑なものへと学修を進めることで、留学先の日常生活および授業といった実践的コミュニケーションの場で求められる読解力と作文力を身につけることを目指す。	
		中国語基礎A	本演習科目は、中国語をはじめて学修する学生を対象として、中国語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目の学修を目標とする。中国語基礎Aでは、簡体字、ピンイン表記、発音といった基礎となる力を身につけたあと、日常的に使われる表現に慣れたことから始める。本科目は、コミュニケーション技能のうち、とくに書かれた文章の読解力の充実を図り、日常生活で使われる簡単な短い文章を読みこなすだけの力を身につけることで、中国語で書かれた表現や内容を的確に理解し、読みこなす力をつけることを目指す。	
		中国語基礎B	本演習科目は、中国語をはじめて学修する学生を対象として、中国語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目の学修を目標とする。本科目では、とくに中国語の文の構造に重点を置き、主語と動詞、形容詞を中心として、文の組み立てに関して、単純なものからより複雑なものへと学修を進めることで、中国語による作文力の充実を図り、日常生活のコミュニケーションに最低限のレベル必要な簡単な文章を、正確かつ的確に書く力を身につけることを目指す。	
		中国語基礎C	本演習科目は、中国語をはじめて学修する学生を対象として、中国語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目の学修を目標とする。中国語基礎Cは、基礎となる語彙や表現といった事項について、順次、学修する。本科目ではとくにピンイン表記と中国語の発音の正確な修得に重点を置き、日常生活の会話の場で使われる語彙と短い表現を中心として、状況に応じて言葉を聞き取る力と、それに適切かつ素早く対応し、円滑なコミュニケーションを成り立たせるための発話力を身につけることを目指す。	
		中国語基礎D	本演習科目は、中国語基礎A・B・Cで学修した基礎力をもとに、中国語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目の発展的学修を目標とする。とくに本科目では、基礎となる文法事項の学修を進めながら、日常のコミュニケーションにおける中国語の運用に最低限必要な会話力の獲得を目指す。その際、文の構造に注意を向けながら、イントネーションやアクセントの学修を進めることで、留学先の中国語圏での日常生活および授業といった実践的コミュニケーションにおける正確な聞き取りの力と、実践的な発話力を身につけることを目指す。	
		中国語基礎E	本演習科目は、中国語基礎A・B・Cで培った基礎力をもとに、中国語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目を、さらに発展的に学修することを目標とする。とくに本科目では、簡単な中国語を読み・書くための力の基礎となる文法事項について、必要な語彙と表現の理解の獲得を目指す。そのため、この演習科目では文の構造の把握に重点を置き、単純な構文からより複雑なものへと学修を進めることで、留学先の日常生活および授業といった実践的コミュニケーションの場で求められる読解力と作文力を確実に身につけることを目指す。	
		スペイン語基礎A	本演習科目は、スペイン語をはじめて学修する学生を対象として、スペイン語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目の学修を目標とする。アルファベットやスペイン語独特の発音の修得から始め、基礎となる力を身につけたあと、日常的に使われる表現に慣れる。本科目では、基礎となる文法事項について直説法現在から直説法過去までを順次学修する。その際、とくにコミュニケーション技能のうち、書かれた文章の読解力の充実を図り、日常生活で使われる簡単な短い文章を読みこなすだけの力を身につけることで、スペイン語で書かれた表現や内容を的確に理解する力をつけることを目指す。	
		スペイン語基礎B	本演習科目は、スペイン語をはじめて学修する学生を対象として、スペイン語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目の学修を目標とする。スペイン語基礎Bでは、基礎文法の修得を進めるとともに、とくにスペイン語の文の構造の理解に重点を置き、主語と動詞を中心に、文の組み立てに関して、単純なものからより複雑なものへの把握へと学修を進めることで、作文力の充実を図り、日常生活のコミュニケーションに最低限必要なレベルのシンプルな文を、正確に書く力を身につけることを目指す。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  基 礎 科 目	スペイン語基礎C	本演習科目は、スペイン語をはじめて学修する学生を対象として、スペイン語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目の学修を目標とする。本科目では、スペイン語の発音やイントネーションなど、コミュニケーションの場における基礎となる知識の修得とともに、とくに文の組み立てや基本となる文型に注目して学修を進めることで、日常生活における会話の場で使われるシンプルな表現を中心として、状況に応じた実効力を持った聞き取りの力と、それに立脚した適切かつ素早い発話力を身につけることを目指す。	
	スペイン語基礎D	本演習科目は、スペイン語基礎A・B・Cで学修した基礎力をもとに、スペイン語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目の発展的学修を目標とする。とくに本科目では、日常の会話におけるスペイン語運用に最低限必要な語彙や表現などの運用能力の獲得を目指す。その際、文の構造を重視し、主語と動詞を中心に、シンプルなものからより複雑な文を理解することを目指す。その上で、イントネーションやアクセントの学修を進めることで、スペイン語圏での日常生活および授業といった実践的コミュニケーションにおける正確な聞き取りの力と、確実な発話力を身につけることを目指す。	
	スペイン語基礎E	本演習科目は、スペイン語基礎A・B・Cで培った力をもとに、スペイン語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目のさらなる発展的学修を目標とする。とくに本科目では、読み書き力の基礎となる文法事項について、接続法までを順次学修することで、スペイン語運用に最低限必要な運用能力の獲得を目指す。この演習科目では、文の構造に重点を置き、単純な構文からより複雑なものへと学修を進めることで、留学先のスペイン語圏での日常生活および授業といった実践的なコミュニケーションの場で求められる読解力と作文力を身につけることを目指す。	
	コリア語基礎A	本演習科目は、コリア語をはじめて学修する学生を対象として、コリア語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目の学修を目標とする。ハングルの読み・書きから始め、音韻変化といった基礎となる力を身につけながら、日常的に使われる表現に慣れる。さらに、基礎となる文や語彙について、順次、学修する。とくに本科目では、平叙文の基本となるハムニダ体とヘヨ体、叙述、疑問、否定、過去形などの初歩的な文法に基づいた表現を覚え、書かれた文章の読解力の充実を図り、日常生活で使われる簡単な文章を読みこなすだけの力を身につけることを目指す。	
	コリア語基礎B	本演習科目は、コリア語をはじめて学修する学生を対象として、コリア語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目の学修を目標とする。本科目では、ハングルの読み・書き方という基礎的な知識の修得から始め、簡単な日常表現に慣れる。その際に、音韻変化に注意するとともに、コリア語の基本的な語彙と表現の修得に力を入れることで、平叙文を中心に学修を進める。その上で、本科目では疑問文、否定文へと学修を進め、単純なものからより複雑な表現の修得を目指すことで、作文力の充実を図り、日常生活のコミュニケーションに最低限のレベルに必要な簡単な文章を、正確かつ的確に書く力を身につけることを目指す。	
	コリア語基礎C	本演習科目は、コリア語をはじめて学修する学生を対象として、コリア語で読み・書き・話す技能の修得に必要な基本項目の学修を目標とする。本科目では、ハングルの読み・書きからはじめるが、この演習科目ではとくに、日常のコミュニケーションの中でいかにコリア語を使いこなすかという点に重点を置く。そのため、音韻変化の知識の正確な修得とともに、コミュニケーションの場で使われる短い表現を中心に学修し、表現や語彙を増やししながら、実効力を持った聞き取りの力と、それに立脚した適切かつ素早い発話力を身につけることを目指す。	
	コリア語基礎D	本演習科目は、コリア語基礎A・B・Cで学修した文法および基礎となる表現を確認し、さらにその運用の練習をしながら、さらに上のレベルである連体形、変則活用などの文法や表現を学修し、言語運用能力の4技能をバランスよく向上させることを目標とする。その中でも本科目では、とくにコリア語の理解力という面から、読む力と聞く力を伸ばし、より自然で正確なコリア語の運用ができるようになるための学修に重点を置く。そのために、留学先のコリア語圏での日常生活および授業といった実践的コミュニケーションにおける正確な聞き取りの力と、確実な発話力を身につけることを目指す。	
	コリア語基礎E	本演習科目は、コリア語基礎A・B・Cで培った文法の知識を確認し、表現力をアップさせる練習を行いながら、さらに上のレベルである連体形、変則活用などを学修し、言語運用能力の4技能をバランスよく向上させることを目標とする。とくに本科目では、コリア語で発信する能力として、書く力と話す力の充実に重点を置く。日本語との類似点が多いからこそ学びにくいところをしっかり注意を払い、より自然で正確なコリア語を修得することで、留学先の日常生活および授業といった実践的コミュニケーションの場で求められる読解力と作文力を身につける。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  基 礎 科 目	Academic Skills	本演習科目では、海外の大学等で学ぶ際に必要となるアカデミック・スキルの基礎を養うことを目標とする。英語で行われる講義の要旨をまとめ、説明内容を裏づける情報を素早く把握するためのノート・テーキング・スキル、英文テキストの読み方、文献、インターネット、マルチメディアなどによる情報収集の方法、英文レポートや論文の書き方の基礎、また研究発表などに必要なプレゼンテーション・スキルの基礎を学び、留学を成功させるために必要となる基礎的スキルを学修する。また、対話形式のペア・ワークやグループ・シミュレーションを頻繁に用いながら、海外の大学のクラスで多く見られる、学生が自主的に発言し議論するディスカッション形式の授業に対応する訓練を行う。	
	Talking Tasks 1	本演習科目では、さまざまな状況でのコミュニケーションを達成するために、意味を確かめ、お互いの理解を確認する訓練をタスクやアクティビティーを通じて行うことによって、新しい言葉やフレーズを習得するためのプロセスを学修する。対話形式のペア・ワークやグループ・シミュレーションを活用し、さまざまなトピックについて話し、問題を解決するタスクのほか、アクティビティーの成果をクラスで発表するなどして、英語でのコミュニケーション能力の養成を目標とする。	
	Talking Tasks 2	本演習科目は、「Talking Tasks 1」で学修した英語コミュニケーション能力をさらに発展させ、タスクやアクティビティーを通じ、さまざまな状況でのコミュニケーションを達成するために、英語でのやりとりを通して意味を確認しながら、高度の英語コミュニケーション能力を養成することを目標とする。タスクはより現実的で実践的なものを設定し、ペア・ワークやグループ・シミュレーションを通じて、さまざまなトピックについて建設的に議論をし、問題を解決することでコミュニケーション・スキルのさらなる発展を目指す。	
	ドイツ語コミュニケーションA	ドイツ語コミュニケーションAは、2年次前期にドイツ語圏に留学を予定する学生を対象とする演習科目である。1年次前期にドイツ語基礎A・B・Cで学修した基礎的なドイツ語力に基づいて、とりわけ留学先で必要となる実践的な運用能力の修得を目標とした学修を行う。とくに本科目では、語彙力およびそれに基づいたより実践的なレベルでの表現力の充実を目指すことで、留学した先での学修をより効果的なものとするを目的としている。	
	ドイツ語コミュニケーションB	ドイツ語コミュニケーションBは、2年次前期にドイツ語圏に留学を予定する学生を対象とする演習科目である。1年次前期にドイツ語基礎A・B・Cで学修した基礎的なドイツ語力に基づいて、とりわけ留学先で必要となる実践的な運用能力の修得を目標とした学修を行う。とくに本科目では、日常生活に求められる聞き取りの力のより実践的なレベルでの充実を目指すことで、留学した先での学修をより効果的なものとするを目的としている。	
	ドイツ語コミュニケーションC	ドイツ語コミュニケーションCは、2年次前期にドイツ語圏に留学を予定する学生を対象とする演習科目である。1年次前期にドイツ語基礎A・B・Cで学修した基礎的なドイツ語力に基づいて、とりわけ留学先で必要となる実践的な運用能力の修得を目標とした学修を行う。とくに本科目では、具体的な状況における相互的なコミュニケーション力のより実践的なレベルでの充実を目指すことで、留学した先での異文化との接触に対する柔軟な対応力を養うことを目的としている。	
	フランス語コミュニケーションA	フランス語コミュニケーションAは、2年次前期にフランス語圏に留学を予定する学生を対象とする演習科目である。1年次前期にフランス語基礎A・B・Cで学修した基礎的なフランス語力に基づいて、とりわけ留学先で必要となる実践的な運用能力の修得を目標とした学修を行う。とくに本科目では、語彙力およびそれに基づいたより実践的なレベルでの表現力の充実を目指すことで、留学した先での学修をより効果的なものとするを目的としている。	
	フランス語コミュニケーションB	フランス語コミュニケーションBは、2年次前期にフランス語圏に留学を予定する学生を対象とする演習科目である。1年次前期にフランス語基礎A・B・Cで学修した基礎的なフランス語力に基づいて、とりわけ留学先で必要となる実践的な運用能力の修得を目標とした学修を行う。とくに本科目では、日常生活に求められる聞き取りの力のより実践的なレベルでの充実を目指すことで、留学した先での学修をより効果的なものとするを目的としている。	
	フランス語コミュニケーションC	フランス語コミュニケーションCは、2年次前期にフランス語圏に留学を予定する学生を対象とする演習科目である。1年次前期にフランス語基礎A・B・Cで学修した基礎的なフランス語力に基づいて、とりわけ留学先で必要となる実践的な運用能力の修得を目標とした学修を行う。とくに本科目では、具体的な状況における相互的なコミュニケーション力のより実践的なレベルでの充実を目指すことで、留学した先での異文化との接触に対する柔軟な対応力を養うことを目的としている。	
	中国語コミュニケーションA	中国語コミュニケーションAは、2年次前期に中国語圏に留学を予定する学生を対象とする演習科目である。1年次前期に中国語基礎A・B・Cで学修した基礎的な中国語に基づいて、とりわけ留学先で必要となる実践的な運用能力の修得を目標とした学修を行う。とくに本科目では、語彙力の増強およびそれに基づいたより実践的なレベルでの表現力の充実を目指すことで、留学した先での学修をより効果的なものとするを目的としている。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目  専門 科目	中国語コミュニケーションB	中国語コミュニケーションBは、2年次前期に中国語圏に留学を予定する学生を対象とする演習科目である。1年次前期に中国語基礎A・B・Cで学修した基礎的な中国語力に基づいて、とりわけ留学先で必要となる実践的な運用能力の修得を目標とした学修を行う。とくに本科目では、日常生活に求められる聞き取りの力のより実践的なレベルでの充実を目指すことで、留学した先での学修をより効果的なものとするを目的としている。	
	中国語コミュニケーションC	中国語コミュニケーションCは、2年次前期に中国語圏に留学を予定する学生を対象とする演習科目である。1年次前期に中国語基礎A・B・Cで学修した基礎的な中国語力に基づいて、とりわけ留学先で必要となる実践的な運用能力の修得を目標とした学修を行う。とくに本科目では、具体的な状況における相互的なコミュニケーション力のより実践的なレベルでの充実を目指すことで、留学した先での異文化との接触に対する柔軟な対応力を養うことを目的としている。	
	スペイン語コミュニケーションA	スペイン語コミュニケーションAは、2年次前期にスペイン語圏に留学を予定する学生を対象とする演習科目である。スペイン語基礎A・B・Cで学修した基礎的なスペイン語の知識、およびスペイン語基礎D・Eで学修するスペイン語の知識に基づいて、留学先で必要とされるレベルのより実践的な運用能力の修得を目標とした学修を行う。とくに本科目では、語彙力およびそれに基づいた表現力の充実に力点を置き、実際のコミュニケーションで必要とされる表現の幅を広げることを目的としている。	
	スペイン語コミュニケーションB	スペイン語コミュニケーションBは、2年次前期にスペイン語圏に留学を予定する学生を対象とする演習科目である。スペイン語基礎A・B・Cで学修した基礎的なスペイン語の知識、およびスペイン語基礎D・Eで学修するスペイン語の知識に基づいて、留学先で必要とされるレベルのより実践的な運用能力の修得を目標とした学修を行う。とくに本科目では、日常生活に求められる聞き取りの力の充実を目指すことで、実際のコミュニケーションにおける理解する力を高めることを目的としている。	
	スペイン語コミュニケーションC	スペイン語コミュニケーションCは、2年次前期にスペイン語圏に留学を予定する学生を対象とする演習科目である。スペイン語基礎A・B・Cで学修した基礎的なスペイン語の知識、およびスペイン語基礎D・Eで学修するスペイン語の知識に基づいて、留学先で必要とされるレベルのより実践的な運用能力の修得を目標とした学修を行う。とくに本科目では、具体的な状況における相互的なコミュニケーション力の充実を目指すことで、実際の会話の場面や異文化との接触の際の柔軟な対応力を養うことを目的としている。	
	コア語コミュニケーションA	コア語コミュニケーションAは、2年次前期にコア語圏に留学を予定する学生を対象とする演習科目である。コア語基礎A・B・Cで学修した基礎的なコア語力に基づいて、さらに上のレベルである連体形、変則活用、下称形、伝聞などの文法や表現を学修し、言語運用能力の4技能をバランスよく向上させることを目標とする。とくに本科目では、語彙力およびそれに基づいたより実践的なレベルでの表現力の充実を目指すことで、留学した先での学修をより効果的なものとするを目的としている。留学先で必要となる書く・話す能力を伸ばしつつ、日常生活においての一般業務に必要な語彙や使用頻度の高い慣用表現などを理解して使用できるようにする。	
	コア語コミュニケーションB	コア語コミュニケーションBは、2年次前期にコア語圏に留学を予定する学生を対象とする演習科目である。コア語基礎A・B・Cで学修した基礎的なコア語力に基づいて、さらに上のレベルである連体形、変則活用、下称形、伝聞などの文法や表現を学修し、言語運用能力の4技能をバランスよく向上させることを目標とする。とくに本科目では、日常生活に求められる聞き取りの力のより実践的なレベルでの充実を目指すことで、留学した先での学修をより効果的なものとするを目的としている。留学先で必要となる読む・聞く能力を伸ばしつつ、日常生活においての一般業務に必要な語彙や使用頻度の高い慣用表現などを理解して使用できるようにする。	
	コア語コミュニケーションC	コア語コミュニケーションCは、2年次前期にコア語圏に留学を予定する学生を対象とする演習科目である。コア語基礎A・B・Cで学修した基礎的なコア語力に基づいて、さらに上のレベルの文法である連体形、変則活用、下称形、伝聞などの文法や表現を学修し、言語運用能力の4技能をバランスよく総合的に向上させることを目標とする。とくに本科目では、具体的な状況における相互的なコミュニケーション力のより実践的なレベルでの充実を目指すことで、留学した先での異文化との接触に対する柔軟な対応力を養うことを目的としている。	
基礎 科目	世界の文化を知る(北米)	世界の各地域の文化について学ぶ上での概説的な講義科目として位置づけ、基本的な情報を整理し基礎的な知識を身につけるとともに、各地域の現地事情を知る科目としての役割も果たす。本科目では、アメリカ合衆国以北の北米地域を対象とする。具体的には、政治・経済・文化面について当該地域の現状を把握するとともに、現在の国家や国民という単位にとらわれることなく、その現状を支える歴史的・文化的バックグラウンドについて広く概観する。高等学校の地理歴史レベルにとどまらない広範な基礎的知識を身につけ、その後の学修に活かすことのできる全体像の理解を目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	基 幹 科 目	世界の文化を知る(ラテンアメリカ)	世界の各地域の文化について学ぶ上での概説的な講義科目として位置づけ、基本的な情報を整理し基礎的な知識を身につけるとともに、各地域の現地事情を知る科目としての役割も果たす。本科目では、メキシコおよびカリブから中米・南米にかけてのラテンアメリカ地域を対象とする。具体的には、政治・経済・文化面について当該地域の現状を把握するとともに、現在の国家や国民という単位にとらわれることなく、その現状を支える歴史的・文化的バックグラウンドについて広く概観する。高等学校の地理歴史レベルにとどまらない広範な基礎的な知識を身につけ、その後の学修に活かすことのできる全体像の理解を目標とする。	
		世界の文化を知る(ヨーロッパ)	世界の各地域の文化について学ぶ上での概説的な講義科目として位置づけ、基本的な情報を整理し基礎的な知識を身につけるとともに、各地域の現地事情を知る科目としての役割も果たす。本科目では、西ヨーロッパはもちろんのこと、中欧や東欧も含むヨーロッパ全体を対象とする。具体的には、政治・経済・文化面について当該地域の現状を把握するとともに、現在の国家や国民という単位にとらわれることなく、その現状を支える歴史的・文化的バックグラウンドについて広く概観する。高等学校の地理歴史レベルにとどまらない広範な基礎的な知識を身につけ、その後の学修に活かすことのできる全体像の理解を目標とする。	
		世界の文化を知る(アジア)	世界の各地域の文化について学ぶ上での概説的な講義科目として位置づけ、基本的な情報を整理し基礎的な知識を身につけるとともに、各地域の現地事情を知る科目としての役割も果たす。本科目では、中国を中心に東南アジアや朝鮮半島、さらには日本をも見据えたアジア地域を対象とする。具体的には、政治・経済・文化面について当該地域の現状を把握するとともに、現在の国家や国民という単位にとらわれることなく、その現状を支える歴史的・文化的バックグラウンドについて広く概観する。高等学校の地理歴史レベルにとどまらない広範な基礎的な知識を身につけ、その後の学修に活かすことのできる全体像の理解を目標とする。	
		文化研究の視点	本講義科目は、異なった地域や時代、環境などの条件の下、長い時間をかけて築き上げられたさまざまな文化が持つ多様性に対して、いろいろな研究領域の成果を概観しつつ、それぞれの視点からひとつの地域ないし特定の時代の文化全体を眺望することで、そこから浮かび上がる特色を把握することを目標とする。その上で、異なった文化状況との比較を行うことで、それぞれの特色を相対化し、より深い段階へと理解を深めることを目的とする。	
		ことば・身体・映像	社会的コミュニケーションの中心となる「ことば」を制御する意識の基礎には、「ことば」を支える「身体」感覚がある。「頭」が働く際には、眼や耳や口等々の五感、すなわち「身体」も前もってすでに働いている。それらの五感の相互作用の中心に「視覚」が存在する。本講義科目は、最初に「映像」の示すさまざまな問題を通して、普段は気づかない「視覚」の「受け身」の問題を意識させ、さらにコミュニケーションの土台である「身体」と「ことば」の相互作用について考察する。言語の習得を進める上での諸問題を、身体面から理解する土台となると同時に、2年次以降の身体系講義科目の入門となる新たな視点と基礎知識の修得を目標とする。	
		異文化交流ワークショップ	本科目は、2年次前期の海外研修を終えた学生が、それぞれの成果を自らの考えでまとめ、外に向かって発表し、かつ、その成果をお互いに評価することで、異文化に対する多様で柔軟な理解力を養うことを目的とした、少人数による実践的な演習科目である。さらに、2年次後期から3年次、4年次の専門科目における学修と卒業研究に向けて、取り組むべき課題を自ら設定し、その問題解決に向けて積極的に取り組むための土台となる思考力と実行力を養うことで、学修の成果の発信力を高めることを目標とする。	
		ゼミナール1	本演習科目は、学問的な研究テーマや表現・制作のテーマについて、専門的な手法やアプローチを一定程度まで身につけることに主眼を置く。各々の担当教員の指導のもとで、各ゼミナールの専門分野に応じた文献や表現・制作課題を受講生各自が選んで、それらについて最初の取り組みを行い、学問的・専門的な技術の研鑽を積む。さらに、その成果を発表やプレゼンテーションあるいはディスカッションといった形で発信できるレベルに達することを目標とする。	
		ゼミナール2	本演習科目は、ゼミナール1に引き続いて、学問的な研究テーマや表現・制作テーマなどについて専門的な手法やアプローチを身につけ、その上で、その成果を外部に公表できるようになることに主眼を置く。各々の担当教員の指導のもとで、各ゼミナールの対象とする専門分野に応じた文献や表現・制作課題に継続して取り組みつつ、学問的・専門的技術の研鑽を継続する。さらに、その取り組みの中間的な成果を発信できるレベルに達することを目標とする。	
		ゼミナール3	本演習科目は、ゼミナール1・2で身につけた学問的な研究テーマや表現・制作のテーマに関する手法やアプローチの高度化を達成しつつ、卒業研究の具体的な課題を策定し、それに取り組むことに主眼を置く。各々の担当教員の指導のもとで、各ゼミナールの専門分野に応じた卒業研究のテーマを具体化させ、そのために必要な文献収集や読解、調査や分析、もしくはさらなる技法や技術の修得を実践し、その中間的報告を発信することができる段階に達することを目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  基 幹 科 目	ゼミナール4	本演習科目は、ゼミナール3に引き続いて、学問的な研究テーマや表現・制作のテーマを深化させ、4年間の学修の集大成となる卒業研究を完成させる段階に達することに主眼を置く。ゼミナール3で選定した卒業研究のテーマを推し進め、その完成に向けた作業を継続する。具体的には、論文の構成や論旨の進め方、文章表現などの精緻化を進めたり、表現・制作テーマの内容や技法をより高度なものへと磨いたりする。最終的には、卒業研究のテーマを完成に至るレベルまで高め、発信できるレベルに達することを目標とする。	
	卒業研究	卒業研究では、4年間の学修の集大成として、その成果を一つの形にまとめることを目標とする。その成果は、卒業論文という形のみにとらわれることなく、それ以外の多様な形態の学修成果を対象として評価する。具体的には、専門的な文献調査やフィールドでのリサーチなどに基づいた学術的な論文作成のほか、身体表現や外国語のコミュニケーション能力を生かした表現・制作等も対象とする。いずれの場合にも、複数の教員が審査に当たり、学術的専門性やテーマの妥当性を踏まえて評価する。	
	海外研修(リーディング)	異文化コミュニケーション学科の学びのなかで、基幹となる言語運用能力の4技能を高める科目の1つに位置づける。本科目は、1年次に学修した語学科目群(英語では「Readings in Liberal Arts 1」「Readings in Liberal Arts 2」、英語以外の外国語においては、各言語の「基礎A」および「基礎E」)を発展・実践的に活用できるようになることを目標としている。文章のしくみを理解するほか、まとまった情報がどのように構成されて提示されているか、構成を把握するスキルを養成する。	
	海外研修(リスニング)	言語運用能力の基幹となる4技能の中から、特にリスニング・スキルの向上を目指す。本科目は、1年次に学修した語学科目群(英語では「Talking Tasks 1」「Talking Tasks 2」、英語以外の外国語においては、各言語の「基礎C」「基礎D」および「コミュニケーションB」)を発展・実践的に活用できるようになることを目標としている。ある程度のまとまった情報を音声を通して収集する能力や、コミュニケーションを行う相手の伝えようとしている内容をなるべく正確に把握できるスキルを養成する。レクチャーや短いトークなど、さまざまな状況での演習を行う。	
	海外研修(ライティング)	言語運用能力の基幹となる4技能の中から、特にライティング・スキルの向上を目指す。本科目は、1年次に学修した語学科目群(英語では「Writing with Clarity 1」「Writing with Clarity 2」、英語以外の外国語においては、各言語の「基礎B」「基礎E」)を発展・実践的に活用できるようになることを目標としている。「海外研修(リーディング)」で学修する、文章の構成を把握する力を応用し、一つ一つの文の書き方、文章の構成を意識しつつ、自分の伝えたい内容をきちんと表現できるようになることを目指す。	
	海外研修(スピーキング)	言語運用能力の基幹となる4技能の中から、特にオーラル・コミュニケーション・スキルの向上を目指す。本科目は、1年次に学修した語学科目群(英語では「Talking Tasks 1」「Talking Tasks 2」、英語以外の外国語においては、各言語の「基礎C」「基礎D」)を発展・実践的に活用できるようになることを目標としている。これまでに学修した言語知識を活かしつつ、語彙や表現の運用能力を高める。ペア・ワークやグループ・ワークなどで各学生の情報発信・発話の機会を増やし、発信面の言語運用スキルを学修する。	
	海外研修(リサーチ)	本科目は、与えられた課題に関する資料を探し出し、その資料が自らの必要とする情報であるかどうか、迅速かつ確実に確認できるようになることを目標とする。そのためには、「海外研修(リーディング)」で学修するさまざまな読解のストラテジーを駆使することが求められ、その意味では「海外研修(リーディング)」の実践・応用的な科目と位置づけられる。具体的には、プレビュー、スキミング、スキミングといったスキルを実際に用いて情報収集の能力を高めることになる。	
	海外研修(プレゼンテーション)	本科目では、「海外研修(リーディング)」「海外研修(リサーチ)」において、情報受信のスキルを磨くと同時に、「海外研修(ライティング)」によって学修した情報発信を、実践的に「海外研修(スピーキング)」による演習を経て、オーラル・プレゼンテーションとして発信していくスキルを身につける。「海外研修(スピーキング)」を発展させたかたちで、効果的に情報を届けるスキルを身につけることを目標とする。具体的には、アイコンタクト、ジェスチャー、発声のしかたの工夫などのスキルを用いた効果的なプレゼンテーションを実践する。	
	海外研修(ディスカッション)	「海外研修(プレゼンテーション)」が、一方向的な情報発信のスキルであるのに対し、「海外研修(ディスカッション)」においては、一つのトピックに関して、対話・議論形式によって情報交換するスキルを発展させることを目標とする。共通の主題について意見を交換するためには、対話参加者の考えを理解し、意見の相違や類似を整理した上で、自らの考えを効果的に述べるスキルが求められる。授業では、ペア・ワークによる対話演習やグループ別によるディスカッションなどを通じて積極的に対話・議論を進めていく態度と技能を身につける。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  基 幹 科 目	海外研修(異文化理解)	コミュニケーションを行う上で要請されるのは、単に言語的な側面だけではない。身体的な記号としてのふるまい(ジェスチャー)のほか、発話のしかた(なにを主語として語るかなどの発想の相違)などの理解も、コミュニケーションの成立にかかわっている。本科目は、コミュニケーションの非言語的な側面に注目し、修得言語の成り立っている社会や文化に対する理解を深めることを目標とする。海外研修先での日常生活で得られた知見を授業での議論の課題にするなど、体験による知見を知識に変え、また知識を実体験へと活かしていく应用能力を身につける。そういった能力を通して、多様な文化が接触・融合する現代社会においてグローバルな視野を養うこととなる。	
	Big Reading for Speed	本演習科目は、様々な多読や速読課題をこなすことによってインプットを十分に行い、英語の習熟度を伸ばすことを目指す。このような英語学修は、リーディングスピード、リーディング能力、文法知識、語彙力の向上などに貢献するだけでなく、集中力の持続時間増加や学修意欲の向上、読書の習慣づけなどにも有効である。多読や速読課題を継続的にこなすことにより、100万語程度の英文読破を目標とし、さらに音読、リスニング、スピーキング、ライティングの課題とリンクさせることで、情報処理の速度と習熟度の向上を目標とする。	
	Critical Reading	本演習科目では、英文の内容を理解するだけではなく、著者がそれをどのように論じているのかを分析し、著者の見解や立場の合理性を評価するための読解力を養成することを目標とする。内容、形式や表現、信頼性や客観性、引用や数値の正確性、論理的な思考の確かさなどを評価し、自分の知識や経験と関連づけて建設的に批判するクリティカルリーディング能力の向上を図る。授業内活動を通じ、著者の主張から中心となる話題や重要な説明を取捨選択し、文献の内容に対して、自らの視点で疑問をもち、文献が提示する意見について、論理的に評価する訓練を繰り返し行うかたちで演習を進め、批判的思考と読解能力を養成する。	
	Verbal Communication	本演習科目は、「Talking Tasks 1」や「Talking Tasks 2」で培ったコミュニケーションスキルを復習しながら、実社会におけるさまざまな英語使用場面を想定し、自然な会話を行うためのフレーズ、イディオム、慣用句など英会話で多用される表現の幅を広げ、自然で効果的な英語コミュニケーションを行う技能を養成することを目標とする。授業では、現実的で実践的なタスクやアクティビティを行い、対話形式のペアワークやグループ・シミュレーションを頻繁に用いながら、英語によるインターアクションを体験することや、フレーズ、イディオム、慣用句の修得を促すトレーニングを行うことにより、使用できる表現の幅をひろげ、相手の立場などに合わせ、状況に応じた適切な言語使用ができるよう、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。	
	Talking Points	本演習科目は、対話における議論、複数の参加者によるディスカッション、またグループにおけるディベートの場面で、自らの考えを効果的に述べ、他の参加者の考えや立場を理解し、相違点を明らかにし、必要があれば調整し、よりよい結論を導くために必要なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とする。ペアワークによる対話やさまざまな状況設定でのグループ・ディスカッションを取り入れることで、ディスカッションやディベートに積極的に参加するためのプラクティクスを実践的に身につけながら、主題の理解、主張を裏づける情報の収集、分析および論理の組み立てに必要な手法を学ぶ。自分の考えを英語で組み立て、適切に表現する活動を通して、高度の英語コミュニケーション能力の養成を目指す。	
	Presentation & Research	本演習科目は、自らの学修成果や研究成果をレポートや論文など、適切な形の英文にし、その成果を英語でプレゼンテーションする一連の作業を体験し学修することで、高度のコミュニケーション能力とライティング能力の養成を目標とする。リサーチトピックを決め、文献調査、アンケート調査、または小実験を行い、その結果を論文にまとめていく。その過程において形式的、執筆上の課題を解決することにより、形式的に整った、内容的に説得力のある英語論文の作成ができるようになることを目指す。プレゼンテーションでは自己の主張や見解を効果的に伝えるための技術の修得を目指す。	
	Critical Writing	本演習科目は、高度なクリティカル・ライティング技能の養成を目標とする。日本語の英訳を中心とする英作文から離れ、英語にて自分の考えを組み立て、適切に表現し、自己の立場を明確にしながら他者の考え方の位置づけを反映させるための実践を行う。また表現や意見を明確に伝えるパラグラフの書き方について学び、その実践を繰り返していく。同時に英語のレトリックを身につけ、小論文を作成し、ピアレビューや添削演習によって批判的思考力に基づくライティング能力を養成する。	
	Topics in English A	本科目は、言語教育と内容教育とを統合して行うCLIL (Content and Language Integrated Learning) 型の英語授業を行う。講義内容は、文学、演劇、音楽、哲学、経済、ビジネス、科学、テクノロジー、カルチュラル・スタディーズ等多岐にわたるが、主に日本語で行われる専門科目に準じた内容を英語で反復することになる。学生は英語で行われる講義の要旨をまとめ、説明内容を裏づける情報を理解し、英文テキストを読み、英語文献から情報収集をし、必要に応じて、課題レポートや論文を英語で作成し、研究発表などのプレゼンテーションを英語で行う。ターゲット言語による言語教育と内容教育とを統合して行うことにより、英語の習熟度を全体的に伸ばすことを目標とする。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	基 幹 科 目	Topics in English B	本科目は、言語教育と内容教育とを統合して行うCLIL (Content and Language Integrated Learning) 型の英語授業で、「Topics in English A」とは異なる主題を扱う。講義内容は、文学、演劇、音楽、哲学、経済、ビジネス、科学、テクノロジー、カルチュラル・スタディーズ等多岐にわたるが、主に日本語で行われる専門科目に準じた内容を英語で反復することになる。学生は英語で行われる講義の要旨をまとめ、説明内容を裏づける情報を理解し、英文テキストを読み、英語文献から情報収集をし、必要に応じて、課題レポートや論文を英語で作成し、研究発表などのプレゼンテーションを英語で行う。ターゲット言語による言語教育と内容教育とを統合して行うことにより、英語の習熟度を全体的に伸ばすことを目標とする。	
		ドイツ語総合A	ドイツ語総合Aは、2年次前期にドイツ語圏へ留学した学生、あるいは同等の語学レベルにある学生が、その語学力を維持し、さらに発展させることを目標とする。本演習科目では、とくにドイツ語の聞き取り力と発話力に重点を置いた学修を行い、日常でのコミュニケーション力を涵養する。具体的には、さまざまなシチュエーションにおけるドイツ語の音声による情報を正確に捉える力と、質問や問題解決に向け自分から積極的にドイツ語で発話する力を、グループワーク等を活用しながら練習する。	
		ドイツ語総合B	ドイツ語総合Bは、2年次前期にドイツ語圏へ留学した学生、あるいは同等の語学レベルにある学生が、その語学力を維持し、さらに発展させることを目標とする。本演習科目では、具体的には、CEFRに対応した検定試験(ゲーテ・インスティテュート試験)および日本のドイツ語教育課程に準拠した実用ドイツ語検定に十分に対応できるだけの力を養うことを目指し、読む・書く・聞く・話すの4技能のバランスのよい学修を行うことで、それらの運用能力を相互的に涵養する。	
		ドイツ語実践A	ドイツ語実践Aは、2年次前期にドイツ語圏へ留学した学生、あるいは同等の語学レベルにある学生が、ドイツ語総合等の学修と併せてその語学力を維持し、さらに発展させることを目標とする。とくに本演習科目では、発展科目群、応用科目群におかれた専門科目をより深く理解するためのドイツ語力を養う。具体的には、ドイツ語を媒体として、地域研究、テーマ研究等の科目に関わる情報を得て、その知見を深めることができる語学運用能力の修得を目指す。	
		ドイツ語実践B	ドイツ語実践Bは、2年次前期にドイツ語圏へ留学した学生、あるいは同等の語学レベルにある学生が、ドイツ語総合等の学修と併せてその語学力を維持し、さらに発展させることを目標とする。とくに本演習科目では、語彙力の充実と文法の理解力を深めることで、さまざまなテキストを読み解くドイツ語力の涵養を目指す。具体的には、インターネット上や新聞記事などのトピックスの理解からはじめ、専門科目やゼミナールにおける学修に応用させることが可能なだけの文献の読解力を養う。	
		ドイツ語表現A	ドイツ語表現Aは、2年次前期にドイツ語圏へ留学し、あるいは同等の語学運用能力を有し、ドイツ語総合A・Bやドイツ語実践A・Bを通してその語学力を維持、発展させた学生が、さらにその力を伸ばすことを目的とする演習科目である。本科目では、ドイツ語を活用した実践的な発信力を身につけることを目標とする。具体的には、インターネットによるメールやホームページの作成、さらに映画字幕の作成といった、実践的なレベルで活用することができるだけのドイツ語の表現力を充実させる。	
		ドイツ語表現B	ドイツ語表現Bは、2年次前期にドイツ語圏へ留学し、あるいは同等の語学運用能力を有し、ドイツ語総合A・Bやドイツ語実践A・Bを通してその語学力を維持、発展させた学生が、さらにその力を伸ばすことを目的とする演習科目である。本科目では、さまざまな状況に適切に対応できるドイツ語の運用能力を磨くことを目標とする。具体的には、ロールプレイングなどを通して、実際の状況の中で、ドイツ語による適切かつ十分な対応ができるだけの実践的なコミュニケーション力を養うことで、自立した言語使用者のレベル(CEFRにおけるBレベル)に達することを目指す。	
		フランス語総合A	フランス語総合Aは、2年次前期にフランス語圏へ留学した学生、あるいは同等の語学レベルにある学生が、その語学力を維持し、さらに発展させることを目標とする。本演習科目では、とくにフランス語の聞き取り力と発話力に重点を置いた学修を行い、日常でのコミュニケーション力を涵養する。具体的には、さまざまなシチュエーションにおけるフランス語の音声による情報を正確に捉える力と、質問や問題解決に向け自分から積極的にフランス語で発話する力を、グループワーク等を活用しながら練習する。	
		フランス語総合B	フランス語総合Bは、2年次前期にフランス語圏へ留学した学生、あるいは同等の語学レベルにある学生が、その語学力を維持し、さらに発展させることを目標とする。本演習科目では、具体的には、CEFRに対応した検定試験(DELF/DALF)および日本のフランス語教育課程に準拠した実用フランス語検定に十分に対応できるだけの力を養うことを目指し、読む・書く・聞く・話すの4技能についてバランスのよい学修を行うことで、それらの運用能力を涵養する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	基 幹 科 目	フランス語実践A	フランス語実践Aは、2年次前期にフランス語圏へ留学した学生、あるいは同等の語学レベルにある学生が、フランス語総合等の学修と併せてその語学力を維持し、さらに発展させることを目標とする。とくに本演習科目では、発展科目群、応用科目群におかれた専門科目をより深く理解するためのフランス語力を養う。具体的には、フランス語を媒体として、地域研究、テーマ研究等の科目に関わる情報を得て、その知見を深めることができる語学運用能力の修得を目指す。	
		フランス語実践B	フランス語実践Bは、2年次前期にフランス語圏へ留学した学生、あるいは同等の語学レベルにある学生が、フランス語総合等の学修と併せてその語学力を維持し、さらに発展させることを目標とする。とくに本演習科目では、語彙力の充実と文法の理解力を深めることで、さまざまなテキストを読み解くフランス語力の涵養を目指す。具体的には、インターネット上や新聞記事などのトピックスの理解からはじめ、専門科目やゼミナールにおける学修に応用させることが可能なだけの文献の読解力を養う。	
		フランス語表現A	フランス語表現Aは、2年次前期にフランス語圏へ留学し、あるいは同等の語学運用能力を有し、フランス語総合A・Bやフランス語実践A・Bを通してその語学力を維持、発展させた学生が、さらにその力を伸ばすことを目的とする演習科目である。本科目では、フランス語を活用した実践的な発信力を身につけることを目標とする。具体的には、フランス語によるメールやホームページの作成、さらに映画字幕の作成といった、実践的なレベルで活用することができるだけのフランス語の表現力を充実させる。	
		フランス語表現B	フランス語表現Bは、2年次前期にフランス語圏へ留学し、あるいは同等の語学運用能力を有し、フランス語総合A・Bやフランス語実践A・Bを通してその語学力を維持、発展させた学生が、さらにその力を伸ばすことを目的とする演習科目である。本科目では、さまざまな状況に適切に対応できるフランス語の運用能力を磨くことを目標とする。具体的には、ロールプレイングなどを通して、実際の状況の中で、フランス語による適切かつ十分な対応ができるだけの実践的なコミュニケーション力を養うことで、自立した言語使用者のレベル(CEFRにおけるBレベル)に達することを目指す。	
		中国語総合A	中国語総合Aは、2年次前期に中国語圏へ留学した学生、あるいは同等の語学レベルにある学生が、その語学力を維持し、さらに発展させることを目標とする演習科目である。本科目では、とくに中国語の聞き取り力と発話力に重点を置いた学修を行い、日常でのコミュニケーション力を涵養する。具体的には、さまざまなシチュエーションにおける中国語の音声による情報を正確に捉える力と、質問や問題解決に向け自分から積極的に中国語で発話する力を、グループワーク等を活用しながら練習する。	
		中国語総合B	中国語総合Bは、2年次前期に中国語圏へ留学した学生、あるいは同等の語学レベルにある学生が、その語学力を維持し、さらに発展させることを目標とする演習科目である。本科目では、具体的には、CEFRに対応した検定試験(HSK漢語水平考試)および日本の中国語教育課程に準拠した中国語検定に十分に対応できる力を養うことを目指し、読む・書く・聞く・話すの4技能のバランスのよい学修を行うことで、それらの運用能力を相互的に涵養する。	
		中国語実践A	中国語実践Aは、2年次前期に中国語圏へ留学した学生、あるいは同等の語学レベルにある学生が、中国語総合等の学修と併せてその語学力を維持し、さらに発展させることを目標とする演習科目である。とくに本科目では、発展科目群、応用科目群におかれた専門科目をより深く理解するための中国語力を養う。具体的には、地域研究、テーマ研究の中国関連の講義について、さまざまな資料や情報から、中国語によって自ら情報を得、その知見を深めることができる中国語運用能力の修得を目指す。	
		中国語実践B	中国語実践Bは、2年次前期に中国語圏へ留学した学生、あるいは同等の語学レベルにある学生が、中国語総合等の学修と併せてその語学力を維持し、さらに発展させることを目標とする演習科目である。とくに本科目では、語彙力の充実と文法の理解力を深めることで、さまざまなテキストを読み解く中国語力の涵養を目指す。具体的には、インターネット上や新聞記事などのトピックスの理解からはじめ、専門科目やゼミナールにおける学修に応用させることが可能なだけの文献の読解力を養う。	
		中国語表現A	中国語表現Aは、2年次前期に中国語圏へ留学し、あるいは同等の語学運用能力を有し、中国語総合A・Bや中国語実践A・Bを通してその語学力を維持、発展させた学生が、さらにその力を伸ばすことを目的とする演習科目である。本科目では、中国語を活用した実践的な発信力を身につけることを目標とする。具体的には、中国語によるメールやホームページの作成、さらに映画字幕の作成といった、実践的なレベルで活用することができるだけの中国語の運用能力の充実を目指し、表現力を充実させる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	基 幹 科 目	中国語表現B	中国語表現Bは、2年次前期に中国語圏へ留学し、あるいは同等の語学運用能力を有し、中国語総合A・Bや中国語実践A・Bを通してその語学力を維持、発展させた学生が、さらにその力を伸ばすことを目的とする演習科目である。本科目では、さまざまな状況に適切に対応できる中国語の運用能力を磨くことを目標とする。具体的には、ロールプレイングなどを通して、実際の状況の中で、中国語による適切かつ十分な対応ができるだけの実践的なコミュニケーション力を養うことで、自立した言語使用者のレベル(CEFRにおけるBレベル)に達することを旨とする。
		スペイン語総合A	スペイン語総合Aは、2年次前期にスペイン語圏へ留学した学生、あるいは同等の語学レベルにある学生が、その語学力を維持し、さらに発展させることを目標とする演習科目である。本科目では、スペイン語の聞き取り力と発話力に重点を置いた学修を行い、日常でのコミュニケーション力を涵養する。具体的には、さまざまなシチュエーションにおけるスペイン語の音声による情報を正確に捉える力と、質問や問題解決に向け自分から積極的にスペイン語で発話する力を、グループワーク等を活用しながら練習する。
		スペイン語総合B	スペイン語総合Bは、スペイン語総合Aに引き続き、その語学力をいっそう発展させることを目標とする演習科目である。本科目では、CEFRに対応した検定試験(D ELE)および日本国内で実施されているスペイン語技能検定に十分に対応できるだけのスペイン語の運用能力の充実を目的とする。具体的には、これら検定試験で求められる4技能(読む・書く・聞く・話す)をバランスよく学修し、総合的な語学力をさらに一段階高いレベルに到達させる。
		スペイン語実践A	スペイン語実践Aは、2年次前期にスペイン語圏へ留学した学生、あるいは同等の語学レベルにある学生が、スペイン語総合等の学修と併せてその語学力を維持し、さらに発展させることを目標とする演習科目である。本科目では、発展科目群、応用科目群におかれた専門科目をより深く理解するためのスペイン語力を養う。具体的には、地域研究、テーマ研究のスペイン語圏に関連する講義について、さまざまな資料や情報から、スペイン語によって自ら情報を得、その知見を深めることができるスペイン語運用能力の修得を目指す。
		スペイン語実践B	スペイン語実践Bは、スペイン語実践Aに引き続き、その語学力をいっそう発展させることを目標とする演習科目である。本科目では、語彙力のさらなる充実を進め、文法の理解力を深めることで、さまざまなテキストを読み解くことができるスペイン語力の涵養を目指す。具体的には、インターネット上のスペイン語の情報や新聞記事などのトピックスの理解からはじめ、専門科目やゼミナールにおける学修に応用させることが可能なだけの文献の読解力を養う。
		スペイン語表現A	スペイン語表現Aは、2年次前期にスペイン語圏へ留学し、あるいは同等の語学運用能力を有し、スペイン語総合A・Bやスペイン語実践A・Bを通して、おおむね2年間以上スペイン語学習を積み上げてきた学生が、その語学力を維持しつつ、さらに応用的なスペイン語の運用能力を身につけるための科目として位置づけられる演習科目である。とりわけ、本科目では、スペイン語を活用した実践的な発信力の充実を図ることを目標とする。具体的には、スペイン語によるメールやホームページの作成、さらに映画字幕の作成といった、実践的なレベルで活用することができるだけのスペイン語の運用能力の充実を目指し、表現力を充実させる。
		スペイン語表現B	スペイン語表現Bは、2年次前期にスペイン語圏へ留学し、あるいは同等の語学運用能力を有し、スペイン語総合A・Bやスペイン語実践A・Bを通して、おおむね2年間以上スペイン語学習を積み上げてきた学生が、その語学力を維持しつつ、さらに応用的なスペイン語の運用能力を身につけるための科目として位置づけられる演習科目である。とりわけ、本科目では、さまざまな状況に適切に対応できるスペイン語の運用能力を磨くことを目標とする。具体的には、ロールプレイングなどを通して、実際の状況の中で、スペイン語による適切かつ十分な対応ができるだけの実践的なコミュニケーション力を養うことで、自立した言語使用者のレベル(CEFRにおけるBレベル)に達することを旨とする。
		コリア語総合A	コリア語総合Aは、2年次前期に韓国へ留学した学生、あるいは同等の語学レベルにある学生が、その語学力を維持し、さらに発展させることを目標とする演習科目である。本科目では、韓国文化の理解をもとに、社会・文化的な内容を含むニュースや記事などのまとまった情報を読んだり聞いたりして大意を把握でき、その要約またはそれに関する自分の意見をコリア語で書けるようになることを目指す。また、使用頻度の高い慣用句などを覚えつつ、文章の中に織り交ぜて作文する練習をし、様々な相手や状況に応じて最善の表現を選んで、適切なコミュニケーションを図ることができる力を身につける。
		コリア語総合B	コリア語総合Bは、2年次前期に韓国へ留学した学生、あるいは同等の語学レベルにある学生が、その語学力を維持し、さらに発展させることを目標とする演習科目である。本科目では、韓国文化の理解をもとに、社会・文化的な内容を含むニュースや記事などのまとまった情報を読んだり聞いたりして大意を把握でき、その要約またはそれに関する自分の意見をコリア語で述べるようになることを目指す。また、検定試験等への対応を視野に入れながら、使用頻度の高い慣用句などを覚えつつ、会話の中に織り交ぜて話す練習をし、様々な相手や状況に応じて最善の表現を選んで、適切なコミュニケーションを図ることができる力を身につける。

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基 幹 科 目	コリア語実践A	コリア語実践Aは、2年次前期にコリア語圏に留学した学生あるいは同等の語学レベルにある学生が、コリア語総合等の学修と併せてその語学力を維持し、さらに発展させることを目標とする演習科目である。さらに本科目では、発展科目群、応用科目群におかれた専門科目をより深く理解するためのコリア語を学修する。とくにコリア語実践Aでは作文力の充実を重視し、コリア語圏における政治・経済・社会・文化などの幅広いテーマに関する文章を理解し、それについて自分の意見が書けることを目標とする。また、新聞記事、随筆、案内文、説明文などさまざまな文章を、辞書を使用せずに読んで内容を把握し、その要約や自分の意見をコリア語で書き、相手に伝えることを目指す。	
	コリア語実践B	コリア語実践Bはコリア語実践Aに引き続き、2年次前期にコリア語圏に留学した学生あるいは同等の語学レベルにある学生が、コリア語総合等の学修と併せてその語学力を維持し、さらに発展させることを目標とする演習科目である。本演習では口頭で意志を伝える力を重視し、コリア語圏における政治・経済・社会・文化に関する具体的な文章から出発して、さらに抽象的な文を読んだり聞いたりした際に、その内容を理解した上で、自分の意見を述べることを目標とする。また、案内文、説明文、新聞記事、随筆などの内容を把握し、その要約や自分の考えをコリア語で話し、適切なコミュニケーションが取れるようにすることを旨とする。	
	コリア語表現A	コリア語表現Aは、2年次前期に韓国へ留学し、あるいは同等の語学運用能力を有し、コリア語総合A・Bやコリア語実践A・Bを通してその語学力を維持、発展させた学生が、さらにその力を伸ばすことを目的とする演習科目である。コリア語における公式的、非公式的、口語、文語的な表現の差を見極め、適切に使用し、政治・経済・社会・文化などの全般に渡ったテーマについて理解し、まとめることができることを目標とする。特に、幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、評論などを読んだり、ラジオやテレビ放送を聞いたりして、それを理解し、要約してコリア語で書けるようにする。また、契約書・取扱説明書・広告文のような実用的な文章を読んだり聞いたりして、その意味を具体的に把握できるようにする。	
	コリア語表現B	コリア語表現Bは、2年次前期にコリア語圏へ留学し、あるいは同等の語学運用能力を有し、コリア語総合A・Bやコリア語実践A・Bを通してその語学力を維持、発展させた学生が、さらにその力を伸ばすことを目的とする演習科目である。コリア語における公式的、非公式的、口語、文語的な表現の差を見極め、適切に使用し、政治・経済・社会・文化などの全般に渡ったテーマについて理解し、まとめることができることを目標とする。特に、幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、評論などを読んだり、ラジオやテレビ放送を聞いたりして、それを理解し、要約してコリア語で話し、それについて自分の意見が述べられるようにする。また、契約書・取扱説明書・広告文のような実用的な文章を読んだり聞いたりして、その意味を具体的に把握できるようにすることで、自立した言語使用者のレベル(CEFRにおけるBレベル)に達することを旨とする。	
専 門 科 目	地域研究(北米)	世界を構成する各地域の社会や文化に関して、特定の側面や歴史上の特定の時期や地域に焦点を当て、その成り立ちの過程や現代の社会への影響、文化的な事情などについて具体的な例を通して専門的に深く学ぶ講義科目である。本科目では、「世界の文化を知る(北米)」で得た知識をベースとしつつ、アメリカ合衆国以北の北米地域について、カナダやアメリカ合衆国における個別の社会的・文化的事例に焦点を当てながら掘り下げて学ぶことで、これら地域の現状ならびに社会的・文化的背景への理解を深めることを目標とする。	
	地域研究(ラテンアメリカ)	世界を構成する各地域の社会や文化に関して、特定の側面や歴史上の特定の時期や地域に焦点を当て、その成り立ちの過程や現代の社会への影響、現代の文化的な事情などについて具体的な例を通して専門的に深く学ぶ講義科目である。本科目では、「世界の文化を知る(ラテンアメリカ)」で得た知識をベースとしつつ、メキシコから中米・カリブ、南米にまたがるラテンアメリカについて、個別の社会的・文化的事例に焦点を当てながら掘り下げて学ぶことで、これら地域の現状ならびに社会的・文化的背景への理解を深めることを目標とする。	
	地域研究(ヨーロッパ)	世界を構成する各地域の社会や文化に関して、特定の側面や歴史上の特定の時期や地域に焦点を当て、その成り立ちの過程や現代の社会への影響、現代の文化的な事情などについて具体的な例を通して専門的に深く学ぶ講義科目である。本科目では、「世界の文化を知る(ヨーロッパ)」で得た知識をベースとしつつ、ヨーロッパ各地における個別の社会的・文化的事例に焦点を当てながら掘り下げて学ぶことで、これら地域の現状ならびに社会的・文化的背景への理解を深めることを目標とする。	
	地域研究(アジア)	世界を構成する各地域の社会や文化に関して、特定の側面や歴史上の特定の時期や地域に焦点を当て、その成り立ちの過程や現代の社会への影響、現代の文化的な事情などについて具体的な例を通して専門的に深く学ぶ講義科目である。本科目では、「世界の文化を知る(アジア)」で得た知識をベースとしつつ、朝鮮半島を中心に中国以外の東アジア地域について、個別の社会的・文化的事例に焦点を当てながら掘り下げて学ぶことで、地域の現状ならびに社会的・文化的背景への理解を深めることを目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  発 展 科 目	地域研究(中国)	世界を構成する各地域の社会や文化に関して、特定の側面や歴史上の特定の時期や地域に焦点を当て、その成り立ちの過程や現在の社会への影響、現代の文化的な事情などについて具体的な例を通して深く学ぶ講義科目である。本科目では、「世界の文化を知る(アジア)」で得た知識をベースとしつつ、現在の中華人民共和国の範囲にとらわれることなく、広く中国文化圏全般について、個別の社会的・文化的事例に焦点を当てながら掘り下げて学ぶことで、これら地域の現状ならびに社会的・文化的背景への理解を深めることを目標とする。	
	文化の衝突と融合	具体的な事例を通して、文化的接触の実態について考えることを目的とする本講義科目では、文化を固定的な実体としてではなく、国や地域を越えて交流し、衝突・対立・融合しながら形成されるダイナミックな変容体として捉える。広く異文化接触に関するテーマを取り上げ、文化間の複雑なインタラクションを考察するとともに、地域的・歴史的に多様な角度から掘り下げることを目標とする。単なる事実関係の羅列に終わるのではなく、履修者が特定の時代や地域の文化を研究する際、「常識」に捉われない視点を持ち、複眼的に世界を見つめることができるようになる手がかりを示すことに重点を置く。	
	移動と交流の文化史	グローバルな移動と交流は最近始まったわけではなく、過去何百年にもわたって展開されてきた。本講義科目では、大陸間ないしは地球規模でのヒトモノの移動、さらにはそうした移動が引き起こした文化的な接触や摩擦といったさまざまな交流の側面について、歴史上の具体例を通して学ぶ。事例に触れながら、物質的な移動のみならず、その際に引き起こされた文化の接触や摩擦とその背後にあった思想にいたるまで、交流の様相を具体的に把握することで、いっそうグローバル化が進む現代世界に導き出される歴史的教訓や今後の世界で予想される問題点を主体的に考えるようになることを目標とする。	
	比較文化	外国の文化を知ることは、翻って自国の文化を知ることにもつながり、自文化をより深く理解するためには異文化との関係を理解する必要がある。本講義科目では、地域・言語・学問領域の境界を越えて複数の文化を比較し、それらの相互関係や影響関係、相違点や類似点、異文化の受容の仕方などを明らかにする。とりわけ、近代日本における西洋文化の受容、西洋におけるジャポニスム、外国人の日本論といった、日本に関するテーマを取り上げ、日本の文化と外国の文化の関係をすることを目標とする。これによって、異文化理解を促進すると同時に、より深い日本理解に資する。	
	宗教と文化	本講義科目では、世界の文化において重要な役割を果たしている諸宗教について、時代と地域を考慮しながら、その形成や変化や伝播の過程について概観する。その上で、文化の構成要素であると同時に、自立的な領域を確保して文化や政治・社会・経済に大きな影響を与える宗教の信仰や思想や活動について、専門的な考察を行う。異なった文化における多様な宗教の現実を認識し、それらが「宗教」という枠組みで普遍的に理解されることの意味や問題についても理解する。これにより、国際性や異文化間のコミュニケーションの基盤となる、通文化的／比較文化的な知識や思考力の涵養を目標とする。	
	思想と文化	本講義科目では、ある地域の社会や時代が生み出した「思想」を、論理的な言説だけでなく、想像力や感情などもふくめた精神活動の表出の総体としてとらえ、それがどのような独自の「知」のシステムとして形成され、その文化圏のなかにもどのように組み込まれているかを学んでいく。さらに、異文化においてそうした「思想」を支える心的構造についても、専門的な理解を深めることによって、多様化の一途をたどる今日の世界にアプローチしうるような考察力を養うことを目標とする。	
	多文化共生論	国内外でグローバル化が進む現代社会において、多様な文化的背景をもつ人々との共生は喫緊の課題である。本講義科目では、異なる文化や多様な価値観を持つ人々の間での共生や融和の可能性を個々の履修者が考えられるようになることを目的とする。多文化社会のさまざまな様相について、世界の諸地域の事例をその歴史的形成過程をふまえて考察する。同時に、多様化する社会の軋轢、文化をめぐるせめぎあいについても取り上げ、その背景をひもとき、共生をはばむ諸問題の克服を考える。これらを通じて、「異なる文化の共生や融和」の真の意味を理解できるようになることを目標とする。	
	ことばのしくみ	本講義科目は、「ことばの知識とは何か」を問いかける。人間言語及びそれを用いた精神活動やコミュニケーションを可能にしている「文法」について理解を深め、その重要性を認識することを目標とする。規則の単なる羅列と思われがちな「文法」だが、母語をつぶさに観察したり、他の言語と比較したりすると興味深い特徴や普遍性を見出すことができる。母語及び他の言語のデータを用いて、普段は意識されることのない「文法」を自ら使っていること、他の言語も同様のしくみに則っていることが実感できることになる。このような経験は、外国語を学ぶ上でも有益である。また、言語を客観的に見つめることで、経験科学の方法についても学修することができる。この科目で扱われる言語に関する根本的問題は、応用科目に置かれた「ことばと心」や「ことばと社会」のための礎を築く。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展 科目	ことばの習得	本科目は、「ことばのしくみ」で学修する「ことばの知識」はどのように獲得されるかを問う。本講義では言語習得研究を概観し、それに関する批評を学ぶことにより、この問題が専門的にどう捉えられているかを理解することを目標とする。第一言語習得に関する主な理論を踏まえ、言語習得のメカニズム、子供の言語習得の問題点、生得性、習得順序、臨界期など、母国語習得過程における様々な現象について学修する。また第二言語習得に関する代表的な理論を踏まえ、言語差と難易度、個人差、誤用分析、中間言語、言語転移、動機付け、バイリンガリズム、相互行為、修復、アイデンティティ構築など、第二言語習得過程における問題について取り上げる。同時に第二言語の使用と学修に関する研究成果について学び、教育実践への応用を視野に入れ、教授法、教材分析、教育活動の編成など言語学修の方法について理解を深める。	
	身体とコミュニケーション	本講義科目では、身体感覚の持つ特性を詳しく扱いながら、コミュニケーションにおける身体の役割を理解することを目標とする。「発話」の基礎となる「発声と滑舌」、具体的なコミュニケーションの場面において重要な役割を果たす「視線と身振り」は、社会的コミュニケーションの土台であり、外国語習得の基礎であるとともに、身体統御・身体表現の実践的な課題でもある。社会的な表現における「ことば、ころ、からだ」の相互関係性という理論的な問題への理解を深めることで、外国語習得のみならず広く社会的コミュニケーションの諸問題に対する克服の可能性を探る。	
	映像とコミュニケーション	本講義科目は、映像を非言語コミュニケーションの手段として位置づけることで、さまざまな文脈において用いられる映像を検討の対象としながら、そうした映像によって、いかに情報や考えを受信し、また発信することができるかを考察する。具体的には写真やドキュメンタリー映画といった、ダイレクトに情報を伝達する映像から、映画やアニメーション、動画、絵画作品などの表現を通して、それらがどういった意図を持っているのか、さらに、どのようにしてコミュニケーションが図られているのかを検証することで、映像コミュニケーションに対する柔軟な理解力を涵養することを目標とする。	
専門 科目	テーマ研究(北米)	特定の地域や個別の事例に焦点を当てた発展科目の「地域研究」に対して、応用科目に位置づけられる「テーマ研究」は、広くグローバルな社会や文化につながり得るテーマを設定し、該当する地域を中心に据えつつ幅広く考察を行う講義科目である。「テーマ研究(北米)」では、アメリカ合衆国やカナダを対象とし、過去から現代にいたる多様な文化的・社会的なテーマについて当該地域や世界の諸地域までを視野に入れて論じる。特定のテーマという観点から、北アメリカの理解をいっそう深めるのはもちろんのこと、世界の諸地域の社会や文化のあり方について広く問題意識を持ち、地域を越えたレベルで様々な事象を考察する思考力を養うことを目標とする。	
	テーマ研究(ラテンアメリカ)	特定の地域や個別の事例に焦点を当てた発展科目の「地域研究」に対して、応用科目に位置づけられる「テーマ研究」は、広くグローバルな社会や文化につながり得るテーマを設定し、該当する地域を中心に据えつつ幅広く考察を行う講義科目である。「テーマ研究(ラテンアメリカ)」では、メキシコから中米・カリブ、さらには南米にかけてのラテンアメリカを対象とし、過去から現代にいたる多様な文化的・社会的なテーマについて当該地域や世界の諸地域までを視野に入れて論じる。特定のテーマという観点から、ラテンアメリカの理解をいっそう深めるのはもちろんのこと、世界の諸地域の社会や文化のあり方について広く問題意識を持ち、地域を越えたレベルで様々な事象を考察する思考力を養うことを目標とする。	
	テーマ研究(西ヨーロッパ)	特定の地域や個別の事例に焦点を当てた発展科目の「地域研究」に対して、応用科目に位置づけられる「テーマ研究」は、広くグローバルな社会や文化につながり得るテーマを設定し、該当する地域を中心に据えつつ幅広く考察を行う講義科目である。「テーマ研究(西ヨーロッパ)」では、西ヨーロッパを対象とし、過去から現代にいたる多様な文化的・社会的なテーマについて当該地域や世界の諸地域までを視野に入れて論じる。特定のテーマという観点から、西ヨーロッパの理解をいっそう深めるのはもちろんのこと、世界の諸地域の社会や文化のあり方について広く問題意識を持ち、地域を越えたレベルで様々な事象を考察する思考力を養うことを目標とする。	
	テーマ研究(中東欧・ロシア)	特定の地域や個別の事例に焦点を当てた発展科目の「地域研究」に対して、応用科目に位置づけられる「テーマ研究」は、広くグローバルな社会や文化につながり得るテーマを設定し、該当する地域を中心に据えつつ幅広く考察を行う講義科目である。「テーマ研究(中東欧・ロシア)」では、多様な民族と独自の文化から成り、歴史的にも重大な出来事が起こってきた中東欧・ロシアを概観し、更にその代表的な国々の文化・歴史・社会を、幅広く西欧との関係なども視野に入れて見ていく。それによって、小民族の多い中東欧・ロシアの多様性と独自性、小国と大国の関係とそこから引き起こされる民族問題などの諸問題などについて理解を深め、マイノリティや異文化に対する寛容の重要性を認識することを目標とする。	
応用 科目			

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	応用科目		
	テーマ研究(イギリス)	特定の地域や個別の事例に焦点を当てた発展科目の「地域研究」に対して、応用科目に位置づけられる「テーマ研究」は、広くグローバルな社会や文化につながり得るテーマを設定し、該当する地域を中心に据えつつ幅広く考察を行う講義科目である。「テーマ研究(イギリス)」では、イギリスを対象とし、過去から現代にいたる多様な文化的・社会的なテーマについて当該地域や世界の諸地域までを視野に入れて論じる。特定のテーマという観点から、イギリスの理解をいっそう深めるのはもちろんのこと、世界の諸地域の社会や文化のあり方について広く問題意識を持ち、地域を越えたレベルで様々な事象を考察する思考力を養うことを目標とする。	
	テーマ研究(アジア)	特定の地域や個別の事例に焦点を当てた発展科目の「地域研究」に対して、応用科目に位置づけられる「テーマ研究」は、広くグローバルな社会や文化につながり得るテーマを設定し、該当する地域を中心に据えつつ幅広く考察を行う講義科目である。「テーマ研究(アジア)」では、朝鮮半島を中心に東アジアを対象とし、過去から現代にいたる多様な文化的・社会的なテーマについて当該地域や世界の諸地域までを視野に入れて論じる。その目的は、特定のテーマという観点から、東アジアについての理解をいっそう深めるのはもちろんのこと、世界の諸地域の社会や文化のあり方について広く問題意識を持ち、地域を越えたレベルで様々な事象を考察する思考力を養うことを目標とする。	
	テーマ研究(中国)	特定の地域や個別の事例に焦点を当てた発展科目の「地域研究」に対して、応用科目に位置づけられる「テーマ研究」は、広くグローバルな社会や文化につながり得るテーマを設定し、該当する地域を中心に据えつつ幅広く考察を行う講義科目である。「テーマ研究(中国)」では、中国文化圏を主な対象とし、過去から現代にいたる多様な文化的・社会的なテーマについて当該地域や世界の諸地域までを視野に入れて論じる。特定のテーマという観点から、中国についての理解をいっそう深めるのはもちろんのこと、世界の諸地域の社会や文化のあり方について広く問題意識を持ち、地域を越えたレベルで様々な事象を考察する思考力を養うことを目標とする。	
	越境する文化	本講義科目では、異なる文化が接触した際の境界ゾーンの歴史的・現代的な諸現象・諸問題を扱う。文化が、その発祥地を離れて別の地域空間で新たな展開を見せる諸事例、文化の展開する空間の拡大という脱領域化の現象や事象、異文化接触により引き起こされる文化変容のダイナミズム、文化の境界性・二重性・多重性などがテーマとなる。本科目では、文化変化のプラスの面に目を向け、異文化の接触するバウンダリーの柔軟性や弾力性に着目することで、越境する文化がもたらす創造的側面や「新たな文化の生成」などの複雑なあり方について高度な理解を深めることを目標とする。	
	環境と文化	本講義科目は、文化と環境利用との関係性、およびその歴史的な展開過程を具体的に学修することで、多様な文化を理解するための地域横断的な視点を得ることを目標とする。人間のすべての活動は、人間社会を取り巻く自然環境から恩恵を得ることで成り立っているが、(1)そういった人間と自然の関係性は、農耕や牧畜、工業といった経済活動の領域にとどまらず、人口動態や祭祀、娯楽や芸術といった社会構造や文化活動の諸側面にも大きく影響を及ぼしていること、(2)また、そうした関係性は固定されたものではなく、人間による資源消費の増加や活動領域の変化によって変遷すること、(3)特に近代以降の科学技術の発展と産業化にともなう地球環境の変化は、環境問題や環境保全運動といった新たな課題や潮流、自然認識をもたらしてきたことなどを概観し、それらの問題点を考察する。	
	資源としての文化	本講義科目では、過去の事象や現代の文化がしばしば資源として利用されてきたことに着目し、その利用の諸相を掘り下げて専門的に学ぶ。具体的には、歴史上さまざまな文化的要素が後世の人々にどう解釈され意義づけられてきたのか、現代における「伝統」がいかんにかんにかん生成されてきたのか、また現在の社会において文化遺産や観光資源がどのように評価され利用されているのかについて、その利用の実態を詳しく把握する。具体的な事例を通じて文化的資源の利用の実態を知ること、現代の文化や伝統、観光資源などを表層ではなく、より深く広い視野からとらえられるようになることを目標とする。	
現代社会と多様性	発展科目(「多文化共生論」「比較文化」「宗教と文化」など)での学修をベースとし、本講義科目では、現代社会と多様性をめぐる諸問題をより理論的かつ専門的に分析・理解できるようになることを目標とする。担当教員の専門分野に基づく講義テーマを深く学ぶことを通じて、受講する学生は、はたして人間同士が、人種、民族、性別、階級、セクシュアリティ、世代、宗教などの多様な違いを超えてどこまで理解しあえるのかという異文化理解および多様性の可能性について考察する。		
植民地と現代世界	本講義科目では、歴史上、植民地化された経験を持つ地域を対象とし、植民地化された過程やその後の当該地域の社会や文化の変容、さらには被植民地化という過去が現代にどのような影響を及ぼしてきたのかを特に専門的に学ぶ。具体的には、アジア・アフリカや南北アメリカなど16世紀から20世紀にかけて各時代の強国の植民地となった地域に焦点を当て、その実態を深く掘り下げる。それによって、当該地域の現代の社会や文化が重層的かつ複雑な経緯の上に成り立っていることを理解し、「支配者」側の視点のみにとらわれることなく、複眼的な見方ができるようになることを目標とする。		

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
応用 科目	現代文化論	本講義科目は、有形の文化だけではなく、無形のものとその作用に焦点を当てる。そういった目に見えない文化なるものは後天的に獲得されるものでありながら、われわれのアイデンティティとも深いかかわりを持つものである。また、文化はものの見方や感じ方といった知覚や思考にもかかわっている。そういった文化の作用を、様々な諸相(都市文化、消費文化、情報文化、ポップ・カルチャー、サブ・カルチャー、グローバルな文化など)から眺望し、現代文化の特徴を自らのアイデンティティとのかかわりとともに批判的に学修することで、文化の形成あるいは社会の成り立ちへの理解を深めることを目標とする。	
	ことばと心	本講義科目は、人間の知性やこころの作用一般について、ことばを切り口として包括的にアプローチしていく。人間は誰しもが、ことばをあやつり、自分の考えたことや感じたことを表現する力を持つが、本科目は、このことばを話し理解する能力がどのようなものであるか、人間はどのように事象や事物を認識し、ことばで表すのかという言語現象の一面を考察する。具体的な言語現象の考察を通してことばの特性を知ることにより、人間を人間として特徴づけているものとは何かという根本的な問題の理解を深めることを目標とする。	
	ことばと社会	本講義科目は、社会の中で「使用」されていることばについて理論的に考察することを目的とする。日常生活の中で人々が「どのように」ことばを使って「何を」成し遂げようとしているのかを考察しながら、語用論や談話分析などコミュニケーション理論の基礎から応用までを学修する。あるコンテキスト(文脈・状況)内のことばの働きについて学修し、理解を深めることを目標とする。例えば、話す相手が家族、友人、教師、企業の面接官、異文化圏からの外国人と変われば、話す目的や言葉の使い方が変わる。本科目は、こうした人と人との関係性がことばの使い方にどのような影響を与えているのか理解することを目標とする。	
	メディア文化論	本講義科目では、人間の生活の中で果たす役割が増大しつつあるさまざまなメディアを対象として、文字、映像からインターネットまで、様々なメディア(文字・画像・絵画・映像・空間・音)の文化生成における役割やメディアをとりまく文化事象について学修し、理解を深めることを目標とする。メディアが社会からどのような影響を受けながら発展してきたか、また、これまで文化がメディアによってどのような影響を受け、それによって社会や生活がどのように変わったのか、これからの社会の中でメディアの果たす役割はどうあるべきなのか、さらに今日のメディアと人間はどのようにつき合うことが必要なのかを考える。	
	身体文化論	本講義科目では、世界の「身体文化」の多様性と広がりについて、具体的な事例に基づいて理論的に考察することができるようになることを目標とする。宗教、政治、経済、スポーツ、芸術等々の社会活動が、「ことばと身体」の積極的な表現を中心とした「社交」のコミュニケーション活動であるとの観点から、時間的・歴史的な変化の側面と、空間的・構造的・グローバルな広がり側面とを検討し、「身体文化」の多様性と重要性についての知識と理論を深めることを目指す。	
	映像文化論	本講義科目では、言語以外のコミュニケーションの手段として不可欠なものである写真から映画、動画、さらにコンピューターグラフィクスといったさまざまな映像が作り出す映像文化の進展を辿るとともに、それらに対する基礎知識を身につけ、それぞれの映像文化が持つ特徴について学修することを目標とする。その上で、映像からどのように情報や考えを受信するのか、さらにわたしたちから映像を通じてなにを発信できるかを考察することで、映像文化の可能性を探る。	
専 門 科 目	身体系特殊講義	本講義科目は、コミュニケーションや文化における身体への役割についての知識に基づきつつ、具体的な課題について、実際に身体を動かしながら実践的に理解を深めることを目指す。主として演劇、ダンス、武道等における身体を学ぶと共に、最初は入門的な課題から少しずつレベルを上げて、様々な身体統御の意識と方法を学ぶ。コミュニケーションの土台となる身体表現や身体文化の理解を、自分の身体の変化を通して「体得」することを目標とする。	
	映像音楽系特殊講義	本講義科目は、映像や音楽を素材にして、コミュニケーションと文化をより幅広い観点から考えることを目指す。その目標は次の2点となる。(1)コミュニケーション機能という観点から、自然科学的な知見も踏まえて、言語的なものにとどまらないマルチ・モーダルなコミュニケーションの可能性を学ぶとともに、映像や音楽がコミュニケーションという視点からどのように捉えられるか、映像と音楽の協働が何をもちたすかなどを学修すること。(2)また、文化という観点からは、映像や音楽についての文化論的あるいは思想史的な基礎知識を提供し、さらに映像歴史学などの新たな分野が文化研究や地域研究に対してもつ意義を学修することである。	
	チェコ語1	世界には様々な言語と文化が存在することを理解し、世界の多様性やマイノリティの存在への認識を深めるために、本学部では、英語以外の言語も学生に積極的に学修する機会を設定する。その一つとして、小国ながら興味深い歴史を辿り、高い文化を作り上げてきたチェコの文化や社会への入口としてのチェコ語を学ぶ。本演習科目は、チェコ語未修者を対象に、1年間で文法を一通り終え、辞書があれば独力でも簡単な文章が読めるようになることを目標とする。チェコ語1では、文字と発音、名詞の性と変化、格の用法、規則動詞の現在変化、形容詞の変化、指示代名詞の変化、人称代名詞の変化、se の付いた動詞、前置詞の格支配などを中心に学修する。	
関 連 科 目	身体系特殊講義	本講義科目は、コミュニケーションや文化における身体への役割についての知識に基づきつつ、具体的な課題について、実際に身体を動かしながら実践的に理解を深めることを目指す。主として演劇、ダンス、武道等における身体を学ぶと共に、最初は入門的な課題から少しずつレベルを上げて、様々な身体統御の意識と方法を学ぶ。コミュニケーションの土台となる身体表現や身体文化の理解を、自分の身体の変化を通して「体得」することを目標とする。	
関 連 科 目	映像音楽系特殊講義	本講義科目は、映像や音楽を素材にして、コミュニケーションと文化をより幅広い観点から考えることを目指す。その目標は次の2点となる。(1)コミュニケーション機能という観点から、自然科学的な知見も踏まえて、言語的なものにとどまらないマルチ・モーダルなコミュニケーションの可能性を学ぶとともに、映像や音楽がコミュニケーションという視点からどのように捉えられるか、映像と音楽の協働が何をもちたすかなどを学修すること。(2)また、文化という観点からは、映像や音楽についての文化論的あるいは思想史的な基礎知識を提供し、さらに映像歴史学などの新たな分野が文化研究や地域研究に対してもつ意義を学修することである。	
関 連 科 目	チェコ語1	世界には様々な言語と文化が存在することを理解し、世界の多様性やマイノリティの存在への認識を深めるために、本学部では、英語以外の言語も学生に積極的に学修する機会を設定する。その一つとして、小国ながら興味深い歴史を辿り、高い文化を作り上げてきたチェコの文化や社会への入口としてのチェコ語を学ぶ。本演習科目は、チェコ語未修者を対象に、1年間で文法を一通り終え、辞書があれば独力でも簡単な文章が読めるようになることを目標とする。チェコ語1では、文字と発音、名詞の性と変化、格の用法、規則動詞の現在変化、形容詞の変化、指示代名詞の変化、人称代名詞の変化、se の付いた動詞、前置詞の格支配などを中心に学修する。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	チェコ語2	チェコ語2では、チェコ語1で学んだ知識を前提とし、動詞の体の用法、動詞の過去形と未来形、不規則動詞の変化、仮定法、疑問詞、動詞の命令法、関係代名詞、形容詞と副詞の比較級と最上級、数詞の変化、受動態、所有形容詞、定動詞と不定動詞、語順などを中心に学び、文法を一通り学修することを目標とする。西スラヴ語に属するチェコ語の学修は、東スラヴ語に属するロシア語の学修と共に、広いスラヴ世界一般への入口ともなり、中東欧ロシアについての講義の補完的役割も果たす。	
	ベトナム語1	世界には様々な言語と文化が存在することを理解し、世界の多様性やマイノリティの存在への認識を深めるために、本学部では、英語以外の言語も学生に積極的に学修する機会を設定する。その一つとして、今日のアジアで飛躍的な発展を遂げつつあるベトナムの文化と社会の入り口として、ベトナム語を学ぶ。本演習科目では、クオック・グーの修得から始めて、ベトナム語で簡単なコミュニケーションを取ることができるようになることを目標とする。そのために1年間で基礎文法を一通り学修することを目標とする。「ベトナム語1」では、La文、動作動詞文、動作文、形容詞文などへとステップを進めていくことで、ベトナム語の特徴を最押さえながら、疑問表現や時間表現などを学修する。併せて、本科目はアジアの文化について学修する講義科目への理解を深める役割も果たす。	
	ベトナム語2	ベトナム語2では、ベトナム語1での学修を引き継ぎ、ベトナム語を用いる上で必要な基礎文法および語彙、表現を一通り終えることを目標とする。本演習科目では、人称代名詞やさまざまな時制表現、さらに数別詞、指示詞などを順次学修することで、ベトナム語で読み、書き、聞き、話すという四つの技能によって、日常の簡単なコミュニケーションを取ることができるようになることを目指す。またこの科目は、中国語圏や韓国語圏も含めた、広く東アジア全般の文化について学修する講義科目への理解を深める役割も果たす。	
	メディア日本語論1	本講義科目は、日本語学とメディアの関係を知るために、新聞における日本語の使用基準等に精通した専門職の仕事について知り、メディアの中での日本語使用の重要性について理解を深めることを到達目標としている。講義では、日本語表記のよりどころや、新聞の校閲に日本語学の知識が活用されていること等について学ぶ。また、新聞社の校閲部門で活躍する専門職をゲストスピーカーに招き、文字言語による報道の現場での表記の基準や諸問題、編集する側(言語情報の発信者側)から見た新聞の読み方、新聞校閲の現場から鳥瞰した日本語の変化等についても学ぶ。	
	メディア日本語論2	本講義科目は、日本語学とメディアとの関係を知るために、放送における日本語の使用基準等に精通した専門職の仕事について知り、メディアの中での日本語使用の重要性について理解を深めることを到達目標としている。講義では、テレビ・ラジオなどの放送現場で生じる日本語の問題、放送における音声言語と文字言語の役割分担、用語決定、報道する側から見たことばの様相など、ことばで「伝える」ことの仕組み・重要性・課題とその解決方法等への理解を深化させる。また、災害時に必要なことを端的に伝える工夫としての「やさしい日本語」についても学ぶ。	
	日本語表現論1	本講義科目は、日本語の運用について深く考える力を育てるために、「音声」による表現者としてのナレーター活動・技術を通して、日本語の音声・日本語表現・日本語コミュニケーションについて深く理解することを到達目標としている。講義では、ナレーターには、アナウンサー(事実の告知)、声優(声で演ずる)とは異なる「音声」の表現と説得力が必要であることについて考えを深めさせる。また、第一線で活躍するナレーター達をゲストスピーカーとして招き、その活動や技術を学ぶことによって、通常の日本語学では扱うことのできない視点から「日本語表現」や「日本語コミュニケーション」について発見できる授業を行う。	
	日本語表現論2	本講義科目は、日本語の運用について深く考える力を育てるために、芝居の世界を「文字」によって表現する劇作家の活動・技術を通して、日本語表現・日本語コミュニケーションについて深く理解することを到達目標としている。講義では、劇作家が書く台詞を扱うことで、語用論的視点から自然な会話と不自然な会話との違いについて、考えを深めさせる。また、第一線で活躍する劇作家達をゲストスピーカーに招き、その活動や技術を学ぶことによって、通常の日本語学では扱うことのできない視点から「日本語表現」や「日本語コミュニケーション」について発見できる授業を行う。	
	日本語教授法A-1	本講義科目は、日本語を母語としない学習者に日本語を教えるということについて、現在の「日本語教育学」において一般的となっている基礎的な教授法を身につけさせることを到達目標としている。講義では、音声、語彙、文字・表記などの項目に関わる、いわゆる4技能を導入するために提唱されているさまざまな教授法について、それらの特徴や理論的な内容を詳細に学ぶことができるように指導する。さらに、新しく提唱されている教授法についても紹介し、その特徴を学ぶことができるようにする。日本語教育についての教授法を中心とするが、その背景となっている外国語教育の教授法理論も学習範囲に含めて理解できるようにする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  関 連 科 目	日本語教授法A-2	本演習科目は、日本語を母語としない学習者に日本語を教えるということについて、現在の「日本語教育学」において一般的となっている実践的な教授法を身につけさせることを到達目標としている。学生は、基本的な教案の作成、作成した教案についての発表方法、教案にそっての授業方法等の解説を受け、教案作成、教案発表、模擬授業の課題に取り組み、教員はそれについての講評を行う。日本語教育の基礎についての理解と、教室活動の疑似体験を通して、日本語を母語としない学習者への言語教育についての基礎的な知識を定着させるように指導する。	
	日本語言語政策史1	本講義科目は、日本語に関する言語方策のうち、とくに日本語を母語としない人々への日本語教育史を踏まえた上で、今後の日本語教育に必要なことを自ら考察できるようになるために、日本語教育史について知識を身につけるとともに、客観的に評価できることを到達目標としている。講義では、日本語教育がその時代の社会的要求や政治的要求に応じて実施されてきていること、社会の要求に応えることは大切であるが、それと同時に、時代に翻弄されない日本語教育とは何かについても問い直す必要があることを論じる。また、日本語教育の歴史を振り返ることを通して今後の日本語教育の在り方を考えるために、近代以降の政策、教科書・教材、教授法について学修する。さらに、日本語を母語としない人々が行ってきた日本語研究の歴史について、16世紀後半のキリシタン宣教師によるものから、20世紀の海外の人々による日本語研究までを学び、日本語を捉える視点を広げられるように指導する。	
	日本語言語政策史2	本講義科目は、日本語に関する言語方策のうち、日本語を母語とする人々に向けて行われてきた事項を理解し、今後の日本語の在り方を考えることができるようになるために、いわゆる国語施策史についての知識を身につけるとともに、客観的に評価できることを到達目標としている。講義では、音韻文字、言文一致体、音韻組織、方言を主要調査方針として掲げた国語調査委員会(1902年)から、臨時仮名遣い調査委員会、臨時国語調査会、臨時ローマ字調査会、ローマ字調査会、ローマ字調査審議会、公用文改善協議会、国語審議会、文化審議会国語分科会に至るまで、そこで議論されてきた事項が、言語としての日本語に内包される問題であると同時に、日本の社会が抱えてきた問題でもあることを論じる。また、日本語の文字・表記、音韻、文体、方言、少数言語、コミュニケーション等に関する具体的な施策についても、詳しく論じる。	
	国際政治の基礎	本講義科目は、国際社会で起きる様々な出来事を自分なりの枠組みで理解できるようになることを目標とする。国際政治の歴史的発展を概観した後に、国際政治の基本的な見方について学修する。次に今日の国際社会を構成する主権国家体制に関して、その国家間関係の形成と変容について学修する。具体的には、国連と地域主義、核などのテーマを取り上げる。その後、国家間関係の視点のみでは捉え切れないテーマとして、開発援助、地球環境問題、科学技術とエネルギーなどに注目して、これらの課題に国際社会がどのように取り組もうとしているのかに関する考察を深めていく。	
	国際関係論 I	本講義科目は、グローバリゼーションの中で大きく変化する国際政治経済に関する学修を通じて、3つの目標を達成することを目指す。(1)現代の国際政治経済について、グローバリゼーションに至る歴史的発展と現代の特徴に関する理解を深めること。(2)国際政治経済の国際レジームの形成や変化、国内の政治経済体制との関連を理解すること。(3)国際政治経済において政策理解に不可欠な理論的アプローチによる分析手法を身につけること、である。グローバリゼーションが進む現代の国際政治は大きな変貌を遂げているが、本講義では、国民国家中心の従来の国際政治経済がいかに変化し、どこへ向かおうとしているのか理解するために、歴史的発展と現代の特徴を学修する。	
	国際関係論 II	本講義科目は、グローバリゼーションの中で大きく変化する国際政治経済に関して、2つの目標を設定している。(1)主要な領域(貿易・金融など)について、問題解決の仕組みなど国際レジームの形成と発展を理解すること。(2)国際政治経済において政策理解に不可欠な理論的アプローチによる分析手法を身につけること、である。講義では、ユーロ危機や格差問題など新たな争点、多国籍企業やグローバルな規制機関など新たな主体が浮上している現代の国際政治経済について学修し、貿易や金融など主要分野について、国際レジームの特徴を理解すると共に、国際政治理論に基づく分析へと進む。	
ビジネス英語A	本科目は、米国におけるビジネス現場での英語を学修することを通じて、次のようなことができることを目標とする。ビジネスを想定した教材を使用し、各回でテーマ(コンタクト、アプローチ、アポイントメント、インフォーマルあるいはフォーマルなミーティングなど)に沿って、ビジネスに必要とされる基本的な英単語、フレーズを、言語の4技能を通して学修し、運用できるようになることである。また、日本と米国のビジネス・シーンをイメージしたテキストや映像を用いながら、日本人と米国のビジネスの考え方がどのように異なっているのかを理解できるようになるとともに、英語を用いた環境におけるビジネスをスムーズに進めていく上でどのような行動を取ることが要求されるのかを学修する。		

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ビジネス英語B	<p>本科目は、「ビジネス英語A」に引き続き、ビジネスを想定した教材を使用し、各回でテーマ(アポイントメント、ミーティング、プレゼン資料作成など)に沿って、ビジネスにふさわしい英語表現を、言語の4技能を通して学修する。ビジネス・コミュニケーションのノウハウを学修すると同時に、多様な文化・国籍の人々から成るビジネスの現場に必要な英語表現の修得と、ビジネス慣習における文化的な差異について学修する。米国におけるビジネス・シーンでの英語学修を通じて、ビジネスの現場をイメージできるようになり、また、日本人と米国のビジネスマンの考え方がどのように違っているのかを理解し、さらに海外でビジネスを進める上で日本人が誤って犯してしまうポイントなどについて学修する。</p>	
専修大学 入門科目	専修大学入門ゼミナール	<p>大学における学修では、講義を聴くことや教科書など基礎文献を読むことに加え、自らの問題関心や勉学の目的に沿って、自主的に勉強に取り組みなければならない。そのためには、必要な資料を収集し、その内容をまとめ、教員や他の学生に報告し、議論を重ね、勉学の成果を論文やレポートにまとめることなど、積極的な姿勢でのぞむことが求められる。</p> <p>本科目は、専修大学の学生としての自覚を持つために専修大学の歴史を学ぶとともに、少人数のゼミナール形式の授業における実践的な作業を通して、大学で学ぶことの意義や、「講義でのノートのとり方」、「資料の収集方法」、「報告の方法」、「討論の方法」、「論文・レポートの書き方」など、大学で学ぶための基本的な技法、すなわち大学における学修方法の習得を目的としている。</p>	
データリテラシー	データ分析入門	<p>情報化社会における問題をデータに基づいて解決するために、データをまとめた表やグラフおよびデータの特徴を表す基本的な指標を読み取って、分析するための基礎的な力を身に付けることを目標とする。また、他者が分析した結果を批判的に評価して、だまされないようになることも目標である。まずは、目的に応じたグラフの特徴や見やすいグラフの描き方について学ぶ。その後、平均値・中央値などの代表値や分散・標準偏差などの散布度を持つ特徴を扱う。さらに、カテゴリカルデータのクロス集計の連関係数や、量的な変数の間の相関係数といった、変数と変数の関係を示す指標も取り上げる。理解を深めるために、実際に自分でデータから指標を計算してみる。さらに、公表されたり報道されたりしているデータに基づく分析結果を批判的に見直すことも行う。授業形態は講義とするが、講義中に簡単なデータの例について計算の演習を行う。</p>	
転換・導入科目	キャリア入門	<p>本科目は「キャリアを理解するための基礎知識」「自分を知る」「環境を理解する」「キャリアデザインに必要な力」を学び、ゲストスピーカーの話に関連付けることを通じて、大学生活における様々な選択肢の中から自分の生き方を主体的に考え行動することを目的とする。ここでは「キャリアデザイン＝自分の立場や役割を認識し、それにふさわしい己の有り様について構想を練ること」と捉え、学生生活で何をするかを明確にし(考える)、多くの経験をして自分の可能性を探り(試す)、なりたい自分になるために挑戦し(挑む)、具体的目標に向けて活動する(磨く)というサイクルを身に付ける。さらに講義での学びを、他の正課科目をはじめ、課外講座やインターンシップ、部活動、留学などに反映し、目的意識を持った学生生活とその延長線上にあるキャリアの実現に向けて踏み出す後押しをする。</p>	
情報リテラシー科目	情報入門1	<p>情報倫理について理解し、情報機器、ネットワークの基本的な使い方および情報処理の基本的な考え方を学習する。学習の目標は、他の授業で必要とされる情報処理の基礎(リテラシー)を取得することと、様々な情報処理を行うことができるように基礎的なコンピュータの考え方を取得することである。</p> <p>学内外のさまざまな情報資源 -- 教育支援システム、電子メール、図書館の蔵書検索、図書データベース、論文データベース(CiNii)、統計データベース(e-Stat)、検索サイト--の利用法を学習し、表計算ソフトウェアを通して、情報処理の基本的な考え方(計算式の設定、グラフ化、絶対参照等)を学習する。</p>	
情報リテラシー科目	情報入門2	<p>情報入門Iで修得した内容をさらに発展させる授業である。学習の目標は、基礎的なコンピュータ処理の原理を取得することである。学生自らコンピュータを使い、成果物を作成する科目である。学習する内容は、(1)プレゼンテーションの slides の作成 (2) テキストエディタを使いXHTMLのweb文書を作成し、あわせてWEBのしくみの学習 (3) アンケートの集計を例に、クロス集計、グラフ化などの学習 (4) 関数、IF文などを使った簡単なプログラミング、またはシミュレーションを行う。</p>	
基礎自然科学	あなたと自然科学	<p>教養科目自然科学系科目の導入科目として、「科学」とは何か、「科学的な」思考法とは何か、「科学的に」問題を解決すること、社会に貢献することとはどういうことかを、「あなた(受講生)」の身の回りの自然現象や「あなた」の生活を便利にしている技術などに触れながら講義形式で論じる。「あなた」の身の回り、あるいは「あなた」自身にも自然科学が密接に関わっていることを理解し、科学的な視点や考え方を身につけ、科学リテラシー(科学や技術に対する理解度)を向上させることが本科目の目的である。「あなた」を取り巻く6つのテーマについて、生命を支えるための基本的な仕組み、生物の進化と多様性、健康という状態と病気という状態の違い、私たちが存在できる地球という惑星の特徴、資源とエネルギー、現代社会と環境問題について論ずる。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文科学 基礎科目 教養科目	日本の文学	日本文学についての研究は、今日ますます広がり深化をみせており、古代から現代にいたる長い時間の中で生み出されてきた諸作品は、日本人のみならず、世界の人の関心の的にもなっている。また研究方法においても、歴史学・社会学・心理学・文化人類学・民俗学・ジェンダー論など、周辺領域との連携によって、新しい局面がひらかれつつある。この講義では、そうした最新の成果・方法論を紹介しながら、日本の古典文学および近現代文学を実際に読解することを通じて、文学作品を生み出した背景や歴史などについて深く理解し、作品そのものを十分に鑑賞する能力を養うことを目的とする。	
	歴史の視点	学生の多くにとって、講義科目としての歴史(世界史、日本史)は暗記科目として認識されていると思われる。この講義では、中学あるいは高校時代に得た知識を基礎にしつつ、暗記科目ではない学問としての歴史学の基礎を理解することを目的とする。歴史学とはどのような学問なのか、さまざまな時代と地域を対象とする研究や事例を通じて、歴史学における考え方や方法を具体的に知ることがその方法となる。また、そのような方法を学ぶことにより、現代社会に対する歴史的理解を深めることができるだろう。	
	基礎心理学入門	心理学は、人間の精神活動や行動を科学的な方法を用い、実験・調査・観察によって客観的なデータを得ることにより心・行動を解明する学問と体系化している。心理学は大きく分けて、基礎・実験的領域、および応用・実践的領域に分けることができるが、本講義では、基礎的・実験的領域に関連する心理学を概説する。本講義を通じ、「直感や思いこみで心を語るのではなく、客観的・実証的な手法で解明する」という縛りを自らに課した心理学のアプローチの重要性・面白さ・難しさを理解してほしい。	
	応用心理学入門	心理学は、人間の精神活動や行動を科学的な方法を用い、実験・調査・観察によって客観的なデータを得ることにより心・行動を解明する学問として体系化している。心理学は大きく分けて、基礎・実験的領域、および応用・実践的領域に分けることができるが、本講義では、応用・実践的領域に関連する心理学を中心に概説する。理論にとどまらず、できるだけ具体的に、日常生活でのできごとや社会的現象なども取り上げながら、さまざまな分野へ広がりを見せる心理学を解説する。	
	哲学	本講義の目的は、哲学的な考え方の初歩を解説し、人文・社会科学一般への知的関心を刺激するとともに、そもそも、身の回りの事柄について疑問を抱き、それについて、考えるとはどのようなことか、また、それによってどのような地平がひらけ、さらに、考えている自分自身について、どのような見方ができるのか、学生に理解してもらうことにある。具体的には、西洋哲学古来の普遍の本質についての問い、近世以来の主体や自我についての問いがどのようなものであったのか、またそれが現代哲学においてどのように問い直されたのかを解説することが、本講義の内容である。	
	倫理学	倫理とは、狭義には、人に対して「していい・いけない」という区別を核とする行動規範(狭義での道徳)であるが、広義には、「どういう人でありたいか」「どう生きるべきか」という問にかかわる規範をも包括する。この授業では、わたしたちが日々下している道徳判断に即して、倫理とはそもそもどのような規範であり、合理性や効率性といった規範とどう関係しているのか、といった問題を検討する。各自が習慣的に行ってきた道徳判断について、主体的にとらえかえすことを目標としている。	
	論理学入門	論理学では、「仮定や前提から、演繹的に正しい仕方次第で結論に到達する」ということが、どのようなことなのか、それを支えている原理やメカニズムがどのようなものか、を明らかにする。この講義では、そのための基本的な技法として、(1)命題論理の形式言語を構成し、形式言語を使用することの意義を確認し、論証構造の抽出方法を講義する。さらに(2)論理結合子の真理関数的解釈に基づいて、妥当な推論の判別方法の習得を目指す。また、命題論理における妥当な推論を選別する方法として、ゲンツェンによって開発された自然演繹の方法を解説し、そこでの具体的な証明方法の習得を目指す。	
	ことばと論理	命題論理における妥当な推論を選別する方法として自然演繹の方法を解説し、その上で、命題論理の言語を一階述語論理へと拡張する。これによって、日本語文の一階言語への翻訳方法を習得し、日本語文の背後にある論理構造の抽出方法を学ぶとともに、一階述語論理の自然演繹体系での証明を独力で構成できるようにする。さらに、非古典論理の一部、様相論理や多値論理、直観主義論理を取り上げ、メタ論理的な概念への入門を試みるともに、論理学成立のための諸前提を哲学的に検討しながら、ことばと論理の間の関係を考えていく。	
	芸術学入門	この講義は、芸術とは何かという「芸術の本質」を探求する入門的な概論である。つまりこの講義の目的は、例えば諸々の具体的な芸術作品の分析を通じて、歴史的な時代背景やこのジャンル以外の学問分野との連関を探ることによって、一つの芸術ジャンルにはとどまらない広い文化的構造において「芸術の本質」を見通しうるような視点を習得できるようにすることにある。そのために、様々な芸術作品に言及しつつ、できるだけ理解しやすい説明で進行する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文 科学 基礎 科目           教 養 科 目           社 会 科 学 基 礎 科 目	ジャーナリズムと現代	いまや誰でもが世界に向けて情報発信が可能な時代である。だからこそ、その溢れかえる情報のなかから必要な情報を取捨選択し、理解し、発言する力が求められている。そのためには、身の回りにあるさまざまな「メディア」、携帯やパソコン、テレビやラジオ、新聞や雑誌、さらには映画や舞台などについて、そのなりわいや社会的意味合いを改めて考え、理解することが大切である。同時に、デジタル・ネットワーク化がメディアを通じて社会に与える個別具体的な影響や、コミュニケーション理論の基礎的修得を通じて、現代日本における「ジャーナリズム」とは何かについてのイメージを、各自が持つことができるようにする。	
	日本国憲法	憲法の重要性は、国の「最高法規」であり、かつ「人権保障の基本法」という点にある。近・現代の憲法は、基本的人権の保障の条項と、権力分立を定める政治(統治)機構の条項の部分から成り立っているが、両者は密接な関係にある。すなわち、基本的人権の保障とは、国家権力による人権侵害に対する保障を意味し、その保障を確保するために、権力を立法・行政・司法にわけ、異なる機関に分立させているのである。この考え方を「近代立憲主義」と言い、この原理に基づいて制定された憲法を「近代憲法」とよぶ。 この講義では、身近な政治・社会経問題や実際に裁判で争われた事件を素材にして、日本国憲法の人権保障と権力分立の仕組みを考えてみたい。	
	法と社会	人間は、いつの時代でも、いかなる地域でも、他者との関わりなしに生きることができない社会的存在である。そのような人間の社会では、様々な規範(ルール)が必要となる。「社会あるところ、法あり」といわゆる所以である。 本講義では、法学に初めて接する人を対象に、社会における法の意義や役割、法の基本思想、法の実現のための裁判制度について学ぶ。とくに現代社会は、技術発展、価値観の多様化、家族のかたちの変化など、伝統的なものから多くの変容を余儀なくされている。このような社会の変化に応じて、法のあり方も大きく変容してきている。現代社会が抱える諸問題に対して、法学の視点からアプローチできるようにするための力を涵養することも本講義の重要な課題である。	
	政治学入門	本講義は、権力、自由といった政治学の基礎的概念や、選挙、政党、議会、官僚制といった政治制度・政治集団の原則や行動パターンを理解するための、まさに政治学入門講義である。他の人文・社会科学(文学、経済学など)に対する知的関心や学習意欲を側面から鼓舞することを目的としている。政治学的な発想という眼鏡をかけて眺めてみることによって、国内政治、国際政治、身近な組織の運営などを、それまでとは違った角度から観察する。それらの基礎的な学習を踏まえ、国内政治、国際政治についての最新の事態と動向を確認しながら、現状の問題点についても考えていく。	
	政治の世界	一口に「政治」を学ぶと言っても、北米、南米、欧州、アジア等々、地域によってその実態は様々である。本講義は、そのような多様な政治の世界を理解するために、地域研究的な視点並びに歴史分析的視点を用いて、各国の政治の実態を知り、考えることを目的としている。具体的には、女性の活躍度合という視点で複数の地域の政治を比較分析したり、政治学の古典的なテキストで展開されている分析視角を用いて過去並びに現代の政治現象の意味を考えたりするといった、様々な課題にチャレンジしていく。	
	経済と社会	経済がこれからどう変わっていくのかを考えるとき、社会全体の大きな変化の中で経済をとらえる社会経済(Socio-Economy)的な視点をもつことは重要である。本講義の目的は、高校で学んだ知識を整理・発展させながら、社会経済的なものの見方の前提となる基礎的な知識・語彙を習得することにある。複雑で大規模な現代社会を、「資本主義」という用語を用いて大づかみに考察することに授業の主眼を置く。資本主義とは何か、資本主義経済はどんな問題を抱えているか、どんな歴史を経て現在の資本主義経済になったのか。これらを資本主義以外の経済体制を含めて考えるなかで、受講者に社会経済的な視点を体得して貰おう。	
	現代の経済	私たちの社会はモノやサービスをどれだけ生産し、それらを誰にどれだけ分け与えるか、という基本的な「経済問題」を持続的に解決していかなければならない。そして、私たちはこうした経済問題と関わらずに生きていくことはできないがゆえに、一人の市民として経済学の知識を身につけておくことが望ましい。この講義の狙いは、初めて経済学に触れる 学生諸氏に、基本的な経済学の知識を習得させ、経済学を学習することの意義を体得させることにある。	
	地理学への招待	これは、おもに初学者を対象とする講義形式の科目で、地理学が地表の科学として、環境・景観・地域とそこに展開する空間現象を研究対象とすることを示し、その説明と分析の方法についての理解を深めてもらうことを目的とする。とりあつかうテーマは自然・人文にわたる現象・事象であり、両者に通底する知的体系に気づくことによって、これまでとは違う地球観や世界観に接近してもらえよう解説する。対象を捉える視角として、位置、距離、分布とその要因、地表(気圏・地圏・水圏)と地表形成営力、地域と地域構造(パターン)・地域区分、景観と生態、起源と伝播(拡散)、時空間と動態などを用いる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目	社会学入門	講義形式。本講義は、「社会的理解の基礎を学ぶ」を講義の基本テーマとし、社会学的な「ものの見方」「発想」「方法」「概念」「理論」等に関する履修者の関心や基礎的な理解を身に付けることを目的とする。ただし社会学は、多種多様な現実分析の「発想」「視点」「理論」「方法」を含むので、あくまでも本講義では、各講義担当者の専門領域での研究成果を尊重しつつ、各専門領域における多様で個性的な研究成果を生かした講義を展開することで、履修者には、最終的に、「社会学とは何か」に関する基礎的な理解の習得を促すことを意図している。	
	現代の社会学	講義形式。本講義は、「社会的理解の基礎を学ぶ」を講義の基本テーマとし、社会学的な「ものの見方」「発想」「方法」「概念」「理論」等に関する履修者の関心や理解を深めることを目的とする。講義担当者の専門領域での研究成果をもとに、多様で個性的な研究成果や研究知見に関する講義を行うことで、最終的には社会学的な発想や視点、社会学の基礎概念、方法論、理論、研究事例等に関する履修者の理解を深めることを目的とする。講義担当者の研究内容に則しつつ、社会学の研究事例に関するより発展的で深い理解を促すことを目的とする。	
	社会科学論	社会を形作っている基本的な制度や組織等と、そこで生きている人びとの営みを分析対象とする社会科学は、ホブズ、ロック、アダム・スミス、マルクス、ヴェーバー、ケインズ、ハイエクといった多くの先人による理論構築を経て、客観的・批判的検討を行う「科学」として昇華されてきた歴史がある。この科目では、社会科学における方法論を素材として取り上げ、1)「社会」を対象とする社会科学がどのようにして科学として発展してきたのか、その歩みを理解すること、2)「自然」を対象とする自然科学との方法論の違いや、社会科学の諸領域における方法論の異同について理解を深めていくことなどを目的とする。	
	社会思想	われわれの生きている現代の政治・経済・社会領域で、当然と思われている共通規範—例えば政治における権力分割と民主主義、経済における合理的資源配分、社会における諸個人の自立とつながり—これらは、近代の生成とともに前近代の思考枠と戦いつつ培われてきたものである。「社会思想」では、近代の淵源をたどり、そこからさかのぼって現代へと至る歴史の中で、その節目節目に現れて現代に通底する諸思想を紹介し、さらには現代までに形成された価値(幸福、自由、平等、正義、共同体、民主主義など)を再検討し、現代と将来に生きる学生たちの社会知性の涵養を目指す。	
	教育学入門	教育とは何か、子どもが育つとはどういうことか、そうした問いを念頭におきながら教育という営みについて知ろうというのがこの授業である。近代社会の教育のひとつのエポックは学校の登場だ。子どもが学び育つプロセス、人が新たな知見と感動を手にするプロセス、そういう営みを集約的に展開させる場として、近代社会は学校を用意した。家庭と社会と学校の連携の中で子どもたちはどのように育っていくのか、あるいは育っていくのがよいのか。子どもたちの育ちを観察し、そして思索してきた先人たちの英知と苦悩に学びながら、自分自身、今現在の「教育とは何か」を考えてみたい。	
	子どもと社会の教育学	学校、家庭、地域コミュニティ、そして国家も含めて、社会全体を視野に入れるスケールで教育にアプローチしてみようというのがこの授業である。ある社会が教育をどのように構想するかは、その社会のさまざまな理想と利害と力関係の集積とある。この授業では、近代の教育が国家や地方の政治が関与しながら制度化されたものとしてあるということを念頭に、教育を制度構想、組織経営、政策分析においてみていく。社会を変化させる可能性を持つ学校が、同時に既存の社会の枠組みを再生産する装置としても機能していることをみてもこれらの関係は単純ではない。ぜひ、教育と社会の相互関係のダイナミズムに触れて欲しい。	
	情報社会	今後情報化がますます進んでいく社会において、大学生は情報システムやサービスの利用者(受信者・発信者)であり、また将来何らかの形でそれらの提供側に関わる可能性もある。本科目は、広く情報システムやサービスの意義や活用事例、及びそこで提供される情報やメディア、さらには情報社会の問題についての基礎を理解してもらうことを目的とする。最初に人間社会における情報システムの意義を示し、その基本的な仕組みを解説する。さらに、ビジネスや公共サービス、環境など現実社会と情報システムの関わりを学び、その活用可能性を考えていく。また、情報システムやネットワーク上の情報自体について、その特性・分類・既存メディアとの関係・社会的位置づけなどを理解し、情報自体の捉え方やコンテンツビジネスについての概観を得る。合わせて、情報社会における問題、情報倫理などについても学ぶ。	
	はじめての経営	本講義の目的は、「企業」および「経営」という概念を理解し、これを基礎として社会の諸問題をさまざまな観点から考察する力を身につけることにある。そのため、講義内では企業の実例を適宜紹介しながら、モチベーション論、リーダーシップ論、現代企業の発展史、株式会社論、企業と社会、企業の成長戦略、顧客満足、組織活性化、事業のビジネスモデル、企業の国際化戦略等のテーマを取り上げ、解説する。同時に現代の企業はどのような仕組みで経営されているのか、どのような課題を抱えているのか、働く喜びとは何か、企業は人間を幸せにしてくれるのだろうかといった企業経営にかかわる諸問題について受講者自身にも考えてもらう。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会科学 基礎科目	マーケティングベーシックス	マーケティングは組織が顧客志向や顧客満足という観点にたつて市場に働きかける活動や仕組みの総体を指さす。現代市場における顧客志向の重要性の高まりとともに、企業におけるマーケティングの重要性も高まりつつある。加えてマーケティングの知識は官公庁や学校、病院などの非営利組織において社会的な課題解決を目標とする活動にも広く適用されるようになってきており、社会においてマーケティングの知識は必須のものとなりつつある。この授業では、マーケティングの初学者向けに、さまざまな考え方や手法について、具体的な事例に基づいて解説する。	
	企業と会計	この授業では、ビジネスに関する知識がない人を対象に、市場経済社会における会計の役割を説明していく。講義の主な項目は、(1)市場経済社会における会計の役割、(2)財務諸表の理解と分析、(3)日本の会計制度、(4)経営管理目的の会計、(5)企業の情報開示と会計監査、(6)ケーススタディとなる。ただし時間の都合から、簿記の内容は扱わない。実際の企業の事例をパワーポイント等で提示しながら基礎的な内容から解説する。	
教養科目  自然科学系科目	生物科学1a	生物体の基本単位となる「細胞」について、その造りや営みを理解させることは、生物科学教育の最もベーシックで、しかも核となることである。本科目では、主に細胞学の立場から生命現象が現れる仕組みを教授することに重点を置く。例えばミトコンドリアにおける好気呼吸や葉緑体における光合成のように、細胞の構造と機能は見事なまでに表裏一体となっていて、その巧妙さは生物進化40億年の過程で獲得されたものである。この科目を通して生命の素晴らしさと尊厳に対するより深い認識と眼差しを育むことを目指している。	
	生物科学1b	生物科学教育におけるもう一つの重要な柱は、DNAと遺伝子についての理解を深めさせることである。本科目では遺伝学の立場から生命現象が現れる仕組みを講ずることに重点を置く。遺伝子はタンパク質を作り出し、そのタンパク質が生命現象を引き起こす役割を演じる。発生と老化、さらには進化に至るまで、遺伝子レベルの研究からその謎が解明されつつある。 本科目では遺伝学の古典から近年の研究成果に至るまで幅広く取り扱うことによって生命への畏敬を深め、ハイテク時代を生きる我々が避けて通ることのできない遺伝子操作や生命倫理などの諸問題とも向き合い、人間の未来を正しく選択していくための素養や考える力を養うことを目標とするものである。	
	生物科学2a	この講義のテーマである地球における生物進化を学ぶにあたって、重要な観点が2つある。1つは地球上で進行した進化の事実を知ることであり、これは、化石の研究や、現生生物がもつ様々な機能の比較、そして生物がもつ遺伝子であるDNAの比較による系統の解析(分子系統解析)によってなされる。もう1つは、なぜ進化が起こったのかを知ることであり、ここでいう「なぜ」とは、進化が起こる自然界のメカニズムを指している。遺伝子DNAがもつ特性から生じる遺伝的変異の発生と、生物個体の生存率と繁殖率に作用する自然選択がこのメカニズムの両輪である。この講義では、この2つの観点を正しく区別しながら、生物進化を広く理解しようとする。	
	生物科学2b	この講義の目的は、生物学の一分野である生態学の基礎を学ぶことである。生態学の目的は、なぜその生物は、その場所に、それだけの数、存在するのか、に答えることである。野外調査や実験操作を行う生態学は机上の学問ではない。しかし、数理解析のような理論的研究も行われる。生態学は古くから個体群生態学と群集生態学に分けられてきたが、近年、これに生態系生態学が加わり、このような基礎生態学の応用として環境科学や保全生態学も加わるようになった。この講義では、微生物、動物、植物など、地球上に存在する様々な生物たちの生物相互間の関係や、生物と非生物的環境との関係がどうなっているのか、またそれらをどのように研究するのかを学ぶ。	
	生物科学3a	生物科学3aは「生き物としての人間」という観点から、まず他の動物と共通する遺伝子や細胞レベルの基本的な生命現象を理解した上で、ホメオスタシス維持の理解を目的に、消化・吸収、内分泌機能などの器官レベルの生理機能を学ぶ。次に誕生から死に至るまでの生物学的に考えるヒトの一生、さらには集団として生活していることの意味や、このことに伴って生じる問題についても考える。また「ヘルスリテラシー」を念頭に、例えばアレルギーなど免疫系の疾患、患者数の多い糖尿病について発生機序に基づいた予防策、疾病に付随する社会的な問題に対して医学的な側面から学生に問題提起を行う。	
	生物科学3b	生物科学3bは「生き物としての人間」という観点の中で、他の動物と一線を画す脳の機能を中心に論じる。まず脳の素子である神経細胞の情報処理のメカニズム、内外の環境変化を検出する感覚機能のメカニズムなど他の動物とも基本的には共通する機能について学ぶ。次に、言語や精神作用など人間の特徴である脳の高次機能について、他の動物と比較しながら理解する。また進捗著しい学習や記憶のメカニズム、さらには神経回路の機能不全として認識され治療されるようになってきた、いわゆる「こころの病」などへの神経科学的な理解も扱う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 自然科学系科目	宇宙地球科学1a	本講義では「宇宙へのアプローチ」をテーマとして、人と宇宙の関わりを軸に、時代による宇宙像の変化や、さまざまな観測手法・立場から見える多様な宇宙について講義形式で論ずる。本講義の到達目標は、(1) 宇宙・太陽系の構造を理解し、目に見える天体の動きを説明できる、(2) 人類の宇宙への様々なアプローチを学習し、観測方法による違いを踏まえて、その目的を理解することが出来る、である。この目標を達成するために、宇宙の構造、天体の運動と見かけの動き、観測手法とその変遷、宇宙の理解に対する天文学の進展について、最新の観測結果やデータの解釈も踏まえつつ、論ずる。	
	宇宙地球科学1b	本講義では「宇宙・太陽系のすがた」をテーマとして、最新の宇宙探査で明らかになった太陽系のすがたや、現在の宇宙像について講義形式で論ずる。本講義の到達目標は、(1) 現在までに明らかになっている太陽系天体のすがたを学習し、それぞれの特徴を説明できる、(2) 恒星の進化および銀河系の構造、さまざまな銀河の存在を理解し、宇宙についての時間的空間的な広がりをイメージすることが出来る、である。この目標を達成するために、恒星の性質や誕生と進化、銀河の誕生と進化、太陽系の諸天体の科学的な特徴について、最新の観測結果やデータの解釈も踏まえつつ、論ずる。	
	宇宙地球科学2a	固体地球科学の基礎を講義形式で論ずる。本講義の到達目標は、固体地球科学に関して、(1)用語を理解し、正しく用いることができる、(2)プレートテクトニクス・地震・火山活動に関する法則・原理、およびその根拠を理解し、説明することができる、(3)実際の観測結果や観測データ、モデルに基づいて、プレートテクトニクス・地震・火山活動を説明することができる、である。この目標を達成するために、現代の地球科学の基本概念であるプレートテクトニクスの理解を中心に、地球の産状・内部構造、大陸移動説と海洋底拡大説、マグマ形成プロセス、地震・火山と災害について論ずる。各々の事象を単に網羅的に論ずるのではなく、実際の観察・データの解釈やそれに至る歴史的背景も踏まえつつ、論ずる。	
	宇宙地球科学2b	地球史と現在の地球環境について講義形式で論ずる。本講義の到達目標は、地球史に関して、(1)地球誕生以降、環境がどのように変遷してきたのかを理解し、説明することができる、(2)環境の変化が生じた過程とそう推定される根拠を理解し、説明することができる、(3)過去の環境の変化と現在の地球環境の関連について説明することができる、である。この目標を達成するために、地球史を編むために必要な年代決定や古環境の代理指標で用いられる同位体の知識を基礎としつつ、地球46億年の歴史を概観する。特に、地球進化・生命進化上重要なイベント(地球の誕生、生命の誕生、大陸の進化、全球凍結、生命の繁栄と絶滅)を取り上げ詳細に論ずる。また、現在の地球環境を考える上で重要である顕生代(特に中生代・新生代)の気候変動や資源の問題について、海洋学の成果も含めて論ずる。	
	化学1a	化学の基礎を講義形式で論ずる。化学は物質の科学であり、物質の構造、物性、反応を探究する分野であるが、化学1aでは主に物質の構造について論ずる。化学における基礎的知識や概念を説明することができ、化学の観点から物質の性質や身の回りの自然現象について理解を深めることを目指す。内容としては化学の出発点である原子とその構造、分子、元素の周期表、化学結合などである。原子という肉眼では見えないミクロな粒子が100種類ほどの元素に分類され、それらが結びつくことでできた物質の性質が、原子や元素、化学結合によって説明されることを論ずる。	
	化学1b	化学の基礎を講義形式で論ずる。化学1bでは主に物質の反応と物性について論ずる。化学における基礎的知識や概念を説明することができ、身の回りにおける様々な物質の性質や身の回りで起こっている化学反応について、化学的な視点から理解を深めることを目指す。内容としては代表的な化学反応である酸化還元反応、化学反応の根底にあるエネルギーの概念、物質の状態、代表的な化学の概念である酸や塩基、近年現代社会を支える重要な素材となったプラスチックの特徴や物性などを論ずる。身の回りや自然界で起こる変化がなぜ起こるのか、我々が現代社会を構築する上で化学反応や新素材をどのように利用しているのかを化学的な視点から論ずる。	
	化学2a	現代社会における化学の役割を講義形式で論ずる。化学が現代社会のあらゆる場面で利用され、また貢献しているかを説明することができ、化学の視点・思考法によって科学や技術への理解を深めることを目指す。扱う内容としてはセッケンや洗剤などの界面活性剤、繊維や繊維を染める色素、食品添加物のような日常生活と化学の関わり、フロンや水銀、窒素酸化物などの環境汚染物質、地球温暖化問題など、環境と化学の関わりなどである。いずれの内容においても現代社会が化学によって支えられ、また現代社会が抱える問題が化学によって解決されることを論ずる。	
	化学2b	現代社会における化学の役割を講義形式で論ずる。化学が現代社会のあらゆる場面で利用され、また貢献しているかを説明することができ、化学の視点・考え方による科学や技術の理解を深めることを目指す。放射性物質や原子力発電、廃棄物の処理とリサイクル、省エネルギー技術などエネルギー問題と化学の関わり、医薬品やビタミン、アミノ酸とタンパク質、呼吸と光合成など、生命と化学の関わりなどが主な内容である。いずれの内容においても現代社会が化学によって支えられ、また現代社会が抱える問題が化学によって解決されることを論ずる。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目  自然科学系科目	物理学1a	物理学の基本的な考え方の一つである力学を中心に学ぶ講義科目であり、身近な自然現象を理解していく方法や物理学的な自然観を身につけることを目標とする。ニュートン力学や万有引力などにより、自由落下や潮汐現象などの身近な自然現象から惑星の運行といった極めて大きなスケールの問題まで統一的に理解できることを学ぶ。さらに、ニュートン力学を超えた体系である相対論の初歩にも触れ、物理学がいかに自然現象を体系化してきたかも学ぶ。	
	物理学1b	物理学の基本的な考え方の一つである波動、原子や電磁気学を中心に学ぶ講義科目であり、身近な自然現象を理解していく方法、物理学的な自然観を身につけ、その応用技術を理解する力を養うのを目標とする。波動・原子では音、光で起る身近な自然現象を学ぶとともに、見るができない原子の世界でも波動性と粒子性(量子性)が重要になることを学ぶ。また、電磁気学では、身近な現象や電化製品の動作原理を通して、電磁気学が身近に広く応用されていることを学ぶ。	
	物理学2a	現代物理学の中核をなす相対論や統計力学について学ぶ講義科目であり、現代的な自然観や物理学的な思考法を身につけることを目標とする。相対論では、時間や空間、エネルギーや質量、重力の現代的な姿を理解し、それをもとに、ビッグバンやブラックホールなどの宇宙論を理解する。一方、統計力学は、複雑に絡み合う非常に多くの粒子からなる系を扱う方法を学び、熱とエネルギーの関係、エネルギー変換、環境問題を物理学の観点から理解する。これらを通して、現代物理学的な自然観や思考法が、現代社会を思想的な側面から現実的な側面まで如何に変革してきたかも学ぶ。	
	物理学2b	現代物理学の一つの中心的課題は、物質の構造を探究することである。20世紀において、原子、原子核、クォークと探求が続き、それは、ビッグバン後の宇宙における物質創生のシナリオの解明につながっている。一方、原子核の発見は、相対論・量子論と相まって、物質内部に存在する莫大なエネルギーを解放させることにつながり、原子爆弾や原子力発電の開発へと応用されていった。本講義科目では、現代物理学がもたらした新しい物質観やその応用として、電力とエネルギー、原子力発電について学ぶ。その基礎となる、量子論、相対論の内容も含む。	
	数理科学1a	数理的論理思考力を養うことを主要な目的とする。内容は、広い意味の代数とする。身近な生活や社会で使われている数学を題材に、その数学的理論の理解を目指す。また近年は社会科学や情報科学など様々な学問分野において数学的知識は必要不可欠であるため、他分野への応用を念頭に置いた講義を行う。数学は体系的な学問であるので、理論を理解するためには基礎からの積み重ねが重要である。高校までの数学で学修した初歩的な知識を出発点に、受講者の理解を確かめながら授業を進める。	
	数理科学1b	数理的論理思考力を養うことを主要な目的とする。内容は、広い意味の代数とする。身近な生活や社会で使われている数学を題材に、その数学的理論の理解を目指す。また近年は社会科学や情報科学など様々な学問分野において数学的知識は必要不可欠であるため、他分野への応用を念頭に置いた講義を行う。数学は体系的な学問であるので、理論を理解するためには基礎からの積み重ねが重要である。基礎的な知識を十分に復習しつつ、「数理科学1a」を踏まえた発展的な内容にも触れる。	
	数理科学2a	この科目では、広い意味での解析学・幾何学を取り扱い、数学の問題を通して論理的思考力を養うことを主要な目的とする。 具体的には、位相幾何、非ユークリッド幾何、フラクタル幾何、複素平面、関数論、確率論などの分野から、受講者にとって、興味をもてて適切と思われる題材を選んで講義をする。数学は体系的な学問であるので、初歩的な基礎部分から丁寧に解説し、応用まで理解することを目指す。なお、この科目では基礎的な部分に重点を置いて講義する。	
	数理科学2b	この科目では、広い意味での解析学・幾何学を取り扱い、数学の問題を通して論理的思考力を養うことを主要な目的とする。具体的には、位相幾何、非ユークリッド幾何、フラクタル幾何、複素平面、関数論、確率論などの分野から、受講者にとって、興味をもてて適切と思われる題材を選んで講義をする。数学は体系的な学問であるので、初歩的な基礎部分から丁寧に解説し、応用まで理解することを目指す。なお、この科目では「数理科学2a」を踏まえ、より進んだ発展的な内容を講義する。	
	数理科学3a	この科目では、現代社会において必要不可欠な学問である統計学を取り扱い、データ分析の基礎知識、および論理的思考力を養うことを主要な目的とする。具体的には、平均、標準偏差の定義や、グラフ表現を与えるという記述統計から始める。さらに、推測統計の導入として確率分布の話題を取り扱い、主要な確率分布の性質を紹介する。数学は体系的な学問であるので、初歩的な基礎部分から丁寧に解説し、応用まで理解することを目指す。なお、この科目ではデータ分析の基礎的な部分に重点を置いて講義する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自然 科学 系 科目	数理科学3b	この科目では、現代社会において必要不可欠な学問である統計学を取り扱い、データ分析の基礎知識、および論理的思考力を養うことを主要な目的とする。具体的には、標本分布論、推定論、検定論という推測統計の主要な話題を取り扱う。また、ベイズ統計や機械学習などの中から、受講者にとって、興味をもて適切と思われる題材を選んで講義をする。数学は体系的な学問であるので、初歩的な基礎部分から丁寧に解説し、応用まで理解することを目指す。なお、この科目では「数理科学3a」を踏まえ、より進んだ発展的な内容を講義する。	
	科学論1a	実証主義に基づく現代科学の本質およびその方法論について講義形式で授業展開する。到達目標は以下の2つ。(1)現代の科学の根幹は実証主義にあり、観測や実験を通じて自然法則や基本法則の探求を目指している。その方法論が導入された歴史的な経緯を様々な科学史的事例を通して学び、その科学的方法論の本質について理解すること。(2)科学的方法論が現代の実生活／実社会においてどのように適用、応用されているかを認知すること。科学論1aにおける授業計画としては、次の2つのテーマを主な題材とする。(1)自然淘汰による適応／進化論について、人類がどのような紆余曲折を経て正しい理解へと到達してきたのか(2)宇宙の巨視的な構造を人類がどのように認知してきたのか。	
	科学論1b	実証主義に基づく現代科学の本質およびその方法論について講義形式で授業展開する。到達目標は以下の2つ。(1)現代の科学の根幹は実証主義にあり、観測や実験を通じて自然法則や基本法則の探求を目指している。その方法論が導入された歴史的な経緯を様々な科学史的事例を通して学び、その科学的方法論の本質について理解すること。(2)科学的方法論が現代の実生活／実社会においてどのように適用、応用されているかを認知すること。科学論1bにおける授業計画としては、次の2つのテーマを主な題材とする。(1)集団で生活し、コミュニティーを形成する動物の社会性について、人間のそれと比較し、動物としての人間とはなにか、あるいは人間性とはなにかを考える(2)自然界の極微の世界、すなわち原子や分子、素粒子の世界を人間はどのように認知してきたのか。	
	科学論2a	近代日本に特有の科学の理解の仕方とその歴史的背景を説き起こし、西洋科学の長い歴史をたどる中から成立の由来を探り、さらに近代科学に基づいた技術の力強さの秘密とそれが抱える問題点に言及する。そして科学がいかなる構造と射程をもつ知的営みであるのかを解説する。最後に高度な科学技術が制度化された現代社会が抱えている困難な諸問題について具体的な事例を取り上げて論じる。個々人の判断が迫られる現代社会においては、一人一人が科学的素養に基づき、適切な判断や選択をする必要がある。そのため、この授業では、受講生が、科学的知識に対する理解、科学的なものの考え方を身につけることができることを到達目標とする。	
	科学論2b	講義では人間を対象としていることから、生命はどのように誕生するのかといった人間の内なる環境が研究対象となる点で、生命の尊厳と深くかわる。講義では「生命とは何か」、「ヒトはどのように進化してきたのか」、「地球環境問題と人間社会の持続的発展に必要なものは何か」、「高齢化社会と人口問題」、「生物多様性保全」など、生命科学に関わる重要な諸問題を理解するための知識と、科学的考え方を身につけるため、生命科学に関する基礎的知識を学習した後、続いて生理的側面から現代社会が直面するヒトの生命に関わる課題に対する理解を深め、そして、生命倫理や生命技術、生物多様性と生態系の保全といった現代社会と地球環境に関わる課題についても、生命科学的視点から論じる。	
	教養 科目	学際科目1	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)東アジア世界がどのように形成されたかを説明することができる、(2)中国大陸・日本列島・朝鮮半島の古代文化の相違点と共通点を理解することができる、を到達目標とし、地域の多様性を示すひとつとして、東アジア世界を取り上げ、この東アジア世界が内部に多様性をもちつつも、ひとつの世界としてどのように形成され、変化していったのかについて講義形式で論ずる。
学際科目2		この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)東アジア世界の近代化を説明することができる、(2)東アジア地域における今日の課題を考察することができる、を到達目標とし、地域の多様性を示すひとつとして、東アジア世界を取り上げ、この東アジア世界が内部に多様性をもちつつも、ひとつの世界としてどのように変化していったのかについて、講義形式で論ずる。	
学際科目3		この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、法と社会に潜む「ジェンダー(社会的性差)」に気付く、自発的に「ジェンダー的知性」を開発できるようになることを到達目標とし、「ジェンダー」という言葉から始まり、何故、それが当たり前のもので社会に存在してきたのかについて、歴史から探ったうえで、法や社会のあらゆる場に存在する「ジェンダー」を知り、社会構造そのもののあり方、について講義形式で論ずる。	
融合 領域 科目			

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目	学際科目4	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、ユニバーサルデザインやアクセシビリティ、ジェントロジーについての学習を通じて、(1)社会における高齢者や障がい者も含めた多様な人々が社会に参加する手段を考えることができる、(2)情報化社会で多様な人々がコンピューターやネットワークの恩恵を受けるために必要なことを考えることができる、(3)超高齢社会において必要な解決策に貢献することができる、を到達目標とし、高齢社会における課題を分析し、解決を目指す学問分野であるジェントロジーについて紹介した上で、超高齢社会における課題解決策の中からユニバーサルデザインとアクセシビリティについて、アクティブ・ラーニングも取り入れながら、講義形式で論ずる。	
	学際科目5	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、パラスポーツ(障がい者スポーツ)に関心を持ち、そこにある課題を抽出したり、障がい者に対する日本の取り組みの課題点を探ることにより、解決のための具体的な方策を提案できる、を到達目標とし、パラスポーツ実践者や精通する専門家から、パラスポーツやそれを取り巻く現状、各々が直面している課題について解説してもらい、課題解決の方策を考える。	
	学際科目6	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、人類と自然環境との関連について、各専門分野の研究結果を知るとともに、より巨視的な観点から人間と自然環境の関わりを論じられるような多角的・総合的な見方を身につけられることを到達目標とし、人文科学・自然科学の立場から人類の文明論を踏まえた上で、人類の営みが自然環境と接触する場面を各分野の観点から、講義形式で論ずる。	
	学際科目7	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、映像、映画といったメディアに対して、裏に潜んでいるメッセージを探り出し、隠されている意味や意図を読み解くことができる、ことを到達目標とし、初期から今日に至るまでの映像表現の変遷を概観した上で、具体的な作品、テーマに従って作品を取り上げ、そこにおけるメッセージ性、文化、言語の問題(たとえば字幕)、隠された主題等を読み解きながら、今日的な映像表現のあり方を講義形式で論ずる。	
	学際科目8	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、普段、ふつうに目に触れたままになっているものや、見過ごしているもの(自然・民話・アニメ・食事・インターネット・ゲーム・新聞雑誌など)に対して、視点をずらして、そこにもう一度関連性を探ることによって、隠れていた意味を見出すことができる、を到達目標に、さまざまなテーマ、素材に触れながら、単に情報としてではなく、そこに自分なりの意味を見出し、さらに解決すべき問題を設定できるよう、講義形式で論ずる。	
	学際科目9	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、アジアの思想の基本を理解すると同時に、それにおける身体観を理解し、身体の問題を自分自身でも考えられるような問題意識を持つことを到達目標とし、アジアの身体観を考えることによって、身体を精神と切り離して考えたり、機械的な部分品の集合と考えたりしがちな私たちの身体観を再考するしつつ、日本や西欧の身体観とも比較しながら、アジア的な身体観の特徴について、講義形式で論ずる。	
	学際科目10	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、(1)ベトナムの経済及び産業・社会・文化の情勢について理解すること、(2)ベトナムの現況について説明できることを到達目標とし、現代のベトナムへの理解を深めるために、ベトナムの現況を経済、産業、社会、文化など様々な分野から検討し、ベトナム社会のありようを学際的、かつ実証的に明らかにする。本講義は講義形式で行われる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目	学際科目11	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義は、(1)グローバリゼーションの現状と課題を理解し、「持続可能な消費」のあり方を能動的に考えることができる、(2)ロジカルシンキングの手法を身につけることができる、(3)チーム内の合意形成の手法を身につけることができる、を到達目標とし、生活および生活者が直面するグローバリゼーションのメリットとデメリット、生じている課題を生活者・市民の視点に立って検証する、「持続可能な消費」を兼ね備えた「豊かな社会」のあり方について、講義のほか、ワークショップやグループディスカッションなどのアクティブ・ラーニングも取り入れた形式で行う。	
	学際科目12	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義は、(1)メディアコンテンツの産業・市場・政策、(2)メディアコンテンツの事業の設計と運用(製作)、(3)メディアコンテンツの表現・制作工程と技術について、具体的な事例を通して理解できる、を到達目標とし、メディアコンテンツ領域の総体を、表現・制作、製作・事業プロデュース、産業・市場、政策、技術など専門的な視点からのアプローチを通して学習していく。講義形式で行うが、ディスカッションなどのアクティブ・ラーニングも取り入れた形式で行う。	
	テーマ科目	この科目は、新しい領域のテーマに柔軟に対応することや特定の学問領域の理解を深め、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。(1)「環境」概念や環境思想の歴史の変遷を理解し、自分の言葉で説明できる、(2)「環境」概念や環境思想の発生と変化の背後にあった、政治的・経済的・社会的な要因を理解することで、ヨーロッパとアメリカの社会が近代以降たどった歴史的变化を理解できる。(3)「環境」や「自然」という概念について、歴史的な知識に基づく自分なりの理解を形作る、を到達目標とし、世界的に大きな影響を及ぼした、ヨーロッパとアメリカにおける環境思想の発展を中心に、その歴史を講義形式で概観する。	
	新領域科目1	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、(1)専修大学の歴史について概略を説明できる、(2)専修大学が誰によって、どのような目的で設立されたのかを説明できる、を到達目標とし、専修大学の歴史のみならず、日本近現代の政治・経済・社会・文化において大学や学生がどのような役割を果たしたのかについて、講義形式で論ずる。	
	新領域科目2	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、(1)大学卒業時に学生が自身の働き方を選択するにあたり、より広い選択肢を認識できる、(2)パラレルワークに代表される次世代の働き方の意義を理解できる、(3)自らのキャリアに関心を持ち、必要な内容に関しては自ら調べ、考える態度を持つ、を到達目標とし、将来の職業選択の考え方のフレームワークを身につけるために、講義形式とディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングも取り入れた形式で行う。	
	新領域科目3	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、(1)海洋と人文科学・社会科学との関連について理解し、説明することができる、(2)海洋の自然科学的な性質や特徴を理解し、説明することができる、(3)海洋を取り巻く諸問題を取り上げ、その解決策を提案できる、を到達目標とし、地球環境のみならず、文化や政治・経済の面で人間生活に大きな影響を与える「海洋」について、講義形式で論ずる。	
	新領域科目4	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)スポーツデータを中心としたビッグデータの活用事例を理解する、(2)人口統計データの分析を通して高齢化社会の経済と諸問題を理解する、(3)機械学習による予測手法の概要と使用法を理解する、(4)問題解決にあたってビッグデータ活用を計画し実践できる、を到達目標とし、現代社会の諸領域のビッグデータの理解と融合することで統計リテラシーを高め、人口統計データの分析方法や機械学習による予測手法を学ぶことでビッグデータ活用を身近な課題と捉えてデータの収集分析から問題解決につなげる方法を習得する。講義形式を基本としつつ、統計解析ソフトを実際に用いるなどの形式で行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
融合 領域 科目	新領域科目5	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。 本講義では、眼前のランドスケープの機能や構造を成立させているシステムやメカニズムを捉える様々な論点・見方があることを理解し、ヒト、社会、自然生態系の相互関係を複眼的・総合的に思考できる力を獲得することを到達目標とし、都市域、農村地域、自然公園など、多様な環境特性のもとで展開されている事例を対象に、生態学(植物、動物)、社会学(観光・ツーリズム)、造園学(庭園、公園緑地)、地域計画学(都市・農村)、法制度論など学際的視点から、ヒト、社会、環境との相互関係の理解を深め、持続可能な社会を実現する上での課題について、講義形式で論ずる。	
	キャリア科目1	本科目は、業界・業種、職業・職種といった「環境の理解」を通して、志望する業界・業種、職業・職種、企業を選べる能力の習得を目的とする。具体的には企業組織論や産業論の観点から、今後の企業組織や産業社会の展望の理解を深めながら、自分のキャリアに対する考え方を確認し、多方面から招く実務者の講義とグループワークで理解の定着を図る。これらから、自らが描いたキャリアデザインを実現できる業界や職種を具体的にイメージし、そのために必要な能力開発する計画を展望できるようにする。	
	キャリア科目2	本科目は、企業が抱える現実の問題の解決方法を考えるプロセスを通じて、仕事を遂行するために必要な能力について理解し、自己のキャリアについて考えを深めることを目的とする。具体的には、協力企業から提示された現実の問題に対しチームで取り組みながら、プロジェクト・マネジメントを中心としたチーム学習および課題解決の技法を用いて問題を多面的に分析し、解決策を提示する。講義ではディスカッションとプレゼンテーションを複数回実施し、定期的に企業の方から感想をもらう。これらを通じて、「キャリアデザインに必要な力」の中で特に「プレゼン力」「論理思考力」「人間関係構築力」「課題解決力」を養う。最後にこのプロセスを通した学びを自分のキャリアに対する考え方に照らし合わせ、残りの学生生活と自身の将来の進路について具体化する。	
	教養テーマゼミナール1	小人数の相互コミュニケーション的教育を行うことを重視し、「教養テーマゼミナール」を設置している。この「教養テーマゼミナール」は、学部の枠にしばられずに学部横断的に履修することができるので、異なった学部の学生が共に学び、議論することができるという特徴がある。研究テーマは自然科学から演劇、スポーツまで幅広く、専門領域を超え、広い視野を身に付けることができる。「教養テーマゼミナール1」では、一次資料の正しい使い方、二次資料の批判的な読み込み方、及び創造的論考の修練を身につけることを目的としている。	
	教養テーマゼミナール2	小人数の相互コミュニケーション的教育を行うことを重視し、「教養テーマゼミナール」を設置している。この「教養テーマゼミナール」は、学部の枠にしばられずに学部横断的に履修することができるので、異なった学部の学生が共に学び、議論することができるという特徴がある。「教養テーマゼミナール2」では、「教養テーマゼミナール1」で得た基礎的知識をもとに、自分で掲げた課題についての考察を行うことを目的としている。	
	教養テーマゼミナール3	小人数の相互コミュニケーション的教育を行うことを重視し、「教養テーマゼミナール」を設置している。この「教養テーマゼミナール」は、学部の枠にしばられずに学部横断的に履修することができるので、異なった学部の学生が共に学び、議論することができるという特徴がある。「教養テーマゼミナール3」では、これまでに学習してきた資料の取り扱いや、具体的な分析を通じて、各自が独自の視点で、どのように個々の問題にアプローチし、全体的に把握していくかということの問題にし、教養ゼミナール論文の執筆を前提としている。	
	教養テーマゼミナール論文	「教養テーマゼミナール論文」の執筆を求めるこの科目では、それぞれの関心にもとづいて、研究論文をまとめることを求められる。既に学んでいる資料の取り扱い方を基本に、ゼミナールで行っている研修などを元にしたテーマの選択がまずは問題となる。なお、執筆に際しては、個々の学生に具体的な指導が行われる。執筆したものについては、単位認定の他に、年度末に実施される、教養テーマゼミナール論文発表会での発表が求められる。	
保健 体育 系 科目	スポーツリテラシー	授業形態:実技形式。目標:多様な文化的価値を持つスポーツについて、適切な理解と解釈をもって実践できる能力を養う。スポーツによる学士力の養成と心身の健康の保持増進に取り組むことができる能力を身につける。概要:スポーツは、年齢・性別・障がいの有無を問わず広く行われており、コミュニケーションツールとしてもその価値は高い。その楽しみ方は、競技的なものからレクリエーション的なものまで多岐に渡る。スポーツが有する様々な可能性に触れて身体知を養うことでスポーツ文化を総合的に理解し、問題解決に取り組むことのできる能力を身につけ、共に学ぶ仲間作りの場としてのスポーツを実践する。併せて、スポーツを媒介にして学生間の意思疎通能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養い、共に学ぶ仲間作りの場としてのスポーツを実践する。スポーツの様々な可能性について理解するとともに、生涯スポーツへつなげる足がかりとする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健体育系科目  教養科目	スポーツウェルネス	授業形態:実技形式。目標:スポーツの価値を認識し、その活動を学生生活に取り込み、自分の心身の状態を認識し、健康の保持増進に継続して取り組む事ができる。概要:スポーツの実践を通じて健康の保持・増進や生活習慣病の予防・体力の向上、ストレスの解消といった体と心に関する効果をはじめ、仲間作りやフェアプレー、チームワークの醸成といった社会的効果(=スポーツの価値)が認められている。また、スポーツには「する」だけでなく「見る」「支える」スポーツによる生き甲斐づくりに貢献できる特徴がある。スポーツウェルネスとはこのような様々な効果を有するスポーツを通じたウェルネスの活動である。スポーツの効果や価値を認識し、自分の価値観や人生観に基づき、より良く生きるための手段としての健康を追求し、自らスポーツを実践できる能力を身につけ、生涯にわたって何らかのスポーツを継続していくことができる能力を養う。	
	アドバンススポーツ	授業形態:実技形式。目標:各スポーツの特徴や構造を理解し、さまざまな状況に応じた技術や戦術を選択・実践することでスポーツの楽しみを広げ、生涯に渡り安全かつ健康的な生活を営む能力を養う。概要:スポーツを専門的レベルから学び、幅広い知識と専門性の高い技術の獲得とともにトップアスリートとの交流、審判やマッチメイク等のマネジメントについての学習などにより、スポーツをライフスタイルの中に取り込み、生涯にわたり身体的、精神的、社会的に健康で豊かな生活を送る能力を身につける。	
	スポーツ論(健康と生涯スポーツ)	授業形態:講義形式。目標:スポーツ・運動に関する知識だけでなく、現代社会における生活習慣も問題点、食生活、ダイエットなどについて正しい知識を身につける。概要:わが国は科学や医学の大きな進歩、発展により平均寿命は世界でもトップの長寿国となっているが、その反面、肥満、高血圧、心理的ストレスといった生活習慣病や環境の変化にともなうストレス等に悩まされる人が多く、現代社会で生活していく人々にとって、いかに健康を維持・増進していくかが大きな問題になっている。どのように健康増進、体力向上に結びつくのか、スポーツ・運動することによってどのような効果が見られるのかを学び、自分自身のよりよい生活を送れる方法として生涯スポーツを学ぶ。	
	スポーツ論(オリンピックとスポーツ)	授業形態:講義形式。目標:オリンピックの歴史的背景や取り巻く環境を理解する。トップレベルのコンディショニングのプロセスを理解する。スポーツ科学を通して人間の可能性について学び、競技スポーツと生涯スポーツとの共通点、相違点を理解する。概要:オリンピックなど世界的な競技力向上を目指すためには、最新の知識やトレーニング方法などの必要性で、スポーツ科学を無視することはできない。また、勝利を得るためには、選手の才能や努力はいうまでもなく、彼らを支えるコーチ、メディカルスタッフ、トレーナーなどのサポート環境が不可欠である。これらについて、日本と世界における環境の違いを紹介する。オリンピックを目指すコンディショニングについては、科学的手法を用いて主観的感覚を客観的事実として導き出し整理する。本講義では、オリンピックの歴史的背景からスポーツ科学の必要性を見つめ、さまざまな学問的領域から包括的に捉える。	
	スポーツ論(人類とスポーツ)	授業形態:講義形式。目標:世界中で昔から親しまれてきたさまざまな身体活動やスポーツの歴史的・文化的背景を学ぶことにより、世界を知り、国際人たる幅広い視野を身につけていく。概要:スポーツや身体活動を人類学・社会学的視点から学ぶ。近代に創られたスポーツがどのような経緯で世界に拡大し、日本でどのように受容されていったかを捉え、「ヒト」と「スポーツ」あるいは「身体活動」の関わり合いを深く探究し、これまで知らなかった世界の姿を理解し、国際人となるために広い視野をみにつけ、近代社会から現代社会でのスポーツの変容を理解できるようになる。	
	スポーツ論(スポーツライフデザイン論)	授業形態:講義形式。目標:運動・栄養・休養と身心との関わりを理解し、将来的により健全な生活を送るための方法を思索し実践することができる。概要:子どもの体力・運動能力の低下とともに、学力・意欲の低下が懸念されている。一方、超高齢少子化社会へと進む中でメタボやロコモの概念が広がり、それらへの対策が課題となっている。近年、運動が身体のみならず、脳や心にも良い効果を生み出す数多くの研究成果が発表され、改めてスポーツのQOL向上への貢献が期待されている。大学生は身体的、精神的に成熟へと向かう発育発達の最終段階ともいえる大事な時期であり、社会人として自立した生活を営む準備期間となりえる。スポーツ・運動に関する有益な情報を整理し、客観的なデータを得ながら実践を試み、今を豊かに、そして未来を豊かに生きる力を養うことを目的とする。生活習慣を改善する一助とし、これからのスポーツライフマネジメントに役立ててほしい。	
	スポーツ論(トレーニング科学)	授業形態:講義形式。目標:スポーツの指導的立場にいたり、将来、スポーツとの関わりを志したりする学生が、スポーツトレーニングに関する正しい知識を身につける。概要:スポーツにおける人間の限界への挑戦は、科学的で合理的なトレーニングが求められ、情報戦、心理戦といった高等戦術が駆使される。勝つためにはどのようなことを心得ておけばいいか。どのような科学的トレーニングや戦術の組み立てをしたらいいか。身体能力を高めるためにはどうしたらいいか。スポーツする「からだ」を直接の対象とし、スポーツを行うときの「からだ」はどのように変化するか。運動という負荷に対し「からだ」はどのように反応し、適応するか。こうした問いをスポーツトレーニングという意味空間に限定し、その根拠を探らうとする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	保健体育系科目	スポーツ論(スポーツコーチング)	授業形態:講義形式。目標:スポーツコーチングに関する正しい知識を身につけ、現場で役立てられるようにする。また、現役選手として活動している学生にとっても、有意義なスポーツライフを送ることができるよう、自身のコーチとしての知識やスキルを身につける。概要:コーチには選手を育成するうえで、選手個人やチームを対象に広い視野から身につけておくべき知識やスキルがある。本講義ではコーチング哲学、人格教育とスポーツマンシップ、発育発達と多様な選手へのコーチング、評価活動とコーチング計画の立案、チームマネジメント、コミュニケーションスキル、スポーツ心理学、スキル指導の原則、スポーツバイオメカニクス、フィジカルトレーニングの原理・原則、薬物教育とスポーツ栄養学、スポーツ外傷・障害予防と対策、コーチングへのICT活用など、コーチに求められる知識やスキルを理解し、現場での実践的なスポーツコーチングを学ぶ。
		Advanced English a	必修英語の履修を終えた後、さらに英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目である。英語の文法・語彙・音声について、発展的、実践的な知識を身につけるほか、実用英語技能検定、TOEFL、TOEICなどの資格試験に対応できる英語力を目指す。例えば、語彙力・聴取力・発話力・文法知識など特定の力の増強を図る授業、日本語を介さずに英文を解釈し論じる授業、資格試験での得点アップを目標とする授業など、内容は多種多様となる。どのスキル、あるいはトピックに特化した授業を設定するかは担当者に任されている。
外国語科目	英語	Advanced English b	必修英語の履修を終えた後、さらに英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目である。英語の文法・語彙・音声について、発展的、実践的な知識を身につけるほか、実用英語技能検定、TOEFL、TOEICなどの資格試験に対応できる英語力を目指す。例えば、語彙力・聴取力・発話力・文法知識など特定の力の増強を図る授業、日本語を介さずに英文を解釈し論じる授業、資格試験での得点アップを目標とする授業など、内容は多種多様となる。どのスキル、あるいはトピックに特化した授業を設定するかは担当者に任されている。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。
		English Language and Cultures a	必修英語の履修を終えた後、さらに英語や英語圏の文化についての知識を増強することを目指す学生向けの選択科目である。英語や英語圏の文化などに関する幅広い内容を教材として、英語運用能力を身につけること、異文化に関心を持ち、国際社会の一員として協調してゆける知識と態度を身につけることを主たる目標とする。例えば、特定の文化圏や作家・作品、音楽や映画を題材に、差別や人権、戦争、移民といった社会問題について考えさせたり、ディスカッション、プレゼンテーションを課してコミュニケーション能力の増強を図ったりする授業を展開するが、どのような側面を切り口にするかは担当者に任されている。
		English Language and Cultures b	必修英語の履修を終えた後、さらに英語や英語圏の文化についての知識を増強することを目指す学生向けの選択科目である。英語や英語圏の文化などに関する幅広い内容を教材として、英語運用能力を身につけること、異文化に関心を持ち、国際社会の一員として協調してゆける知識と態度を身につけることを主たる目標とする。例えば、特定の文化圏や作家・作品、音楽や映画を題材に、差別や人権、戦争、移民といった社会問題について考えさせたり、ディスカッション、プレゼンテーションを課してコミュニケーション能力の増強を図ったりする授業を展開するが、どのような側面を切り口にするかは担当者に任されている。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。
		ロシア語初級1a	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、その初等文法を学びながら、ロシア語の基本となる語彙と文型、日常的な基本表現を習得し、ロシア語の簡単な文章が読み書きできるようになることが目標である。そのため、比較的文法事項が詳しく、音声CDも付いた教科書を使用して、ロシア語の基礎を学ぶ。ロシア語初級1aでは、ロシア語のアルファベットの学習から始めて、基本的な動詞や名詞の変化などを学ぶ。
英語以外の外国語	ロシア語初級1b	ロシア語初級1b	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、その初等文法を学びながら、ロシア語の基本となる語彙と文型、日常的な基本表現を習得し、ロシア語の簡単な文章が読み書きできるようになることが目標である。そのため、比較的文法事項が詳しく、音声CDも付いた同一の教科書を使用して、ロシア語の基礎を学ぶ。ロシア語初級1bでは、ロシア語初級1aに続いて、より複雑な変化や構文などを学び、初等文法を一通り終える。
		ロシア語初級2a	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、その初等文法を学びながら、ロシア語の基本となる語彙と文型、日常的な基本表現を習得し、ロシア語の簡単な文章が読み書きできるようになることが目標である。そのため、比較的文法事項が詳しく、音声CDも付いた教科書を使用して、ロシア語の基礎を学ぶ。ロシア語初級2aでは、ロシア語初級1aと共に、ロシア語のアルファベットの学習から始めて、基本的な動詞や名詞の変化などを学ぶ。

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  英語以外の外国語	ロシア語初級2b	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、その初等文法を学びながら、ロシア語の基本となる語彙と文型、日常的な基本表現を習得し、ロシア語の簡単な文章が読み書きできるようになることが目標である。そのため、比較的文法事項が詳しく、音声CDも付いた同一の教科書を使用して、ロシア語の基礎を学ぶ。ロシア語初級2bでは、ロシア語初級1bと共に、ロシア語初級2aに続いて、より複雑な変化や構文などを学び、初等文法を一通り終える。	
	インドネシア語初級1a	インドネシア語初級1aは、インドネシア語初習者を対象として、日本と親密な関係にあり、経済的にも文化的にも交流のさかんなインドネシアの社会の人々と意思疎通をする入り口としての基礎となるインドネシア語の修得を目標とする。文法に主眼を置く初級2aに対して、初級1aでは基礎的な会話の表現とその運用を主な学修内容とする。具体的には、まずインドネシア語の文字とその発音、日常的な挨拶、自己紹介から、さらにお礼やお詫びの語句、肯定・否定の表現、呼びかけや聞き返しの表現といった内容を学ぶ。	
	インドネシア語初級1b	インドネシア語初級1bは、1aで学修した内容を踏まえて、やさしい会話であれば、インドネシア語で不自由なく表現できるように、口頭練習を繰り返しおこなう。学修内容は、依頼や許可の表現、確認や願望や完了の表現のほか、実践的な場面設定をして、会話の練習をする。旅行者として現地に入国して、タクシーに乗り、ホテルに着き、レストランで食事をしたり、ショッピングをしたり、現地で道を尋ねるといった場面などでの実用的な言い回しができるようにする。	
	インドネシア語初級2a	インドネシア語初級2aは、インドネシア語初習者を対象として、日本と親密な関係にあり、経済的にも文化的にも交流のさかんなインドネシアの社会の人々と意思疎通をする入り口としての基礎となるインドネシア語の修得を目標とする。初級1aと連携を持ちながら、発音の仕方や、基礎的な語彙、基本例文の構造的な理解を身に付けることによって、簡単な文章が読めるようになる。初級2aでは、文法事項の修得を授業の軸として、インドネシア語のアルファベットの読み方と発音、名詞・名詞句、形容詞、比較文章、語幹のみ動詞、助動詞・副詞、数字、時間、Ber- 動詞などを学ぶ。	
	インドネシア語初級2b	インドネシア語初級2bは、初級2aで学んだインドネシア語の文法知識をベースとして、さらに基礎的なインドネシア語のしくみの理解を深めていく。具体的な内容としては、動詞のしくみ及び自動詞の練習(語幹のみ動詞)、Me- 動詞(他動詞)、命令文、接頭辞・接尾辞による名詞、受動態などである。また、実践レベルの目標として、学修内容に即しながら、簡単な日本語の文章をインドネシア語に訳したり、インドネシア語の短い話を日本語に訳したりできるようにする。	
	選択ドイツ語1a	ドイツ語を初めて学ぶ受講者を対象として、ドイツ語のアルファベットを読み、単語や短い文章を発音する練習からスタートする。さらに、ドイツ語初級文法の導入的練習により、ドイツ語の簡単な文章を読み、書くことができる力を養い、基礎的な文法事項を理解、活用することができるようになる。さらにこの力を補うものとして、平易なドイツ語を用いることで、ドイツの社会、文化に関する情報にさまざまな形で触れることで、ドイツに対する理解を深める。	
	選択ドイツ語1b	選択ドイツ語1bは、1aの後を受けて、ドイツ語を初めて学ぶ受講者を対象として、ドイツ語の読み方に慣れ、単語や短い文章を発音する練習からスタートする。さらに、ドイツ語初級文法の導入的練習により、ドイツ語の簡単な文章を読み、書くことができる力を養い、基礎的な文法事項を理解、活用することができるようになる。さらにこの力を補うものとして、平易なドイツ語を用いることで、ドイツの社会、文化に関する情報にさまざまな形で触れることで、ドイツに対する理解を深める。	
	選択フランス語1a	選択フランス語1aは、フランス語を初めて学ぶ受講者を対象として、アルファベット(A, B, C...)からスタートし、フランス語の読み方に慣れるとともに、基本となる文型と語彙、日常的な基本表現を修得する。その際、「読み・書き・話す・聞く」という、いわゆる言語習得の四技能についてバランスよく学修することを目指し、フランス語で簡単なコミュニケーションが取れるようになるとともに、フランス語によってフランスの社会や文化に触れることで、理解を深める。	
	選択フランス語1b	選択フランス語1bでは、1aの後を受けて、フランス語を初めて学ぶ受講者を対象として、フランス語の読み方に慣れるとともに、基本となる文型と語彙、日常的な基本表現を修得する。その際、「読み・書き・話す・聞く」という、いわゆる言語習得の四技能についてバランスよく学修することを目指し、フランス語で簡単なコミュニケーションが取れるようになるとともに、フランス語によってフランスの社会や文化に触れることで、理解をいっそう深める。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  英語以外の外国語	選択中国語1a	選択中国語1aは、中国語を初めて学ぶ受講者を対象として、まず、発音の練習、あいさつの言葉、簡単な名詞などを習得する。正しい発音に習熟し、ピンインを正確に発音でき、初歩的な聞き取りができるようになることを最初の目標とする。そのうえで、初級の段階で必要とされる基本的な文法事項を習得し、かつ基本となる語彙を修得することによって、比較的簡単な文章の読解と作文ができ、コミュニケーションの基礎とするとともに、中国文化・社会の理解を深めることを到達目標とする。	
	選択中国語1b	選択中国語1bは、1aの後を受けて、中国語を初めて学ぶ受講者を対象として、あいさつの言葉、簡単な名詞などを習得する。正しい発音に習熟し、ピンインの発音を正確なものとするとともに、初歩的な聞き取りができるようになることを最初の目標とする。そのうえで、初級の段階で必要とされる基本的な文法事項を習得し、かつ基本となる語彙を修得することによって、比較的簡単な文章の読解と作文ができ、コミュニケーションの基礎とするとともに、中国文化・社会の理解を深めることを到達目標とする。	
	選択スペイン語1a	選択スペイン語1aは、スペイン語を初めて学ぶ受講者を対象として、基本となる文型や、基礎的な語彙を習得する。「読み・書き・話す・聞く」という四技能を含めた、総合的な基礎力をつけ、コミュニケーションで使うことのできる実践的なスペイン語の習得を目指す。具体的には、受信型から発信型への外国語学習を目指して、簡単な作文を書いたり、自己紹介などによって身の回りのことを表現したりできるようになる。また、簡単なスペイン語を用いることによって、スペイン語圏の文化、社会に対する理解を深める。	
	選択スペイン語1b	選択スペイン語1bは、1aの後を受けて、スペイン語を初めて学ぶ受講者を対象として、基本となる文型や、基礎的な語彙を習得する。「読み・書き・話す・聞く」という四技能を含めた、総合的な基礎力をつけ、コミュニケーションで使うことのできる実践的なスペイン語の習得を目指す。具体的には、受信型から発信型への外国語学習を目指して、簡単な作文を書いたり、自己紹介などによって身の回りのことを表現したりできるようになる。また、簡単なスペイン語を用いることによって、スペイン語圏の文化、社会に対する理解をいっそう深める。	
	選択ロシア語1a	はじめてロシア語を学ぶ学生を対象とし、ロシア語を表記する文字であるハングルの書き方・読み方を学んだ上、ロシアの文化についての理解も深めながら初歩的な会話ができるようになることを目指す。1aでは、反復練習を通じてその課の表現を身に付けるところに重点をおく。具体的な学習内容は、ハングルの読み書き、簡単な挨拶、「～です」、「～ですか」、「～ではありません」、「～(し)ます」、「～(し)ますか」、「～(し)ません」にあたるロシア語の表現の作り方などである。	
	選択ロシア語1b	はじめてロシア語を学ぶ学生を対象とし、ロシア語を表記する文字であるハングルの書き方・読み方を学んだ上、ロシアの文化についての理解も深めながら初歩的な会話ができるようになることを目指す。1bでは、反復練習を通じてその課の表現を身に付けるところに重点をおく。具体的な学習内容は、ハングルの読み書き、簡単な挨拶、「～です」、「～ですか」、「～ではありません」、「～(し)ます」、「～(し)ますか」、「～(し)ません」にあたるロシア語の表現の作り方などである。	
	選択アラビア語1a	選択アラビア語1aでは、アラビア語を初めて学ぶ受講者を対象として、読む・書く・聴く・話すことの基本を、アラブ文化に触れながら習得する。はじめに、アラビア文字を習得できるように、各文字の書き順、文字のつなげ方、発音を丁寧に学習し、アラビア文字に慣れる。つぎに、日常的な基本となる表現を学び、その後、語彙力を増やしながら、名詞の性別から動詞活用までの基本的な文法を理解し、アラビア語で書いた短い文を読むことができる力を養う。	
	選択アラビア語1b	選択アラビア語1bでは、選択アラビア語1aに引き続き、アラビア語を初めて学ぶ受講者を対象として、読む・書く・聴く・話すことの基本を、アラブ文化に触れながら習得する。各文字の書き順、文字のつなげ方、発音を丁寧に学習し、アラビア文字に慣れたあとの課題として、日常的な基本となる表現を学び、次第に語彙力を増やしながら、名詞から動詞の使い方を中心に、基本的な文法を理解し、アラビア語で書いた短い文を読み、また書くことができる力を養う。	
	選択イタリア語1a	選択イタリア語1aでは、イタリア語を初めて学ぶ受講者を対象として、a,b,cの読み方からスタートし、日常生活でよく使う表現を使いこなすことを目標として修得すると同時に、文法の基礎も最初から積み重ねて学修し、基本的なイタリア語のしくみを広く理解する。語彙に関しては、身近に見聞きするイタリア語から始めて、次第に使える語を増やす。語彙、表現、文法事項ともに、習熟度を定期的に確認することで、イタリア語の基本的を修得する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英語 以外 の 外国 語          外国 語 科 目          海 外 語 学 研 修	選択イタリア語1b	選択イタリア語1bでは、1aを引き継ぎ、イタリア語を初めて学ぶ受講者を対象として、日常生活でよく使う表現を広く、かつ実践的に修得すると同時に、文法の基礎も最初から積み重ねて学修し、基本的なイタリア語のしくみを理解する。語彙、基本表現に関しては、身近に見聞きするイタリア語から始めて、次第に対象を広げること、使える言葉の数を増やす。語彙、表現、文法事項ともに、習熟度を定期的確認することで、イタリア語の運用に必要な基本力を修得する。	
	海外語学短期研修1(英語)	海外語学短期研修1では、本学の夏期の短期留学プログラムに参加し海外提携校に1ヶ月程度滞在して様々な経験を積む。大学の正規授業の聴講を行い、また非英語圏の国々から学生が集まるインターナショナルクラスの履修においては、ビジネス英語や多様なバックグラウンドを持つ仲間とのエコ・ボランティア活動等バラエティに富むプログラムが展開されている。海外提携校からは履修科目の成績評価と授業を担当した講師からの詳細な文章評価が与えられ、その成績に基づき本学の単位に換算される。	
	海外語学短期研修2(英語)	海外語学短期研修2では、本学の春期の短期留学プログラムに参加し海外提携校に1ヶ月程度滞在して様々な経験を積む。「生きた言葉」の修得を目指したプログラムで、聴解力・発話力に重点をおいた1日4時間程度の授業を履修し会話の実践練習を行う。授業外においてもフィールド・トリップやホームステイまたは学生寮での生活を通じ、現地の文化・歴史・生活習慣を実体験する。海外提携校からは履修科目の成績評価と授業を担当した講師からの詳細な文章評価が与えられ、その成績に基づき本学の単位に換算される。	
	海外語学短期研修1(ドイツ語)	ドイツの本学提携大学に、夏期休暇中の3週間を利用して短期留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。現地の語学コースで学びつつ、ホームステイ先に滞在することで、ドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深める。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。事後研修として、留学の成果をプレゼンテーションする機会も設ける。研修の一部期間、本学の教員が引率して指導に当る。	
	海外語学短期研修2(ドイツ語)	ドイツの本学提携大学に、夏期休暇中の3週間を利用して短期留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。現地の語学コースで学びつつ、ホームステイ先に滞在することで、ドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深める。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。事後研修として、留学の成果をプレゼンテーションする機会も設ける。研修の一部期間、本学の教員が引率して指導に当る。	
	海外語学短期研修1(フランス語)	フランス国内の語学学校に一月、短期語学留学(夏期休暇中)を行い、フランス語力の充実、特に実際の場での会話能力の充実を図る。併せて、フランス人の実際の生活、文化に直接に触れることで、日本の大学の授業では行うことが容易ではない、異文化コミュニケーションに対する柔軟な対応力を培うことを目的とする。なお、大学での授業との関連性に配慮し、参加者に対しては研修前に集中的に事前研修が行われ、また現地での研修の一定期間、本学の教員および職員が引率して指導にあたる。	
	海外語学短期研修2(フランス語)	フランス国内の語学学校に一月、短期語学留学(春季休暇中)を行い、フランス語力の充実、特に実際の場での会話能力の充実を図る。併せて、フランス人の実際の生活、文化に直接に触れることで、日本の大学の授業では行うことが容易ではない、異文化コミュニケーションに対する柔軟な対応力を培うことを目的とする。なお、大学での授業との関連性に配慮し、参加者に対しては研修前に集中的に事前研修が行われ、また現地での研修の一定期間、本学の教員および職員が引率して指導にあたる。	
	海外語学短期研修1(中国語)	中国の本学提携大学に短期留学(夏期休暇中の1ヶ月)して中国語を学習し、中国語の理解・運用能力の向上を図る。現地での体験的学習を通じて中国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めることを目標とする。留学の前に事前研修をおこない、必要となる基礎的な中国語能力および中国社会や文化に関する基礎知識を確保する。事後研修として留学報告を作成しプレゼンテーション形式で発表を行う。研修の一部期間、本学の教員が引率して指導に当る。	
	海外語学短期研修2(中国語)	中国の本学提携大学に短期留学(春期休暇中の1ヶ月)して中国語を学習し、中国語の理解・運用能力の向上を図る。現地での体験的学習を通じて中国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めることを目標とする。留学の前に事前研修をおこない、基礎的な中国語能力および中国社会や文化に関する基礎知識を確保する。事後研修として留学報告を作成しプレゼンテーション形式で発表を行う。研修の一部期間、本学の教員が引率して指導に当る。	
	海外語学短期研修1(スペイン語)	海外語学短期研修1(スペイン語)では、春期休暇期間中に、スペイン語圏の本学提携大学・研修機関に約1ヵ月の短期留学をして実践的にスペイン語を学び、スペイン語の理解力・運用能力の向上を図る。また、現地での体験的学修を通じて、スペイン語圏の文化・歴史・政治・経済などに関する関心を高めるとともに、その社会に対する理解を深めることを目標とする。留学の前には事前研修を行ない、渡航前に必要な語学の基礎力および現地事情についての基本的知識に関する指導を行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  海外語学研修	海外語学短期研修2(スペイン語)	海外語学短期研修2(スペイン語)では、春期休暇期間中に、スペイン語圏の本学提携大学・研修機関に約1ヵ月の短期留学をして実践的にスペイン語を学び、スペイン語の理解力・運用能力の向上を図る。また、現地での体験的学習を通じて、スペイン語圏の文化・歴史・政治・経済などに関する関心を高めるとともに、その社会に対する理解を深めることを目標とする。留学の前には事前研修を行ない、渡航前に必要な語学の基礎力および現地事情についての基本的知識に関する指導を行う。	
	海外語学短期研修1(韓国語)	韓国にある本学の提携大学に短期留学(夏期休暇中一ヶ月)して韓国語を学び、韓国語の運用能力の向上を図る。特に基礎的な会話能力を伸ばし、簡単なコミュニケーションができるようになることを目指す。加えて、現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めることも目標とする。留学前に事前研修を行い、最低限必要な韓国語能力および韓国社会や文化に関する基礎知識を習得し、安全な留学のための準備をする。	
	海外語学短期研修2(韓国語)	韓国にある本学の提携大学に短期留学(夏期休暇中一ヶ月)して韓国語を学び、韓国語の運用能力の向上を図る。特に基礎的な会話能力を伸ばし、簡単なコミュニケーションができるようになることを目指す。加えて、現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めることも目標とする。留学前に事前研修を行い、最低限必要な韓国語能力および韓国社会や文化に関する基礎知識を習得し、安全な留学のための準備をする。	
	海外語学中期研修1(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生を対象に、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修ではまず海外提携校の英語による講義を聞き取り、内容を理解できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修2(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義を聞き取り、内容を理解した上で初歩的な議論に参加できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修3(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、授業で与えられる課題に中級レベルの英文で対応することに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修4(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、簡単なレポートを英文で作成できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修5(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、長めのレポートを英文で作成できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修6(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、短いプレゼンテーションができるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  海外語学研修	海外語学中期研修7(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生を対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、長めのプレゼンテーションができるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修8(英語)	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生を対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で授業内の議論に積極的に参加できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
	海外語学中期研修1(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学では、特に日常会話において、挨拶や紹介などにとどまらず、時事的な話題にいたるまでこなせるだけの力をつけることを目指す。	
	海外語学中期研修2(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学は、コミュニケーションの土台となる聞き取り能力を磨き、さまざまなシチュエーションに応じ、より実践的なレベルで相手の発する会話、文章を素早く、かつ的確に理解する力を養うことを目指す。	
	海外語学中期研修3(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学は、書かれたテキスト、とくに新聞や雑誌といった日常触れることの多い文章を読解し、的確に内容を把握する能力を身につけることを目指す。	
	海外語学中期研修4(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学は、実用的なレベルでドイツ語による文章を実際を書くレベルの力をつけることを目指す。	
	海外語学中期研修5(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学は、一つのテーマについて相手の述べる意見を理解しつつ、自分の考えを伝え、さらに相手を説得するだけの力を重点的に鍛える。	
	海外語学中期研修6(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学では、一つのテーマについて自分の考えをどのように的確に伝えることができるか、その準備から実践までの力を磨く。	
	海外語学中期研修7(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。文化に積極的に触れることで、日本とは異なった文化の意義と意味を深く理解する力を養うことを目指す。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 海外語学研修	海外語学中期研修8(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。ドイツの文化を学ぶ過程で、日本について改めて考える機会とし、双方向の異文化コミュニケーション力を培う場とする。	
	海外語学中期研修1(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課目はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、すでに基礎的な会話能力を習得している学生が、さらに一歩進んだ実践的な会話能力を身に付けることを目標とする。特に日常会話において、挨拶や紹介などにとどまらず、時事的な話題にいたるまでこなせるだけの力をつけることを目指す。	
	海外語学中期研修2(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課目はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、コミュニケーションの土台となる聞き取り能力を磨き、さまざまなシチュエーションに応じ、より実践的なレベルで相手の発する会話、文章を素早く、かつ的確に理解する力を養うことを目指す。	
	海外語学中期研修3(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課目はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルの文法とコミュニケーション能力を習得している学生が、さらに高度な文法、構文を理解することを第一の目標として、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、書かれたテキスト、とくに新聞や雑誌といった日常触れることの多い文章を読解し、的確に内容を把握する能力を身につけることを目指す。	
	海外語学中期研修4(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課目はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、すでに初級から中級レベルのフランス語を習得した学生が、実用的なレベルでフランス語による文章を実際に書くレベルの力をつけることを目指す。とりわけ、1から6まである構文を中心に、動詞の各時制の使い方の習得を重要なポイントとする。	
	海外語学中期研修5(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課目はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、フランス語によるディスカッション能力を磨くことを目標とする。ここではとりわけ、一つのテーマについて相手の述べる意見を理解しつつ、自分の考えを伝え、さらに相手を説得するだけの力を重点的に鍛える。	
	海外語学中期研修6(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課目はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、フランス語によるプレゼンテーション能力を磨くことを目標とする。とくに、一つのテーマについて自分の考えをどのように的確に伝えることができるか、その準備から実践までの力を磨く。	
	海外語学中期研修7(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課目はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのフランス語能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、フランス文化に積極的に触れることで、日本とは異なった文化の意義と意味を深く理解する力を養うことを目指す。同時に、さまざまな人種、国籍の人間が暮らすフランス社会と接することで、それぞれの価値観を相対化することができる人間性を養う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 海外語学研修	海外語学中期研修8(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのフランス語能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。とくに、フランス文化に触れる中で、逆に日本の社会、文化をフランス人をはじめとした外国人にわかりやすく伝えるかということを考える。さらにその過程で、日本について改めて考える機会とし、双方向の異文化コミュニケーション力を培う場とする。	
	海外語学中期研修1(中国語)	海外語学中期研修1(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な文法や語彙を習得することを目標とする。現地での授業・生活を通して、多くのパターンの中国語に直に触れることで、目標の達成を図る。	
	海外語学中期研修2(中国語)	海外語学中期研修2(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な文法や語彙を習得することを目標とする。とくに中期研修2では、日常生活で触れる新聞や雑誌などのやや論理的な文章を読解する能力を習得することを目標とする。	
	海外語学中期研修3(中国語)	海外語学中期研修3(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な会話能力を習得することを目標とする。特に中期研修3では、日常生活において交わされる会話について、困難なく理解できる聴解力を身につけることを重視する。	
	海外語学中期研修4(中国語)	海外語学中期研修4(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な会話能力を習得することを目標とする。特に中期研修4では、日常生活において交わされる会話について、困難なく内容を伝達するための発話能力を身につけることを重視する。	
	海外語学中期研修5(中国語)	海外語学中期研修5(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な文法と語彙を踏まえ、実用的な構文に基づいた作文能力を習得することを目標とする。中期研修5では一定の意味のまとまりと長さを有する文章の作成までを視野に入れる。	
	海外語学中期研修6(中国語)	海外語学中期研修6(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流提携校に4～5箇月間留学して集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、中級レベルの会話力と作文力を踏まえて、さらに高度なレベルで、一定の内容を的確に伝達するプレゼンテーション能力の習得を目標とする。中期研修6ではとくに、配布文書の作成と口頭説明を行うことで総合的な中国語運用能力を涵養する。	
	海外語学中期研修7(中国語)	海外語学中期研修7(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流提携校に4～5箇月間留学して集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、中級レベルの運用力をさらに伸ばし、留学地域の歴史・文化・社会などについて総合的に理解を深めることを目標とする。中期研修7では、図書館・博物館・美術館などを活用し、文献・文物・画像・映像など幅広い資料に触れることを重視する。	
	海外語学中期研修8(中国語)	海外語学中期研修8(中国語)は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流提携校に4～5箇月間留学して集中語学研修に参加する制度である。本課程はこの制度を利用し、帰国後に、留学中の体験や習得知識について、中国語を用いて、文書・口頭説明と映像資料による報告プレゼンテーションを行うことを指導する。報告プレゼンテーションは、本学学生に公開する形式で行い、留学や異文化理解の意義が大学で広く共有されることを目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  海外語学研修	海外語学中期研修1(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、さらなる研修を行う。その際、すでに基礎的な会話能力を習得している学生が、さらに一歩進んだ実践的な会話能力を身に付けることを目標とする。特に日常会話において、挨拶や紹介などにとどまらず、時事的な話題にいたるまでこなせるだけの力をつけることを目指す。	
	海外語学中期研修2(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、さらなる語学研修を行う。その際、コミュニケーションの土台となる聞き取り能力を磨き、さまざまなシチュエーションに応じ、より実践的なレベルで相手の発する会話、文章を素早く、かつ的確に理解する力を養うことを目指す。	
	海外語学中期研修3(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルの文法とコミュニケーション能力を習得している学生が、さらに高度な文法、構文を理解することを第一の目標として、研修を行う。その際、書かれたテキスト、とくに新聞や雑誌といった日常触れることの多い文章を読解し、的確に内容を把握する能力を身につけることを目指す。	
	海外語学中期研修4(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が研修を行う。その際、すでに初級から中級レベルのスペイン語を習得した学生が、実用的なレベルでスペイン語による文章を実際に書くレベルの力をつけることを目指す。とりわけ、動詞の各時制の使い方の習得を重要なポイントとする。	
	海外語学中期研修5(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎レベルのコミュニケーション能力を習得している学生がさらなる研修を行う。その際、スペイン語によるディスカッション能力を磨くことを目標とする。ここではとりわけ、一つのテーマについて相手の述べる意見を理解しつつ、自分の考えを伝え、さらに相手を説得するだけの力を重点的に鍛える。	
	海外語学中期研修6(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎レベルのコミュニケーション能力を習得している学生がさらなる研修を行う。その際、スペイン語によるプレゼンテーション能力を磨くことを目標とする。とくに、一つのテーマについて自分の考えをどのように的確に伝えることができるか、その準備から実践までの力を磨く。	
	海外語学中期研修7(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルを習得している学生がさらなる研修を行う。その際、スペイン語圏の文化に積極的に触れることで、日本とは異なった文化の意義と意味を深く理解する力を養うことを目指す。スペイン語で書かれた文化、歴史などに関する文章の読解力を高める。	
	海外語学中期研修8(スペイン語)	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルのスペイン語能力を習得している学生が、さらなる研修を行う。とくに、スペイン語圏の文化に触れる中で、逆に日本の社会、文化を外国人にいかにか伝えるかということを考える。さらにその過程で、日本について改めて考える機会とし、双方向の異文化コミュニケーション力を培う場とする。	
	海外語学中期研修1(コア語)	海外語学中期研修1(コア語)は、初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生を対象に、韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルのコア語運用能力を身に付けることを目指す。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、日常会話にとどまらず、韓国社会により深い部分で触れるために、時事的および専門的な話題に関しても聞いて理解し、話せ、書ける力の向上を図る。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目  海外語学研修	海外語学中期研修2(韓国語)	海外語学中期研修2(韓国語)は、初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生を対象に、韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルの韓国語運用能力を身に付けることを目指す。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、日常会話にとどまらず、韓国社会により深い部分で触れるために、時事的および専門的な話題に関しても聞いて理解し、話せ、書ける力の向上を図る。	
	海外語学中期研修3(韓国語)	海外語学中期研修3(韓国語)は、初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生を対象に、韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルの韓国語運用能力を身に付けることを目指す。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、日常会話にとどまらず、韓国社会により深い部分で触れるために、時事的および専門的な話題に関しても聞いて理解し、話せ、書ける力の向上を図る。	
	海外語学中期研修4(韓国語)	海外語学中期研修4(韓国語)は、初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生を対象に、韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルの韓国語運用能力を身に付けることを目指す。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、日常会話にとどまらず、韓国社会により深い部分で触れるために、時事的および専門的な話題に関しても聞いて理解し、話せ、書ける力の向上を図る。	
	海外語学中期研修5(韓国語)	海外語学中期研修5(韓国語)は、初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生を対象に、韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルの韓国語運用能力を身に付けることを目指す。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、日常会話にとどまらず、韓国社会により深い部分で触れるために、時事的および専門的な話題に関しても聞いて理解し、話せ、書ける力の向上を図る。	
	海外語学中期研修6(韓国語)	海外語学中期研修6(韓国語)は、初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生を対象に、韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルの韓国語運用能力を身に付けることを目指す。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、日常会話にとどまらず、韓国社会により深い部分で触れるために、時事的および専門的な話題に関しても聞いて理解し、話せ、書ける力の向上を図る。	
	海外語学中期研修7(韓国語)	海外語学中期研修7(韓国語)は、初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生を対象に、韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルの韓国語運用能力を身に付けることを目指す。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、日常会話にとどまらず、韓国社会により深い部分で触れるために、時事的および専門的な話題に関しても聞いて理解し、話せ、書ける力の向上を図る。	
	海外語学中期研修8(韓国語)	海外語学中期研修8(韓国語)は、初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生を対象に、韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルの韓国語運用能力を身に付けることを目指す。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、日常会話にとどまらず、韓国社会により深い部分で触れるために、時事的および専門的な話題に関しても聞いて理解し、話せ、書ける力の向上を図る。	



学校法人専修大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度				令和2年度				変更の事由	
		入学 定員	編入 学 定員	入学 定員	編入 学 定員	収容 定員			
<b>専修大学</b>				<b>専修大学</b>					
経済学部一部	経済学科	490	—	1,960					
経済学部一部	国際経済学科	205	—	820	経済学部	現代経済学科	0	令和2年4月学生募集停止	
法学部一部	法律学科	562	—	2,248	経済学部	生活環境経済学科	265	学科の設置(届出)	
法学部一部	政治学科	153	—	612	経済学部	国際経済学科	266	学科の設置(届出)	
経営学部	経営学科	373	—	1,492	法学部	法律学科	220	定員変更(15)	
経営学部	ビジネスデザイン学科	180	—	720	法学部	政治学科	533	定員変更(△29)	
商学部一部	マーケティング学科	455	—	1,820	経営学部	経営学科	164	定員変更(11)	
商学部一部	会計学科	220	—	880	経営学部	ビジネスデザイン学科	373		
文学部	日本語学科	71	—	284	経営学部	マーケティング学科	180	定員変更(△17)	
文学部	日本文学文化学科	114	—	456	商学部	マーケティング学科	438	定員変更(△10)	
文学部	英語英米文学科	142	—	568	商学部	会計学科	210	令和2年4月学生募集停止	
文学部	哲学科	71	—	284	文学部	0	0		
文学部	歴史学科	132	—	528	文学部	日本文学文化学科	122	定員変更(8)	
文学部	環境地理学科	51	—	204	文学部	英語英米文学科	152	定員変更(10)	
文学部	ジャーナリズム学科	124	—	496	文学部	哲学科	76	定員変更(5)	
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	235	—	940	文学部	歴史学科	142	定員変更(10)	
人間科学部	心理学科	72	—	288	文学部	環境地理学科	55	定員変更(4)	
人間科学部	社会学科	122	—	488	文学部	ジャーナリズム学科	124		
					ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	235	940	
経済学部二部	経済学科	76	—	304	人間科学部	心理学科	77	308	
法学部二部	法律学科	76	—	304	人間科学部	社会学科	147	588	
商学部二部	マーケティング学科	76	—	304	国際コミュニケーション学部	日本語学科	71	284	
					国際コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	150	600	
計		4,000	—	16,000	計		4,000	—	16,000
<b>専修大学大学院</b>				<b>専修大学大学院</b>					
経済学研究科	経済学専攻(M)	30	—	60	経済学研究科	経済学専攻(M)	30	—	60
経済学研究科	経済学専攻(D)	3	—	9	経済学研究科	経済学専攻(D)	3	—	9
法学研究科	法学専攻(M)	25	—	50	法学研究科	法学専攻(M)	25	—	50
法学研究科	民法法学専攻(D)	3	—	9	法学研究科	民法法学専攻(D)	3	—	9
法学研究科	公法学専攻(D)	3	—	9	法学研究科	公法学専攻(D)	3	—	9
文学研究科	日本語日本文学専攻(M)	10	—	20	文学研究科	日本語日本文学専攻(M)	10	—	20
文学研究科	英語英米文学専攻(M)	5	—	10	文学研究科	英語英米文学専攻(M)	5	—	10
文学研究科	哲学専攻(M)	5	—	10	文学研究科	哲学専攻(M)	5	—	10
文学研究科	歴史学専攻(M)	10	—	20	文学研究科	歴史学専攻(M)	10	—	20
文学研究科	地理学専攻(M)	5	—	10	文学研究科	地理学専攻(M)	5	—	10
文学研究科	社会学専攻(M)	5	—	10	文学研究科	社会学専攻(M)	5	—	10
文学研究科	心理学専攻(M)	10	—	20	文学研究科	心理学専攻(M)	10	—	20
文学研究科	日本語日本文学専攻(D)	3	—	9	文学研究科	日本語日本文学専攻(D)	3	—	9
文学研究科	英語英米文学専攻(D)	2	—	6	文学研究科	英語英米文学専攻(D)	2	—	6
文学研究科	哲学専攻(D)	2	—	6	文学研究科	哲学専攻(D)	2	—	6
文学研究科	歴史学専攻(D)	5	—	15	文学研究科	歴史学専攻(D)	5	—	15
文学研究科	地理学専攻(D)	3	—	9	文学研究科	地理学専攻(D)	3	—	9
文学研究科	社会学専攻(D)	3	—	9	文学研究科	社会学専攻(D)	3	—	9
文学研究科	心理学専攻(D)	3	—	9	文学研究科	心理学専攻(D)	3	—	9
経営学研究科	経営学専攻(M)	20	—	40	経営学研究科	経営学専攻(M)	20	—	40
経営学研究科	経営学専攻(D)	3	—	9	経営学研究科	経営学専攻(D)	3	—	9
商学研究科	商学専攻(M)	10	—	20	商学研究科	商学専攻(M)	10	—	20
商学研究科	会計学専攻(M)	15	—	30	商学研究科	会計学専攻(M)	15	—	30
商学研究科	商学専攻(D)	2	—	6	商学研究科	商学専攻(D)	2	—	6
商学研究科	会計学専攻(D)	2	—	6	商学研究科	会計学専攻(D)	2	—	6
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	28	—	84	法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	28	—	84
計		215	—	495	計		215	—	495
<b>石巻専修大学</b>				<b>石巻専修大学</b>					
理工学部	食環境学科	40	—	160	理工学部	食環境学科	40	—	160
理工学部	生物科学科	55	—	220	理工学部	生物科学科	55	—	220
理工学部	機械工学科	40	—	160	理工学部	機械工学科	40	—	160
理工学部	情報電子工学科	35	—	140	理工学部	情報電子工学科	35	—	140
経営学部	経営学科	190	—	760	経営学部	経営学科	190	—	760
人間学部	人間文化学科	40	—	160	人間学部	人間文化学科	40	—	160
人間学部	人間教育学科	40	—	160	人間学部	人間教育学科	40	—	160
計		440	—	1,760	計		440	—	1,760
<b>石巻専修大学大学院</b>				<b>石巻専修大学大学院</b>					
理工学研究科	物質工学専攻(M)	5	—	10	理工学研究科	物質工学専攻(M)	3	—	6
理工学研究科	機械システム工学専攻(M)	5	—	10	理工学研究科	0	—	0	令和2年4月学生募集停止
理工学研究科	生命科学専攻(M)	5	—	10	理工学研究科	生命科学専攻(M)	5	—	10
理工学研究科	物質機能工学専攻(D)	3	—	9	理工学研究科	物質機能工学専攻(D)	2	—	6
理工学研究科	生命環境科学専攻(D)	3	—	9	理工学研究科	生命環境科学専攻(D)	2	—	6
経営学研究科	経営学専攻(M)	5	—	10	経営学研究科	経営学専攻(M)	3	—	6
経営学研究科	経営学専攻(D)	3	—	9	経営学研究科	経営学専攻(D)	2	—	6
計		29	—	67	計		17	—	40

## 設置の趣旨等を記載した書類（目次）

ア	設置の趣旨及び必要性	.....	p. 1
イ	学部・学科等の特色	.....	p. 5
ウ	学部・学科等の名称及び学位の名称	.....	p. 7
エ	教育課程編成の考え方及び特色	.....	p. 8
オ	教員組織の編成の考え方及び特色	.....	p.16
カ	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	.....	p.17
キ	施設、設備等の整備計画	.....	p.19
ク	入学者選抜の概要	.....	p.22
ケ	取得可能な資格	.....	p.24
コ	海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	.....	p.24
サ	管理運営	.....	p.30
シ	自己点検・評価	.....	p.31
ス	情報の公表	.....	p.33
セ	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	.....	p.35
ソ	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	.....	p.36

## 設置の趣旨等を記載した書類

### ア 設置の趣旨及び必要性

#### 1 建学の精神と学風

専修大学は、1880年（明治13年）、米国留学から帰国した相馬永胤、田尻稻次郎、目賀田種太郎、駒井重格の4人の若者により創立された。

創立者たちは、明治維新後、米国のコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てよう。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えた。

4人の創立者は、帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立し、わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあつて、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとした。

いち早く近代法の考え方をわが国に根付かせようとした本学は、五大法律学校の一つとして重要な役割を担い、新時代を担う青年を教育・指導することによって、社会に「報恩奉仕」したその精神が本学の建学の精神であり、「質実剛健・誠実力行」が学風となっている。

#### 2 21世紀ビジョン

本学は建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直した「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」を21世紀ビジョンに据えた。

社会知性（Socio-Intelligence）とは、専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力である。

今日、グローバル化の拡大と異文化交流の進展、情報化の加速、少子高齢化の進行など、我々が取り組まなければならない課題が山積しており、これらの社会的課題を解決するためには、地球的視野から諸問題を捉える力、創造的発想力、さらには深い人間理解や倫理観が求められている。

こうした新時代の社会で求められる知性こそ、「社会知性」であると考え、それは、学生一人ひとりが自己実現に生かせる知であると同時に、「専修大学が創り育てる知」でもあり、21世紀において、社会知性開発大学としての道を歩んでいる。

### 3 設置の必要性

18歳人口の減少期において、今後、本学が多様化、個性化を図りつつ、さらなる発展を遂げるためには、社会の要請を踏まえつつ、建学の精神に基づき、学部、学科における教育研究上の理念、目的を明確にし、特色ある個性的な目的や特徴と独自の存立意義を学内外に明らかにすることが重要となっている。

また、学術研究の高度化に伴い学部教育が対象とする専門領域も広範に及んできていることから、進学希望者の興味と関心や学習意欲に柔軟に responding していくために、学生の選択の幅や流動性を高める工夫も重要となっており、学術研究の進展や進学希望者の動向を勘案した教育組織の整備が求められている。

一方、本学の文学部では、文学分野における研究を通じて、いかなる権威にもとらわれない柔軟な発想と思考力を養い、幅広い教養を身につけるとともに、人間の営為に関する高度で体系的な専門知識によって、文化の継承と創造に寄与する能力を身につけた人材の養成を目指した教育を展開してきた。

しかしながら、昨今の社会環境の複雑化や多様化に伴い、文学部において対象としてきたそれぞれの専門分野における教育研究領域も多様な広がりを見せていることから、近年の学術研究の進展に対応するための教育研究の質的向上にむけた教育研究体制の整備と充実が必要となってきた。

今後、本学が社会の多様な期待や要請に適切に応え、自律性に基づく多様化や個性化を推進していくためには、自らの責任において、社会や学生のニーズに対応した組織体制の見直しや教育内容の充実、教育方法の改善など、学部教育における組織改革と教育改革に格段の努力を注ぐことが重要であると考えている。

このような高等教育を取り巻く社会環境の変化や学術研究の進展に伴う社会的な要請、進学希望者の動向などを十分に踏まえるとともに、特に、昨今の進学需要や人材需要の動向を見据えたうえで、既設の文学部の日本語学科を発展的に改組転換し、令和2年4月より、日本語学科と異文化コミュニケーション学科からなる国際コミュニケーション学部を設置することとした。

なお、国際コミュニケーション学部の日本語学科の入学定員71人については、既設の文学部の日本語学科の入学定員71人を移行するとともに、異文化コミュニケーション学科の入学定員150人については、法学部二部の法律学科から76人、商学部二部のマーケティング学科の入学定員76人から74人を移行することとしており、大学全体の収容定員の変更を伴わない計画としている。

また、今般、定員を移行する既設の法学部二部の法律学科及び商学部二部のマーケティング学科は、令和2年4月より学生募集を停止し、在学生の卒業を待って廃止することとしている。【資料1】

#### 4 卒業後の進路と養成する人材を受け入れる側の需要

##### (1) 卒業後の進路

日本語学科の卒業生には、日本語の専門的な知識を必要とする業務に携わり、将来的に中核的管理職者となることにより、事業体の発展に寄与することが期待される。

日本語学科の卒業後の具体的な進路は、主に、①行政機関・財団法人・一般企業等の文書作成・広報に関わる業務、②新聞社・放送局・出版社・WEB制作会社等の日本語を使用するメディアへの就職、③国語教員（中学校・高等学校）や日本語教師（国内・国外の日本語学校）としての就職、④国際交流基金日本語パートナーズや JICA 青年海外協力隊等への参加、⑤専門性の高い国語教員・日本語教師を視野に入れた大学院への進学などを想定している。

異文化コミュニケーション学科の卒業生には、複数の言語によるコミュニケーション能力を必要とする業務に携わり、将来的に中核的管理職者となることにより、事業体の発展に寄与することが期待される。

異文化コミュニケーション学科の卒業生の具体的な進路は、主に、①一般企業（貿易・物流・商社・観光・旅行・航空等運輸・情報関連等）への就職、②国際関係機関、NGO・NPO 法人等への就職、③大学院などへの進学などを想定している。

##### (2) 既設の文学部日本語学科の就職状況

既設の文学部では、開設以来、文学分野における研究を通じて、柔軟な発想と思考力を養い、幅広い教養を身につけるとともに、人間の営為に関する高度で体系的な専門知識及び文化の継承と創造に寄与する能力を身につけた人材の養成にむけて、教育研究の改善に努めてきた。このことは、社会からの高い評価と信頼を得ており、これまでの文学部日本語学科の就職状況からしても、人材を受け入れる側の需要の高さをうかがうことができる。【資料2】

今般の国際コミュニケーション学部の設置計画においては、急速に進む国際化と情報化の中で、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、既設の文学部日本語学科における卒業生の進路や卒業生を受け入れる側の需要を十分に勘案したうえで、既設の文学部における教育研究実績を基盤とする新たな教育研究の展開を目指すことから、これまで以上の求人件数を見込むことができると考えている。

##### (3) 卒業生の採用意向調査

国際コミュニケーション学部の設置計画を策定するうえで、卒業後の具体的な進路や地域社会の人材需要の見通しなどについて把握するために、民間企業等を対象として日本語学科及び異文化コミュニケーション学科の設置の必要性や卒業生に対する

採用意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、民間企業等においては、有効回答数 861 社の約 77.47%にあたる 667 社が「不足している」と回答していることから、人材不足の状況をうかがうことができるとともに、日本語学科の設置については、有効回答数 861 社の約 77.93%にあたる 671 社が「必要性を感じる」と回答しており、日本語学科を卒業した人材に対する採用意向については、有効回答数 861 社の約 88.85%にあたる 765 社が「採用したい」と回答している。

また、異文化コミュニケーション学科の設置については、有効回答数 857 社の約 85.18%にあたる 730 社が「必要性を感じる」と回答しており、異文化コミュニケーション学科を卒業した人材に対する採用意向については、有効回答数 857 社の約 92.07%にあたる 789 社が「採用したい」と回答している。

このような限定された一部の民間企業等に対する調査結果においても、国際コミュニケーション学部の日本語学科及び異文化コミュニケーション学科を卒業した人材への需要が高いことが認められることから、卒業後の進路は十分に見込めるものと考えられる。【資料 3】

## 5 教育研究上の目的、人材の養成及び研究対象とする学問分野

### (1) 国際コミュニケーション学部

国際コミュニケーション学部では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「文学分野」として、「日本語を含む諸言語についての研究、言語教育の手法やコミュニケーションの在り方そのものについての研究及び社会・思想・文化の研究を基礎としながら、より広い視野をもち、強靱な論理的思考を実践できる人材を養成することとし、「自己や他者及び社会に対する柔軟な理解力と共に、優れたコミュニケーション能力を涵養する」こととしている。

### (2) 日本語学科

日本語学科では、「国際化社会の中で、言語や文化の多様性に深い理解をもちながら、日本国内における日本語の言語生活向上と課題解決に貢献できる人材や、国内外における日本語教育に貢献できる人材を養成する」こととし、「日本語学の各分野についての体系的な知識及び他言語、文化、歴史、社会、自然などについて幅広い教養を身につけ、国際化社会の中で、客観的分析力をもって、日本語を必要とする様々な領域に貢献するための能力を修得する」こととしている。

日本語学科では、養成する人材を踏まえて、学位を授与するに当たり学生が修得しておくべき知識・能力について、以下の通り、定めることとする。

- ①日本語の音声、音韻・表記、文法、語彙・意味、語用論等の各分野について体系的な知識を獲得するとともに、日本語の時間的変異、空間的変異、社会的変異の諸相を理解できる。また、日本語及び他言語、文化、歴史、社会、自然などについて幅広い教養を身につけ、国際化社会の諸課題に取り組むための多様な視点を有している。
- ②言語学的視点に立った日本語の高い運用能力や、客観的な視点から情報を統合して分析する能力を身につけている。また、国際化社会の中での情報発信を行うための適切な方法を自ら選択できるとともに、知見や自身の考えなどを聞き手に分かりやすく説明できる。
- ③卓越した知見を活かし、日本語の言語教育（国語教育・日本語教育等）の分野だけでなく、日本語を必要とする様々な領域に還元しようとする態度を有している。

### （3）異文化コミュニケーション学科

異文化コミュニケーション学科では、「国際化社会の中で、言語や文化の多様性に深い理解をもちながら、複数の言語によるコミュニケーション能力をもって国際社会に貢献できる人材を養成する」こととし、「複数の外国語を学修することで、様々な言語や文化、多様な地域・社会に関する構造的かつ体系的な知識や情報を収集し、世界の多様性への深い理解を涵養する」こととしている。

異文化コミュニケーション学科では、養成する人材を踏まえて、学位を授与するに当たり学生が修得しておくべき知識・能力について、以下の通り、定めることとする。

- ①様々な言語・文化と多様なコミュニケーションへの知識と理解に基づいて、異文化や他者への関心と共感を深め、自己と国際社会への複眼的な視点を持つことができる。
- ②様々な言語や文化への理解や、多様な地域・社会に関する構造的かつ体系的な知識を獲得し、対象を普遍性と特殊性の観点から分析・把握できる。
- ③日本語に加えて複数の外国語の運用能力を獲得し、そのうちの一つについての高度な運用を通して、複数の言語をもとに多様な情報を収集・評価・理解し、自己の考えや判断を的確に表現できる。また、複数の言語と多様な文化への幅広い知識を土台として、現代社会の諸問題を国際的な視点から捉え、論理的な思考に基づいて、主体的な判断を提示することができる。

## イ 学部・学科等の特色

### 1 国際コミュニケーション学部

国際コミュニケーション学部では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を

「文学分野」として、「日本語を含む諸言語についての研究、言語教育の手法やコミュニケーションの在り方そのものについての研究及び社会・思想・文化の研究を基礎としながら、より広い視野をもち、強靱な論理的思考を実践できる人材を養成することとし、「自己や他者及び社会に対する柔軟な理解力と共に、優れたコミュニケーション能力を涵養する」こととしている。

このことから、国際コミュニケーション学部が担う機能と特色としては、中央教育審議会による「我が国の高等教育の将来像（答申）」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、文学分野における教育・研究を通して、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うことによる特色の明確化を図ることとする。

## 2 日本語学科

日本語学科では、「国際化社会の中で、言語や文化の多様性に深い理解をもちながら、日本国内における日本語の言語生活向上と課題解決に貢献できる人材や、国内外における日本語教育に貢献できる人材を養成することとし、「日本語学の各分野についての体系的な知識及び他言語、文化、歴史、社会、自然などについて幅広い教養を身につけ、国際化社会の中で、客観的分析力をもって、日本語を必要とする様々な領域に貢献するための能力を修得する」こととしている。

また、日本語学科の卒業後の進路としては、主に行政機関、財団法人、一般企業や、新聞者・放送局・出版社・WEB制作会社などのメディア関連の事業体、学校等に所属して、日本語の専門的な知識を必要とする業務に携わり、将来的に中核的管理職者となることにより、事業体の発展に寄与することが期待される。

このことから、日本語学科が担う機能と特色としては、中央教育審議会による「我が国の高等教育の将来像（答申）」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、文学分野における教育・研究を通して、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うことによる特色の明確化を図ることとする。

## 3 異文化コミュニケーション学科

異文化コミュニケーション学科では、「国際化社会の中で、言語や文化の多様性に深い理解をもちながら、複数の言語によるコミュニケーション能力をもって国際社会に貢献できる人材を養成することとし、「複数の外国語を学修することで、様々な言語や文化、多様な地域・社会に関する構造的かつ体系的な知識や情報を収集し、世界の多様性への深い理解を涵養する」こととしている。

また、異文化コミュニケーション学科の卒業後の進路としては、主に貿易・物流・商社・観光・旅行・航空・運輸・情報などの事業体に所属して、複数の言語によるコ



コミュニケーション能力を必要とする業務に携わり、将来的に中核的管理職者となることにより、事業体の発展に寄与することが期待される。

このことから、異文化コミュニケーション学科が担う機能と特色としては、中央教育審議会による「我が国の高等教育の将来像（答申）」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、文学分野における教育・研究を通して、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うことによる特色の明確化を図ることとする。

## ウ 学部・学科等の名称及び学位の名称

### 1 国際コミュニケーション学部

国際コミュニケーション学部では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「文学分野」として、「日本語を含む諸言語についての研究、言語教育の手法やコミュニケーションの在り方そのものについての研究及び社会・思想・文化の研究を基礎としながら、より広い視野をもち、強靱な論理的思考を実践できる人材を養成することとし、「自己や他者及び社会に対する柔軟な理解力と共に、優れたコミュニケーション能力を涵養する」こととしている。

このような、国際コミュニケーション学部が組織として研究対象とする中心的な学問分野と国際コミュニケーション学部における教育研究上の目的について、社会や受験生に最も分かり易い名称とすることから、学部名称を「国際コミュニケーション学部」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえて「School of International Communication」とすることとした。

学部の名称 国際コミュニケーション学部  
「School of International Communication」

### 2 日本語学科

日本語学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「文学分野」として、「国際化社会の中で、言語や文化の多様性に深い理解をもちながら、日本国内における日本語の言語生活向上と課題解決に貢献できる人材や、国内外における日本語教育に貢献できる人材を養成する」こととし、「日本語学の各分野についての体系的な知識及び他言語、文化、歴史、社会、自然などについて幅広い教養を身につけ、国際化社会の中で、客観的分析力をもって、日本語を必要とする様々な領域に貢献するための能力を修得する」こととしている。

このような、日本語学科が組織として教育研究対象とする中心的な学問分野と日本

語学科における養成する人材などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称とすることから、学科名称を「日本語学科」、学位を「学士（文学）」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえたうえで、学科の英訳名称を「Department of Japanese Language and Linguistics」、学位の英訳名称を「Bachelor of Arts」とすることとした。

学科の名称 日本語学科  
「Department of Japanese Language and Linguistics」  
学位の名称 学士（文学）  
「Bachelor of Arts」

### 3 異文化コミュニケーション学科

異文化コミュニケーション学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「文学分野」として、「国際化社会の中で、言語や文化の多様性に深い理解をもちながら、複数の言語によるコミュニケーション能力をもって国際社会に貢献できる人材を養成する」こととし、「複数の外国語を学修することで、様々な言語や文化、多様な地域・社会に関する構造的かつ体系的な知識や情報を収集し、世界の多様性への深い理解を涵養する」こととしている。

このような、異文化コミュニケーション学科が組織として教育研究対象とする中心的な学問分野と異文化コミュニケーション学科における養成する人材などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称とすることから、学科名称を「異文化コミュニケーション学科」、学位を「学士（言語文化）」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえたうえで、学科の英訳名称を「Department of Intercultural Communication」、学位の英訳名称を「Bachelor of Arts in Language and Culture Studies」とすることとした。

学科の名称 異文化コミュニケーション学科  
「Department of Intercultural Communication」  
学位の名称 学士（言語文化）  
「Bachelor of Arts in Language and Culture Studies」

## Ⅰ 教育課程の編成の考え方及び特色

### 1 教育課程の編成方針

国際コミュニケーション学部では、高等教育の大衆化の進行と生涯学習への移行を

踏まえつつ、学部段階の専門教育では特定分野における完成教育というよりも、生涯学び続ける基礎を培うより普遍的な教育が求められていることから、専門分野の基礎・基本を重視した教育を行うことにより、専門的素養のある人材として活躍できる基礎的能力や生涯学習の基礎等を培うこととする。

具体的には、国際コミュニケーション学部では、学部段階における専門教育は、基礎・基本を重視しつつ、関連諸科学との関係を教えることなどを通じて、学生が主体的に課題を探索し解決するための基礎となる能力を育成するとともに、学部卒業後、社会人として就業し、成長していく過程において、実務等を通じて、新たな知識や能力を体得していくための資質や能力を育成するための基礎教育を重視する。

特に、「専門科目」では、4年間の学修期間内において教育研究上の目的や人材養成の目的等を確実に達成するとともに、学部基礎教育の重要性を踏まえたうえで、教育課程が過密とならないように配慮することから、教育内容を精選し、人材養成の目的や学位授与の方針を達成するために必要な授業科目について、優先順位を踏まえた配置とすることにより、単位制度の実質化による学修時間を確保することでの質の確保を目指すこととする。

## 2 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成・実施の方針

### (1) 日本語学科

日本語学科では、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針との一体性と整合性に留意しつつ、卒業までに学生が身につけるべき資質や能力を修得するための教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を次のとおり定めることとする。

#### 1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

- ①日本語の音声、音韻・表記、文法、語彙・意味、語用論等の各分野、時間的変異、空間的変異、社会的変異、及び、他言語、文化などに関する知識や能力を身につける科目を配置する。
- ②言語学的視点に立った日本語の高い運用能力や、客観的な視点から情報を統合して分析する能力、国際化社会の中での情報発信を行うための適切な方法を身につける科目を配置する。
- ③日本語の言語教育（国語教育・日本語教育等）の分野だけでなく、日本語を必要とする様々な領域に還元する能力を身につける科目を配置する。

#### 2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

- ①学説や物事などの意味や内容の理解を目的とする教育内容は、講義形式による授

業形態を採ることとし、知識や技能を実践に応用する能力の習得を目的とする教育内容は、演習形式及び実践形式による授業形態を採る。

- ②学生の能動的な学修への参加を促すことから、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等をはじめとする教授方法を取り入れることによる能動的学修を導入する。
- ③教育課程編成・実施の方針が、教育研究上の目的や人材養成の目的を達成するという目的のもと策定され、かつ、教育課程の編成において体系的と順次性が明確であることを示すために、授業科目の系統性を示す科目ナンバリングを導入する。
- ④単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避けるとともに、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した典型的な履修モデルを提示するとともにCAP制の意義を踏まえ履修登録単位数の上限を明示する。
- ⑤卒業時における質を確保する観点から、予め学生に対して各授業科目における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を示し、これに基づく厳格な評価を行う。

## (2) 異文化コミュニケーション学科

異文化コミュニケーション学科では、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針との一体性と整合性に留意しつつ、卒業までに学生が身につけるべき資質や能力を修得するための教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を次のとおり定めることとする。

### 1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

- ①様々な言語・文化と多様なコミュニケーションへの知識と理解に基づいて、異文化や他者への関心と共感を深め、自己と国際社会への複眼的な視点を身につける科目を配置する。
- ②様々な言語や文化への理解や、多様な地域・社会に関する構造的かつ体系的な分析能力を身につける科目を配置する。
- ③日本語に加えて複数の外国語の運用能力、そのうちの一つについての高度な運用能力、複数の言語と多様な文化への幅広い知識を土台として、現代社会の諸問題を国際的な視点から捉え、自らが立てた課題にそれらを適用し解決する能力を身につける科目を配置する。

### 2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

- ①学説や物事などの意味や内容の理解を目的とする教育内容は、講義形式による授業形態を採ることとし、知識や技能を実践に応用する能力の習得を目的とする教育内容は、演習形式及び実践形式による授業形態を採る。
- ②学生の能動的な学修への参加を促すことから、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等をはじめとする教授方法を取り入れることによる能動的学修を導入する。
- ③教育課程編成・実施の方針が、教育研究上の目的や人材養成の目的を達成するという目的のもと策定され、かつ、教育課程の編成において体系性と順次性が明確であることを示すために、授業科目の系統性を示す科目ナンバリングを導入する。
- ④単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避けるとともに、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した典型的な履修モデルを提示するとともにCAP制の意義を踏まえ履修登録単位数の上限を明示する。
- ⑤卒業時における質を確保する観点から、予め学生に対して各授業科目における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を示し、これに基づく厳格な評価を行う。

### 3 教育課程の編成の考え方

#### (1) 日本語学科

日本語学科では、教育研究の目的及び人材養成の目的を達成するために、教育課程を「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の四つの科目群で構成することとし、教育課程全体の体系性・順次性を確保し、かつ教養教育と専門教育の有機的連携を図ることとする。

「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」では、中央教育審議会答申などで指摘されている重要性や意義を踏まえるとともに、養成しようとする知識や能力を明確にしたうえで、具体的な教育目標を立て、その教育目標に対応する科目群から編成している。これらの科目群について、「転換・導入科目」は、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点をもつための基礎となる内容を学ぶとともに、大学で学ぶときだけでなく、生涯学ぼうえて社会においても必要とされる基礎的な力を身につけることとしている。「教養科目」及び「外国語科目」は、学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることで、多面的なものの見方の基礎を養成することとしている。

「専門科目」では、基礎・基本を重視し、専門の骨格を正確に把握させるとともに、

科目間の関係や履修の順序、単位数等に配慮し、系統性と順次性のある教育課程の編成としている。これにより、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や、主体的に問題の解決に取り組む能力を身につけることとしている。

### 1) 転換・導入科目

「転換・導入科目」は、「専修大学入門科目」、「専門入門ゼミナール」、「キャリア基礎科目」、「基礎自然科学」によって構成している。

「専修大学入門科目」は、専修大学の入門・基礎科目として位置づけ、社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につけることから、1科目2単位を配置する。

また、「専門入門ゼミナール」、「キャリア基礎科目」、「基礎自然科学」では、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点をもつための基礎となる内容を学修すると同時に、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につけることから、3科目6単位を配置する。

### 2) 教養科目

「教養科目」は、「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」、「融合領域科目」、「保健体育系科目」で構成している。各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることを目的としている。「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」では、特に、文化・歴史・社会、自然など幅広い教養を身につけることを目的にしている。また、「融合領域科目」は、基礎的な知識や技能を背景として、専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力の涵養を目指すものである。「保健体育系科目」は、自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず、自己管理能力やチームワークなども養成する目的を有している。これらの科目は、学部・学科を超えた普遍性を基本理念とし、多面的なものの見方の基礎を養成することから、87科目182単位を配置する。

### 3) 外国語科目

「外国語科目」は、英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行うことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的としている。英語のうち、1年次に履修する、外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力の

養成を目的とした科目は、入学時に行うプレイスメントテストに基づいた習熟度別の少人数クラスを編成し、レベル別の授業とすることで、能力の向上を目指している。英語以外の外国語については、多くの学生が初めて学習する科目であることを踏まえ、初級・中級・上級とそれぞれの学習段階での到達目標を明確にしたレベル別の授業としている。また、異文化・多文化への理解を深めるために、講義形式で世界の諸地域の言語とその背景となる文化を学ぶ科目を含めて、181科目 263単位を配置する。

#### 4) 専門科目

「専門科目」は、「基礎科目」、「基幹科目」、「発展科目」、「応用科目」、「関連科目」の五つの科目群で編成することとしており、4年間の体系的な科目履修を通して、知識と能力を身につけることが可能となるよう配慮し、基礎から基幹、基幹から発展、発展から応用へと展開させるための教育課程の編成としている。

##### ① 基礎科目

「基礎科目」は、日本語や日本文化を学ぶ目的や、日本語学の学問体系について理解するとともに、日本語情報処理、日本語学と社会との接点、言語学、異文化理解の基礎を学修するための科目として、6科目 12単位を必修科目として配置し、6科目 12単位を選択科目として配置する。

##### ② 基幹科目

「基幹科目」は、「基礎科目」の理解のうえに、日本語学の諸分野に関する基礎的な知識を理解するとともに、日本語の時間的変異、空間的変異、社会的変異及び日本語教育や日本語統計・情報処理に関する基礎を学修するための科目として、2科目 4単位を必修科目として配置し、25科目 50単位を選択科目として配置する。

##### ③ 発展科目

「発展科目」は、「基幹科目」の理解のうえに、日本語学の諸分野に関する知識をより深く理解するとともに、日本語学、言語学の諸分野に関する知識の理解、日本語教育、言語教育の実践しながらの理解及び日本の言語政策の歴史について学修するための科目として、2科目 4単位を必修科目として配置し、14科目 30単位を選択科目として配置する。

##### ④ 応用科目

「応用科目」は、日本語教育に関する実践的な能力及び日本語学の応用分野に関する実践的な能力を修得するとともに、学生が特定のテーマについて自主的に研究、発表、報告、討論を行うための科目として、3科目 12単位を必修科目として配置し、3科目 7単位を選択科目として配置する。

##### ⑤ 関連科目

「関連科目」は、日本語学に関連のある日本文学・中国文学・書道及び海外の文化や地域研究等に関する科目として、30科目60単位を選択科目として配置する。

## (2) 異文化コミュニケーション学科

異文化コミュニケーション学科では、教育研究の目的及び人材養成の目的を達成するために、教育課程を「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の四つの科目群から構成することとし、教育課程全体の体系性・順次性を確保し、かつ教養教育と専門教育の有機的連携を図ることとする。

「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」では、中央教育審議会答申などで指摘されている重要性や意義を踏まえるとともに、養成しようとする知識や能力を明確にしたうえで、具体的な教育目標を立て、その教育目標に対応する科目群から編成することとしている。異文化コミュニケーション学科では、外国語教育を「専門科目」のなかに位置づけているが、「外国語科目」に配置する科目群は、より多様な言語を基礎・基本から学修する機会を広げることを目的として配置している。

「専門科目」では、基礎・基本を重視し、専門の骨格を正確に把握させるとともに、科目間の関係や履修の順序、単位数等に配慮し、系統性と順次性のある教育課程の編成としている。

### 1) 転換・導入科目

「転換・導入科目」は、「専修大学入門科目」、「データリテラシー」、「キャリア基礎科目」、「情報リテラシー科目」、「基礎自然科学」によって構成している。

「専修大学入門科目」は、専修大学の入門・基礎科目として位置づけ、社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につけることから、1科目2単位を配置する。

また、「データリテラシー」、「キャリア基礎科目」、「情報リテラシー科目」、「基礎自然科学」では、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点をもつための基礎となる内容を学修すると同時に、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につけることから、5科目10単位を配置する。

### 2) 教養科目

「教養科目」は、「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」、「融合領域科目」、「保健体育系科目」で構成している。各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題



にアプローチすることを目的としている。「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」では、特に、文化・歴史・社会、自然など幅広い教養を身につけることを目的にしている。また、「融合領域科目」は、基礎的な知識や技能を背景として、専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力の涵養を目指すものである。「保健体育系科目」は、自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず、自己管理能力やチームワークなども養成する目的を有している。これらの科目は、学部・学科を超えた普遍性を基本理念とし、多面的なものの見方の基礎を養成することから、88科目 184単位を配置する。

### 3) 外国語科目

「外国語科目」は、英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行うことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることから、86科目 150単位を配置する。

### 4) 専門科目

「専門科目」は、「基礎科目」、「基幹科目」、「発展科目」、「応用科目」、「関連科目」の科目群から編成することとしており、4年間の体系的な科目履修を通して、知識と能力を身につけることが可能となるよう配慮し、基礎から基幹、基幹から発展、発展から応用へと展開させるための教育課程の編成としている。

#### ① 基礎科目

「基礎科目」は、思考と表現の土台となる日本語と日本文化に対する理解を深め、異文化理解の基礎を学修するとともに、国際的な社会知性の涵養に欠かせない外国語の運用能力を修得するための科目として、7科目 9単位を必修科目として配置し、44科目 45単位を選択科目として配置する。

#### ② 基幹科目

「基幹科目」は、「基礎科目」で学修した外国語の運用能力を実践の場において高め、複眼的な視点に立った文化への関心と理解や多様なコミュニケーション能力を養うとともに、「発展科目」における学修の基礎となる科目として、6科目 18単位を必修科目として配置し、52科目 104単位を選択科目として配置する。

#### ③ 発展科目

「発展科目」は、世界の多様性を学究的な領域で深め、発展させるとともに、社会の多様性に対応し、問題を自ら設定し、その解決に向けて主体的な判断を提示できるだけの国際的な社会知性を開発するための科目として、15科目 30単位を選択科目として配置する。

#### ④ 応用科目

「応用科目」は、「基幹科目」及び「発展科目」の学修内容をさらに深め、これまで学修した知識や理解をベースとしながら、社会の多様性に意欲的に対応すると共に、論理的な思考に基づいて自らの考えを表現できるようにするための科目として、18科目 36単位を選択科目として配置する。

#### ⑤ 関連科目

「関連科目」は、「発展科目」と「応用科目」を連動させ、学際的かつ実践的な学修に結び付けるとともに、多様な言語による表現などの幅広い学修の機会を設ける科目として、19科目 38単位を選択科目として配置する。

### オ 教員組織の編成の考え方及び特色

#### (1) 日本語学科

日本語学科は、既設の文学部の日本語学科における教育研究実績を基盤とする新たな教育研究の展開を目指すことから、既存の教員組織を最大限に活用しつつ、学部教育における教育成果をより一層発揮することが可能となる教員組織の編成とするとともに、教育研究上の目的及び養成する人材並びに教育課程編成の考え方を踏まえたうえで、これらの目的を達成することが可能となる教員組織の編成としている。

具体的には、日本語学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「文学分野」としていることから、教員組織の編成においては、「文学分野」を専門とする専任教員を中心とした教員組織としているとともに、教育上主要と認める授業科目を中心として、当該専門分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する教授6人及び准教授1人を配置する計画としている。

また、日本語学科の教員組織の年齢構成については、40歳代2人、50歳代3人、60歳代2人から構成することとしており、特定の年齢層に偏ることのないよう計画しているとともに、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障がない教員組織の編成となるように配慮している。

なお、日本語学科の教員組織の編成においては、本学における教育研究以外の業務に従事する専任教員の配置はしないこととしており、また、完成年度までに定年に達する専任教員の配置もしないこととしている。【資料4】

#### (2) 異文化コミュニケーション学科

異文化コミュニケーション学科は、既設の文学部における教育研究実績を基盤とする新たな教育研究の展開を目指すことから、既存の教員組織を最大限に活用しつつ、学部教育における教育成果をより一層発揮することが可能となる教員組織の編成と

するとともに、教育研究上の目的及び養成する人材並びに教育課程編成の考え方を踏まえたうえで、これらの目的を達成することが可能となる教員組織の編成としている。

具体的には、異文化コミュニケーション学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「文学分野」としていることから、教員組織の編成においては、「文学分野」を専門とする専任教員を中心とした教員組織としているとともに、教育上主要と認める授業科目を中心として、当該専門分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する教授 16 人及び准教授 8 人、講師 1 人を配置する計画としている。

また、異文化コミュニケーション学科の教員組織の年齢構成については、30 歳代 2 人、40 歳代 4 人、50 歳代 12 人、60 歳代 7 人から構成することとしており、特定の年齢層に偏ることのないよう計画しているとともに、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障がない教員組織の編成となるように配慮している。

なお、異文化コミュニケーション学科の教員組織の編成においては、本学における教育研究以外の業務に従事する専任教員の配置はしないこととしている。また、完成年度までに定年に達する専任教員については、定年後の任用はしないこととしている。

#### 【資料 4】

## カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

### 1 教育方法

#### (1) 授業の方法

授業方法は、知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技術や技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式及び実験形式や実習形式による授業形態を採ることとしている。

#### (2) 学生数の設定

授業の内容に応じた学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に即した教育目的を効果的かつ確実に達成するために、講義形式は、原則として最大でも 200 人程度とする。演習形式は、原則として最大でも 20 人程度とする。実験形式及び実習形式は、原則として 10 人程度とする。

#### (3) 配当年次

配当年次は、基礎から基幹へと体系的な学習が可能となるようにするとともに、特に、専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識、技能、応用といっ

た授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意するとともに、単位制度の4年間における制度設計の観点を踏まえて、特定の学年や学期において偏りのある履修登録がなされないように配慮した配当としている。

#### (4) 履修科目の登録上限

単位制度の実質化の観点を踏まえ、学生の主体的な学習を促し、教室における授業と教室外の学習を合わせた充実した授業を展開することにより学習効果を高めるために、履修登録単位数の上限を設けている。

日本語学科の履修登録単位数の上限は、1年次から3年次までは44単位とし、4年次は48単位とする。

異文化コミュニケーション学科の履修登録単位数の上限は、1年次は44単位、2年次は40単位、3年次は44単位、4年次は48単位とする。

#### (5) 厳格なる成績評価

卒業時における学生の質を確保する観点から、予め学生に対して各授業における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これに基づき厳格な評価を行う。それとともに、客観的な評価基準を適用することから、厳格な成績評価の方法として、GPA制度を活用する。

## 2 履修指導方法

履修指導方法は、授業を受ける学生に対して、教員が相談に応じる専用の時間を設けることにより、きめ細やかな教育指導を行う体制を整えるとともに、学期ごとに学年別の履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適性或能力に応じて学生の履修科目の選択に関する助言を行う専門的な職員を配置し、個別の履修相談に応じるなど、学生の履修指導体制を整備する。

また、専門科目では、専門分野の学問体系と学習段階に即した授業科目を配置しており、学部教育段階では、基礎的な専門知識や技能を確実に修得させることに重点を置くことが重要であることを踏まえたうえで、単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避け、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した典型的な履修モデルを提示する。【資料5】

## 3 卒業要件

### (1) 日本語学科

日本語学科の卒業要件は、学部に4年以上在学し、体系的な授業科目の履修により、124単位以上を修得することとし、「転換・導入科目」から2単位以上、「教養科目」から10単位以上、「外国語科目」から8単位以上を修得する。また、「専門科目」の「基礎科目」から必修科目12単位を含む16単位以上、「基幹科目」から必修科目4単位を含む32単位以上、「発展科目」から必修科目4単位を含む12単位以上、「応用科目」から必修科目12単位を修得する。

### (2) 異文化コミュニケーション学科

異文化コミュニケーション学科の卒業要件は、学部に4年以上在学し、体系的な授業科目の履修により、124単位以上を修得することとし、「教養科目」から10単位以上を修得するとともに、「専門科目」の「基礎科目」から必修科目9単位を含む14単位以上、「基幹科目」から必修科目18単位を含む48単位以上、「発展科目」から12単位以上、「応用科目」及び「関連科目」から14単位以上を修得する。

## キ 施設、設備等の整備計画

### 1 校地、運動場の整備計画

本学は学部別地の2キャンパス制であり、経済学部、経営学部、文学部、ネットワーク情報学部、人間科学部を設置する生田キャンパスは、神奈川県川崎市多摩区東三田に位置し、豊かな自然に囲まれた生田緑地に最新の学術・研究施設を誇るキャンパスとして、現在、157,369.14㎡の校地面積を有しており、その内訳は、校舎敷地面積が116,973.92㎡、運動場面積が40,327.42㎡となっている。

運動用設備としては、温水プール、フェンシング場、ランニングギャラリー、アリーナ、柔道場、卓球場、トレーニング室を備える総合体育館の他、第1・第2体育館、ゴルフ練習場、アーチェリー場、多目的グラウンド(人工芝)、テニスコート、等を備えているとともに、敷地内の空地を利用して、学生が休息するための十分な場所を確保することで、大学教育に相応しいキャンパス環境を整えている。

また、国際コミュニケーション学部のほかに法学部、商学部を設置する神田キャンパスは、東京都千代田区神田神保町に位置し、交通の利便性が高い東京都心に最新の学術・研究施設を誇るキャンパスとして、現在、11,032.27㎡の校地面積を有しており、運動用設備としては、体育室1・2・3を備えているとともに、敷地内の空地を利用して、学生が休息するための十分な場所を確保することで、大学教育に相応しいキャンパス環境を整えている。

## 2 校舎等施設の整備計画

国際コミュニケーション学部を設置する神田キャンパスでは、現在建設中の新校舎を含め、7棟の校舎等施設を有しており、その総面積は58,218.07㎡で、学部教育に必要な主要な教室等の内訳としては、講義室68室、演習室31室、実験・実習室3室、情報処理学習施設7室、語学学習施設3室の他、教員研究室、非常勤講師室、図書館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂などを整備している。

国際コミュニケーション学部は、既設の文学部の日本語学科及び法学部二部の法律学科、商学部二部のマーケティング学科の入学定員の一部を移行して設置することとしており、大学全体の収容定員の変更を伴わない計画としていることから、現有の校舎7棟(58,218.07㎡)を有効的に利用する計画としている。

また、国際コミュニケーション学部では、専任教員32人を配置することとしているが、国際コミュニケーション学部の専任教員は、いずれも既設の文学部の日本語学科及び人文・ジャーナリズム学科、英語英米文学科からの異動に加えて、教養教育の専任教員を配置する計画としており、異動する専任教員の個人研究室32室については、既に整備がなされている。

設備については、現在、保有している機械・器具9,202点を有効的に利用することとしている。

## 3 図書館の資料及び図書館の整備計画

### (1) 図書等の資料

神田キャンパスの図書館は、専修大学図書館神田分館(神田分館)が整備されている。神田分館の蔵書数は図書約469,700冊(うち外国書約174,700冊)、所蔵雑誌種数約5,100誌(うち外国書約2,100誌)、視聴覚資料約1,500点などが整備されている。また、法科大学院分館(蔵書数約23,000冊)もある。

生田キャンパスには、専修大学図書館(本館)と生田分館が整備されている。本館の蔵書数は図書約1,199,000冊(うち外国書約434,000冊)、所蔵雑誌種数約17,000誌(うち外国書約6,400誌)、視聴覚資料約16,000点などが整備されている。生田分館の蔵書数は図書約89,000冊(うち外国書450冊)である。これらの図書および雑誌等の資料は学内やインターネット経由のOPAC(オンライン蔵書検索システム)で検索することが可能であるとともに、生田・神田両キャンパスの資料は相互利用ができるので、学生にとっては約180万点の資料が利用可能である。

本学部関連分野の資料に関して、現在整備されている主な学術雑誌等は【資料6】のとおりである。このほか、次のとおり電子資料も整備している。電子ジャーナルは、

単体での購入のほかにパッケージとして「SpringerLink」、「Science Direct」などを購入している。オンライン・データベースは、「日経 BP 記事索引サービス」、「東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー」、「経葉デジタルライブラリー」、「EBSCOhost Academic Search Complete」、「JSTOR Arts & Sciences I & III」、「韓国学会電子ジャーナル KISS (B 分野人文社会学系)」、「日経テレコン」、「聞蔵 II シリーズ」、「ヨミダス歴史館」、「毎索」、「ジャパンナレッジ Lib」、「Lexis Advance」などを、電子ブックは「Maruzen eBook Library」や「Gale Virtual Reference Library」から約 3,500 冊を提供している。

## (2) 図書館の整備計画

専修大学神田分館は、資料収容規模約 245,000 冊、閲覧席は約 370 席が整備されている。このほか、2020 年 4 月には「紙と電子を組み合わせた勉学環境を提供できるハイブリッド型図書館」のコンセプトで、靖国通り沿いに建設中の新校舎の 13 階と 14 階のスペースに、資料収容規模約 40,000 冊、座席数約 180 席の図書館が開館する予定である。新図書館の図書には I C タグを貼付して管理することで利用頻度の高い資料を配架し、適切な学習環境を維持する。

電子ジャーナルやオンライン・データベースなどの電子資料は図書館ホームページに展開している「データベースリンク集」、「電子ジャーナル・電子ブック」から、容易にアクセスすることができる。学外からの接続については既存の VPN 接続機能に加え、平成 30 年度から学術認証フェデレーション「学認 (GakuNin)」の提供も開始し、より簡易かつ安全に外部から接続できる環境を整えた。

学生用の図書に関しては、教員ならびに図書館職員が学修・教養等に必要な図書を選書し、あわせてシラバス掲載図書や、授業に関して教員が推薦した「教員推薦図書」の購入を行なっている。学生からの購入希望の申し込みも積極的に受け付けており、OPAC 画面からのリクエスト受付も可能となっている。本学部関連図書は今後とも継続して収集していく。

図書館の開館状況について、授業期間中の神田分館の開館時間は 9 時から 22 時で、年間開館日数は 284 日（平成 29 年度）である。

図書については、ほとんどすべてが開架式となっている。これらの図書資料は日本十進分類法により分類、配架されているため、教員・学生は、関連分野ごとに図書資料そのものを一覽し、直接手に取ることができる。

レファレンスについては、現在、神田分館において平日の 13 時半から 16 時半まで対応できる体制となっているが、2020 年からは平日の 9 時から 17 時、土曜日は 9 時から 12 時にサービス提供時間を拡大することを検討している。他機関との相互協力

という点では、OPAC での CiNii Books、CiNii Articles、国立国会図書館サーチ等の横断検索機能による他機関の所蔵状況表示と、それに伴う文献複写や現物貸借、国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の利用などを実施している。

本学では、上述のように図書館施設・サービスの充実に努めており、本学部の研究・学修に関して、十分な環境を整備している。

## ク 入学者選抜の概要

### 1 日本語学科

#### (1) 受入方針

日本語学科では、「日本語学の各分野についての体系的な知識及び他言語、文化、歴史、社会、自然などについて幅広い教養を身につけ、国際化社会の中で、客観的分析力をもって、日本語を必要とする様々な領域に貢献するための能力を修得させる」ことから、日本語学に対する興味と関心や学習意欲を有しており、学部教育を受けるために必要となる基礎的な学力として、高等学校の主要科目における教科書レベルの知識を有している者を受け入れることとする。

#### (2) 選抜方法

選抜方法は、指定校制推薦入学試験、スポーツ推薦入学試験、帰国生入学試験、外国人留学生入学試験、付属高等学校推薦入学試験、教育交流提携校推薦入学試験、大学入試センター試験利用入学試験、一般入学試験によることとしている。

指定校制推薦入学試験と教育交流提携校推薦入学試験は書類審査により選考を行うこととしている。スポーツ推薦入学試験は書類審査、作文、面接試験により選考を行うこととしている。帰国生入学試験は書類審査、小論文、面接試験により選考を行うこととしている。外国人留学生入学試験は、日本留学試験のスコアを活用しながら、書類審査、小論文、面接試験により選考を行うこととしている。付属高等学校推薦入学試験は書類審査と作文により選考を行うこととしている。大学入試センター試験利用入学試験は、大学入試センター試験の結果により選考を行うこととしている。一般入学試験は、筆記試験により選考を行うこととしている。

#### (3) 判定方法

日本語学科の入学者の受入方針に対する入学者選抜における判定方法については、「日本語学に対する興味と関心や学習意欲を有している」ことについては、面接試験又は書類審査により判定し、「高等学校の主要科目における教科書レベルの知識を有している」ことについては、書類審査又は筆記試験により判定することとしている。



なお、日本語学科の各選抜方法の募集定員については、指定校制推薦入学試験、帰国生入学試験、スポーツ推薦入学試験、外国人留学生入学試験、付属高等学校推薦入学試験、教育交流提携校推薦入学試験 計 22 人、大学入試センター試験利用入学試験、一般入学試験 計 49 人とする。

## 2 異文化コミュニケーション学科

### (1) 受入方針

異文化コミュニケーション学科では、「複数の外国語を学修することで、様々な言語や文化、多様な地域・社会に関する構造的かつ体系的な知識や情報を収集し、世界の多様性への深い理解を涵養する」ことから、言語文化に対する興味と関心や学習意欲を有しており、学部教育を受けるために必要となる基礎的な学力として、高等学校の主要科目における教科書レベルの知識を有している者を受け入れることとする。

### (2) 選抜方法

選抜方法は、指定校制推薦入学試験、スポーツ推薦入学試験、帰国生入学試験、外国人留学生入学試験、AO入学試験、付属高等学校推薦入学試験、教育交流提携校推薦入学試験、大学入試センター試験利用入学試験、一般入学試験によることとしている。

指定校制推薦入学試験と教育交流提携校推薦入学試験は書類審査により選考を行うこととしている。スポーツ推薦入学試験は書類審査、作文、面接試験により選考を行うこととしている。帰国生入学試験は、書類審査、小論文、面接試験により選考を行うこととしている。AO入学試験は、書類審査、事前課題、小論文、面接試験により選考を行うこととしている。外国人留学生入学試験は、日本留学試験のスコアを活用しながら、書類審査、小論文、面接試験により選考を行うこととしている。付属高等学校推薦入学試験は書類審査と作文により選考を行うこととしている。大学入試センター試験利用入学試験は、大学入試センター試験の結果により選考を行うこととしている。一般入学試験は、筆記試験により選考を行うこととしている。

### (3) 判定方法

異文化コミュニケーション学科の入学者の受入方針に対する入学者選抜における判定方法については、「言語文化に対する興味と関心や学習意欲を有している」ことについては、面接試験又は書類審査により判定し、「高等学校の主要科目における教科書レベルの知識を有している」ことについては、書類審査又は筆記試験により判定することとしている。

なお、異文化コミュニケーション学科の各選抜方法の募集定員については、指定校制推薦入学試験、スポーツ推薦入学試験、AO入学試験、帰国生入学試験、外国人留学生入学試験、付属高等学校推薦入学試験、教育交流提携校推薦入学試験 計 53 人、大学入試センター試験利用入学試験、一般入学試験 計 97 人とする。

## ケ 取得可能な資格

### 1 日本語学科

日本語の卒業要件単位に含まれる科目のほか、資格関連科目を履修することによって、下記の資格を取得することが可能。これらの資格取得は、卒業要件ではない。

区分	名称
国家資格	中学校教諭一種免許状（国語）
	高等学校教諭一種免許状（国語）
国家資格	司書
国家資格	司書教諭
国家資格	学芸員

### 2 異文化コミュニケーション学科

該当なし。

## コ 海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

### 1 日本語学科【資料7】

#### (1) 日本語教育実習

日本語学科では、日本語教育について学んだ知識と経験を生かし、日本語を母語としない学習者に日本語を教える際の実践力を身につけるために、「日本語教育実習A」、「日本語教育実習B」、「日本語教育実習C」を実施する。

「日本語教育実習A」は、通年の授業の受講に加えて、国内の日本語学校において、日本語教師になるための教壇実習等を行い、成績評価を行ったうえで、4単位を認定する。

「日本語教育実習B」は、通年の授業の受講に加えて、海外（アジア）の協定校で日本語教師になるための教壇実習等を行い、成績評価を行ったうえで、4単位を認定する。

「日本語教育実習C」は、事前講習（定時外）を行った後、海外（北米）の協定校で日本語教師になるための教壇実習等及び英語圏での日本語教師に求められる語

学の研修（英語研修）を行い、成績評価を行ったうえで、次年度に2単位を認定する。

#### ①実習先の確保の状況

- ・国内は、学校法人経営の日本語学校に依頼して実施する。
- ・海外は、本学の国際交流協定校において実施する。

#### ②実習先との連携体制

- ・実習先は、本学の国際交流協定校及び本学教員と教育研究上の交流のある大学、日本語学校等である。
- ・実習先との間では、文書を交わし、実習の実施に当たって必要な事項を事前に取り決めることとしている。
- ・実習の実施に当たっては、事前に、本学の担当教員と実習先の担当者との間で、プログラム内容、スケジュール、成績評価のための根拠資料について詳細な取り決めを行うこととしている。
- ・本学の担当教員と実習先の担当者との間で連絡体制を確立し、実習期間前から後にかけてのトラブルに対応できるように連携をはかることとしている。
- ・学生の引率として本学教職員が帯同する際、プログラムの点検やカリキュラム内容に関する打合せを現地担当者で行うこととしている。

#### ③成績評価体制及び単位認定方法

- ・「日本語教育実習A」、「日本語教育実習B」の実習への参加は、それぞれ、通年の授業科目「日本語教育実習A」、「日本語教育実習B」の履修・出席を条件としている。
- ・「日本語教育実習C」の実習への参加は、事前に定時外で行う事前研修を受講することを条件としている。
- ・成績評価は、実習先の担当者から提出される成績評価のための根拠資料に基づき学修の程度を測定し、通年の授業における成績評価と合わせて、本学の担当教員が総合的に評価し、単位を認定する。

#### ④その他特記事項

- ・学生は学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険に加入し、実習中の不慮の事故等に備える体制をとっている。

### (2)「日本語学応用実習」

日本語学科では、学生が学んできた日本語学の専門知識の有用性を実体験し、学修意欲向上をはかることを目的として「日本語学応用実習」を設置する。

学生が一つまたは複数の「プログラム」に参加することで、合計30時間以上の実

習・見学を行った場合に、成績を評価した上で、次年度に「日本語学応用実習」の1単位を認定することとしている。

「日本語学応用実習」用のプログラムは、国内・海外合わせてA～Dの4種を用意することとし、学生が任意に1種または2種のプログラムに参加する。

- ・プログラムAでは、日本国内における日本語学研究の実際と応用の現場を体験的に理解するために、合せて30時間の実習・見学を行う。
- ・プログラムBでは、日本国内での日本語教育の現状と取り組みを体験的に理解するために、15時間の実習・見学を行う。
- ・プログラムCでは、海外での日本語学研究の実際を理解するために、海外において60時間の実習・見学を行う。
- ・プログラムDでは、海外での日本語教育の現状と取り組みを体験的に理解するとともに、海外の多言語社会の現状を体験的に知るために、30時間の実習・見学を行う。

#### ①実習先の確保の状況

- ・国内の学術研究機関、放送局の研究施設、日本語学校、海外の大学の協力を得て実施することとしている。

#### ②実習先との連携体制

- ・実習先との間では、協定書を締結し、実習の実施に当たって必要な事項を事前に取り決めることとしている。
- ・実習の実施に当たっては、事前に、本学の担当教員と実習先の担当者との間で、プログラム内容、スケジュール、成績評価の根拠資料について詳細な取り決めを行うこととしている。
- ・本学の担当教員と実習先の担当者との間で連絡体制を確立し、実習期間前から後にかけてのトラブルに対応できるように連携をはかることとしている。

#### ③成績評価体制及び単位認定方法

- ・実習への参加は、事前に定時外で行う事前研修を受講することを条件としている。
- ・成績評価は、実習先のプログラムの担当者から提出される成績評価のための根拠資料に基づき学修の程度を測定し、本学の担当教員が総合的に評価する。
- ・単位認定は、1プログラムまたは2プログラムに参加することで、30時間以上の実習を行った学生に、1単位認定する。

#### ④その他特記事項

- ・学生は学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険に加入し、実習中の不慮の事故等に備える体制をとっている。

## 2 異文化コミュニケーション学科【資料8】

### 海外研修科目

異文化コミュニケーション学科では、基礎科目で学修した外国語の運用能力を実践の場において高めるために、半期の留学による「海外研修科目」(8科目)を2年次前期に設定している。

#### ①研修先の確保の状況

- ・英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語について、それぞれ研修先を複数確保している。

#### ②研修先との連携体制

- ・研修先は本学が認めた大学ないし語学教育機関である。
- ・研修先とは、派遣の実施に当たって必要な事項を事前に取り決め、確認することとしている。
- ・研修の実施に当たっては、本学の担当教員と研修先の担当者との間で、プログラム内容、スケジュール、成績評価のための根拠資料について取り決めを行うこととしている。
- ・本学の担当教員と研修先の担当者との間の連絡体制を確立し、研修期間前から後にかけてのトラブルに対応できるように連携を図ることとしている。
- ・打ち合わせとして本学教職員が派遣先に行く際、あるいは派遣先から関係者が日本に来る際には、プログラムの点検やカリキュラム内容に関する打ち合わせを現地担当者で行うこととしている。

#### ③成績評価及び単位認定方法

- ・海外研修はそれぞれ「リーディング」、「リスニング」、「ライティング」、「スピーキング」の外国語運用のための四技能を伸ばす科目と、それらを生かした「リサーチ」、「プレゼンテーション」、「ディスカッション」の技術を磨く科目、さらに異文化と接する際に必要な総合的な「異文化理解」の力を身につける科目に分かれ、研修先の担当者との打ち合わせに応じ、それぞれの能力について成績の評価を行い、単位を認定する。
- ・研修先では、16単位の認定に必要な学修時間として、240時間の授業と予習・復習を合わせた最低720時間の学修を確実に行うことができる体制を確保する。
- ・成績評価は、研修先の担当者から提出される成績評価のための根拠資料に基づき学修の程度を測定し、本学の担当教員が総合的に評価し、2単位8科目、計16単位を認定する。

#### ④その他特記事項

- ・留学に先立って履修する科目のうち、「異文化理解の実践」は留学前の実践的コ

コミュニケーション学修として位置づけ、1年次に配置する。留学先に合わせ、英語及び英語以外の外国語でそれぞれ1年次後期に実践的言語運用科目を3科目設置し、留学の準備段階の語学力の一層の充実を図る。特に、英語では、この3科目はネイティブ・スピーカーによる授業とし、留学時の「海外研修科目」の学修に対応できるだけの実践的な運用力の涵養を図る。

- ・1年次から担当する「基幹科目」における学修の基礎となる科目として「世界の文化を知る」、「文化研究の視点」、「ことば・身体・映像」を設定することで、複眼的な視点に立った文化への関心と理解、多様なコミュニケーション能力を養うこととしている。
- ・留学から帰国後は、外国語運用能力を維持・発展させるための科目を設置することとしている。また、2年次後期に設置した「異文化交流ワークショップ」において、海外研修科目で得た成果を可視化するとともに、これを海外研修科目と深く関連づけることで、2年次後半以降の学修に接続させることとしている。
- ・カリキュラム上の科目による学修のほか、留学先での研修と生活が円滑かつ安全に行われるように、事前研修を放課後及び授業の実施されない日程で行う。担当者による講義・講演のほか、留学先で学生が自主的な学びを実践できるように、「海外研修」の8科目（リーディング・ライティング・リスニング・スピーキング・リサーチ・プレゼンテーション・ディスカッション・異文化理解）を網羅した課題設定をもとに、アクティブ・ラーニング型の異文化関連の資料読解、解説とディスカッション、関連項目のリサーチを経たうえでのプレゼンテーションとその原稿ライティングの指導を複数回実施する。
- ・帰国後には、「海外研修」のまとめの性格を持たせた事後研修を、放課後及び授業の実際されない日程に設定をする。「海外研修」の成果を発展させるために、「海外研修」8科目を網羅したプレゼンテーションの準備と実施を複数回に分けて指導する。また、逆カルチャー・ショックの対策を講じる機会も設ける。
- ・学生の留学先選定については、担当教員と十分な打ち合わせ、相談を行った上で決定する。
- ・学生は学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険に加入し、研修中の不慮の事故等に備える体制をとっている。

### 3 海外語学研修【資料9】

海外語学研修については、外国語科目に「海外語学研修」の区分を設け、本学の国際交流協定校において「中期留学プログラム」「夏期留学プログラム」「春期留学プログラム」として、それぞれ前期または後期の1学期相当期間及び夏期・春期の長期休

暇中に語学研修を実施している。

当該留学プログラムは、全学学生を対象にこれまで長年実施しているものであり、外国語能力の向上や異文化理解力を育む機会が提供される。

1) 実習施設名、所在地、授業科目ごとの受入れ可能人数、実習受入承諾書等

派遣先大学は、学生交流に関する協定を締結している本学の国際交流協定校であり、派遣先地域としては、英語圏、ドイツ語圏、フランス語圏、スペイン語圏、中国語圏、コリア語圏がある。

派遣先大学別の受入れ人数は、留学プログラムの質を維持するためあくまでも本学で設定したものであり、協定では語学研修の受入れについて人数の上限は設けていないため、必要があれば現在の派遣人数より多く派遣することも可能である。

2) 実習先との連携体制

協定校が設定し、開設している語学コースに学生を派遣する場合は、教育内容、レベル、時間数等が本学の要求するものに合致するかどうか協定校に確認を取った上で実施している。また、本学だけのための特別受入れプログラムを実施する場合は、本学が設定した留学の趣旨に合い、目的が達成されるようプログラムプロポーザルを送付し、相互に確認するようにしている。いずれの場合も実施にあたっては協定校と随時協議を行い、問題があれば改善を図るようにしている。

プログラム実施中に事故等が起こった際は、本学国際交流センターが窓口となり、本学と協定校の双方で緊密に連携しながら対処する体制を取っている。

3) 成績評価体制及び単位認定方法

留学前に行う申請及び手続きに基づき、事前・事後研修を受講し、現地において所定のコースを修了することにより、経済学部開講科目に成績評価を行い、単位の認定を行う。

派遣期間が1学期間の中期留学プログラムについては、2年次生においては「海外語学中期研修1～8(各2単位)」の計16単位を認定、3・4年次生においては、「海外語学中期研修1～8(各2単位)」「外国経済事情(2単位)」「特殊講義(2単位)」の中から18単位を認定する。

短期プログラムとして、夏期休暇中に実施する「夏期留学プログラム」については「海外語学短期研修1(2単位)」として単位を認定し、春期休暇期間中に実施する「春期留学プログラム」については「海外語学短期研修2(2単位)」として単位を認定する。

4) その他特記事項

学生の引率として本学教職員が帯同する際、プログラムの点検やカリキュラム内容に関する打合せを協定校担当者で行っている。

## サ 管理運営

### 1 教員組織の運営

教員組織は、学長の統督の下、学部教授会においては学部長、大学院研究科委員会においては大学院研究科長、法科大学院教授会においては法科大学院長が、それぞれ校務の責任者となり、円滑に運営をしている。なお、学長の職務を助けるために副学長を置いている。

教員組織間の連携と調整を図るために、学部においては学部長会、大学院研究科においては大学院委員会が機能している。学部長会は、本学における学術の研究、教育及び教員の人事等に関する方針を審議し、各学部間の連絡調整を図る機関であり、大学院委員会は、各研究科に関する共通の重要事項、各研究科間の連絡調整に関する事項などを審議する。

### 2 教授会

教授会は、専修大学学則第47条において、「各学部に教授会を設け、教授及び准教授をもって組織する。ただし、学部の定めるところにより、専任の講師を加えることができる。」旨の規定がなされている。

審議事項は、専修大学学則第49条で「教授会は、学長が教育研究に関する決定を行うに当たり、次に掲げる事項について審議し、意見を述べるものとする。(1)学部の教育課程その他授業に関すること。(2)学生の入学、卒業その他学生の在籍に関すること。(3)試験に関すること。(4)学生の指導及び賞罰に関すること。(5)奨学生その他学生推薦の専攻に関すること。(6)教授、准教授、講師、助教その他の教員の人事にかかる教育研究業績等の審査に関すること。(7)本大学の長期在外研究員、長期国内研究員及び中期研究員に関すること。(8)学部長の推薦に関すること。(9)本学即その他本大学の規程等によって教授会の議を経ることとされていること。(10)教授会規程並びに制定及び改廃に関し教授会の議を経ることとされている規程等の制定及び改廃に関すること。(11)自己点検・評価に関すること。(12)前各号に掲げるもののほか、教育研究に関する事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めたこと。」と規定し、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べるができることとしている。学部長は、定期又は必要と認めるとき教授会を招集する。

### 3 教授会以外の委員会

学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項の検討や起案などのために、全学的な委員会として「教育開発支援委員会」「内部質保証推進委員会」「自己点



検・評価委員会」「入学試験委員会」「専修大学全学カリキュラム協議会」「学生部委員会」「国際交流センター委員会」等の各種委員会を設置しており、各委員会の構成員は、専任の教授、准教授、講師により構成され、各委員会の規程に基づき定期的に開催している。

## シ 自己点検・評価

本学では、大学の教育理念、目標に照らし、教育研究活動の状況を点検・評価することにより、現状を正確に把握、認識するとともに、その達成状況を評価し、評価結果に基づく改革・改善の推進を図ることを目的として、自己点検・評価を実施している。

### 1 実施方法について

本学における自己点検・評価活動は、「P D C Aサイクルを活用した点検・評価」、「本学の教育・研究水準の向上を図る点検・評価」を基本方針とし、この方針に基づき、自己点検・評価委員会が専修大学内部質保証推進委員会と連携して点検・評価活動を行っている。

具体的な実施方法は次のとおりである。本学では、2年間で1サイクルとし、専修大学内部質保証推進委員会が設定した目標・計画等に基づき、自己点検・評価委員会が点検・評価項目を設定し、自己点検・評価活動を行っている。また、公益財団法人大学基準協会が定める点検・評価項目への取組み状況チェックシートによる自己評価に基づく自己点検・評価活動を行っている。なお、活動にあたっては、予め「達成目標」、「評価の視点」を設定したうえで自己点検・評価活動を行うとともに、期末に「達成目標」に基づく自己評価を実施することで、本学の教育・研究水準の向上を図っている。

### 2 実施体制について

本学の自己点検・評価に関する実施体制は、全学的な自己点検・評価を担う「自己点検・評価委員会」と、「学部」、「大学院」、「全学カリキュラム関係」、「教育開発支援関係」、「図書館」等といった各機関別の自己点検・評価を担う「機関別自己点検・評価実施委員会」（27 実施委員会を設置）によって構成し、学長を最高責任者として、各学部、研究科、各委員会等が連携協力して自己点検・評価を行うことで、教育・研究活動の質の保証を図っている。また、本学では、専修大学の内部質保証を推進することを目的に、「専修大学内部質保証推進委員会」を設置し、同委員会において、自己点検・評価の結果をもとに教育研究活動の目標・計画等の設定及び推進、適切性及び有効性の検証、検証に基づく改善・向上を担うことで、教育・研究活動の質の向上

を図っている。

国際コミュニケーション学部(日本語学科、異文化コミュニケーション学科)では、機関別自己点検・評価実施委員会に該当する「国際コミュニケーション学部自己点検・評価実施委員会」が中心となり、課題認識のもとに、中期的な目標設定と具体的な計画策定を行い、その達成状況の評価及び評価結果の活用が可能となるシステムの構築を図ることとする。

### 3 公表及び評価項目

#### (1) 結果の活用・公表について

自己点検・評価の結果については、2年毎に「自己点検・評価報告書」として取りまとめ、大学ホームページを通して広く社会に公表し、社会の評価を受けることを通して、教育・研究水準の一層の向上に努めている。

なお、平成26年度に受審した公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)の「評価結果」及び申請の際に同協会へ提出した「点検・評価報告書」も大学ホームページを通して公表するとともに、評価の際に付された「努力課題」についても改善・改革を図っており、改善の結果は「改善報告書」として同協会へ提出した。

#### (2) 評価項目等について

本学における自己点検・評価の項目は、基本方針に基づき、公益財団法人大学基準協会が定める「大学基準」及び「点検・評価項目」にしたがって設定している。また、専修大学内部質保証推進委員会が設定した目標・計画等に基づく「点検・評価項目」を設定している。特に、以下の視点を重視することで、全学レベルにおける教育研究の質の向上を図っている。

- ①理念・目的
- ②内部質保証
- ③教育研究組織
- ④教育課程・学習成果
- ⑤学生の受入れ
- ⑥教員・教員組織
- ⑦学生支援
- ⑧教育研究等環境
- ⑨社会連携・社会貢献

また、国際コミュニケーション学部(日本語学科、異文化コミュニケーション学科)における自己点検・評価の項目も、以下の視点を重視したうえで、機関レベルにおけ

る教育研究の質の向上を図ることとする。

- ①理念・目的
- ②内部質保証
- ③教育課程・学習成果
- ④学生の受け入れ
- ⑤教員・教員組織

## ス 情報の公表

### 1 実施方法

学部等における人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的について、学則及び規則等の適切な形式により定め、これを広く社会に公表するとともに、教育研究活動等の状況など大学に関する情報全般について、インターネット上のホームページや大学案内などの刊行物への掲載、その他広く一般に周知を図ることができる方法により積極的に提供することとしている。

特に、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表することとし、その際、大学の教育力の向上の観点から、学生がどのようなカリキュラムに基づき、何を学ぶことができるのかという観点が明確になるよう留意することとしている。

教育情報の公表については、そのための適切な体制を整えるとともに、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって行うこととしている。

### 2 実施項目

次の教育研究活動等の状況についての情報を公表する。

- (1) 大学の教育研究上の目的に関すること。
- (2) 教育研究上の基本組織に関すること。
- (3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。
- (4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
- (5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
- (6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。
- (7) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。

- (8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。
- (9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

### 3 公表内容

教育研究活動等の状況についての情報を公表するに際しては、以下の点に留意したうえで行うこととする。

- 1) 大学の教育研究上の目的に関する情報については、学部、学科又は課程等ごとに、それぞれ定めた目的を公表する。
- 2) 教育研究上の基本組織に関する情報については、学部、学科又は課程等の名称を明らかにする。
- 3) 教員組織に関する情報については、年齢構成等を明らかにし、効果的な教育を行うため組織的な連携を図っていることを積極的に明らかにする。
- 4) 教員の数については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表することとし、法令上必要な専任教員数を確保していることや職別の人数等の詳細を明らかにする。
- 5) 各教員の業績については、研究業績等にとどまらず、各教員の多様な業績を積極的に明らかにすることにより、教育上の能力に関する事項や職務上の実績に関する事項など、当該教員の専門性と提供できる教育内容に関することを確認できるという点に留意したうえで公表する。
- 6) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する情報については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表する。
- 7) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する情報については、教育課程の体系性を明らかにする観点に留意するとともに、年間の授業計画については、シラバスや年間授業計画の概要を活用する。
- 8) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する情報については、必修科目、選択科目の別の必要単位修得数を明らかにし、取得可能な学位に関する情報を明らかにする。
- 9) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する情報については、学生生活の中心であるキャンパスの概要のほか、運動施設の概要、課外活動の状況及びそのために用いる施設、休息を行う環境その他の学習環境、主な交通手段等の状況を明らかにする。

- 10) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する情報については、施設費、教育充実費等の費用に関することを明らかにする。
- 11) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する情報については、留学生支援や障害者支援など大学が取り組む様々な学生支援の状況を明らかにする。

## セ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

### 1 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修

#### (1) 実施体制

授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取組みについては、「専修大学教育開発支援委員会規程」を制定するとともに、当該委員会規程に基づき、専任教員で構成される「専修大学教育開発支援委員会」を設置し、授業方法の開発と改善を図るための調査、研究、提案及び実施の推進を図ることとする。【資料10】

#### (2) 実施内容

授業の内容及び方法の改善を図るための実施内容については、以下に掲げる項目による取組みを行う。

- 1) シラバスの記載項目や記載内容、記載方法などに関する要領を整備し、その内容を各学部・学科等に周知する。
- 2) 学生の満足度、思考力等の測定及び学士課程教育の成果を検証するためのアセスメントテストを実施し、その結果を分析するとともに報告書を作成する。
- 3) 授業科目の位置付けや卒業認定・学位授与の方針との関係性などを明確にするための様式（カリキュラム・マップ）を作成し、各学部・学科等に提供する。
- 4) 授業科目にアクティブ・ラーニングを導入するための研修会を実施する。
- 5) 先進的な取組みを行っている授業の事例集や、本学学士課程教育の概略、授業を行ううえで必要な情報やツールなどをまとめた冊子を作成し、教員に配布する。

### 2 大学職員に必要な知識・技能の習得させるための研修等

#### (1) 実施体制

本学における大学運営に必要な教職員への研修等の取組みについては、「学校法人専修大学スタッフ・ディベロップメント実施方針」を制定し、事務職員のみならず、教員及び技術職員を含めて、大学等の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図ることを目的とした、知識・技能の習得及び能力・資質の向上のための活動を推進する

こととしている。

検討及び実施については、事務職員に対する研修等は、総務部人事課が、教員に対する研修等は教育開発支援委員会が中心となって行うこととしている。

なお、教育開発支援委員会が主催する研修等については事務職員も積極的に参加することとしている。【資料 11】

## (2) 実施内容

具体的な研修等の活動については、以下に掲げる項目により行う。

- 1) 大学等の管理運営及び教育研究支援に必要な知識及び技能を身に付け、能力及び資質の向上を図るための研修に関すること
- 2) 建学の精神に照らした大学等の取組の自己点検・評価と内部質保証及び大学等の改革に資する研修に関すること
- 3) 職員として求められているリーダーシップ能力、マネジメント能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、危機管理能力、政策提案・実現能力、問題解決能力及び事務処理能力等の向上を図るための研修に関すること
- 4) 学生の人間形成を図るために行われる正課外の諸活動における様々な指導、援助等の研修に関すること
- 5) 職員のスキルアップに役立つ資格取得に関すること
- 6) 大学組織における業務の見直しや事務処理の改善等に関すること
- 7) その他SD活動として必要と認める事項

なお、研修会等は、大学が独自に企画して開催する「学内研修会等」と外部団体が主催して行う「学外研修会等」に大別し、学内研修会等は、次のとおり区分して実施することとしている。

- ①目的別 特定の知識・技能の修得や業務ごとの質的向上・改善等のための研修会等
- ②階層別 新入職員、中堅職員、管理・監督職職員など、経験や役職（職階）に応じて必要な知識を得るための研修会等
- ③自己啓発 職員個々が自主的に自己啓発、スキルアップ等を図るための研修会等  
また、学外研修会等については、教職員が参加できる機会を積極的に提供することとしている。

## ソ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### 1 教育課程内における取組み

「転換・導入科目」及び「教養科目」、「外国語科目」では、各学部・学科の専門

教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることで、多面的なものの見方の基礎を養成することとしており、「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」の各科目群全体を通して、社会的・職業的自立を図るために必要な基礎的な知識や技能と態度を修得することとしている。

特に、「転換・導入科目」の「キャリア基礎科目」に配置している「キャリア入門」及び「教養科目」の「融合領域科目」に配置している「キャリア科目1」と「キャリア科目2」を教育課程内における社会的・職業的自立に関する科目として位置付け、職業人が果たす役割と責任や自覚と態度を身につけるとともに、職業現場への興味と関心と自らの職業選択に対する意識の涵養を図ることとしている。

なお、この教育課程内の取組みにおける組織体制として、「転換・導入科目」については、キャリアデザインセンター運営委員会と導入教育課程運営委員会が、「教養科目」については、キャリアデザインセンター運営委員会と融合領域科目運営委員会が連携して情報を共有し、授業科目の運営を行っている。キャリアデザインセンター運営委員会は、学部選出の委員が構成員となり、全学的理解と協調を図りつつ連絡・協議等を定期的に行う体制をとっている。

## 2 教育課程外の取組み

社会的・職業的自立を図るための教育課程外の取組みとしては、職業興味検査、資格と仕事のセミナーなどの実施により職業観の涵養を図るとともに、各種資格取得講座、公務員試験講座、キャリア支援講座、就職支援プログラムなどにより職業及び就職に関する知識や技能の習得を図ることとしている。

また、個別カウンセリング、UIJターンガイダンス、各種仕事に関するガイダンスなどの進路や就職指導及び相談に加えて、企業による採用説明会及び公務員・独立行政法人等業務説明会、公務員人物対策指導など就職志望者に対する取組みや、地方発展に寄与する人材輩出に向けた就職支援協定締結を30府県1市（平成31年3月末現在）と結ぶ等、就職部、キャリアデザインセンター、エクステンションセンターが連携を図りながら行っている。

## 設置の趣旨等を記載した書類 資料目次

- (資料1) 学校法人専修大学 設置認可等に関わる組織の移行表
- (資料2) 文学部日本語学科 業種別就職状況(平成27年度～平成29年度)
- (資料3) 民間企業等に対する人材需要調査結果―抜粋―
- (資料4) 専修大学教員定年制規程
- (資料5) 国際コミュニケーション学部 履修モデル
- (資料6) 国際コミュニケーション学部 関連学術雑誌等一覧
- (資料7) 学外実習受入機関一覧(日本語学科)
- (資料8) 海外研修科目 留学先一覧(異文化コミュニケーション学科)
- (資料9) 海外語学研修実施校一覧
- (資料10) 専修大学教育開発支援委員会規程
- (資料11) 学校法人専修大学 スタッフ・ディベロップメント実施方針、計画表



## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	サキ シゲト 佐々木 重人 <平成28年9月>		博士 (経営 学)		専修大学 学長 (平成28. 9～ )

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。





教 員 の 氏 名 等

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保 有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 相当日平均 数
22	兼任	教授	ハルキョウ 巖 基珠 <令和2年4月>		文学博士(韓 国)		コリア語初級1 a コリア語初級1 b コリア語初級2 a コリア語初級2 b コリア語上級1 a コリア語上級1 b 世界の言語と文化(コリア語) 言語文化研究(アジア)2 海外語学短期研修1(コリア語) 海外語学短期研修2(コリア語) 海外語学中期研修1(コリア語) 海外語学中期研修2(コリア語) 海外語学中期研修3(コリア語) 海外語学中期研修4(コリア語) 海外語学中期研修5(コリア語) 海外語学中期研修6(コリア語) 海外語学中期研修7(コリア語) 海外語学中期研修8(コリア語)	1前 1前・後 1前 1前・後 3・4前 3・4後 1・2・3・4前 2・3・4後 1・2・3前 1・2・3後 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通	1 2 1 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 2 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 ネットワーク情報 学部 教授 (平15.4)	
23	兼任	教授	オホノ ヒロシ 金子 洋之 <令和2年4月>		文学修士※		論理学入門 ことばと論理	1・2前・後 1・2前・後	4 4	2 2	専修大学 文学部 教授 (平3.4)	
24	兼任	教授	コシ エミ 小西 恵美 <令和2年4月>		博士(商学)		Basics of English (RL) 1a General English	1前 2・3・4前・後	1 2	1 1	専修大学 経済学部 教授 (平13.4)	
25	兼任	教授	コバノ サトコ 小林 昭裕 <令和2年4月>		博士(農学)		科学論2 a 科学論2 b 新領域科目5	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4後	2 2 2	1 1 1	専修大学 経済学部 教授 (平24.4)	
26	兼任	教授	サトウ マコト 齋藤 実 <令和3年4月>		修士(体育学)		スポーツ論(健康と生涯スポーツ)	2・3・4後	2	1	専修大学 文学部 教授 (平18.4)	
27	兼任	教授	サノ アキ 坂野 明子 <令和3年4月>		文学修士※		Advanced English b	2・3・4後	2	1	専修大学 文学部 教授 (平7.4)	
28	兼任	教授	サカ イチ 作間 逸雄 <令和2年4月>		経済学修士※		現代の経済	1・2後	2	1	専修大学 経済学部 教授 (昭54.4)	
29	兼任	教授	サカ ヒロキ 佐竹 弘靖 <令和3年4月>		修士(体育学)		教養テーマゼミナール1 教養テーマゼミナール2 教養テーマゼミナール3 教養テーマゼミナール論文 スポーツ論(人類とスポーツ)	2通 3通 4通 3・4通 2・3・4前・後	4 4 4 2 4	1 1 1 1 2	専修大学 ネットワーク情報 学部 教授 (平1.4)	
30	兼任	教授	サトウ コウイチロウ 佐藤 康一郎 <令和3年4月>		修士(商学)※		学際科目10	2・3・4後	2	1	専修大学 経営学部 教授 (平14.4)	
31	兼任	教授	サトウ ヒロキ 佐藤 弘明 <令和3年4月>		文学修士		Screen English a Screen English b	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 商学部 教授 (平1.4)	
32	兼任	教授	サトウ レツコ 佐藤 暢 <令和2年4月>		博士(理学)		宇宙地球科学2 a 宇宙地球科学2 b 新領域科目3	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4後	2 2 2	1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平15.4)	
33	兼任	教授	サトウ ミチル 佐藤 満 <令和3年4月>		博士(医学)		スポーツ論(オリンピックとスポーツ)	2・3・4前・後	4	2	専修大学 経営学部 教授 (平11.4)	
34	兼任	教授	シモヰリ カズヨシ 下澤 和義 <令和2年4月>		修士(文学)※		思想と文化 フランス語中級1 a フランス語中級1 b 世界の言語と文化(フランス語) 言語文化研究(ヨーロッパ)2	2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 1・2・3・4前・後 2・3・4後	2 1 1 4 2	1 1 1 2 1	専修大学 商学部 教授 (平10.4)	
35	兼任	教授	スズキ アキヒ 鈴木 章俊 <令和2年4月>		経済学博士		経済と社会	1・2前	2	1	専修大学 経済学部 教授 (平25.4)	
36	兼任	教授	スズキ ナミ 鈴木 奈穂美 <令和3年4月>		博士(学術)		学際科目11	2・3・4後	4	1	専修大学 経済学部 教授 (平21.4)	
37	兼任	教授	スヤマ ミチコ 砂山 充子 <令和4年4月>		修士(国際学) ※		スペイン語上級1 a スペイン語上級1 b	3・4前 3・4後	1 1	1 1	専修大学 経済学部 教授 (平10.4)	
38	兼任	教授	セノ テツジ 妹尾 哲志 <令和4年4月>		Dr. phil. (Politische Wissenschaft) (ドイツ)		国際政治の基礎	3・4前	2	1	専修大学 法学部 教授 (平24.4)	
39	兼任	教授	タカタ ナツコ 高田 夏子 <令和2年4月>		教育学修士※		基礎心理学入門 応用心理学入門	1・2前・後 1・2前・後	4 4	2 2	専修大学 人間科学部 教授 (平13.4)	
40	兼任	教授	タナベ ヒロキ 田邊 宏康 <令和2年4月>		博士(法学)		法と社会	1・2後	2	1	専修大学 法学部 教授 (平15.4)	
41	兼任	教授	ツチ ヲサマ 土屋 昌明 <令和2年4月>		文学修士※		地域研究(中国) 世界の言語と文化(中国語) 言語文化研究(アジア)1	2・3・4後 1・2・3・4前・後 2・3・4前・後	2 4 4	1 2 2	専修大学 経済学部 教授 (平11.4)	
42	兼任	教授	テラオ イク 寺尾 格 <令和2年4月>		独文学修士※		ドイツ語初級1 a ドイツ語初級1 b ドイツ語初級2 a ドイツ語初級2 b ドイツ語中級1 a ドイツ語中級1 b ドイツ語上級1 a ドイツ語上級1 b 世界の言語と文化(ドイツ語)	1前 1前・後 1前 1前・後 2・3・4前 2・3・4後 3・4前 3・4後 1・2・3・4後	1 2 1 2 1 1 1 1 2	1 2 1 2 1 1 1 1 1	専修大学 経済学部 教授 (昭63.4)	
43	兼任	教授	トキヲ シンイチロウ 時任 真一郎 <令和2年4月>		博士(学術)		スポーツウエルネス アドバンススポーツ	1・2・3・4前・後 2・3・4前・後	2 4	2 2	専修大学 法学部 教授 (平19.4)	
44	兼任	教授	トナリ マサツグ 富川 理光 <令和2年4月>		博士(体育科 学)		学際科目5 スポーツリテラシー	2・3・4後 1・2・3・4前・後	2 2	1 2	専修大学 商学部 教授 (平23.4)	

## 教 員 の 氏 名 等

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に 従事する 週当たり平均 日 数
45	兼担	教授	カガエ マサカズ 永江 雅和 <令和3年4月>		博士(経済学)		新領域科目 1	2・3・4後	2	1	専修大学 経済学部 教授 (平12.4)	
46	兼担	教授	ナカハチ ユキ 仲川 裕里 <令和2年4月>		Doctor of Philosophy (英 国)		Basics of English (RL) 1b English Language and Cultures b	1後 2・3・4後	1 2	1 1	専修大学 経済学部 教授 (平11.4)	
47	兼担	教授	ナカハチ タケ 中村 太一 <令和2年4月>		Doctor of Philosophy, Language and Linguistics (英国)		Intermediate English (RL) 1a Intermediate English (RL) 1b Intermediate English (SW) 1a	1前 1後 1前	1 1 1	1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平15.4)	
48	兼担	教授	ナカハチ マサキ 中村 政徳 <令和2年4月>		Doctor of Philosophy (カ ナダ)		言語学概論 Advanced English a	1・2前 2・3・4前	2 2	1 1	専修大学 経営学部 教授 (平8.4)	
49	兼担	教授	ニシ タカ 西 孝子 <令和2年4月>		博士(学術)		生物科学 3 a 生物科学 3 b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 商学部 教授 (平7.4)	
50	兼担	教授	ニシ タカ 新田 滋 <令和2年4月>		博士(経済学)		社会科学論	1・2前・後	4	2	専修大学 経済学部 教授 (平23.4)	
51	兼担	教授	サシノ テツカ 根岸 徹郎 <令和2年4月>		docteur en Littérature et civilisation françaises (フ ランス)		異文化理解の実践 学際科目 7 学際科目 8 言語文化研究(ヨーロッパ) 1 海外語学短期研修1(フランス語) 海外語学短期研修2(フランス語) 海外語学中期研修1(フランス語) 海外語学中期研修2(フランス語) 海外語学中期研修3(フランス語) 海外語学中期研修4(フランス語) 海外語学中期研修5(フランス語) 海外語学中期研修6(フランス語) 海外語学中期研修7(フランス語) 海外語学中期研修8(フランス語)	1後 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前 1・2・3前 1・2・3後 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 法学部 教授 (平14.4)	
52	兼担	教授	ハセガリ ヒロシ 長谷川 宏 <令和3年4月>		文学修士		English Writing b	2・3・4後	2	1	専修大学 法学部 教授 (平17.4)	
53	兼担	教授	ヒロシ ヒロコ 広瀬 裕子 <令和2年4月>		博士(教育学)		子どもと社会の教育学	1・2前・後	4	2	専修大学 人間科学部 教授 (昭63.4)	
54	兼担	教授	フクミ タカオ 福富 忠和 <令和3年4月>		経営学士		学際科目 1 2	2・3・4前	4	1	専修大学 文学部 教授 (平19.4)	
55	兼担	教授	ボーンヤック, ジョセフ W. ボーンヤック, ジョセフ W. <令和2年4月>		Doctor of Philosophy (英 国)		English Speaking a English Speaking b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 経済学部 教授 (平29.4)	
56	兼担	教授	オダ タカロ 木田 竜広 <令和2年4月>		博士(数学)		数理学 1 a 数理学 1 b 数理学 3 a 数理学 3 b	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2 2 2	1 1 1 1	専修大学 商学部 教授 (平30.4)	
57	兼担	教授	マヅマ タカシ 間嶋 崇 <令和2年4月>		博士(経営学)		はじめての経営	1・2前	2	1	専修大学 経営学部 教授 (平22.4)	
58	兼担	教授	マツイ シン 松井 暁 <令和2年4月>		博士(経済学)		社会思想	1・2前・後	4	2	専修大学 経済学部 教授 (平19.4)	
59	兼担	教授	マツハラ アキラ 松原 朗 <令和2年4月>		博士(文学)		中国文学講義 1 中国文学講義 2 中国語初級 2 a 中国語初級 2 b	1・2・3前 1・2・3後 1前 1前・後	2 2 1 2	1 1 1 2	専修大学 文学部 教授 (昭62.4)	
60	兼担	教授	マツト コウジ 松本 幸三 <令和2年4月>		博士(理学)		化学 2 a 化学 2 b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 経営学部 教授 (平24.4)	
61	兼担	教授	ヤマグチ マサキ 山口 政幸 <令和2年4月>		文学修士※		日本文学概論(近現代) 1 日本文学概論(近現代) 2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 文学部 教授 (平9.4)	
62	兼担	教授	ヤマタ キヨミ 山下 清美 <令和2年4月>		文学修士※		情報社会	1・2前・後	4	2	専修大学 ネットワーク情報 学部 教授 (平3.4)	
63	兼担	教授	ヤマノ ケンタ 山田 健太 <令和2年4月>		法学士		ジャーナリズムと現代	1・2後	2	1	専修大学 文学部 教授 (平18.4)	
64	兼担	教授	ヤマモト ミツル 山本 充 <令和2年4月>		理学博士		地理学への招待	1・2前・後	2	4	専修大学 文学部 教授 (平26.4)	
65	兼担	教授	ヨシエ フミオ 吉江 文男 <令和2年4月>		理学博士		生物科学 1 a 生物科学 1 b 生物科学 2 a 生物科学 2 b	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4前・後	4 4 2 4	2 2 1 2	専修大学 経済学部 教授 (昭62.4)	
66	兼担	教授	ワカハチ エイジ 渡辺 英次 <令和3年4月>		修士(人間科 学)		スポーツ論(スポーツライフデザイン編)	2・3・4前・後	4	2	専修大学 文学部 教授 (平21.4)	
67	兼担	教授	ワカハチ シゲユキ 渡部 重行 <令和3年4月>		文学修士※		多文化共生論	2・3・4後	2	1	専修大学 文学部 教授 (平1.4)	
68	兼担	准教授	アミノ アサコ 網野 房子 <令和3年4月>		文学修士※		文化の衝突と融合 越境する文化	2・3・4後 3・4前	2 2	1 1	専修大学 文学部 准教授 (平10.4)	
69	兼担	准教授	オオツキ ショウコ 大月 祥子 <令和2年4月>		博士(理学)		宇宙地球科学 1 a 宇宙地球科学 1 b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 商学部 准教授 (平24.4)	

教 員 の 氏 名 等

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保 有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 する 週当たり平均 日 数
70	兼任	准教授	わかきり 健太 小田切 健太 ＜令和2年4月＞		博士(学術)		あなたと自然科学 物理学 1 a 物理学 1 b 物理学 2 a 物理学 2 b	1前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 2 2 2 2	2 1 1 1 1	専修大学 ネットワーク情報 学部 准教授 (平26.4)	
71	兼任	准教授	かじろ 哲志 神白 哲志 ＜令和2年4月＞		博士(教育学)		Computer Aided Instruction a Computer Aided Instruction b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 ネットワーク情報 学部 准教授 (平18.4)	
72	兼任	准教授	くろが 友哉 黒田 友哉 ＜令和4年4月＞		博士(法学)		国際関係論 I 国際関係論 II	3・4前 3・4後	2 2	1 1	専修大学 法学部 准教授 (平31.4)	
73	兼任	准教授	かわの 敏雄 河野 敏雄 ＜令和3年4月＞		博士(経済学)		学際科目 4	2・3・4後	2	1	専修大学 ネットワーク情報 学部 准教授 (平26.4)	
74	兼任	准教授	さかづみ 智美 坂路 智美 ＜令和3年4月＞		博士(法学)		学際科目 3	2・3・4前	2	1	専修大学 法学部 准教授 (平24.4)	
75	兼任	准教授	さくが いづみ 櫻井 文子 ＜令和2年4月＞		Doctor of Philosophy (英 国)		地域研究 (ヨーロッパ) 環境と文化 学際科目 9 テーマ科目 海外語学短期研修 1 (英語) 海外語学短期研修 2 (英語)	2・3・4後 3・4前 2・3・4後 2・3・4前・後 1・2・3前 1・2・3後	2 2 2 4 2 2	1 1 1 2 1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平25.4)	
76	兼任	准教授	しばた 隆 柴田 隆 ＜令和2年4月＞		文学修士※		海外語学短期研修 1 (ドイツ語) 海外語学短期研修 2 (ドイツ語) 海外語学中期研修 1 (ドイツ語) 海外語学中期研修 2 (ドイツ語) 海外語学中期研修 3 (ドイツ語) 海外語学中期研修 4 (ドイツ語) 海外語学中期研修 5 (ドイツ語) 海外語学中期研修 6 (ドイツ語) 海外語学中期研修 7 (ドイツ語) 海外語学中期研修 8 (ドイツ語)	1・2・3前 1・2・3後 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 法学部 准教授 (昭60.4)	
77	兼任	准教授	すき 健郎 鈴木 健郎 ＜令和2年4月＞		博士(文学)		宗教と文化 中国語中級 1 a 中国語中級 1 b 中国語上級 1 a 中国語上級 1 b 海外語学短期研修 1 (中国語) 海外語学短期研修 2 (中国語) 海外語学中期研修 1 (中国語) 海外語学中期研修 2 (中国語) 海外語学中期研修 3 (中国語) 海外語学中期研修 4 (中国語) 海外語学中期研修 5 (中国語) 海外語学中期研修 6 (中国語) 海外語学中期研修 7 (中国語) 海外語学中期研修 8 (中国語)	2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 3・4前 3・4後 1・2・3前 1・2・3後 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通	2 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 商学部 准教授 (平18.4)	
78	兼任	准教授	ひやま 竜来 巴山 竜来 ＜令和2年4月＞		博士(理学)		数理科学 2 a 数理科学 2 b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平27.4)	
79	兼任	准教授	まつ 治 松尾 治 ＜令和2年4月＞		修士(教育学)		書道 1 書道 2	1・2・3・4通 1・2・3・4通	2 2	1 1	専修大学 文学部 准教授 (平28.4)	
80	兼任	准教授	まつ 智穂子 松田 智穂子 ＜令和3年4月＞		博士(学術)		植民地と現代世界 English Writing a	3・4前 2・3・4前	2 2	1 1	専修大学 経済学部 准教授 (平26.4)	
81	兼任	准教授	みや 宗彦 宮田 宗彦 ＜令和2年4月＞		Doctor of Philosophy in Second Language Acquisition (米 国)		Computer Aided Instruction for DTEIC a Computer Aided Instruction for DTEIC b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 商学部 准教授 (平26.4)	
82	兼任	准教授	やま 明朗 八島 明朗 ＜令和2年4月＞		修士(経営学) ※		マーケティングベーシックス	1・2後	2	1	専修大学 商学部 准教授 (平25.4)	
83	兼任	講師	かしのき 悠 柏水 悠 ＜令和3年4月＞		博士(体育科 学)		スポーツ論 (トレーニング科学)	2・3・4後	2	1	専修大学 商学部 講師 (平30.4)	
84	兼任	講師	くぼた 祐介 久保田 祐介 ＜令和2年4月＞		法学博士		日本国憲法	1・2前	2	1	専修大学 法学部 講師 (平29.4)	
85	兼任	講師	トンプキンス, レベッカ トンプキンス, レベッカ ＜令和2年4月＞		Master of Arts in Regional Studies - East Asia (米国)		Basics of English (SW) 1a Basics of English (SW) 1b	1前 1後	1 1	1 1	専修大学 商学部 講師 (平30.4)	
86	兼任	講師	アロンソ, シルビア アロンソ, シルビア ＜令和2年4月＞		修士(法学)		世界の言語と文化 (スペイン語)	1・2・3・4後	2	1	専修大学 ネットワーク情報 学部 非常勤講師 (平21.4)	
87	兼任	講師	イ 英珠 李 英珠 ＜令和3年4月＞		修士(文学)		コリア語中級 1 a コリア語中級 1 b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 経済学部 非常勤講師 (平14.4)	
88	兼任	講師	イト 龍 糸瀬 龍 ＜令和3年4月＞		修士(文学)		選択ドイツ語 1 a 選択ドイツ語 1 b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平27.4)	
89	兼任	講師	うらやま 健太郎 浦山 健太郎 ＜令和3年4月＞		修士(文学)		フランス語中級 2 a フランス語中級 2 b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	株式会社 虎十社 (翔進予備 校) 専任講師 (平23.4)	

教 員 の 氏 名 等

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 相当り平均 日	
90	兼任	講師	マサキ ヨシノ 大貫 良史 <令和3年4月>		修士(経済学)		地域研究(ラテンアメリカ) スペイン語中級1a スペイン語中級1b	2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後	2 1 1	1 1 1	専修大学 文学部 非常勤講師 (平26.9)		
91	兼任	講師	コトウ ケン 小笠原 健二 <令和2年4月>		修士(国際学)		インドネシア語初級1a インドネシア語初級1b インドネシア語上級1a インドネシア語上級1b	1前 1後 3・4前 3・4後	1 1 1 1	1 1 1 1	専修大学 商学部 非常勤講師 (平19.4)		
92	兼任	講師	オウノ ミコ 小川 都 <令和2年4月>		博士(日本語教育学)		日本語教授法A-1 日本語教授法A-2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 経営学部 非常勤講師 (平23.4)		
93	兼任	講師	オノ ケイゾウ 尾崎 文太 <令和3年4月>		博士(学術)		比較文化	2・3・4後	2	1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平27.4)		
94	兼任	講師	オノ シゲキ 梶 重樹 <令和2年4月>		修士(文学)		ロシア語初級2a ロシア語初級2b	1前 1後	1 1	1 1	専修大学 商学部 非常勤講師 (平7.4)		
95	兼任	講師	オノ ナツコ 金 娜玄 <令和3年4月>		修士(文学)		選択ロシア語1a 選択ロシア語1b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 商学部 非常勤講師 (平15.4)		
96	兼任	講師	クツリル イメルダ クツリル イメルダ <令和3年4月>		修士(教育学)		インドネシア語中級1a インドネシア語中級1b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 経営学部 非常勤講師 (平11.4)		
97	兼任	講師	ゲンナカ ユキ 源中 由記 <令和4年4月>		修士(文学)※		現代文化論	3・4前	2	1	専修大学 経営学部 非常勤講師 (平13.5)		
98	兼任	講師	ゴトウ ケイジ 後藤 康行 <令和2年4月>		博士(歴史学)		歴史の視点	1・2前	2	1	千葉商科大学 国際教養学部 非常勤講師 (平28.4)		
99	兼任	講師	コシノ ミチヲ 古宮 路子 <令和2年4月>		博士(文学)		ロシア語中級1a ロシア語中級1b 世界の言語と文化(ロシア語)	2・3・4前 2・3・4後 1・2・3・4後	1 1 2	1 1 1	日本学術振興会 特別研究員(PD) (平29.4)		
100	兼任	講師	オノ ナツコ 三枝 令子 <令和2年4月>		博士(学術)		ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 日本語教育実習A ゼミナール5 ゼミナール6 卒業論文 専門入門ゼミナール	2前 2後 3前 3後 3・4通 4前 4後 4通 1後	2 2 2 2 4 2 8 2	1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 文学部 非常勤講師 (平29.4)		
101	兼任	講師	オノ ケイジ 榎井 厚二 <令和3年4月>		修士(文学)		ロシア語中級2a ロシア語中級2b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 経済学部 非常勤講師 (平12.6)		
102	兼任	講師	オノ ナツコ 佐藤 雅男 <令和2年4月>		修士(文学)		哲学	1・2前・後	4	2	専修大学 文学部 非常勤講師 (平7.4)		
103	兼任	講師	シノダ ケイコ 塩田 雄大 <令和2年4月>		博士(日本語日本文学)		メディア日本語論2	1・2後	2	1	NHK放送文化研究所 メ ディア研究部 主任研究員 (平9.4)		
104	兼任	講師	シノダ ケイコ 嶋津 拓 <令和3年4月>		博士(学術)		日本語言語政策史1 日本語言語政策史2	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	埼玉大学 人文社会科学研 究科 教授 (平25.8)		
105	兼任	講師	スギタ ヨシキ 杉田 芳樹 <令和3年4月>		修士(文学)		ドイツ語中級2a ドイツ語中級2b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平28.4)		
106	兼任	講師	サトウ マチコ 五月女 肇志 <令和2年4月>		博士(文学)		日本文学概論(古典)1 日本文学概論(古典)2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	二松學舎大学 文学部国文学 科 教授 (平18.4)		
107	兼任	講師	オノ ナツコ 高橋 美智恵 <令和2年4月>		修士(キャリアデザイン学)		キャリア入門 キャリア科目1 キャリア科目2	1前・後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2	4 2 1	2 2 2	社会保険労務士高橋事務所 (平12.1)	
108	兼任	講師	オノ ナツコ 田中 訓子 <令和2年4月>		修士(文学)		フランス語初級1a フランス語初級1b	1前 1前・後	1 2	1 2	2 2	大学書林国際語学アカデミー 講師 (平6.10)	
109	兼任	講師	オノ ナツコ 田中 正邦 <令和2年4月>		修士(文学)		フランス語初級2a フランス語初級2b	1前 1前・後	1 2	1 2	1 2	専修大学 文学部 非常勤講師 (平5.4)	
110	兼任	講師	オノ ナツコ 俵 章浩 <令和3年4月>		博士(学術)		選択アラビア語1a 選択アラビア語1b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 経済学部 非常勤講師 (平31.4)		
111	兼任	講師	オノ ナツコ 崔 誠姫 <令和3年4月>		修士(社会学)		ロシア語中級2a ロシア語中級2b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平26.4)		
112	兼任	講師	オノ ナツコ 坪山 由美子 <令和2年4月>		国際学修士		文化とコミュニケーション1 文化とコミュニケーション2 日本語教授法B-1 日本語教授法B-2	1・2前 1・2後 3・4前 3・4後	2 2 2 2	1 1 1 1	2 2 2 2	JICA青年海外協力隊事務局 技術顧問(非常勤) (平28.4)	
113	兼任	講師	オノ ナツコ 永井 匠 <令和3年4月>		修士(文学)		選択中国語1a 選択中国語1b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平9.4)	
114	兼任	講師	オノ ナツコ 蓮池 隆広 <令和2年4月>		修士(文学)		インドネシア語初級2a インドネシア語初級2b インドネシア語中級2a インドネシア語中級2b 世界の言語と文化(インドネシア語)	1前 1後 2・3・4前 2・3・4後 1・2・3・4後	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平25.4)	
115	兼任	講師	オノ ナツコ 長谷川 徹 <令和2年4月>		博士(哲学)		倫理学	1・2前・後	4	2	2	専修大学 文学部 非常勤講師 (平31.4)	
116	兼任	講師	オノ ナツコ 服部 あさこ <令和2年4月>		博士(社会学)		社会学入門 現代の社会学	1・2前・後 1・2前・後	4 4	2 2	2 2	専修大学 人間科学部 非常勤講師 (平30.4)	

教 員 の 氏 名 等

(国際コミュニケーション学部日本語学科)

調書 番号	専任等 区 分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保 有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 する 週当たり平均 日 数
117	兼任	講師	ハバキ ユウコ 濱賀 祐子 <令和2年4月>		修士(法学)		政治学入門 政治の世界	1・2前 1・2後	2 2	1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平13.4)	
118	兼任	講師	ヒラカ ヒロ 平川 八尋 <令和3年4月>		博士(国際文 化)		日本語教材研究 1 日本語教材研究 2 日本語の語用論 1 日本語の語用論 2 対照言語学	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	東京工業大学 リベラルアー ーツ研究教育院及び大学院 権教授 (平28.4)	
119	兼任	講師	ブロシエヌ、フィリップ プロシエヌ、フィリップ <令和2年4月>		学士(技術学)		日本文化入門 フランス語上級 1 a フランス語上級 1 b	1前 3・4前 3・4後	2 1 1	1 1 1	暁星学園 非常勤講師 (平28.4)	
120	兼任	講師	ヒシノ ヒロユキ 洪 賢秀 <令和3年4月>		博士(学術)		地域研究(アジア)	2・3・4後	2	1	専修大学 文学部 非常勤講師 (平28.9)	
121	兼任	講師	マツシタ タケヒロ 松下 太宏 <令和2年4月>		修士(教育学)		教育学入門	1・2前	2	1	首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系心理学・教育学 コース教育学分野 助教 (平20.5)	
122	兼任	講師	ミヅノ ミチヲ 三澤 三知夫 <令和2年4月>		修士(文学)		中国語初級 1 a 中国語初級 1 b 中国語中級 2 a 中国語中級 2 b	1前 1前・後 2・3・4前 2・3・4後	1 2 1 1	1 2 1 1	専修大学 文学部 非常勤講師 (平20.4)	
123	兼任	講師	ミナモト シゲル 美輪 茂 <令和3年4月>		博士(国際関係 論)		スペイン語中級 2 a スペイン語中級 2 b 選択スペイン語 1 a 選択スペイン語 1 b	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後	1 1 1 1	1 1 1 1	専修大学 経済学部 非常勤講師 (平28.4)	
124	兼任	講師	ミヤマエ カズヨ 宮前 和代 <令和3年4月>		文学修士※		English Presentation a English Presentation b	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平31.4)	
125	兼任	講師	モリタ カチコ 森田 華奈子 <令和3年4月>		修士(文学)		選択イタリア語 1 a 選択イタリア語 1 b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平30.9)	
126	兼任	講師	ヤマガチ トシロ 山口 俊洋 <令和3年4月>		修士(文学)		選択フランス語 1 a 選択フランス語 1 b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 ネットワーク情報 学部 非常勤講師 (平22.4)	
127	兼任	講師	ヨコフタ タシロ 横藤田 稔泰 <令和2年4月>		博士(歴史学)		スペイン語初級 1 a スペイン語初級 1 b	1前 1前・後	1 2	1 2	専修大学 経営学部 非常勤講師 (平24.4)	
128	兼任	講師	ヨシダ ナガヒロ 吉田 永弘 <令和3年4月>		博士(文学)		日本語の文献研究 1 日本語の文献研究 2	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	國學院大学 文学部 教授 (平27.4)	













教 員 の 氏 名 等

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保 有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日 数
25	専	講師	トブ ネルス、レベッカ トンプキンス、レベッカ ＜令和2年4月＞		Master of Arts in Regional Studies - East Asia (米国)		Cross-Cultural Studies Academic Skills ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究 Topics in English A	1前 1後 3前 3後 2 4前 4後 4通 3・4前	3 3 2 2 2 2 8 2	3 3 1 1 1 1 1 1	専修大学 商学部 講師 (平30.4)	6日
26	兼任	教授	アキ 章通 青木 章通 ＜令和3年4月＞		修士(経営学) ※		新領域科目2	2・3・4前	2	1	専修大学 経営学部 教授 (平17.4)	
27	兼任	教授	アサヒ 正道 阿藤 正道 ＜令和2年4月＞		理学博士		化学1 a 化学1 b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 商学部 教授 (昭62.4)	
28	兼任	教授	イリノ 李 宇傑 李 宇傑 ＜令和3年4月＞		博士(体育科 学)		スポーツ論(スポーツコーチング)	2・3・4前・後	4	2	専修大学 文学部 教授 (平24.4)	
29	兼任	教授	イノベ 秀幸 飯尾 秀幸 ＜令和3年4月＞		文学修士※		学際科目1 学際科目2	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 文学部 教授 (平8.4)	
30	兼任	教授	イシハラ 裕也 石原 裕也 ＜令和2年4月＞		博士(商学)		企業と会計	1・2前	2	1	専修大学 商学部 教授 (平26.4)	
31	兼任	教授	イトノ 博明 伊藤 博明 ＜令和2年4月＞		修士(文学)※		芸術学入門	1・2前	2	1	専修大学 文学部 教授 (平29.4)	
32	兼任	教授	イノ 今井 上 今井 上 ＜令和2年4月＞		博士(文学)		日本の文学	1・2前・後	4	2	専修大学 文学部 教授 (平26.4)	
33	兼任	教授	ウチノ 明 内野 明 ＜令和4年4月＞		経営学修士		ビジネス英語A ビジネス英語B	3・4前 3・4後	2 2	1 1	専修大学 商学部 教授 (平2.4)	
34	兼任	教授	エハラ 淳 江原 淳 ＜令和3年4月＞		文学士		新領域科目4	2・3・4後	2	1	専修大学 ネットワーク情報学 部 教授 (昭62.4)	
35	兼任	教授	オノ 伸子 王 伸子 ＜令和4年4月＞		国際学修士		日本語表現論1	3・4前	2	1	専修大学 文学部 教授 (平3.4)	
36	兼任	教授	オノ 万紀人 大井 万紀人 ＜令和2年4月＞		博士(理学)		科学論1 a 科学論1 b	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	4 4	2 2	専修大学 法学部 教授 (平21.4)	
37	兼任	教授	オノ 洋之 金子 洋之 ＜令和2年4月＞		文学修士※		論理学入門 ことばと論理	1・2前・後 1・2前・後	4 4	2 2	専修大学 文学部 教授 (平3.4)	
38	兼任	教授	コノ 昭裕 小林 昭裕 ＜令和2年4月＞		博士(農学)		科学論2 a 科学論2 b 新領域科目5	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4後	2 2 2	1 1 1	専修大学 経済学部 教授 (平24.4)	
39	兼任 (学部長)	教授	オノ 達哉 齋藤 達哉 ＜令和2年4月＞		修士(文学)※		日本語入門 メディア日本語論1 日本語表現論2	1後 3・4後 3・4後	2 2 2	1 1 1	専修大学 文学部 教授 (平22.4)	
40	兼任	教授	オノ 実 藤森 実 ＜令和3年4月＞		修士(体育学)		スポーツ論(健康と生涯スポーツ)	2・3・4後	2	1	専修大学 文学部 教授 (平18.4)	
41	兼任	教授	オノ 明子 坂野 明子 ＜令和3年4月＞		文学修士※		Advanced English b	2・3・4後	2	1	専修大学 文学部 教授 (平7.4)	
42	兼任	教授	オノ 逸雄 作間 逸雄 ＜令和2年4月＞		経済学修士※		現代の経済	1・2後	2	1	専修大学 経済学部 教授 (昭54.4)	
43	兼任	教授	オノ 弘靖 佐竹 弘靖 ＜令和3年4月＞		修士(体育学)		スポーツ論(人類とスポーツ)	2・3・4前・後	4	2	専修大学 ネットワーク情報学 部 教授 (平1.4)	
44	兼任	教授	オノ 康一郎 佐藤 康一郎 ＜令和3年4月＞		修士(商学)※		学際科目10	2・3・4後	2	1	専修大学 経営学部 教授 (平14.4)	
45	兼任	教授	オノ 暢 佐藤 暢 ＜令和2年4月＞		博士(理学)		宇宙地球科学2 a 宇宙地球科学2 b 新領域科目3	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4後	2 2 2	1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平15.4)	
46	兼任	教授	オノ 靖 佐藤 靖 ＜令和3年4月＞		博士(医学)		スポーツ論(オリンピックとスポーツ)	2・3・4前・後	4	2	専修大学 経営学部 教授 (平11.4)	
47	兼任	教授	スギ 章俊 鈴木 章俊 ＜令和2年4月＞		経済学博士		経済と社会	1・2前	2	1	専修大学 経済学部 教授 (平25.4)	
48	兼任	教授	スギ 奈穂美 鈴木 奈穂美 ＜令和3年4月＞		博士(学術)		学際科目11	2・3・4後	4	1	専修大学 経済学部 教授 (平21.4)	
49	兼任	教授	セオ 哲志 妹尾 哲志 ＜令和4年4月＞		Dr. phil. (Politische Wissenschaft) (ドイツ)		国際政治の基礎	3・4前	2	1	専修大学 法学部 教授 (平24.4)	
50	兼任	教授	タカ 夏子 高田 夏子 ＜令和2年4月＞		教育学修士※		基礎心理学入門 応用心理学入門	1・2前・後 1・2前・後	4 4	2 2	専修大学 人間科学部 教授 (平13.4)	
51	兼任	教授	タナベ 宏康 田邊 宏康 ＜令和2年4月＞		博士(法学)		法と社会	1・2後	2	1	専修大学 法学部 教授 (平15.4)	
52	兼任	教授	テオ 格 寺尾 格 ＜令和2年4月＞		独文学修士※		世界の文化を知る(ヨーロッパ) 専修大学入門ゼミナール	1・2・3・4後 1前	2 2	1 1	専修大学 経済学部 教授 (昭63.4)	

教 員 の 氏 名 等

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

調書 番号	専任等 区分	職 位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保 有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 する 適 当 たり平均 日 数
53	兼担	教授	トトリ シンイチ 時任 真一郎 ＜令和2年4月＞		博士 (学術)		スポーツウェルネス アドバンススポーツ	1・2・3・4前・後 2・3・4前・後	4 4	2 2	専修大学 法学部 教授 (平19.4)	
54	兼担	教授	トミワ ヲシヲ 富川 理充 ＜令和2年4月＞		博士 (体育科 学)		学際科目 5 スポーツリテラシー	2・3・4後 1・2・3・4前・後	2 4	1 2	専修大学 商学部 教授 (平23.4)	
55	兼担	教授	ナガエ マサズ 永江 雅和 ＜令和3年4月＞		博士 (経済学)		新領域科目 1	2・3・4後	2	1	専修大学 経済学部 教授 (平12.4)	
56	兼担	教授	ナカガワ ヨシ 仲川 裕里 ＜令和3年4月＞		Doctor of Philosophy (英 国)		English Language and Cultures b	2・3・4後	2	1	専修大学 経済学部 教授 (平11.4)	
57	兼担	教授	ニシ タカコ 西 孝子 ＜令和2年4月＞		博士 (学術)		生物科学 3 a 生物科学 3 b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 商学部 教授 (平7.4)	
58	兼担	教授	ニシタ シゲル 新田 滋 ＜令和2年4月＞		博士 (経済学)		社会科学論	1・2前・後	4	2	専修大学 経済学部 教授 (平23.4)	
59	兼担	教授	ヒロセ ヒロコ 広瀬 裕子 ＜令和2年4月＞		博士 (教育学)		子どもと社会の教育学	1・2前・後	4	2	専修大学 人間科学部 教授 (昭63.4)	
60	兼担	教授	フクミ タカシ 福富 志和 ＜令和3年4月＞		経営学士		学際科目 1 2	2・3・4前	4	1	専修大学 文学部 教授 (平19.4)	
61	兼担	教授	ホンダ タツヒロ 本田 竜広 ＜令和2年4月＞		博士 (数理学)		数理科学 1 a 数理科学 1 b 数理科学 3 a 数理科学 3 b	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2 2 2	1 1 1 1	専修大学 商学部 教授 (平30.4)	
62	兼担	教授	マヅメ タツシ 間嶋 崇 ＜令和2年4月＞		博士 (経営学)		はじめての経営	1・2前	2	1	専修大学 経営学部 教授 (平22.4)	
63	兼担	教授	マツイ トシ 松井 暁 ＜令和2年4月＞		博士 (経済学)		社会思想	1・2前・後	4	2	専修大学 経済学部 教授 (平19.4)	
64	兼担	教授	マツモト ユウゾウ 松本 幸三 ＜令和2年4月＞		博士 (理学)		化学 2 a 化学 2 b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 経営学部 教授 (平24.4)	
65	兼担	教授	ヤマタ キヨミ 山下 清美 ＜令和2年4月＞		文学修士※		情報社会	1・2前・後	4	2	専修大学 ネットワーク情報学 部 教授 (平3.4)	
66	兼担	教授	ヤマダ ケンタ 山田 健太 ＜令和2年4月＞		法学士		ジャーナリズムと現代	1・2後	2	1	専修大学 文学部 教授 (平18.4)	
67	兼担	教授	ヤマモト ミツル 山本 充 ＜令和2年4月＞		理学博士		地理学への招待	1・2前・後	4	2	専修大学 文学部 教授 (平26.4)	
68	兼担	教授	ヨシエ マサヲ 吉江 文男 ＜令和2年4月＞		理学博士		生物科学 1 a 生物科学 1 b 生物科学 2 a 生物科学 2 b	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4前・後	4 4 2 4	2 2 1 2	専修大学 経済学部 教授 (昭62.4)	
69	兼担	教授	ワタナベ エイジ 渡辺 英次 ＜令和3年4月＞		修士 (人間科 学)		スポーツ論 (スポーツライフデザイン論)	2・3・4前・後	4	2	専修大学 文学部 教授 (平21.4)	
70	兼担	教授	ワタナベ シゲトシ 渡部 重行 ＜令和3年4月＞		文学修士※		多文化共生論	2・3・4後	2	1	専修大学 文学部 教授 (平1.4)	
71	兼担	准教授	ウヅマキ シンロ 宇佐美 嘉弘 ＜令和2年4月＞		博士 (学術)		データ分析入門	1前・後	4	2	専修大学 経営学部 准教授 (平6.4)	
72	兼担	准教授	オオバシロウ 大月 祥子 ＜令和2年4月＞		博士 (理学)		宇宙地球科学 1 a 宇宙地球科学 1 b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 商学部 准教授 (平24.4)	
73	兼担	准教授	オガキリ ケンタ 小田切 健太 ＜令和2年4月＞		博士 (学術)		あなたと自然科学 物理学 1 a 物理学 1 b 物理学 2 a 物理学 2 b	1前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 2 2 2	2 1 1 1	専修大学 ネットワーク情報学 部 准教授 (平26.4)	
74	兼担	准教授	クニトシ 黒田 友哉 ＜令和4年4月＞		博士 (法学)		国際関係論 I 国際関係論 II	3・4前 3・4後	2 2	1 1	専修大学 法学部 准教授 (平31.4)	
75	兼担	准教授	カワノ シンタ 河野 敏隆 ＜令和3年4月＞		博士 (経済学)		学際科目 4	2・3・4後	2	1	専修大学 ネットワーク情報学 部 准教授 (平26.4)	
76	兼担	准教授	サカグミ ナツミ 坂詰 智美 ＜令和3年4月＞		博士 (法学)		学際科目 3	2・3・4前	2	1	専修大学 法学部 准教授 (平24.4)	
77	兼担	准教授	ハヤマ タツシ 山本 竜来 ＜令和2年4月＞		博士 (理学)		数理科学 2 a 数理科学 2 b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平27.4)	
78	兼担	准教授	ヤマガタ アキラ 八島 明朗 ＜令和2年4月＞		修士 (経営学) ※		マーケティングベーシックス	1・2後	2	1	専修大学 商学部 准教授 (平26.4)	
79	兼担	講師	カノキリ ヨシ 柏木 悠 ＜令和3年4月＞		博士 (体育科 学)		スポーツ論 (トレーニング科学)	2・3・4後	2	1	専修大学 商学部 講師 (平30.4)	
80	兼担	講師	ホノダ ユウスケ 久保田 祐介 ＜令和2年4月＞		法学博士		日本国憲法	1・2前	2	1	専修大学 法学部 講師 (平29.4)	
81	兼任	講師	アイハ ヲシノブ 相羽 秀伸 ＜令和3年4月＞		修士 (教育学) ※		フランス語実践 A フランス語実践 B	2・3・4後 2・3・4前	2 2	1 1	専修大学 経済学部 非常勤講師 (平26.4)	

教 員 の 氏 名 等

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保 有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 適当なり平均 日 数
82	兼任	講師	アロンソ、シルビア アロンソ、シルビア <令和2年4月>		修士(法学)		スペイン語コミュニケーションA スペイン語コミュニケーションB スペイン語コミュニケーションC スペイン語表現A スペイン語表現B	1後 1後 1後 3・4前 3・4後	1 1 1 2 2	1 1 1 1 1	専修大学 ネットワーク情報学 部 非常勤講師 (平21.4)	
83	兼任	講師	イトリカ 糸瀬 龍 <令和3年4月>		修士(文学)		選択ドイツ語1 a 選択ドイツ語1 b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平27.4)	
84	兼任	講師	オホシロ、ヨシノブ 大貫 良史 <令和2年4月>		修士(経済学)		スペイン語基礎A スペイン語総合A スペイン語総合B 地域研究(ラテンアメリカ)	1前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後	1 2 2 2	1 1 1 1	専修大学 文学部 非常勤講師 (平26.9)	
85	兼任	講師	オホシロ、ケンジ 小笠原 健二 <令和2年4月>		修士(国際学)		インドネシア語初級1 a インドネシア語初級1 b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 商学部 非常勤講師 (平19.4)	
86	兼任	講師	オホシロ、マサキ 岡本 年正 <令和2年4月>		修士(学術)		スペイン語基礎B スペイン語基礎C スペイン語基礎D スペイン語基礎E テーマ研究(ラテンアメリカ)	1前 1前 1後 1後 3・4前	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	専修大学 経済学部 非常勤講師 (平27.4)	
87	兼任	講師	オホシロ、ミチ 小川 都 <令和3年4月>		博士(日本語教 育学)		中国語実践A 中国語実践B 日本語教授法A-1 日本語教授法A-2	2・3・4後 2・3・4前 3・4前 3・4後	2 2 2 2	1 1 1 1	専修大学 経営学部 非常勤講師 (平23.4)	
88	兼任	講師	オホシロ、ユキ 小川 有子 <令和4年4月>		修士(学術)※		ベトナム語1 ベトナム語2	3・4前 3・4後	2 2	1 1	東京理科大学 非常勤講師 (平25.4)	
89	兼任	講師	オホシロ、アツタ 尾崎 文太 <令和3年4月>		博士(学術)		比較文化	2・3・4後	2	1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平27.4)	
90	兼任	講師	オホシロ、シゲキ 梶 重樹 <令和2年4月>		修士(文学)		ロシア語初級2 a ロシア語初級2 b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 商学部 非常勤講師 (平7.4)	
91	兼任	講師	オホシロ、ヒロシ 金 藤玄 <令和3年4月>		修士(文学)		選択コリア語1 a 選択コリア語1 b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 商学部 非常勤講師 (平15.4)	
92	兼任	講師	オホシロ、ヒロシ 工藤(吉井) 睦 <令和2年4月>		博士(教育学)		スペイン語基礎B スペイン語基礎C スペイン語基礎D スペイン語基礎E スペイン語実践A スペイン語実践B	1前 1前 1後 1後 2・3・4後 2・3・4前	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平29.4)	
93	兼任	講師	オホシロ、ミチ 久保 みゆき <令和3年4月>		修士(仏文学) ※		フランス語総合A フランス語総合B	2・3・4後 2・3・4前	2 2	1 1	専修大学 経営学部 非常勤講師 (平12.4)	
94	兼任	講師	ケンカ、ユキ 源中 由記 <令和2年4月>		修士(文学)※		Writing with Clarity 1 Writing with Clarity 2 世界の文化を知る(北米) Talking Points 現代文化論	1前 1後 1・2・3・4後 2・3・4後 3・4前	1 1 2 2 2	1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 非常勤講師 (平13.5)	
95	兼任	講師	コト、ケイ 後藤 康行 <令和2年4月>		博士(歴史学)		歴史の視点	1・2前	2	1	千葉商科大学 国際教養学部 非常勤講師 (平28.4)	
96	兼任	講師	サトウ、マサ 佐藤 雅男 <令和2年4月>		修士(文学)		哲学	1・2前・後	4	2	専修大学 文学部 非常勤講師 (平7.4)	
97	兼任	講師	シノガ、ヒロ 塩田 雄大 <令和4年4月>		博士(日本語日 本文学)		メディア日本語論2	3・4後	2	1	NHK放送文化研究所 メディア ア研究所 主任研究員 (平9.4)	
98	兼任	講師	シマヅ、タ 嶋津 拓 <令和4年4月>		博士(学術)		日本語言語政策史1 日本語言語政策史2	3・4前 3・4後	2 2	1 1	埼玉大学 人文社会科学研究科 教授 (平25.8)	
99	兼任	講師	シノボ、ヨシ 新保 好美 <令和2年4月>		理学士		情報入門1 情報入門2	1前 1後	2 2	1 1	専修大学 経営学部 非常勤講師 (平22.4)	
100	兼任	講師	ウチヅ、トモ 宗宮 朋子 <令和2年4月>		修士(文学)※		ドイツ語基礎B ドイツ語基礎C ドイツ語総合A ドイツ語総合B	1前 1前 2・3・4後 2・3・4前	1 1 2 2	1 1 1 1	専修大学 ネットワーク情報学 部 非常勤講師 (平21.4)	
101	兼任	講師	タカハシ、ミチ 高橋 美智恵 <令和2年4月>		修士(キャリアデ ザイン学)		キャリア入門 キャリア科目1 キャリア科目2	1前・後 2・3・4前 2・3・4後	4 4 2	2 2 1	社会保険労務士高橋事務所 (平12.1)	
102	兼任	講師	タラ、アキラ 俣 章浩 <令和3年4月>		博士(学術)		選択アラビア語1 a	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 経済学部 非常勤講師 (平31.4)	
103	兼任	講師	チホ、イフ 張 涓涛 <令和2年4月>		修士(文学)		中国語コミュニケーションB	1後	1	1	前橋国際大学 国際社会学部 准教授 (平23.4)	
104	兼任	講師	カイ、タカ 永井 匠 <令和3年4月>		修士(文学)		選択中国語1 a 選択中国語1 b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平9.4)	
105	兼任	講師	サキ、シロ 根岸 知生 <令和4年4月>		修士(文学)※		フランス語表現A フランス語表現B	3・4前 3・4後	2 2	1 1	専修大学 商学部 非常勤講師 (平4.4)	



教 員 の 氏 名 等

(国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科)

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保 有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 する 適 当 たり平均 日 数
106	兼任	講師	アブチ モエ 信國 萌 <令和2年4月>		修士(言語学)		ドイツ語基礎E ドイツ語表現A ドイツ語表現B	1後 3・4前 3・4後	1 2 2	1 1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平27.4)	
107	兼任	講師	ハシヱ カサハ 蓮池 隆広 <令和2年4月>		修士(文学)		インドネシア語初級2 a インドネシア語初級2 b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平26.4)	
108	兼任	講師	ハセガワ トオル 長谷川 徹 <令和2年4月>		博士(哲学)		倫理学	1・2前・後	4	2	専修大学 文学部 非常勤講師 (平31.4)	
109	兼任	講師	ハシノ マサ 波多野 真矢 <令和2年4月>		修士(文学)※		ことば・身体・映像	1・2・3・4前	2	1	立教大学 非常勤講師 (平19.4)	
110	兼任	講師	ハトリ アサコ 服部 あさこ <令和2年4月>		博士(社会学)		社会学入門 現代の社会学	1・2前・後 1・2前・後	4 4	2 2	専修大学 人間科学部 非常勤講師 (平30.4)	
111	兼任	講師	ハヤシ ユキ 濱翼 祐子 <令和2年4月>		修士(法学)		政治学入門 政治の世界	1・2前 1・2後	2 2	1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平13.4)	
112	兼任	講師	ヒロセ ナチ 廣瀬 直記 <令和2年4月>		修士(文学)※		中国語基礎D 中国語基礎E	1後 1後	1 1	1 1	専修大学 経済学部 非常勤講師 (平28.4)	
113	兼任	講師	フナツ アツシ 松橋 淳 <令和4年4月>		教養学士		映像音楽系特殊講義	3・4前	2	1	映画監督 (平14.9)	
114	兼任	講師	アロウズ, フィリップ プロセス, フィリップ <令和2年4月>		学士(技術学)		日本文化入門 フランス語基礎C フランス語コミュニケーションC	1前 1前 1後	2 1 1	1 1 1	暁星学園 非常勤講師 (平28.4)	
115	兼任	講師	ヒノ ヒロユキ 洪 賢秀 <令和3年4月>		博士(学術)		地域研究(アジア) テーマ研究(アジア)	2・3・4後 3・4前	2 2	1 1	専修大学 文学部 非常勤講師 (平28.9)	
116	兼任	講師	マツタ ケイロ 松下 大宏 <令和2年4月>		修士(教育学)		教育学入門	1・2前	2	1	首都大学東京 都市教養学部人 文・社会系心理学・教育学 コース教育学分野 助教 (平20.5)	
117	兼任	講師	マルイ ケン 丸井 憲 <令和3年4月>		博士(文学)		中国語総合A 中国語総合B	2・3・4後 2・3・4前	2 2	1 1	専修大学 経営学部 非常勤講師 (平20.4)	
118	兼任	講師	シノダチ アサノ 溝口 甲順 <令和2年4月>		学士(文学)		コリア語基礎C コリア語コミュニケーションC コリア語総合A コリア語総合B コリア語実践A コリア語実践B コリア語表現A コリア語表現B	1前 1後 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 3・4前 3・4後	2 1 2 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 経済学部 非常勤講師 (平12.4)	
119	兼任	講師	ミナタ ケイコ 三田村 圭子 <令和2年4月>		修士(文学)※		中国語基礎C	1前	2	2	専修大学 経営学部 非常勤講師 (平18.4)	
120	兼任	講師	ミワ シゲル 箕輪 茂 <令和3年4月>		博士(国際関係 論)		選択スペイン語1 a 選択スペイン語1 b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 経済学部 非常勤講師 (平28.4)	
121	兼任	講師	ミヤ マイ 三宅 舞 <令和2年4月>		修士(文学)※		ドイツ語コミュニケーションA ドイツ語コミュニケーションB ドイツ語コミュニケーションC ドイツ語実践A ドイツ語実践B	1後 1後 1後 2・3・4後 2・3・4前	1 1 1 2 2	1 1 1 1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平31.4)	
122	兼任	講師	ミヤ ヨシヤ 宮田 義矢 <令和2年4月>		修士(文学)※		中国語基礎A 中国語基礎B	1前 1前	1 1	1 1	専修大学 ネットワーク情報学 部 非常勤講師 (平20.4)	
123	兼任	講師	ミヤエ カズヨ 宮前 和代 <令和2年4月>		文学修士※		Readings in Liberal Arts 1 Readings in Liberal Arts 2 Writing with Clarity 1 Writing with Clarity 2 Critical Writing	1前 1後 1前 1後 2・3・4後	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平31.4)	
124	兼任	講師	モリ ミヅエ 森 瑞枝 <令和4年4月>		修士(文学)※		身体系特殊講義	3・4前	2	1	公益社団法人金春田満井会 理事 (平17.5)	
125	兼任	講師	モリタ カコ 森田 華奈子 <令和3年4月>		修士(文学)		選択イタリア語1 a 選択イタリア語1 b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 法学部 非常勤講師 (平30.9)	
126	兼任	講師	ヤマギuchi トシヒロ 山口 俊洋 <令和3年4月>		修士(文学)		選択フランス語1 a 選択フランス語1 b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学 ネットワーク情報学 部 非常勤講師 (平22.4)	